

令和5年 第6回 川口市教育委員会定例会

日 時 令和5年4月3日(月)

午後3時30分

場 所 川口市役所分庁舎2階会議室

日 程

1 開 会

2 点 呼

3 前回会議録の承認

(1) 第5回川口市教育委員会定例会会議録

4 教育長報告

- | | | |
|---|----|-----|
| (1) 4月行事予定について | —— | 1 |
| (2) 東日本大震災により市内に避難している者に対する教育施設使用料等を免除する期間の延長について | —— | 5 |
| (3) 教育財産(建物)の取得について | —— | 6 |
| (4) 川口市スポーツ推進委員の委嘱を解いたことについて | —— | 7 |
| (5) 川口市学校運営協議会委員の委嘱・任命を解いたことについて | —— | 当日1 |
| (6) 令和4年度学校自己評価のまとめについて | —— | 当日2 |
| (7) 令和3・4年度川口市小中連携・一貫教育推進事業について | —— | 別添1 |
| (8) 令和5年度川口市スクールソーシャルワーカーについて | —— | 8 |
| (9) 令和4・5年度研究委嘱本発表日について | —— | 10 |
| (10) 令和5年度川口市立高等学校スーパーサイエンスハイスクール運営指導委員会委員について | —— | 11 |
| (11) 令和5年度川口市立教育研究所教育相談員について | —— | 13 |
| (12) 令和5年度川口市日本語指導支援員について | —— | 15 |
| (13) 学校医・学校歯科医・学校薬剤師の委嘱を解いたことについて | —— | 16 |

5 協議事項

6 議 事

- | | | | |
|--------|--|----|--------|
| 議案第35号 | 川口市学校運営協議会委員を委嘱・任命することについて | —— | 当日3 |
| 議案第36号 | 令和5年度川口市立高等学校進路カウンセラーを委嘱することについて | —— | 18 |
| 議案第37号 | 令和5年度川口市立高等学校スクールカウンセラーを委嘱することについて | —— | 19 |
| 議案第38号 | 川口市いじめ問題調査委員会について | —— | 当日4(秘) |
| 議案第39号 | 専決処分の承認について(学校医・学校歯科医・学校薬剤師を委嘱することについて) | —— | 20 |
| 議案第40号 | 専決処分の承認について(川口市教育局等の職員の職名に関する規則の一部を改正する規則について) | —— | 当日5 |

議案第４１号	専決処分の承認について（川口市学校職員の給与等に関する条例施行規則の一部を改正する規則について）	——当日 5
議案第４２号	専決処分の承認について（川口市立学校教育職員の業務量の適切な管理等に関する規則の一部を改正する規則について）	——当日 5
議案第４３号	専決処分の承認について（川口市立小・中学校職員服務規程の一部を改正する規則について）	——当日 5
議案第４４号	専決処分の承認について（川口市立高等学校職員服務規程の一部を改正する規程について）	——当日 5
議案第４５号	専決処分の承認について（５月市議会に係る議案の原案決定について【一般議案】）	——当日 6 (秘)

7 その他

8 閉 会

教育長報告（1）

令和5年 4月 行事予定表

日	曜日	教育総務課	生涯学習課	文化財課	中央図書館	科学館	スポーツ課	日	曜日
1	土							1	土
2	日							2	日
3	月	教育委員会定例会 (15:30 局2階会議室)						3	月
4	火							4	火
5	水							5	水
6	木							6	木
7	金						川口市スポーツ推進委員協議会定期総会 (19:00 フレンドピア)	7	金
8	土					夜間観測会 (19:00 天文台)		8	土
9	日			市指定無形民俗文化財 江戸袋の獅子舞 公開 (9:00 江戸袋氷川神社)			川口市少年少女スポーツ大会 柔道の部 (9:30 体育武道センター)	9	日
10	月							10	月
11	火							11	火
12	水		施設長会議 (13:30 芝公民館)					12	水
13	木							13	木
14	金	埼玉県都市教育長協議会総会 (14:30 ホテルブリランテ武蔵野)					川口市レクリエーション協会定期総会 (19:00 フレンドピア)	14	金
15	土							15	土

令和5年

4月 行事予定表

日	曜日	教育総務課	生涯学習課	文化財課	中央図書館	科学館	スポーツ課	日	曜日
16	日							16	日
17	月						令和5年度第一回スポーツ施設長会議 (14:00 新郷スポーツセンター)	17	月
18	火	埼玉県市町村教育委員会 教育長研究協議会 (13:00 さいたま商工会議所会館)		旧田中家住宅の端午の節供(～5月14日) (旧田中家住宅)				18	火
19	水	南部教育長会総会 南部教育長会議・教育長協議会 (14:00、15:00 浦和合同庁舎)						19	水
20	木	教育委員会定例会 (15:30 生涯学習プラザ講座室2・3)						20	木
21	金							21	金
22	土					夜間観測会 (19:30 天文台)		22	土
23	日							23	日
24	月							24	月
25	火					休館日(館内整理日)		25	火
26	水					戸塚西保育所、芝西保育所、仲町東保育所、 芝園保育所(10:00 プラネタリウム) 並木南保育所(11:30 プラネタリウム)		26	水
27	木					前川保育所、芝中央保育所、 南鳩ヶ谷保育所(10:00 プラネタリウム) 川口西保育園(11:30 プラネタリウム)		27	木
28	金					根岸北保育所、あさひ保育所、芝南保育所 (10:00 プラネタリウム)	川口市スポーツ少年団代議員会 (19:00 フレンドシア)	28	金
29	土	昭和の日				開館20周年記念式典(11:00 科学展示室) 開館20周年GW特別イベント(～5月7日)(科学展示室) 特別イベント「マッドサイエンティスト・Drリンによるサイエンスショー」(11:30 科学展示室)		29	土
30	日							30	日

令和5年 4月 行事予定表

日	曜日	庶務課	学務課	指導課	学校保健課	市立高等学校	日	曜日
1	土						1	土
2	日						2	日
3	月		新採用・転入教職員着任紹介式 (13:15 川口総合文化センター・リリア)	教育研究所教育相談員、日本語指導支援員辞令交付式 教育研究所カウンセラー、スクールソーシャルワーカー委嘱書交付式 (10:00 教育研究所)			3	月
4	火						4	火
5	水			初任者研修開講式 (9:15 SKIPシティ)			5	水
6	木				パートタイマー会計年度任用職員(調理員)研修会 (9:30 第二庁舎地階第2会議室) 令和5年度 養護教員新任・転任者等研修会(14:30 第一本庁舎301会議室)		6	木
7	金			進路カウンセラー委嘱書交付式 (16:30 教育委員会室)			7	金
8	土						8	土
9	日						9	日
10	月		始業式(幼・小・中) 入学式(附属中 10:30、小 11:00、中 13:30)			全日制始業式(9:40 市立高等学校) 全日制入学式(14:00 市立高等学校) 定時制始業式(18:00 市立高等学校)	10	月
11	火		入園式 (10:00 舟戸幼、南平幼) 芝西中学校陽春分校入学式(18:00 陽春分校)	部活動指導員研修会(15:00 教育研究所) 適応指導教室開始日(10:00 教育研究所)		定時制入学式(18:00 市立高等学校)	11	火
12	水				小・中学校給食開始(小学校1年生除く)		12	水
13	木						13	木
14	金		市立学校長会議 (9:30 市立高等学校)	大貴・水上指導者講習会オリエンテーション (15:00 青木会館)	小学校1年生給食開始 給食主任会 (15:00 教育研究所)		14	金
15	土						15	土

令和5年 4 月 行事予定表

日	曜日	庶務課	学務課	指導課	学校保健課	市立高等学校	日	曜日
16	日						16	日
17	月						17	月
18	火			令和5年度全国学力・学習状況調査 第1期日本語指導教室開始日 (9:30 教育研究所)			18	火
19	水			第1回いじめ対応教員研修会 (15:00 青木会館)			19	水
20	木			大貫海浜学園指導者講習会 (千葉県富津市)	学校給食食品等選定委員会 (14:00 南平学校給食センター会議室)		20	木
21	金		月例校長連絡会 (10:00 教育研究所)	大貫海浜学園指導者講習会 (千葉県富津市)			21	金
22	土						22	土
23	日						23	日
24	月						24	月
25	火			水上自然教室指導者講習会 (群馬県みなかみ町)	令和5年度第1回川口市結核対策委員会 (13:30 第一本庁舎602・603会議室)		25	火
26	水			水上自然教室指導者講習会 (群馬県みなかみ町)			26	水
27	木		公立小・中学校等校長研究協議会 (埼玉会館)				27	木
28	金						28	金
29	土						29	土
30	日						30	日

教育長報告（２）

東日本大震災により市内に避難している者に対する教育施設使用料等を免除する期間の延長について

東日本大震災で被災し市内に避難している者への支援策として、下記のとおり教育委員会が管理する施設の使用料等を、川口市立文化財センター設置及び管理条例第１７条第１項第５号の規定、川口市立科学館設置及び管理条例第８条第５号の規定及び川口市立体育施設設置及び管理条例第１６条の規定により免除することとする。

記

１ 対象となる者

東日本大震災で被災し市内に避難している者

２ 対象となる施設

- (１) 文化財センター展示室【入場料】
- (２) 文化財センター旧田中家住宅【入場料】
- (３) 文化財センター分館（郷土資料館）【入場料】
- (４) 科学館展示施設【入場料】
- (５) 科学館プラネタリウム【観覧料】
- (６) 体育施設（個人利用の場合に限る。）【使用料】

３ 免除する期間

令和５年４月１日から令和６年３月３１日まで

４ 免除の手続

被災地の住所、氏名がわかる書類を提示して申請させることとする。

５ その他

新たに市の方針が定められた場合は、その方針に従うものとする。

教育長報告（３）

教育財産（建物）の取得について

１ 取得した施設の概要

施設名称	川口市立鳩ヶ谷公民館
所在地（建物の表示）	川口市坂下町３丁目２－２
構造	鉄筋コンクリート造及び一部鉄骨造
棟数	１棟
面積（延べ）	２，０４２．７３㎡

２ 取得年月日

令和５年２月２４日

教育長報告（４）

川口市スポーツ推進委員の委嘱を解いたことについて

委嘱を解いた者

地区名	氏 名	委嘱年月日	解嘱年月日
戸塚西公民館地区	園部 邦彦	平成２９年４月１日	令和５年２月２８日

教育長報告（８）

令和５年度川口市スクールソーシャルワーカーについて

１ 趣旨

教育分野に関する知識に加えて、社会福祉等の専門的な知識や技術を用いて、児童生徒が置かれた様々な環境への働き掛けや、関係機関等とのネットワークの活用などにより、問題を抱える児童生徒及び保護者等に支援を行う専門家である川口市スクールソーシャルワーカーを川口市立教育研究所に配置し、学校が関係機関等と連携して、児童生徒の問題行動等への対応が図られるようにする。

２ 採用人数 ８名（うち１名については追加募集中）

３ 配置

川口市立教育研究所に配置

※学校の要請に応じて、学校へ派遣

４ 勤務条件

原則週２日 １日あたり６時間 年間 ９０日以内

５ 業務内容

- ・問題を抱える児童等が置かれた環境への働き掛け
- ・関係機関等とのネットワークの構築、連携・調整
- ・学校におけるチーム体制の構築、支援
- ・保護者、教職員等に対する支援・相談・情報提供
- ・教職員等への研修活動等

6 採用をする者

氏 名	配属先	再・新
佐藤 まさ子	川口市立教育研究所	再
三宅 朋子	川口市立教育研究所	再
大江山 秀仁	川口市立教育研究所	新
須藤 加代子	川口市立教育研究所	新
吉本 和未	川口市立教育研究所	新
相羽 知美	川口市立教育研究所	新
松井 敦子	川口市立教育研究所	新

7 任期

令和5年4月1日から令和6年3月31日まで

教育長報告（９）

令和４・５年度研究委嘱本発表日について

令和４・５年度 川口市教育委員会研究委嘱校一覧（発表日順）

	学校名	研究領域	研究主題	研究発表日	研究教科 領域等
1	上青木南小学校	「学力向上」 に関する研究	「主体的に学びをつくることのできる児童の育成」 ～一人一人がわかる・伝える・できる アウトプットを重視した授業展開～	令和5年 10月24日（火）	算数 国語 等
2	並木小学校	「体力向上」 に関する研究	運動の楽しさや喜びを味わい、 主体的に運動に取り組む児童の育成	令和5年 11月2日（木）	体育
3	戸塚東小学校	「学力向上」 に関する研究	主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業の工夫改善 ～GIGAスクール端末の効果的な活用による、授業の創造～	令和5年 11月7日（火）	国語 算数 等
4	新郷小学校	「体力向上」 に関する研究	自ら運動に親しみ、豊かなスポーツライフを実現する児童の育成 ～「できる」「楽しい」「続けたい」授業実践を目指して～	令和5年 11月8日（水）	体育
5	戸塚中学校	「非認知能力の向上」 に関する研究	社会で生きて働く力の育成 ～非認知能力の向上を通じて～	令和5年 11月15日（水）	全教科
6	元郷南小学校	「学力向上」 に関する研究	主体的に自信をもって活動する児童の育成	令和5年 11月17日（金）	図工
7	戸塚南小学校	「学力向上」 に関する研究	人と関わりながら、よりよく生きる力を身につけた児童の育成	令和5年 11月20日（月）	算数
8	南平幼稚園	「幼稚園教育」 に関する研究	豊かな表現力の育成 ～友達との関わりを楽しみ、表現する喜びを味わう～	令和5年 11月22日（水）	保育 全般
9	芝中学校	「防災教育」 に関する研究	地域の防災拠点としての学校を目指して ～生徒の共助の精神の育成と地域との協働体制づくり～	令和5年 11月27日（月）	全教科
10	十二月田小学校	「体力向上」 に関する研究	汗をかき 共に学ぶ 運動好きな しわすだっ子の育成	令和5年 11月30日（木）	体育
11	岸川中学校	「学力向上」 に関する研究	主体的・対話的に学習に取り組む生徒の育成 ～ICT機器を活用した個別最適な学びと協働的な学びの実現～	令和6年 1月17日（水）	全教科
12	里小学校	「学力向上」 に関する研究	「主体的に学習に取り組む児童の育成」	令和6年 1月31日（水）	国語
13	芝富士小学校	「学力向上」 に関する研究	「GRITを伸ばす教育の実現」 ～学びにひたむき、学びに夢中、学びが大好き～	令和6年 2月7日（水）	国語 算数

小学校 9校 中学校 3校 幼稚園 1園 計 13校（園）

教育長報告（１０）

令和５年度川口市立高等学校スーパーサイエンスハイスクール運営指導委員会委員について

- 1 スーパーサイエンスハイスクール（以下「SSH」という。）の趣旨
先進的な科学技術、理科・数学教育を通して、生徒の科学的な探求能力等を培い、もって、将来国際的に活躍し得る科学技術人材等の育成を図るもの
 - ・令和４年３月２５日、文部科学省から川口市立高等学校が新たに指定を受けた。令和５年度は指定２年目。
 - ・指定期間は令和４年度から令和８年度
 - ・３年目（令和６年度）に進捗状況や実施状況について文部科学省から中間評価を受ける。
- 2 川口市立高等学校SSH運営指導委員会の設置
計画的・効果的にSSH事業を実施するため、その運営に関し、専門的見地から指導、助言を行うことを目的として設置するもの
- 3 令和５年度川口市立高等学校SSH運営指導委員会の開催日程
第１回・第２回ともに調整中（会場：市立高等学校【予定】）
- 4 委員の委嘱人数 ６名
※学識経験者や学校経営に専門的知識を有する者、関係行政機関の職員など高い専門性を有する第三者から委嘱するもの
- 5 委嘱者
別紙のとおり
- 6 任期
令和５年４月３日から令和６年３月３１日まで

委嘱者一覧

No.	所属	氏 名	新任/再任
1	中部大学超伝導・持続可能エネルギー 研究センター教授	井上 徳之	再任
2	埼玉大学名誉教授	永澤 明	再任
3	一般社団法人教育環境デザイン研究所 C o R E F プロジェクト推進部門研究員	齊藤 萌木	再任
4	お茶の水女子大学 基幹研究院自然科学系教授	寫田 智	再任
5	元東京家政大学教員養成推進室教授	山口 善子	再任
6	国立研究開発法人理化学研究所 仁科加速器科学研究センター センター長	櫻井 博儀	再任

教育長報告（１１）

令和５年度川口市立教育研究所教育相談員について

- 1 趣旨
市内に在住している幼児及び児童生徒の教育上の諸問題の解決を図る。
- 2 採用人数 １３名
- 3 配置について
川口市立教育研究所等に配置
- 4 勤務条件について
月～金の週５日（土・日・祝日・年末年始の休日除く）
１日あたり６時間
- 5 業務内容
 - ・児童生徒等への教育相談に関すること。
 - ・教職員及び保護者に対する助言・援助に関すること。
 - ・児童生徒等の教育相談に係る情報収集・提供に関すること。
 - ・不登校児童生徒の適応指導教室(チャレンジスクール、わくわくスクール)における指導・助言に関すること。
 - ・外国人児童生徒等の日本語指導・助言に関すること。
 - ・公民館等での教育相談や訪問相談に関すること。
 - ・特別な支援を要する児童生徒等の相談に関すること。
 - ・児童生徒等のいじめに関する相談及び学校への指導・助言に関すること。
 - ・新任・転入した管理職に対し、学校経営・運営等の相談に関すること。
 - ・その他、川口市立教育研究所の業務及び児童生徒等の教育相談に関し、適当と認められる事項に関すること。

6 採用する者

氏 名	配属先	再・新
加藤 祐子	川口市立教育研究所	再
小田 正美	川口市立教育研究所	再
杉田 明	川口市立教育研究所	再
高村 美恵	川口市立教育研究所	再
瀬山 真一	川口市立教育研究所	再
安部 正幸	川口市立教育研究所	再
貫井 友宣	川口市立教育研究所	再
竹本 美香	川口市立教育研究所	再
唐澤 由美	川口市立教育研究所	新
大竹 伸明	川口市立教育研究所	新
岩田 直代	川口市立教育研究所	新
大場 真	川口市立教育研究所	新
郭 承濤	川口市立教育研究所	新

7 任期

令和５年４月１日から令和６年３月３１日まで

教育長報告（１２）

令和５年度川口市日本語指導支援員について

１ 趣旨

外国人児童生徒や帰国児童生徒のうち、日本語が理解できないことで学校生活に支障をきたしている児童生徒を対象に、学校生活への適応を図るため、日本語の指導や文化風習の支援を行う。

２ 採用人数 ６名

３ 配置について

川口市立教育研究所に配置

※No.１～４は、要請に応じて学校へ派遣し、日本語指導支援

No.５～６は、教育研究所で日本語初期指導

４ 勤務条件について

月～金の週５日（土・日・祝日・年末年始の休日除く）

１日あたり５時間３０分

５ 業務内容

- ・児童生徒等への日本語指導・助言に関すること。
- ・教職員及び保護者に対する助言・支援に関すること。
- ・その他、川口市立教育研究所の業務及び児童生徒等の日本語指導に関する教育相談及び教科等指導に関し、適当と認められる事項に関すること。

６ 採用する者

No.	氏 名	配属先	再・新
１	村上 博俊	川口市立教育研究所	再
２	福島 章雄	川口市立教育研究所	再
３	石鍋 栄	川口市立教育研究所	再
４	橋本 正一	川口市立教育研究所	再
５	澁谷 艶子	川口市立教育研究所	再
６	浅井 智子	川口市立教育研究所	再

７ 任期

令和５年４月１日から令和６年３月３１日まで

教育長報告（１３）

学校医・学校歯科医・学校薬剤師の委嘱を解いたことについて

委嘱を解いた者

氏 名	委嘱校	委嘱年月日	解嘱年月日	備考
梶田 隆	安行中学校	平成１３年４月１日	令和５年３月３１日	内 科
小林 義輝	岸川中学校	平成２５年４月１日	令和５年３月３１日	内 科
宗 志平	戸塚西中学校	平成２４年４月１日	令和５年３月３１日	内 科
柳田 哲哉	川口市立高校	平成３０年４月１日	令和５年３月３１日	内 科
佐藤 豊明	芝富士小学校	昭和５６年４月１日	令和５年３月３１日	眼 科
佐藤 豊明	北中学校	昭和５５年４月１日	令和５年３月３１日	眼 科
佐藤 豊明	芝西中学校 陽春分校	平成３１年４月１日	令和５年３月３１日	眼 科
四戸 達也	青木中央小学校	令和３年７月１日	令和５年３月３１日	耳鼻科
越智 篤	根岸小学校	令和３年４月１日	令和５年３月３１日	耳鼻科
越智 篤	在家小学校	令和３年４月１日	令和５年３月３１日	耳鼻科
越智 篤	木曽呂小学校	令和３年４月１日	令和５年３月３１日	耳鼻科
四戸 達也	里小学校	令和３年７月１日	令和５年３月３１日	耳鼻科
越智 篤	在家中学校	令和３年４月１日	令和５年３月３１日	耳鼻科
小林 忠	十二月田小学校	昭和５１年４月１日	令和５年３月３１日	歯 科
陳 俊雄	東本郷小学校	平成３年４月１日	令和５年３月３１日	歯 科
杉井 真弓	青木中学校	平成２年４月１日	令和５年３月３１日	歯 科
陳 俊雄	芝中学校	平成１３年４月１日	令和５年３月３１日	歯 科
杉井 克章	岸川中学校	昭和５３年４月１日	令和５年３月３１日	歯 科
杉井 克章	芝西中学校 陽春分校	平成３１年４月１日	令和５年３月３１日	歯 科

氏 名	委嘱校	委嘱年月日	解嘱年月日	備考
本吉 純子	芝富士小学校	昭和 5 8 年 4 月 1 日	令和 5 年 3 月 3 1 日	薬剤師
笹岡 玲	慈林小学校	平成 3 1 年 4 月 1 日	令和 5 年 3 月 3 1 日	薬剤師
今井 久美子	西中学校	平成 8 年 4 月 1 日	令和 5 年 3 月 3 1 日	薬剤師
笹岡 玲	戸塚西中学校	平成 2 9 年 4 月 1 日	令和 5 年 3 月 3 1 日	薬剤師
江川 肇	八幡木中学校	令和 4 年 4 月 1 日	令和 5 年 3 月 3 1 日	薬剤師
梅澤 英臣	里中学校	昭和 6 1 年 4 月 1 日	令和 5 年 3 月 3 1 日	薬剤師

議案第 36 号

令和 5 年度川口市立高等学校進路カウンセラーを委嘱することについて
川口市立高等学校進路カウンセラーに次の者を委嘱するため、川口市立高等学校進路カウンセラー設置要綱第 4 条の規定により議決を求める。

記

1 委嘱をする者

氏 名	配属先	再・新
本橋 彰	川口市立高等学校	再
矢田部 学	川口市立高等学校	再

2 任期

令和 5 年 4 月 7 日から令和 6 年 3 月 31 日まで

令和 5 年 4 月 3 日提出

川口市教育委員会教育長 井 上 清 之

議案第 37 号

令和 5 年度川口市立高等学校スクールカウンセラーを委嘱することについて

川口市立高等学校スクールカウンセラーに次の者を委嘱するため、川口市立高等学校スクールカウンセラー設置要綱第 3 条の規定により議決を求める。

記

1 委嘱をする者

氏 名	配属先	再・新
土井 一博	川口市立高等学校	再
根本 葉子	川口市立高等学校	再

2 任期

令和 5 年 4 月 3 日から令和 6 年 3 月 31 日まで

令和 5 年 4 月 3 日提出

川口市教育委員会教育長 井 上 清 之

議案第 39 号

専決処分の承認について

学校医・学校歯科医・学校薬剤師を委嘱することについて、川口市教育委員会の事務の委任等に関する規則（昭和 32 年教育委員会規則第 1 号）第 2 条第 1 項の規定により別紙のとおり専決処分したので、同条第 2 項の規定により報告し、承認を求める。

令和 5 年 4 月 3 日提出

川口市教育委員会教育長 井 上 清 之

専 決 処 分 書

学校医・学校歯科医・学校薬剤師を委嘱することについて、川口市教育委員会の事務の委任等に関する規則（昭和３２年教育委員会規則第１号）第２条第１項の規定により次のとおり専決処分する。

記

委嘱をする者

氏 名	委嘱校	委嘱年月日	備考
高橋 創	安行中学校	令和５年４月１日	新 任・内 科
康田 典鷹	岸川中学校	令和５年４月１日	兼 任・内 科
間野 真也	戸塚西中学校	令和５年４月１日	兼 任・内 科
伊野部 容子	川口市立高校	令和５年４月１日	新 任・内 科
平石 剛宏	芝富士小学校	令和５年４月１日	新 任・眼 科
平石 剛宏	北中学校	令和５年４月１日	新 任・眼 科
平石 剛宏	芝西中学校 陽春分校	令和５年４月１日	新 任・眼 科
明石 愛美	青木中央小学校	令和５年４月１日	新 任・耳鼻科
堤内 亮博	根岸小学校	令和５年４月１日	新 任・耳鼻科
堤内 亮博	在家小学校	令和５年４月１日	新 任・耳鼻科
堤内 亮博	木曽呂小学校	令和５年４月１日	新 任・耳鼻科
明石 愛美	里小学校	令和５年４月１日	新 任・耳鼻科
堤内 亮博	在家中学校	令和５年４月１日	新 任・耳鼻科
橋本 英子	十二月田小学校	令和５年４月１日	兼 任・歯 科
諸橋 利朗	東本郷小学校	令和５年４月１日	兼 任・歯 科
杉井 祐介	青木中学校	令和５年４月１日	新 任・歯 科
伊藤 聖	芝中学校	令和５年４月１日	兼 任・歯 科

石川 由奈	岸川中学校	令和5年4月1日	兼任・歯科
佐合 正	芝西中学校 陽春分校	令和5年4月1日	兼任・歯科
渡邊 裕子	芝富士小学校	令和5年4月1日	新任・薬剤師
望月 まさみ	慈林小学校	令和5年4月1日	兼任・薬剤師
大橋 功次	西中学校	令和5年4月1日	新任・薬剤師
山本 健一	戸塚西中学校	令和5年4月1日	新任・薬剤師
渡辺 圭一	八幡木中学校	令和5年4月1日	兼任・薬剤師
武田 有紀子	里中学校	令和5年4月1日	新任・薬剤師

令和5年3月27日

川口市教育委員会教育長 井 上 清 之

令和3・4年度 川口市教育委員会研究委嘱
「小中連携・一貫教育推進事業」に関する研究

研究紀要

研究主題

9年間を見通して、自ら学び、心豊かに、
たくましく生きる子どもを育む
～自己肯定感を育む在家地区の教育～

にこにこ部
にこにこ挨拶運動



めきめき部
オンライン出前授業

めきめき部
スチューデントサポーター



川口市立在家中学校

川口市立柳崎小学校

川口市立在家小学校



あいさつ

川口市教育委員会
教育長 井上 清之

川口市立在家中学校、柳崎小学校、在家小学校の在家中学校区3校は、令和3・4年度「川口市小中連携・一貫教育推進事業」における推進校として委嘱を受け、研究実践を重ねてこられました。その成果をここに研究紀要としてまとめられましたことに心から敬意を表します。

本市では、小中学校の9年間の滑らかな接続と、系統性をもった教育の在り方について研究を深め、学力向上の推進、生徒指導の充実、また、教職員の協働の視点から、指導方法の工夫・改善を図ることは極めて重要なことと捉えております。

在家中学校区3校におかれましては、義務教育9年間を見据え、目指す15歳の姿を「夢に向かって一人ひとりが輝ける生徒」とし、全教職員の共通理解のもと、学びと育ちの連続性と自己肯定感・非認知能力の育成を重視した「小中連携・一貫教育推進事業グランドデザイン」を作成されました。これを基本として、埼玉県学力・学習状況調査から児童生徒の実態を的確に捉え、めきめき部（学習指導）とにこにこ部（生徒指導）の2つの組織が連携し、3校の全教職員が一丸となって研究に取り組んでこられました。その一例として、3校の校長先生のリーダーシップと教職員のアイデアにより、「GIGAスクール端末を活用したオンラインでの連携活動」「小中合同サマースクール」「出前授業」「授業規律・生活指導スタイルの統一」など、小・中学校の円滑な接続と系統性をもった教育の推進につながる多彩な取組を展開されました。その結果、教職員の相互理解が深まり、GIGAスクール端末を活用した取組の広がり、自己肯定感の高まり、中1ギャップの軽減という大きな成果を挙げていただきました。

在家中学校区の研究成果は、他の中学校区においても大いに参考となり、すぐに実践できるものです。是非、この研究成果を参考にされ、それぞれの中学校区の実態を踏まえた小中連携の取組が一層充実したものになることを期待しております。

結びに、本研究を推進するにあたり、多大なご尽力をいただいた在家中学校 鈴木玲校長先生、柳崎小学校 相楽雅彦校長先生、在家小学校 渡辺訓次校長先生をはじめとする教職員の皆様のご努力に感謝申し上げますとともに、今後とも小中学校の滑らかな接続と系統性をもった教育の在り方についての研究が尚一層推進されますようご期待申し上げ、あいさつといたします。



あいさつ

川口市立在家中学校長 鈴木 玲
川口市立柳崎小学校長 相楽 雅彦
川口市立在家小学校長 渡辺 訓次

在家中学校区内の小中3校は川口市教育委員会の委嘱を受け、令和3・4年度の2年間にわたり、「9年間を見通して、自ら学び、心豊かに、たくましく生きる子どもを育む」を研究主題に小中連携・一貫教育推進に向けて研究を進めてまいりました。

現在、子どもたちを取り巻く社会環境は日々刻々と変化し続けています。そのような中で、子どもたち一人一人が、新たな社会の担い手として求められる資質・能力を身に付けることは必須です。そして、そのためには学習に系統性をもたせるとともに、子どもたちが安心して学校へ通い、主体的に学ぶことのできる環境づくりが重要だと考えました。そこで、小中学校の連携をこれまで以上に堅固にし、円滑な接続によって学習環境を整えることに主眼を置き、目指す15歳の姿である「夢に向かって一人ひとりが輝ける生徒」の育成に向け取り組んでまいりました。

この度の研究はここで一区切りとなりますが、子どもたちの成長を考え、9年間の環境整備には、ここまでの研究の成果と課題を振り返り、今後ますますの連携強化を図る必要があると考えます。

結びに、これまで御指導、御助言をいただきました川口市教育委員会教育長 井上清之様をはじめとする学校教育部の皆様方に御礼申し上げ、あいさつとさせていただきます。

目次

1	あいさつ	
	(1) 教育長あいさつ	
	(2) 学校長あいさつ	
2	研究について	P1~P2
	(1) グランドデザイン	
	(2) 在家中学校区の研究概要	
3	各部会の取組・成果	
	(1) めきめき部	P3~P6
	(2) にこにこ部	P7~P10
4	埼玉県学力・学習状況調査分析	P11
5	小中連携3校合同アンケート分析	P12
6	研究のまとめ	
	(1) 研究の成果と課題	
	(2) ご指導いただいた先生方・研究に携わった教職員	



目指す15歳の姿

「夢に向かって一人ひとりが輝ける生徒」

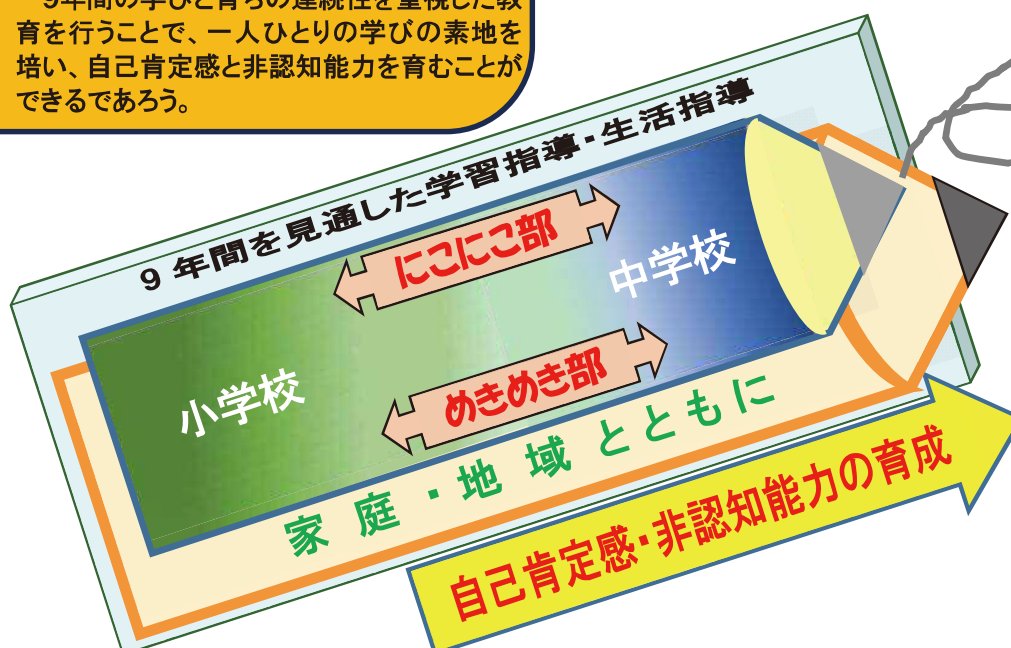
自分を大切な存在だと思える在家地区の児童生徒

【研究主題】

9年間を見通して、自ら学び、心豊かに、たくましく生きる子どもを育む
～自己肯定感を育む在家地区の教育～

研究仮説

9年間の学びと育ちの連続性を重視した教育を行うことで、一人ひとりの学びの素地を培い、自己肯定感と非認知能力を育むことができるであろう。



目指す15歳の姿
「夢に向かって一人ひとりが輝ける生徒」

小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3
前期				中期		後期		

めきめき部(学習指導)

- 授業スタイルの統一
- 授業規律の統一
- 家庭学習の取組の統一
- 魅力ある「学級経営」の共有
- 主体的・対話的で深い学びの確立
- 基礎学力を高めるための各教科の取組
- 出前授業
- 相互授業参観

にこにこ部(生活指導)

- 同一步調の指導体制の確立
- 目指す15歳の姿を見通した小中連携の交流の取組(生徒会・児童会)
- 特別支援教育体制の確立
- 音楽や図工・美術など芸術分野での交流
- 部活動交流
- 授業参観や合同研修会など、教職員同士の交流

県学調・在家地区アンケート
児童生徒の実態分析
児童の変容分析



在家地区の
保護者・地域のつながり
学校運営協議会



小中連携事業の実践
中1ギャップの解消 学力向上
不登校児童生徒解消

在籍中学校区の研究概要

研究主題

目指す15歳の姿「夢に向かって一人ひとりが輝ける生徒」
自分を大切な存在だと思える在籍地区の児童生徒

9年間を見通して、自ら学び、心豊かに、たくましく生きる子どもを育む
～自己肯定感を育む在籍地区の教育～

研究主題設定の理由

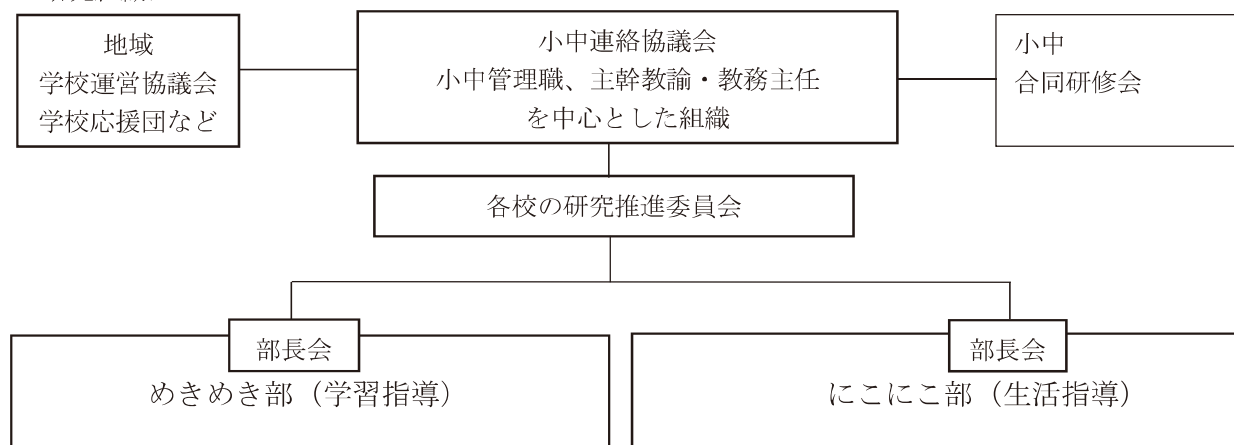
現在、少子化、情報化、グローバル化の進展など、児童生徒を取り巻く社会環境が変化の中で、教育現場に置いては、中学校進学時といういわゆる接続期において、「学校生活に適應できない」、「不登校になる子どもたちが増加する」など、学習意欲の低下や中1ギャップと言われる状況にある。その背景には、子どもたちの基本的な生活習慣の習得が不十分であることや体験活動が十分に行われていないこと、家庭や地域の教育力の低下が見られる。

そこで、埼玉県では、「小中連携」の推進を図るためには、中学校区内で「目指す児童生徒像」や「重点目標」を設定、共有することが重要であるとされている。川口市教育委員会の指導の下、小・中学校の教員が、中学校区の授業改善の視点を踏まえた全体計画や系統表、年間指導計画等の教育計画（9年間を見通したカリキュラム）を編成していくなど、学習指導や生活指導の改善が必要であると捉えている。

子どもの育ちに応じて、小中9年間の学習指導と生活指導・生徒指導を一貫とした教育をできるようにする。さらに小中9年間の学びと育ちの連続性を重視した教育を行うことにより、小中の円滑な接続が図れるようにしていく。そして、子どもたちの能力や可能性を引き出し、子どもたちに自信と意欲を育ませることを目的として本研究を実践することとした。

在籍中学校区の小中一貫教育においては、「目指す15歳の姿」として、川口市から示されている基本理念「一人ひとりが輝く、しなやかさとたくましさをそなえた人材を育てる 川口の教育」にある「一人ひとりが輝く児童生徒」をもとに目指す15歳の姿に近づけていく。そのためには、学力、自ら学ぶ力を高めるとともに、豊かな人間性、豊かな心を育むことが重要である。これらを身に付けることと子どもたちの能力や可能性を引き出すことで、自己肯定感を育むことにつながる。そして、このことと関わって、自立に向かう力や社会をよりよくしようとする力が生まれると考え、自己肯定感を育むことのできる教育実践を行うこととした。

研究組織について



めきめき部（学習指導）

1 統一した取組【全教科】

(1) 授業スタイルの統一

① 取組の意図

指導の継続性・統一性が生まれることにより児童生徒は安心感を得られることができる。また、教科担任制になり不安を感じている児童に小学校からの系統性を実感することができる。

② 取組の具体

授業における指導（指導方法等 ア～エの順に行う）

ア 既習事項の確認

イ 学習のめあて・目標の明確な提示

ウ 教員の説明、自力解決、ペアやグループでの交流、全体交流、問題演習

エ 学習のまとめと振り返りの時間の確保

課題・まとめ・振り返りのある板書



グループ学習

(2) 授業規律の統一（始業・終業時のあいさつ）

① 取組の意図

小学校高学年、中学校の始業・終業のあいさつを統一することによって、小学校の児童は、「中学校は違うところである」という不安な気持ちを減らすことができる。また、統一したあいさつによって、教師は「気持ちよく始め、終わる」という共通の認識をもって児童、生徒に温かい言葉かけをすることができる。

② 取組の具体

授業開始時：日直「起立、礼。」

全員「お願いします。」

※「礼」を入れてあいさつをする。



学習規律の徹底(始業・終業)

(3) 家庭学習への取組

① 取組の意図

家庭で毎日学習する習慣をつくること、自ら学習計画を立て、進んで学習することを身に付けるようにする。これによって学習内容を理解し、自信をもって授業に取り組めるようにする。

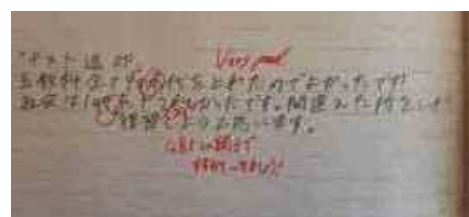
② 取組の具体

家庭学習のめあて、目安の時間、主な宿題、宿題が終わった後に取り組む内容などを具体的に例示し、自ら進んで学習に取り組む手立てとする。

特に小学校第3学年以上では、家庭学習ノートを活用している。小学校中学年では、1ページに1教科の学習内容、小学校高学年では複数ページ・複数教科の学習内容を選んで積極的に取り組んでいる。中学校では2ページ以上の取組で三行日記、教科連絡なども含まれている。



家庭学習（小学生）



家庭学習（中学生）

(4) 相互授業参観

① 取組の意図

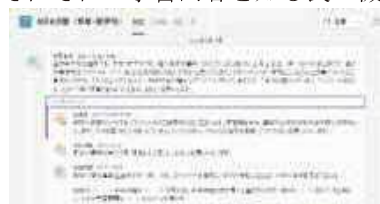
実際に小・中学校の教職員が協働し、系統性のある指導を継続して行う中で、9年間を通して一貫した取組の必要性が一層認識され、更なる取組の充実が期待できる。

② 取組の具体

令和3年度 相互授業参観期間 10月～11月(国語、算数・数学、英語、生徒指導面)

令和4年度 相互授業参観期間 6月・10月(上記教科に加えて、道徳、学活、総合)

上記の期間内に授業の録画を行い、研修などで互いに視聴し、Teams内での意見交換を行った。授業参観を通じて、小学校の教員から中学校の教員に対し、指導方法に関する質問が出されるなど、小中学校それぞれの学習内容を知る良い機会となっている。



オンラインでの授業方法の協議



(5) 出前授業

① 取組の意図

中学校の教職員が小学校段階での指導に関わることで、児童が中学校への進学に対する不安を一定程度解消することができる。

② 取組の具体

中学校の数学科と英語科の教員が在家地区の小学校第6学年を対象とした乗り入れ授業を実施した。中学校教員による授業を通して、小学校で学習している算数と外国語活動の内容を、中学校の学習がどのようにつながっていくかを理解することにより、現在の学習の必要性を感じさせ、学習意欲の向上を図ることができた。また、小中学校の教職員が学習指導の進捗状況を確認・検討する際に、9年間を見通した学習の系統性を意識した指導を行うことの重要性に気付く取組となった。

数学科の教諭による出前授業



英語科の教諭による出前授業

児童感想より

- ・先生の授業は全部英語だったけど、なんとなくわかった。中学生になってもがんばりたいです。
- ・すごく楽しくて安心しました。

(6) スチューデントティーチャー

① 取組の意図

夏休み中に、中学生が児童の学習の補助に関わることで、児童が中学校への進学に対する不安を一定程度解消することができる。また、中学生は、自分の成長を感じ、中学生としての自覚を感じることができる。

② 取組の具体

夏休み中の在家小学校、柳崎小学校のそれぞれのサマースクールで、中学生が小学生の学習の補助を行う。在家小学校は7月末に、柳崎小学校8月末にそれぞれ実施した。それぞれの小学校で、中学生合計20数名程度参加した。

生徒の感想

- ・久しぶりに小学校へ来て、楽しく教えられた。後輩の小学生が「わかった」と言ってくれる、とてもやりがいを感じた。



算数科の学習補助

2 具体的な取組【各教科】

(1) 算数・数学科

① 取組の意図

小中の教員同士が連携しながら、算数・数学科の指導にあたっていくことにより、中1ギャップの解消や中・上位層の引き上げが図られる。

② 取組の具体

算数・数学科では、上記の意図を達成していくために、以下のような取組を実践してきた。

- ・出前授業の実施することで、児童の中学校への進学に対する不安を解消する。
- ・少人数指導、Team Teaching を実施することで、授業内容の定着、基礎的・基本的な学力の定着を目指す。
- ・算数検定→算数チャレンジテスト（小学校のみ。芝東中学校区とも連携）、数学検定（外部業者）を実施することで、算数・数学に対する興味関心を高めるとともに、児童生徒の「学力の伸び」を継続的に測り、基礎的・基本的な知識の定着を図る。

(2) 国語科

① 取組の意図

小中が連携して、漢字の定着や、熟語を含めた知識項目の定着の指導に重点を当てていくことで、上位層の引き上げのみならず、下位層の底上げにつながる他、全教科の根幹である国語科で必要な力の向上によって、他教科の学力向上につなげていく。

② 取組の具体

- ・ことばの時間
主に漢字学習における知識の定着や、熟語の活用、語彙力向上を目的とした「ことばの時間」という特別な時間を設定し、児童生徒の興味を引くような題材を使い、漢字学習や知識事項の興味関心を高め、意欲的に学習に取り組ませる。

(3) 外国語科

① 取組の意図

小中が連携し、持続的な指導を行うことにより、スムーズな英語学習を進めることができる。また、「聞く・話すこと」はもちろんのこと、「書くこと」も意識した小中連携を行うことで、児童生徒の基礎学力向上が図られる。

② 取組の具体

- ・ライティング練習（アルファベット・身近な英単語・基本文等）
- ・学習の導入における基礎的・基本的な事項を確認する帯の活動
- ・5 ラウンドシステム

3 成果と課題

(1) 全教科での取組

【成果】

- ・授業スタイルを統一することで、児童生徒が時間の見通しをもち、メリハリをつけて学習に取り組む姿勢が見られた。また、教員全体の授業への意識も高めることができた。
- ・始業・終業時のあいさつによって、児童は小学校と中学校の違いを感じることなくスムーズに授業を始める意識をもつことができた。

※参考：令和4年度埼玉県学力・学習状況調査「質問紙調査」結果

質問項目	在家中学校	埼玉県	川口市
「人の集まる場所では静かにし、姿勢を正すことができますか」	95.7%	94.6%	93.5%

- ・家庭学習を推奨することで、先の見通しをもって学習することができるようになった。また、友達のノートを参考にし、工夫して学習に取り組む児童生徒が増えた。
- ・様々な教科をGIGAスクール端末で簡単に録画することができるため、教員側の負担は少なかった。また、小中学校それぞれの授業の進め方や児童生徒の反応など、普段ではなかなか見られない様子を知ることができた。
- ・出前授業では、小学生の感想から、「中学校での授業が楽しみ。」「授業についていけるようがんばる。」「授業が楽しそう。」など前向きなものが多く、不安感を取り除くことができた。

【課題】

- ・あいさつ以外にも授業への意欲を高めることができるような共通行動のとれるものがあるとよい。
- ・家庭学習の取り組み方に個人差がある。
- ・多忙の中で相互授業参観を進めたため、相互のフィードバックを十分に行うことができなかった。
- ・出前授業は小学校と中学校の日程調整が難しく、余裕のある時期に行えるとさらにいい。また、算数・数学と英語以外の教科も行えると良い。

(2) 各教科での取組

① 算数・数学科

【成果】

- ・小学校では、デジタル教科書を採用した学校もあり、活動にメリハリをつけることができた。また、国語科と算数科で副教材を統一したことにより、児童の活動がスムーズに行えるようになった。小学校でおこなった算数検定は、下位層の自信につながった。
- ・中学校では、**Team Teaching** を活用することで、中1～中3の中でのギャップを解消することができた。また、中学校でおこなった数学検定は、上位層の生徒にはとても良い取組となった。

【課題】

- ・小学校でおこなった算数検定については、学力が高くなるにつれて、学習意欲がやや低くなる傾向があることがわかった。また、全体的な傾向として、下位層を引き上げていくことと上位層の興味関心を引き立てる問いの提供に課題が見られる。
- ・中学校では、まず **Team Teaching** をより充実させていくことに課題がある。また、数学検定については、まだまだ受検者が多くないので、積極的に受検をすすめ、数学に対する意欲を上げていく必要がある。
- ・小中学校共通の課題としては、ICT 教材（ミライシード）の活用、長欠傾向の児童生徒への学習保障、習熟度別授業実施に向けた場の設定と教員の確保が必要である。

② 国語科

【成果】

- ・多く時間をとることが難しかった漢字学習やことばの学習に焦点をおくことができ、日常生活における漢字の使用につながった。

【課題】

- ・毎授業のはじめ5分程度に取組を実施しようとしても、語句の不足や、時間の不足等が生じてしまい、書き順の定着や、関連する熟語等への発展などに至らず、時間を延長せざるをえないことがあった。
- ・中学校では、実際に既習事項である漢字を使用しているかどうかを確かめることが難しく、各担任、各教科の協力が必要な他、日記指導を含めた日常的な漢字の使用の見届けが不十分であった。

③ 外国語科

【成果】

- ・小学校において「5 ラウンドシステム」を意識した指導を実践することにより、中学校からの学習に備えることができた。
- ・「書くこと」を取り入れた学習を継続することにより、音声と文字の関連性を図り、学習を深めることができた。

【課題】

- ・「聞く・話す」といった音声を中心とした指導を展開しながら、「書くこと」をさらに効果的に取り入れていく必要がある。
- ・「書く学習」をアルファベットから単語へ、単語から文へと発展させ、まとまりのある文章にまで段階的に学習を進めていきたい。

にここ部（生活指導）

1 生徒指導科の取組

（1）同一歩調の指導体制の確立

① 生徒指導・教員相互の交流・相互授業参観

ア 取組の意図

小中学校の連携不足を解消し、9年間を見通し、発達段階に応じた生徒指導面での協力体制を確立することで、中1ギャップや不登校、暴力行為等の生徒指導上の諸課題を未然に防ぐ。

イ 取組の具体

- ・中学校教員による小学校生徒指導委員会の参加
- ・生徒指導についての全体計画、指導計画等の立案、運営
- ・教職員の共通理解の推進（オンライン分科会を活用）
- ・生徒指導に関する事項の検討・確認、整理
- ・他の分掌等との連携、他校、関係諸機関等との連携
- ・相互補完的な連携した取組

（校内の柔軟な連携システムの確立）

- ・生徒指導にかかわる情報や研修会等で得た情報の共有化
- ・相互授業参観（感染症対策の為、主に映像の共有）
- ・養護教諭による情報交換と生活指導



② 生活指導スタイルの統一

ア 取組の意図

小学校で指導されてきたことが中学校で指導が継続されない。また、小学校では指導されることのなかったことが中学校では指導されるという現状があり、中1ギャップの一つの要因だと考えられる。指導の継続性を図ることで、指導に一貫性が生まれ、中1ギャップの解消につながると考えた。

イ 取組の具体 【◎継続重点目標 ☆今後の重点目標 ・3校での統一に向けての項目】

◎元気なあいさつ

◎無言（黙々・黙動）清掃の徹底

☆その場に応じた言葉遣い、名前の呼び方（教員と児童生徒 児童生徒同士）

- ・ユニバーサルデザインを考慮した掲示物の内容・掲示場所
- ・授業開始時・授業終了時の挨拶の仕方の統一
- ・正しい姿勢（立腰姿勢）、起立・着座の仕方の統一
- ・チャイム着席
- ・話の聴き方、挙手の方法
- ・机上に置いて良い持ち物の統一



2 特別活動科の取組

(1) 生徒会・児童会を中心とした交流

① にこにこあいさつ運動

ア 取組の意図

児童生徒が登校時にあいさつを交わし合い、活気ある1日の学校生活をスタートさせるために行う。あいさつを奨励し、児童生徒の豊かな人間関係の構築を目的とする。

イ 取組の具体

生徒会や児童会の児童生徒が、それぞれの学校の近くの橋に立ち、登校中の児童生徒と活気あるあいさつを交わした。7月と2月に2回実施をした。

現在は、合同日は設けているものの、小学校と中学校がそれぞれの方法で実施している。今後はあいさつ運動をするために中学生が小学校に訪問することを計画している。小学校では児童が、月に1度、朝と帰りに昇降口や校門に立ち、あいさつを行っている。教員ではなく、代表児童による元気なあいさつは、登下校する児童の表情を明るくしている。

《代表児童生徒の感想》

- ・あいさつを交わすだけだが、不思議と笑顔になることができ、うれしかった。
- ・中学校の先輩が、笑顔であいさつをしてくれてうれしかった。私も先輩のようにになりたい。



② 在家地区《絆プロジェクト》まちかどクリーンキャンペーン

ア 取組の意図

小学生と中学生が合同で、交流しながら地域のために清掃活動を行うことにより一体感を生み出し、感情を共有することで、郷土愛の精神と社会性、責任感を養うと共に、地域への奉仕の気持ちを高めることを目的とする。

イ 取組の具体

特別活動や総合的な学習の時間等を用いて、生徒会・児童会・環境美化委員会が中心となり小学生と中学生がグループを作り、行動を共にして、割り当てられた地域を清掃する。中学生が部活動単位、またはクラス単位で行動し、小学生に規範を示す。12月5日(月)に実施し、在家小学校6年1・2組、在家中生、PTAも参加した。柳崎小学校は1月に実施した。

《代表児童生徒の感想》

- ・中学生の先輩と一緒に活動することができて楽しかった。
- ・私たちの住んでいる地域には、たくさんのゴミがある。それを知り、また、きれいにすることができ良かった。
- ・もっと今回のような活動をしていきたいです。

まちかどクリーンキャンペーン



③ 学級会のテンプレート化

ア 取組の意図

小学校では、話し合い活動が活発に行われているが、中学校では話し合い活動が極端に少なくなる。小学校で積み上げた指導を中学校でも継続させることを目的とする。

イ 取組の具体

- ・学級会ノートの使用
- ・学級会セットの活用
- ・話し合い活動の統一
- ・学級会での役割の統一

話し合い活動の学習の流れの統一化



④ 読書量目標の設定

ア 取組の意図

国語科だけではなく、生活の中に読書活動を位置付けることが大切だと考える。年間を通して、さらに6年間・3年間の系統性を考慮した読書活動の積み上げが、生涯に渡り読書に親しむ素地づくりを目的とする。

イ 取組の具体

- ・一斉読書の時間
朝や終わりの会の時間を利用して、在家地区の児童生徒が読書に親しむ時間を確保する。課題図書を設定したり、自由な本を持ち寄りながら、読書に親しむ。
- ・児童生徒による委員会活動の活性化
学校図書館で仕事を進めてくれる図書委員を、学校での読書活動推進の担い手として捉え、読書啓発を図ったり、読書活動推進のためのアイデアを考えたりしながら子どもによる子どものための読書活動を推進していく。



柳崎小学校の校内掲示

⑤ キャリアパスポート

ア 取組の意図

小中学校を通じて、児童生徒が、自らの学習状況やキャリア形成を見通したり、振り返ったりして自己評価を行うとともに、主体的に学びに向かう力を育み、自己実現につなげていくことを目的とする。

イ 取組の具体

目指す15歳の姿を具体的にイメージし、児童生徒自らが記録し、学期、学年、入学から卒業までのキャリアアップを見通し、振り返るとともに、将来への展望を図ることができるものとする。基礎資料を基に学年もしくは入学から卒業等の中・長期的な振り返りと見通しができる。

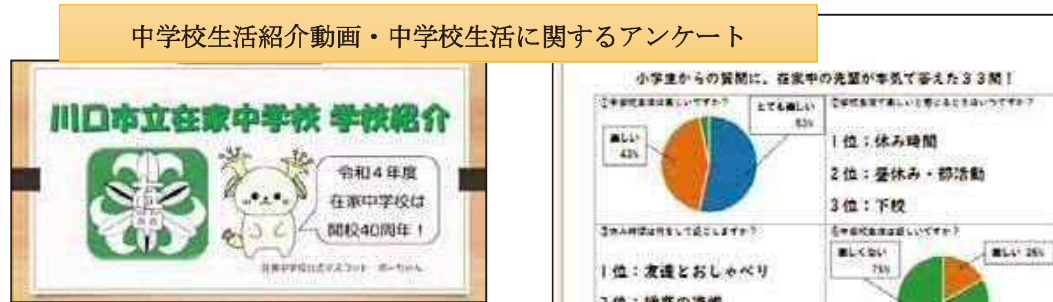
⑥ 小学生、中学生と語る会

ア 取組の意図

小学校6年生が中学校入学を迎えるにあたって、中学校生活について中学校3年生に聞いたり、話したりすることにより不安を解消し、中学校生活をイメージしやすくする。中学校3年生が自分の学校生活を振り返り、小学生に話すことで責任感を高めることを目的とする。

イ 取組の具体

3月にオンライン等を活用して実施した。中学入学を控えた小学校6年生を対象に、生徒会役員が在家中紹介の動画を作成し6年生に視聴してもらった。また、事前アンケートを取り、小学生がもつ中学校生活に対する質問について生徒会が答えた。アンケート結果を公表し、回答することで中学生が小学生の不安を解消することにつながった。



3 特別支援教育・交流科の取組

(1) 特別支援教育体制の確立

① 配慮を要する児童生徒の共有・支援（A・B）プランの引継ぎ

ア 取組の意図

小学校時から配慮を要する児童生徒の共有を行うことで、9年間を見通して指導することが可能となる。また、配慮を要する児童生徒がどのように成長したかを見届けることができ、継続した指導に生かすことを目的とする。

イ 取組の具体

不登校の深刻なケースや特別な配慮を要する児童生徒については、小・中学校教職員が早い段階でこれまで以上に綿密な情報交換をすることにより、より適切な指導につなげていくことが期待される。小中学校においては、児童の小学校在学中から情報交換の機会を意図的に設ける体制を整えたり、ユニバーサルデザインを考慮した教室環境を整えたりする。

特に、特別な配慮を要する児童生徒については、

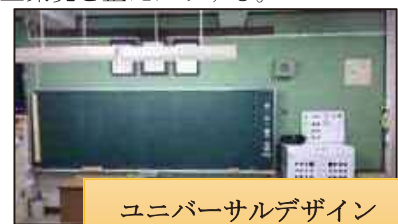
- ・ 小学校における指導経過の中学校教員への共有
- ・ 特別支援学級教員による相互授業参観
- ・ 特別支援学級の児童、保護者による中学校の授業参観

(2) 小学校と中学校の交流活動

① 作品交流

ア 取組の意図

図工・美術の作品を交流することにより、小学生と中学生がそれぞれに作った作品を相互に鑑賞し、互いの思いやよさを知り、自身の感性に活かす一助とする。



各校の児童生徒の作品を持ち回り、展示・紹介することで、各学校での様子を知る。小学生が、中学生に憧れをもつ機会とする。

イ 取組の具体

各校の優秀作品を持ち寄り、美術作品交流コーナーを作り、互いの作品を展示する。小学生から中学生へ向けて「よかったよカード」を書き、中学生へ紹介する。



② 歌声（合唱）交流

ア 取組の意図

中学生と小学生、また、小学生同士が歌声を交流し合うことにより、小学生は15才になったときの歌声をイメージすることができる。また中学生は小学生に歌声を披露することにより、責任感と心の育成を図ることを目的とする。

イ 取組の具体

小・中学校ともに、合唱に積極的に取り組んでいる。そこで、朝の会での歌練習や音楽の授業風景、音楽会や合唱コンクールの様子を互いに見せ合うことにした。それにより、小学生は中学校での活動に憧れと期待をもたせることをねらいとする。また、中学生にも練習時から緊張感をもたせるとともに、自己有用感を高めることをねらう。

※今後は、オンラインではなく、以前のように互いに行き来して聞き合う学習に移行する予定。



③ 部活動見学

ア 取組の意図

小学校と中学校が計画的に交流を重ね、事前に中学校生活に対する見通しをもたせることで中1ギャップの解消やよりよい人間関係の構築を目指すことを目的とする。

イ 取組の具体

夏休みに、小学生が保護者同伴で部活動見学を行った。冬休みにも、同様に計画していく。早い段階で行うことで、中学生になるイメージを湧かせ、期待をもたせる。また、部活動に対する理解を得ると共に、不安軽減をねらう。



4 にこにこ部の成果と課題

【成果】

- ・ 多面的な交流活動を通して、児童生徒の自尊感情、自己肯定感を高めると共に、小学校から中学校への進学時に児童が感じる不安感を軽減することができた。
- ・ スムーズな校種移行と次の校種への期待感を高めることができた。
- ・ 上記2点を基にすると、いわゆる中1ギャップの軽減が図れていると言える。

【課題】

- ・ 在家地区での取組は未だ始まったばかりであるが、様々な交流・行事等について、より効果的な取組は継承すると共に、行事や取組の精選・練り直しをすることが必要である。
- ・ 様々な取組を通して交流は増えているが、学校などから与えられた取組以外にも、年長者が年少者を気にかけて、年少者が年長者の姿を見て憧れを抱いたり、手本にしたりするなど、地域社会での子どもたちの良き関係性を築いていけるように支援と研究を推し進めていきたい。

埼玉県学力・学習状況調査分析

1 対象

令和3年度在家小学校・柳崎小学校第6学年児童

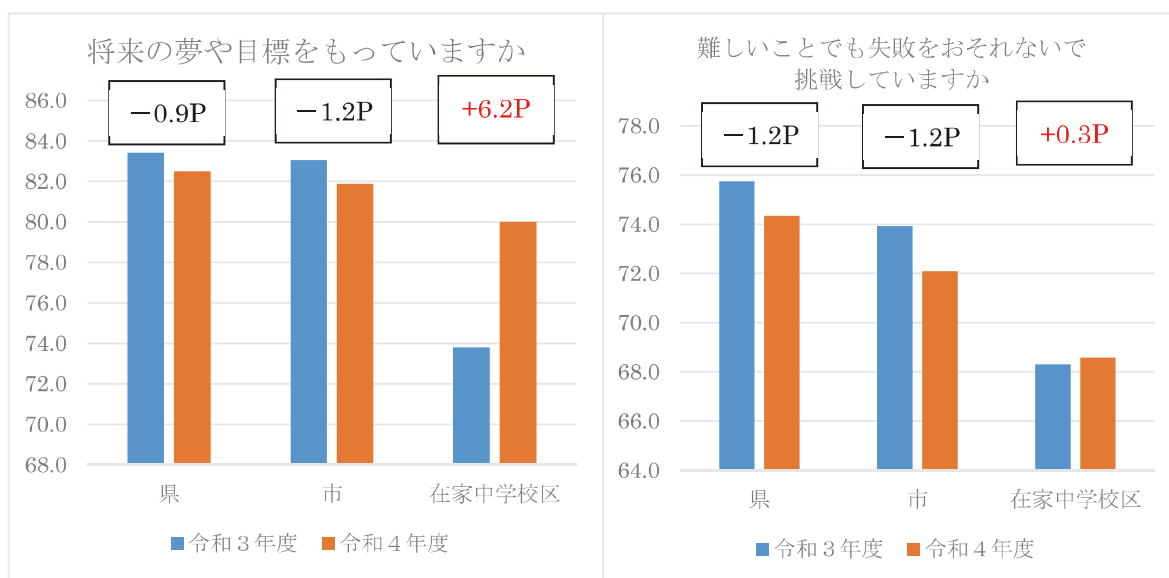
令和4年度在家中学校第1学年生徒

2 方法

(1)「質問紙調査」における、自己肯定感に関する各項目を抽出する。

(2)各項目にて肯定的にとらえている児童生徒(項目に対して A+B と答えた児童生徒)の割合を、「非認知能力の伸び率」とし、各年度の埼玉県平均や川口市平均と比較する。

3 結果（優位に高い結果が出た項目について）



4 考察

○挑戦する気持ちや、将来への夢や希望をもつ児童生徒の育成については、研究の成果が見られる。

○挨拶、学習準備、規律の徹底は児童生徒の自己肯定感を高める可能性がある。

▲依然として中1ギャップに悩んでいる生徒が多く、不安や悩みを抱えている可能性がある。

5 次年度以降に向けて

- ・自分のよさや可能性、また自身の伸びを実感できる授業や指導の実践

→キャリア教育を充実させる視点を加えていく。

- ・「めきめき部」「にこにこ部」それぞれの研修内容の継続

→持続可能かつ効果の高い取組を検証し、精選していく。

- ・小中連携・一貫教育推進事業と自己肯定感との因果関係の調査

→同調査分析の母体(在家中学校1年生)を在家小・柳崎小卒業生と根岸小卒業生とに分けて、「ランダム化比較実験」として行うことも有効である。

小中連携 3 校合同アンケート分析

児童・生徒アンケート

1 ねらい

「埼玉県学力・学習状況調査」実施日から、小中連携・一貫教育推進事業を経て、児童生徒がどのように変容したのかを追跡調査するため。

2 対象・時期

令和 4 年度第 6 学年児童・中学校第 1 学年生徒 計 2 5 8 名（転出児童生徒は除く）

【1 回目】令和 4 年 5 月末【2 回目】令和 4 年 1 1 月中旬

3 方法

（1）「埼玉県学力・学習状況調査」とほぼ同じ項目でアンケートを 2 回実施する。

ただし、地域社会に関する項目については独自に追加した。

（2）各項目にて肯定的にとらえている児童生徒(項目に対して A+B と答えた児童生徒)の割合を、「非認知能力の伸び率」とし、1 回目と 2 回目の数値を比較する。

4 結果 （※一連の正数と負数の累積的影響を割合の±で評価）

項目	変容割合	項目	変容割合
あいさつをする	1%	友達に認められる	0%
宿題を忘れずに行く	1%	教員はよいところを認めてくれる	0%
忘れ物をしない	5%	友達はよいところを認めてくれる	1%
場に応じた態度がとれる	2%	地域の行事に参加している	4%
自分にはよいところがある	-2%	地域や社会を向上させたい	4%

5 考察

○「めきめき部」および「にこにこ部」で行った取組、特に学習規律の徹底については、研究の成果が見られる。

○新型コロナウイルス感染症による社会情勢の変化から、地域や社会への関心が高くなった。

▲自分にはよいところがあると思うと回答する児童生徒の割合は、学年が上がっていくと減少していく傾向がある。社会情勢の変化や将来に対する不安感も関係していると思われる。

6 次年度以降に向けて

・教員や児童生徒相互によさや可能性を認め合う場の設定

→相互授業参観や合同研修会において「特別の教科 道徳」の充実も図っていく。

→スクールカウンセラーによる教育相談研修会を実施する。

→日常の学習場面や生活場面でこれまで以上に児童生徒のよさを認め、称賛していく。

教員アンケート

令和 4 年 1 1 月中旬に 3 校の教員にアンケートを実施。児童生徒の変容の有無や今後の取組方法等について意見を集めた。連携内容を精査・深化させつつ、次年度以降の連携に生かしていく。

研究の成果と課題

<成果>

- ・児童生徒間の交流により、小学生が中学生に憧れを持ち中1ギャップの解消に繋がった。
- ・定期的な教員間の交流により、効果的な教育活動について意見交換をすることができた。
- ・GIGAスクール端末の積極的活用により、円滑に交流したり情報交換したりすることができた。

<課題>

- ・在家地区の児童生徒の学力向上へ向けた取組を強化していく必要がある。
- ・自己肯定感を育む取組を精査し、継続的に取り組む必要がある。

ご指導いただいた先生方（敬称略）

川口市教育局学校教育部長	中川 猛
川口市教育局学校教育部次長兼学務課長	寺田 和成
川口市教育局学校教育部次長兼指導課長	丸山 陽一
川口教育局学校教育部学務課主幹	新保 友
川口市教育局学校教育部指導課主幹兼指導係長	池田 光伸
川口市教育局学校教育部指導課主幹兼教育研究所副所長	中村 義郎
川口市教育局学校教育部指導課指導主事	伊東よお子
川口市教育局学校教育部指導課指導主事	村上 裕一
川口市教育局学校教育部指導課指導主事	譜久村 航
川口市教育局学校教育部指導課指導主事	笠原たまき
川口市教育局学校教育部指導課指導主事	柳橋 牧人
前川口市教育局学校教育部長（現川口市立南中学校長）	森田 吉信
前川口市教育局学校教育部次長兼学務課長（現上青木南小学校長）	高宮 明洋

研究に携わった職員

在家中学校

校長 鈴木玲 教頭 功刀幸代 主幹教諭 若林拓海
佐野友洋 鹿一樹 佐々木亜貴子 松井佑磨 中村信悟 大道寺久子 石川大暁 大塚美伊 角田洋史
木村佳世子 水谷圭佑 鈴木崇仁 松園均 高橋君子 片野清夏 永井貴司 山中美穂 原口哲
佐藤宗雄 伊藤千奈 齋藤美侑 山根美和 田代悠馬 前田順一郎 岩根遼也 松原朋世 小池隆夫
三浦誠子
（令和3年度）
校長 松崎寛幸 丸山孝広 平口美穂 稲垣裕太 保坂歩惟 鈴木ぼたん 瀬田成美 井上麻里
猿谷信人 松本みづほ 澤居尚子

柳崎小学校

校長 相樂雅彦 教頭 田中孝幸 主幹教諭 小林崇
永田友美 栗原千穂 勝浦ひかる 茂木恵里菜 先崎萌々 野呂圭司 石井真理子 松嶋優果 渡邊優
高鹿正太 須佐伽緒里 中澤彩乃 長嶺成泰 面来智英 中川聡子 佐藤崇弘 鈴谷春佳 平田薫
佐藤竜丞 岸田美穂 永嶋優子 小林良史 田中真菜美 阿久根友美 藤村くに子 小林茂弥 飯塚邦夫
吉田絵美 鎌田純子 里見貴美子
（令和3年度）
教頭 大高珠恵 田口望美 崎山葉子 高崎美代子 廣瀬智子 菊池鈴音
市川祐也 狩野有紀 鶴田瑞穂 塩野悠 樋口典子 平岡美砂子 春原真理子

在家小学校

校長 渡辺訓次 教頭 大森雅之 教務主任 宇田川雄
金子咲穂 小林啓人 大貫史佳 将田裕樹 金子享平 岩崎舞花 三上凜 山田裕也 鈴木教子
川野義男 尾野本綾 坂本巧 中村絢音 森山牧子 増川禮子 天笠明美 関八重子 三井敦子
大竹美帆 布施典子 前野雄吉
（令和3年度）
清水雛乃 安部隆司 切明夏菜 小森朋子

川口市学校運営協議会委員の委嘱・任命を解いたことについて

（１）川口市立領家小学校

氏 名	委嘱年月日	規則第６条関係	解職年月日
三谷 清隆	令和４年４月１日	P T A会長	令和５年３月３１日

（２）川口市立十二月田小学校

氏 名	委嘱年月日	規則第６条関係	解職年月日
横山 孝二	令和４年４月１日	P T A会員	令和５年３月３１日

（３）川口市立並木小学校

氏 名	委嘱年月日	規則第６条関係	解職年月日
富山 俊之	令和４年４月１日	元学校評議員	令和５年３月３１日
中川 博太	令和４年４月１日	おやじの会会長	令和５年３月３１日

（４）川口市立原町小学校

氏 名	委嘱年月日	規則第６条関係	解職年月日
相原 重美	令和４年４月１日	土曜あそび場代表	令和５年３月３１日
宮田 千恵	令和４年４月１日	主任児童委員	令和５年３月３１日

（５）川口市立神根東小学校

氏 名	委嘱年月日	規則第６条関係	解職年月日
橘 浩幸	令和４年４月１日	元P T A会長	令和５年３月３１日
御小柴 隆	令和４年４月１日	民生委員 児童委員	令和５年３月３１日

(6) 川口市立朝日東小学校

氏 名	委嘱年月日	規則第6条関係	解職年月日
大澤 陽久	令和4年4月1日	P T A会長、 川口子どもクラブ 育成会副会長	令和5年3月31日

(7) 川口市立慈林小学校

氏 名	委嘱年月日	規則第6条関係	解職年月日
須田 玲子	令和4年4月1日	元学校評議員、 元安行中学校P T A 会長	令和5年3月31日
田中 清文	令和4年4月1日	P T A会長	令和5年3月31日

(8) 川口市立西中学校

氏 名	委嘱年月日	規則第6条関係	解職年月日
増井 真也	令和4年4月1日	元P T A会長	令和5年3月31日

(9) 川口市立榛松中学校

氏 名	委嘱年月日	規則第6条関係	解職年月日
土屋 功	令和4年4月1日	元P T A会長	令和5年3月31日

(10) 川口市立安行東中学校

氏 名	委嘱年月日	規則第6条関係	解職年月日
大野 勝己	令和4年4月1日	安行吉蔵町会長	令和5年3月31日

令和4年度 学校自己評価重点目標シート綴

川口市教育局学校教育部署務課

令和4年度学校評価のまとめ(達成度)

【小学校】＜個数＞

	A	B	C	D	計
組織運営	32	48	0	0	80
教育課程	32	58	2	0	92
開かれた学校づくり	40	35	0	0	75
教職員の資質向上	35	53	0	0	88
施設・設備等の管理	58	27	2	0	87

【小学校】＜割合％＞

	A	B	C	D	計
組織運営	40	60	0	0	100
教育課程	34.8	63	2.2	0	100
開かれた学校づくり	53.3	46.7	0	0	100
教職員の資質向上	39.8	60.2	0	0	100
施設・設備等の管理	66.7	31	2.3	0	100

基準

A	ほぼ達成(8割以上)
B	概ね達成(6割以上)
C	変化の兆し(4割以上)
D	不十分(4割未満)

【中学校】＜個数＞

	A	B	C	D	計
組織運営	25	21	0	0	46
教育課程	21	22	5	0	48
開かれた学校づくり	26	18	1	0	45
教職員の資質向上	14	29	0	0	43
施設・設備等の管理	24	19	0	0	43

【中学校】＜割合％＞

	A	B	C	D	計
組織運営	54.3	45.7	0	0	100
教育課程	43.8	45.8	10.4	0	100
開かれた学校づくり	57.8	40	2.2	0	100
教職員の資質向上	32.6	67.4	0	0	100
施設・設備等の管理	55.8	44.2	0	0	100

【高等学校】＜個数＞

	A	B	C	D	計
組織運営	0	1	0	0	1
教育課程	1	0	0	0	1
開かれた学校づくり	1	0	0	0	1
教職員の資質向上	1	0	0	0	1
施設・設備等の管理	0	1	0	0	1

【高等学校】＜割合％＞

	A	B	C	D	計
組織運営	0	100	0	0	100
教育課程	100	0	0	0	100
開かれた学校づくり	100	0	0	0	100
教職員の資質向上	100	0	0	0	100
施設・設備等の管理	0	100	0	0	100

【幼稚園】＜個数＞

	A	B	C	D	計
組織運営	1	3	0	0	4
教育課程	2	2	0	0	4
開かれた学校づくり	3	1	0	0	4
教職員の資質向上	2	2	0	0	4
施設・設備等の管理	4	0	0	0	4

【幼稚園】＜割合％＞

	A	B	C	D	計
組織運営	25	75	0	0	100
教育課程	50	50	0	0	100
開かれた学校づくり	75	25	0	0	100
教職員の資質向上	50	50	0	0	100
施設・設備等の管理	100	0	0	0	100

【幼稚園・小学校・中学校・高等学校】＜個数＞

	A	B	C	D	計
組織運営	58	73	0	0	131
教育課程	56	82	7	0	145
開かれた学校づくり	70	54	1	0	125
教職員の資質向上	52	84	0	0	136
施設・設備等の管理	86	47	2	0	135

【幼稚園・小学校・中学校・高等学校】＜割合％＞

	A	B	C	D	計
組織運営	44.3	55.7	0	0	100
教育課程	38.6	56.6	4.8	0	100
開かれた学校づくり	56	43.2	0.8	0	100
教職員の資質向上	38.2	61.8	0	0	100
施設・設備等の管理	63.7	34.8	1.5	0	100

※参考(令和3年度)

	A	B	C	D	計
組織運営	50	49.3	0.7	0	100
教育課程	36.5	63.5	0	0	100
開かれた学校づくり	41.9	54.4	3	0.7	100
教職員の資質向上	34	64.6	1.4	0	100
施設・設備等の管理	62.2	36.4	1.4	0	100

令和4年度 学校評価のまとめ（学校別）					
学校名	領 域	学 校（幼 稚 園） 自 己 評 価			学校（幼稚園）関係者評価（抜粋）
		年 度 目 標	年 度 評 価		
		重点目標	重点目標の達成状況	達成度	
本町小	組織運営	○学校教育目標の具現化に向け、多様化する諸課題を解決するために、教職員一人一人が輝く、持続可能な学校組織づくりをする。	○児童の多種多様な課題に対して、教職員一人一人がアイデアを出せるようになった。 ○根拠を意識した企画立案と議論ができるようになった。 ○特定の教職員だけでなく、一人一人のＩＣＴ活用能力が高まった。	B	・教職員の学校評価低下の要因を複合的に考察する ・指示伝達・決定事項の周知の努力をしてほしい。 ・子供たちが進んで清掃する気持ちがもてるようにする。 ・年齢や経験にとらわれない実行力・実践力を育てていただきたい。 ・若い先生が多く活気があるが、指導技術等の継承がされているか心配である。 ・不登校や格差、家庭の貧困等について今後も前向きに取り組んでほしい。
	教育課程	○学校の新しい生活様式を踏まえた知・徳・体のバランスの取れた学びに向けて、計画的な実践をする。 □創立150周年に向けて、伝統の継承と未来への発信（発信）をする	○教育計画に沿った実践が着実に図られた。県学力状況調査の結果から算数が伸びている。 ○全学年でＩＣＴ活用力は市内で上位である。 □各学級・各委員会活動をととして、愛校心や感謝の心、未来への希望が芽生えた。	A A	・教育は挨拶と道徳心が基本である。再度各自が初心に戻って考えてほしい。 ・子供一人一人の得意な事、好きな事を見つけて、褒めて関心をもたせて伸ばしてほしい。一つ強いものがあれば自ら勉強し学力も伸び、自信や自尊心もついてくる。 ・保護者と教職員の受け取り方がずれていると感じる。 ・挨拶は先生自らお手本をお願いしたい。 ・誰一人取り残さない教育活動に期待する ・学力も大切だが、コロナ禍の児童の体力はどうなのか。日々変化するコロナ対応だが、安全重視で健康な心身づくりをお願いする。
	開かれた学校づくり	○多様な人材と効果的に連携しながら「信頼される学校」「地域とともにある学校」をつくる。	○学校運営協議会は、予定していた計３回を実施することができた。 ○双方向コミュニケーションの充実が図れた。 ○実行委員会が立ち上がり、学校・地域・保護者が一体となって進める機運が高まった。	B	・行政がもっと学校の現状を見て考えれば地域との関係が自然とよくなると思う。 ・コロナ禍だが頑張っている。 ・来年度の活動拡大に期待している。 ・学校運営協議会などを通じ、地域との関わりも図られている。 ・開校150周年事業を機会に、さらに開かれた本町小学校になることを期待する。 ・150周年を地域とともに成功させたい
	教職員の資質向上	○「授業で勝負」を合言葉に、経験年数に応じた挑戦的・実践的・主体的な研修を行う。 □教育公務員としての使命感と情熱をもち、教職員の不祥事0件を継続する。	○教職員間で互いに高め合う話合いや協力が計画的組織的になった。 ○教職員一人一人の強みを生かした授業改善が図れた。 □教職員不祥事0件を継続することができた。 □業務改善を意識できた。	B B	・先生は児童に尊敬されるよう心がけてほしい。 ・学級懇談会で、先生は自分の言葉で保護者を納得させ、慕われるような言葉の力を身に付けて、要領よく進められるとよい。 ・努力はしているが子供たちの手本となれるよう頑張っていたきたい。 ・ICT活用とデジタルとアナログの教育効果の検証を継続していただきたい。 ・先生自身の勉強時間確保が心配である。 ・先生方の時間外の取組や努力を知った。
	施設・設備等の管理	○教職員一人一人の危機管理意識を高め、施設・諸表簿・金銭の事故ゼロの学校にする。	○一人一人のセルフチェックと学年内チェック機能が確立され正確な文書・諸表簿が作成されている。 ○安全第一の授業や学校生活が展開されている。 ○集金方法の改善により事故防止と負担軽減にもつながった。	A	・不備な箇所があれば専門技術を結集して行政と連携を図ってもらいたい。 学校施設を借りているが、使用している用具を邪魔扱いされたときは悲しかった。 ・チェックするということは、それを改善・達成しようとする強い意志の表れと考える。 ・プールをはじめ各施設の劣化が心配である。 ・

令和4年度 学校評価のまとめ（学校別）

学校名	領 域	学 校（幼 稚 園） 自 己 評 価			学校（幼稚園）関係者評価（抜粋）
		年 度 目 標	年 度 評 価		
		重点目標	重点目標の達成状況	達成度	
幸町小	組織運営	○組織の一員としての自覚と行動力のある教員を育成する。	○保護者による学校評価「体・徳・知の調和がとれた教育を行っている」は91％だった。	A	・特になし ・ ・
	教育課程	○コロナ対策を徹底するとともに、体力向上への意識を高める。 □挨拶や返事、靴のかかと揃え、廊下や階段の右側歩行、無言清掃等、規律ある態度の指導を徹底する。 △朝自習や授業でタブレットを積極的に活用していく。	○新体力テスト総合評価A＋B＋Cが90.0％（昨年度は、85.3％）になった。 □保護者による学校評価「子供たちは自分から挨拶をしている」は82％「子供たちはくつを揃えることができる」は70％であった。 △タブレットを有効に活用できている。	A B A	・ ・学習が遅れがちな児童や外国籍の児童への手立てが必要である。 ・
	開かれた学校づくり	○学校・学年の様子や連絡等をホームページやメールで発信していく。 □コロナ禍でも児童の学校生活の様子をできる限り見ていただく機会を確保する。	○保護者による学校評価「保護者や地域に情報を提供している」は94％だった。 □PTA授業参観や懇談会、3ブロックに分けての運動会や音楽会、持久走大会等の行事をすべて実施し公開できた。	A A	・特になし ・ ・
	教職員の資質向上	○教育公務員として高い意識をもたせる。 □授業観察を通じて経験年数に応じた指導力を身に付けさせる。	○不祥事防止研修、倫理確立委員会の実施により、時にトップダウン、時にボトムアップの両面から不祥事防止の意識を高めた □保護者による学校評価「学校はわかりやすく授業を教えている」は91％であった。	A A	・特になし ・ ・
	施設・設備等の管理	○閉門を徹底し、不審者を侵入させないようにする。 □安全面や衛生面から優先順位をつけて施設・設備等を管理する。	○不審者、施設設備を原因とする事故は0であった。 □安全点検を徹底し、不良箇所については迅速に対応することができた。	A A	・新設門のところに防犯カメラを付けたほうがよい。 ・ ・

令和4年度 学校評価のまとめ（学校別）

学校名	領 域	学 校（幼 稚 園） 自 己 評 価			学校（幼稚園）関係者評価（抜粋）
		年 度 目 標	年 度 評 価		
		重点目標	重点目標の達成状況	達成度	
仲町小	組織運営	○コロナ禍の教育活動について、職員に優先順位を周知し、圧縮、軽重の視点をもちつつ、目指す学校像の具現化に向けてチームとして最大限の成果をあげる組織運営を行う。 □各主任のリーダーシップのもと、P D C Aサイクルにより、効果的な教育活動の実現を目指す組織とする	○キャリア段階に応じ、学校運営に積極的に取り組む教職員の姿が見られ、目指す学校像に近づけることができた。 □コロナ禍における教育活動の充実に向けて、各主任のリーダーシップのもと組織で協力し合い、学校運営を進めることができた。	B B	・教職員それぞれのよさを発揮するとともに、互いにカバーし合えるような風通しのよい雰囲気作りに組織全体で取り組むことが大切である。 ・若手が保護者と関係を作るのに苦労する様子が見られる。 ・教員のなり手不足が大きな課題となっている。課題解決に当たっては、教員の待遇の改善が急務である。
		教育課程	○児童一人一人に分かる喜びを味わわせることができるよう、教育課程の見直し及び授業の質的改善に取り組み、資質・能力の育成により学力の向上を図る。 □ I C T を積極的に活用し、児童が学ぶ楽しさを味わえる授業を実践するとともに一人一人の学力の伸びに繋げる。	○学力の向上に向けて、「主体的・対話的で深い学び」により資質・能力をバランスよく育成するために、各教科等の授業、学校行事等のあらゆる教育活動に意図的・計画的に取り組んだ。 □教育活動において、昨年度以上に効果的な I C T の活用が進んだ。端末を文房具のように使いこなす児童の姿が見られる。	B B
	開かれた学校づくり	○学校の教育活動を積極的に公開するとともに、保護者・地域との連携により学校の教育力を向上され、地域に愛され育つ学校を目指す。 □コミュニティ・スクール等を通して、保護者や地域との課題共有を図るとともに連携を強め、協働を実現させる。	○学校 H P や、今年度導入した連絡アプリ「コドモン」の導入により、学校の情報発信に努めた。登校時の安全の見守りや各学校行事等において、P T A 執行部の尽力等により、多くの保護者の協力が得られている。 □運動会の全校一斉開催や音楽会、授業参観等において工夫を図り、昨年度以上に学校の様子を広く公開した。学校運営協議会について、3 回の実施を通し、意見交流の充実を図った。	A A	・保護者や家庭環境の変化、児童の発達段階から、何かと学校に解決を求めることが多くなっている。 ○学校だけでなく地域においても子供たちの居場所づくりを構築していきたい。 ○地域のネットワークづくりを広げたい。 ・多様な児童の理解について保護者の理解を促す必要がある。 ・学校行事等でアンケートを活用し、保護者・地域の声を学校運営に生かしたい。
	教職員の資質向上	○児童一人一人との信頼関係を構築し、安心して通える学校づくりに組織的に取り組む教職員の育成を推進する。 □授業力の向上に向けて、主体的・組織的に取り組む教職員の育成を図る。	○多様な児童一人一人について教職員が共通理解を図り、関係機関と連携を行いつつ、よりよい指導・支援に繋げるよう努めた。 ○「ふれあいデー」「リフレッシュデー」の定時退勤など、メリハリをつけた働き方について教職員が意識を高めた。 □課題を焦点化した校内研修について工夫を図ったことで、協議が充実し、教員の指導力向上につなげることができた。	B A	・共生社会を生きていけるよう、子供たちの得意なところを伸ばし、互いのよさを認め合う教育を推進していく。 ・教職員の過信から誤解が生じないよう、指導について常に見直す姿勢をもつことが大切である。 ・
	施設・設備等の管理	○緑化・環境美化・環境整備を進め、潤いのある学校を実現させる。 □安全に教育活動を実施することを第一に、施設・設備を管理する。	○清掃活動や緑化活動をさらに充実させるとともに、校内掲示を充実させ、潤いのある教育環境を整える。 □定期的・臨時的な安全点検を充実させ、教職員の危機管理意識を高めながら、計画的に環境整備を進める。	B A	・校舎の建て替えと老朽化を見極めながら、潤いのある、安全な教育環境を整える必要がある。 ・ ・

令和4年度 学校評価のまとめ（学校別）					
学校名	領 域	学 校（幼 稚 園） 自 己 評 価			学校（幼稚園）関係者評価（抜粋）
		年 度 目 標	年 度 評 価		
		重点目標	重点目標の達成状況	達成度	
上青木小	組織運営	○校長の学校経営方針に基づきながら、教職員の学校経営参画を高める組織的、機動的な組織運営を構築させる。【学校評価9割以上】 □不登校児童を解消する。【新規不登校児童ゼロ】	○月ごとの学校経営計画をすべての月で配布・周知することはできた。（教職員充実度97.0%） ○人事評価に係る面談で校長の学校経営方針に沿った各教職員の進捗状況を確認したり助言することはできた。 □新規不登校児童数8名 □「温かい、心の通う学級経営の推進」を各担任のボトムアップの下実施し、担任と児童一人一人との信頼関係を築くことはできた。	A B	・校長の学校経営については、ことあるごとに職員に伝えるべきであり、そのように進めてほしい。 ・新規不登校児童ゼロの目標は来年度も継続して実施してほしい。 ・登校できなくても、必要な教育を受けられるようなケアと教育体制を構築することが大切である。 児童一人一人に教育を受ける権利を保障するようにしてほしい。 ・
	教育課程	○感染予防と、授業時数の確保・学習内容の確実な定着を図ることを両立させる。【学校評価・保護者満足度9割以上】 □ICT（GIGAタブレット端末）を活用した学力向上を実践する。【児童の「できた」「わかった」を実感する満足度9割以上】	○新型コロナと「学びの保証」の両立について保護者満足度92.1% ○教科担任制を導入して学習の質の確保に努めた。 □児童の「できた」「わかった」を実感する満足度73.6% □タブレット端末の活用に関する研修会を10月以降に数回実施した。	A B	・ポストコロナを見据えた教育課程の編成と実施をお願いしたい。 ・学力向上に繋がる非認知能力の向上を図る取組の実践を進めてほしい。 ・ギガ端末を有効に活用して、反転学習などを取り入れた家庭学習の計画、実践を進めてほしい。 ・
	開かれた学校づくり	○「学校」「家庭」「地域」との連携・協働を進め、「応援がいのある学校」をつくる。【保護者満足度9割以上】 □学校運営協議会を計画的に開催して、開催回数・協議内容ともに充実させる。【学校運営協議会委員満足度9割以上】	○「応援がいのある学校」保護者満足度92.6% ○HP週1回以上の更新を行うことができた。 □新型コロナ対応を始めた学校課題について、委員の方々から意見をいただき、学校経営に生かすことができた。	A A	・卒業生ともっとコミットすることで『先生になりたい』と思う若者が増えるのでは。そういう機会を計画することも開かれた学校づくりになると考える。 ・来年度も引き続き、学校運営協議会委員として協力したい。 ・
	教職員の資質向上	○学校課題研究を通して、教員の指導力を向上させる。【学校課題研究成果9割以上】 □サービスの厳正を図り、教職員事故防止を徹底させる。【教職員事故ゼロ】 △教職員一人一人のよさを生かすためにも、働き方改革を推進させる。【教職員満足度9割以上】	○県算数数学授業研究協議会を実施し、指導力の向上を図った。（10/18（火）） □教職員事故ゼロ達成 □学校事故に関する研修会を9回（3月末現在）実施し、意識の向上を図った。 △教務改善スタンダードに上げた対応策については、2/3は実施した。 △教職員は60%の満足度（ローコスト・ハイパフォーマンスの働き方）である。	A B B	・ギガ端末、タッチペンをもっと使ってほしい。（PTA寄贈だが、使っている様子があまり見られない。） ・替え歌を歌っている授業を見たが、『ヒーロー』と言う言葉を使っていた。ジェンダーに関する意識をもっと高く持てるよう指導してほしい。 ・地域の若者が『先生になりたい』と感じられるような教職員集団をつくってほしい。また校長はそういう学校経営を進めてほしい。
	施設・設備等の管理	○会計事務の適正な執行・管理を実施する。【会計事故ゼロ】 □新型コロナウイルス感染拡大防止に係る衛生管理を確実に実施する。【新型コロナウイルス感染者前年度比1割減】 △安心・安全を保障した教育活動を展開するための環境維持を確実に行う。【施設・設備事故ゼロ】	○会計事故ゼロ達成 ○未納家庭も昨年度より減少した。 □新型コロナウイルス感染児童185名（12月末現在） □感染対策を十分に行ってきたが、家庭内感染が主な感染ルートであったため、学校としての対応ができなかった。 △施設・設備事故ゼロ達成 △管理職の毎日の校内巡回と毎月の学校安全点検は実施した。	A C A	・保護者との信頼関係をさらに強く築いてほしい。 ・新型コロナウイルス対応は換気が大切である。エアコンを使いながら換気することに注意してほしい。 ・CO2モニター（二酸化炭素濃度計）を購入してほしい。 ・老朽化への対応については理解できる。市教委へ働きかけをお願いしたい。（避難所としても老朽化の対策をしてほしい。）

令和4年度 学校評価のまとめ（学校別）					
学校名	領 域	学 校（幼 稚 園） 自 己 評 価			学校（幼稚園）関係者評価（抜粋）
		年 度 目 標	年 度 評 価		
		重点目標	重点目標の達成状況	達成度	
元郷小	組織運営	○学校課題に対する共通理解・共通指導に基づく組織的対応を実現する。 □本校校訓「至誠」の具現化を実現する。	○学校課題解決に向け、各分掌主任を中心とした組織的対応を実現できたが、課題解決までには至っていない。 □主幹教諭を軸とした各学年主任、各分掌主任等との連携により、児童や保護者等への対応に変容が見られた。	B B	・先生方の取組を、保護者や地域の人が、見れば理解が深まる。コロナ禍ではあるが、学校の取組等を公開する機会を増やすことが、相互の信頼関係を深めることにつながる。
	教育課程	○GIGAスクール構想による授業へのICT活用を推進するとともに、児童の学力向上に資する取組を充実させる。 □「主体的・対話的で深い学び」を視点とした授業改善を推進する。	○1日3回以上の教室訪問を実施し、教育課程の確認、見届けとともに児童の学びを継続することができた。 □学期ごとに1単位時間の教室訪問を実施した。訪問後、授業評価に係るフィードバックを実施し、授業改善に係るPDCAサイクルの確立を実現できた。	A B	・学力向上のためには、家庭への連絡・連携を十分に行ってほしい。 ・保護者は自分の子どもの学力について知らないのではないか。連絡帳・宿題等について家庭への周知を十分に行ってほしい。 ・少人数指導等学校で先生たちが学力向上のためにしている取り組みについて、家庭にも知らせていくとよい。
	開かれた学校づくり	○正確で迅速な情報提供を行うことで、学校・家庭・地域の連携体制を確立する。 □学校運営協議会のさらなる充実により、地域に根差した学校づくりを実現する。	○不審者情報や校外学習をはじめとした情報伝達の手段として、保護者緊急メールを活用できた。学校ＨＰにて「元小アルバム・学校の教育活動の様子」を新設できた。 □学校運営協議会を年間4回実施できた。地域に根差した学校づくりへの一助となった。	B B	・コロナ禍ではあるが、コンソーシアムや元小まつりなどを行ったことで地域との連携が図られている。学校と関わってくれる地域の人々が多く、児童に実践を通して指導できている。 ・HPの写真を多くしてほしい。リアルタイムでアップしていただけるとうれしい。 ・不審者情報メールや校外学習先からのメールを頻繁に発信していただいたことは、大いに評価できる。
	教職員の資質向上	○学校課題研究を基盤とした個々の教員の指導力向上を実現する □心身ともに健康で、高い倫理観を備えた教職員集団の形成を実現する。	○手立てでは講じているものの、組織の活性化や教師相互の主体的な学び、全教職員の共通理解に関して課題が残った。 □全教職員を対象とした川口市メンタルヘルスカウンセラーとの面談を実施できたが、長期病気休暇を取得した教職員は2名おり、内1名は退職した。	B B	・保護者との信頼関係を構築するため、不信任を抱かれないような先生方の言動をするようお願いしたい。 ・児童の実情に応じて家庭訪問等の対応をお願いしたい。
	施設・設備等の管理	○教職員の「変化に気づく」危機管理意識を向上させる。 □教育環境の整備・充実のため、計画的・効果的に予算を執行する。	○換気を要とした全教職員による感染症予防を実施し、油断や慢心のない組織としての危機管理意識を高めることができた。 □1日3回以上の校内巡視により、修繕必要箇所の早期発見・即時対応を実現できた。今年度、瑕疵による事故は発生していない。	B B	・6年1組の漏水修繕工事はいつになるのか。早めに直してほしい。 ・西門は工事の途中のような状況になっているが、修繕計画についての連絡はあるのか。委員会からの予算はあるのか。早急に修繕をお願いしたい。

令和4年度 学校評価のまとめ（学校別）

学校名	領 域	学 校（幼 稚 園） 自 己 評 価			学校（幼稚園）関係者評価（抜粋）
		年 度 目 標	年 度 評 価		
		重点目標	重点目標の達成状況	達成度	
飯塚小	組織運営	○教師の授業力・指導力向上	○特に、若手教員の授業力・指導力が向上しつつある。 ・学校評価「教員は、学習内容が理解できるように授業を行っている」の質問で、98％を達成。 ・1人1回の研究授業並びに代表者による研究授業を実施し、教員の学びを深めた。	A	・児童の考えを、ネームプレートを活用し、大切に取り上げている授業があった。児童の学習意欲を高める工夫が大切だと思った。 ・ ・
	教育課程	○進んで運動する児童90％以上 （前年度82.5％） ○黙働清掃の徹底	○進んで運動する児童は、81％で、目標を達成できず。 ・ラジオ体操・縄跳び・持久走等の運動は、計画的に推進した。 ・川口市水泳記録会、なわとび大会への参加者が少なかった。 ○黙働清掃が組織として定着。 ・ピカピカ名人を2月に表彰。	B	・体力低下や運動嫌いは、コロナ禍での影響はあったのだろうか？たくまさを育てるためには、家庭や地域との連携が不可欠だと思う。 ・黙働清掃が家庭にも広まっているようである。是非、続けてほしい。 ・ ・
	開かれた学校づくり	○学校評価項目で「家庭や地域への積極的な情報提供」98％以上 ○西中との連携強化	○家庭や地域への積極的な情報提供の質問で、98％達成。 ・学級だよりや学校だよりの発行、ホームページの定期更新は計画通りに進んだ。 ○西中との連携については、やや課題が残った。 ・家庭学習の取組は、年間3回の実施にとどまった。	A	・今後も、ホームページや各種だよりで、学校のことを積極的に伝えていただきたい。学校だよりは、月末に発行してほしい。（地域への回覧を1日付けで実施するため） ・5月以降、町会での（子ども祭り・連合運動会など）取り組みを感染に配慮しながら、推進していきたい。学校応援団をもっと活用できないか？ ・
	教職員の資質向上	○学校評価項目で「笑顔とまごころで児童に接する」98％以上 ○時間外在校等時間で、月80時間超えの職員をゼロ（昨年度16.7％）	○教職員は、笑顔とまごころで児童に接した。98％で目標達成。 ・教師の基本姿勢4S（スマイル・スピリット・スピード・スクラム）が浸透してきた。 ○時間外在校時間で、月80時間超えの職員ゼロを達成した。 ・業務改善スタンダードを推進。 ・在校時間に基づく面談を実施。	A	・若い先生方が多いが、どの先生も子どもたちと熱心に取り組んでいる。 ・時間外勤務（土日も含めて）の管理について、今後も継続して取り組んでほしい。 ・ ・
	施設・設備等の管理	○安心・安全を第1とした施設・設備等の管理 ○学校評価項目で「子どもの安全・健康面への配慮」98％以上	○施設設備の瑕疵事故ゼロ達成。 ・教室棟の壁面修繕や照明器具のLED化への対応を計画的に実施。 ○子どもの安心・健康面での配慮は、97％であり、目標達成まであと一歩であった。 ・月に1回の掲示物のリニューアル達成。毎日、大型モニターを活用。	A	・学校で修繕可能なものは、学校で修繕し、状況によっては業者対応として、施設設備の安全管理を継続してほしい。 ・下駄箱は、やや小さい。大きめのくつは、上手く入らない状況である。下駄箱のリニューアルの必要性を感じる。 ・ ・

令和4年度 学校評価のまとめ（学校別）					
学校名	領 域	学 校（幼 稚 園） 自 己 評 価			学校（幼稚園）関係者評価（抜粋）
		年 度 目 標	年 度 評 価		
		重点目標	重点目標の達成状況	達成度	
芝小	組織運営	○職員一人一人の持ち味を生かし経営参画意識を高め、目指す学校像の実現に向け機動的かつ組織的な学校経営を推進する。 （学校評価：参画意識9割）	①校長室だけでなく、本校の研修であるICTの推進や教育情報などを適時、適切に各教員へ資料を提示するなどして、指導を図る。特に来年度は、本年度以上にGIGAスクール構想におけるタブレット端末の活用をさらに推進する。また課題について、すぐできるものは来年度当初より改善を行う等、すぐに改善するもの、中期、長期にかけて行うものときちんと精査し、年間を通じて課題の解決を図るようにする。 ② 来年度もコロナウィルス感染症の対応は何らかの形で必要になると思われる。様々な機関、他校等と連携を図り、常に情報を収集し、適切に対応できるようにする。	B	・授業を参観すると、どの学級も楽しそうに指導されていたことをうれしく思う。 ・本年度も新型コロナウイルス感染症の影響を受けたと思われるが、大きな問題がないことをうれしく思う。 ・授業をみると、児童と教員が楽しそうに学習を進めていることに安心した。 ・学校運営が問題なく進められている状況に安心している。この現状を続けてほしい。
	教育課程	○主体的・対話的で深い学びへの授業転換による授業改善とともに、昨年以上にGIGAスクール構想の実現に向けて、タブレット端末等を活用し、知・徳・体の調和のとれた教育活動の推進を図る。 ○道徳教育の推進と積極的な生徒指導の確立する。 （心のアンケート：学校が楽しい9割） ○芝生の校庭を活かし、運動を楽しみながら、コロナ禍における体力を高める指導の工夫を図る。	○①昨年度以上にICTの活用が進んだ。各学年において児童の実態に応じて、児童が楽しそうにタブレット端末を活用するだけでなく、PowerPoint等を用いて説明するなど、自己の考えを広げる学習活動がさらに進んだ。 ②GIGAスクール構想について、各教員が意識的にタブレット端末を活用した学習がみられるとともに、研究授業等から自己の学級に活用するなどの姿が多く見られた。 ③体力の低下を止められなかった。但し持久走大会等、2年間でできなかったことができるようになっている。今後も体育主任等と連携を図り、どのような状況であっても体力向上が図れるよう体育運営に協力していく。 ④挨拶ができていない現状がある。挨拶できる児童に育てるため、来年度も率先して校長自ら挨拶を仕掛けていく。	B	・学力や体力を維持、さらに向上を図れるよう、先生方の指導に期待する。 ・引き続き本校の学力の向上、体力の向上を目標に活動していただきたい。 ・各授業にて児童が個々でタブレット端末を使って学習していることをうれしく思うとともに、低学年の児童も使っていることに驚きも感じた。 ・今の学習指導を継続して進めてほしい。
	開かれた学校づくり	○「地域・保護者に信頼される学校」をめざし、保護者、地域との連携を一層強化する。 （学校評価：相談しやすい雰囲気8割）	①学校運営協議会では、来年度の本校創立150周年記念事業に向けた取組を話し合うことができた。一方、本校からの情報の提供が少なく、準備の甘さを感じた。早めの対応を心がけ、連携して進められるようにする。 ②PTA活動について、150周年記念事業に向けて、本年度以上に協力体制をつくり、児童の成長の為にともに進めていく。 ③教務主任を中心にホームページの改善が図られ、地域の方や保護者等、好評の意見をいただいている。 ④児童、保護者にとって安心できる学校とすることを考え、学校経営を進めた。相談日等において保護者と話すことができた。	B	・コロナ禍ではあるがこれまでに行われていた行事ができるようになったことをうれしく思う。 ・ホームページによる広報活動をPTAと一緒にできるようになったことはよいと感じる。 ・ホームページの充実により、学校に訪問できない保護者や地域の方々にも、校内の様子がよく伝えられていると思う。 ・地域、保護者等との連携を今後も進めてほしい。

令和4年度 学校評価のまとめ（学校別）

学校名	領 域	学 校（幼 稚 園） 自 己 評 価			学校（幼稚園）関係者評価（抜粋）
		年 度 目 標	年 度 評 価		
		重点目標	重点目標の達成状況	達成度	
	教職員の資 質向上	○GIGAスクール構想の実現に向けた研修を重ね、「何ができるか」を常に考え、指導に活かしていく。 ○これまでの本校の指導をベースに、キャリア段階に応じた指導力向上を図る。また初任者・若手教員が気兼ねなく授業をみる、きくことができる機会を整える。 ○働き方改革の趣旨を踏まえ職員の心身の健康を最優先に考えながら活力ある風通しのよい職場づくりを推進する。 （教職員事故：ゼロ）	①昨年度より、教室訪問や授業参観が減ってしまった現状がある。時間の管理を適切に進め、各教室への訪問を第一の業務と考え進めていく。 ②研修主任を中心に各教員が本年度の研修を基に、成果と課題を明らかにし、研修を進めていた。またGIGA端末を積極的に活用した授業研究が数多く行われていた。 ③教頭、教務主任を中心に学校の働き方改革に向け、児童の教育活動を減らすことなく、様々な取組が図られた。 ④登校時の時間等、校長室のオープン化を図ったことで、教員、児童等から挨拶されることが増えた。 ⑤教頭、教務主任等を中心にワークライフバランスを推進が図られた。また大きな教職員事故なく、安全な芝小が図られた。	B	・これからもそれぞれの先生方がよさを、児童のために活用してください。 <

令和4年度 学校評価のまとめ（学校別）

学校名	領 域	学 校（幼 稚 園） 自 己 評 価			学校（幼稚園）関係者評価（抜粋）
		年 度 目 標	年 度 評 価		
		重点目標	重点目標の達成状況	達成度	
新郷小	組織運営	○自ら考えて行動する中堅教員の育成と働き方改革を意識した組織体制作り・効率的な組織運営を行う。	○①校務分掌主任や学年主任が責任をもって職務にあたることができた。管理職の見届けも引き続き行う。 ②若手教員への指導や声掛けを多く行い、活躍できるよう支援した。	B	・どのクラスも子供たちが授業に集中しているのが大変良い。 ・校長を中心に教職員が子供たちのためにまとまって指導にあたっているように思え良い ・学校に来ると、校長・教頭・教務主任がいつも忙しそうに動いている。経験の浅い教員を思っている行動ではないかと考えている。 ・
	教育課程	○個に応じた学習方法の確立とGIGA端末を活用した授業の実践を行う。	○①TT授業を全学年で実施することができた。 ②GIGA端末を活用し、児童への資料の提示や活用を行った。コドモンを使った家庭への情報提供も適宜行った。	B	・先生方の協力体制を更に進めてほしい。 ・英語やGIGA端末を使った新しい形の教育だけでなく、以前から行われている授業も大切にしてほしい。 ・
	開かれた学校づくり	○学校運営協議会の開催と並行して、学校応援団の活動を活発にしていこうを目指す。	○①②学校だよりや回覧板を活用し学校応援団の募集を随時行った。登録数は数名の増加となった。	B	・地域に対して「開かれた学校づくり」に努めていることがよくわかる。 ・PTA活動について随時募集し、学校応援団の方にも募集等をかけていこう方法も考えられる。 ・
	教職員の資質向上	○授業力・学級力とともに体力向上課題研究指定校として児童の体力向上につながる教職員の資質向上を目指す。	○①管理職や外部指導者により、経験年数に応じた指導助言を行った。若手教職員へは個別の声掛けや指導を行った。 ②倫理確立委員会を、担当者輪番制で11回実施できる見通しである。	A	・学級経営をよりよく進めることで更に資質の向上につながると思う。 ・真剣に授業に取り組んでいる児童の姿を見ることができる。児童が授業に引き込まれているといふことの表れである。 ・
	施設・設備等の管理	○快適な教育環境づくりのための計画的に施設・設備の安全点検を実施する。	○①月1回の安全点検を実施した。 ②給食室の修繕に向け、市教委に連絡し、現状を共有した。 ③体育館の雨漏りやプールのラインシールについて、市教委に連絡し、現状を共有した。	C	・市教委にお願いし、少しでも施設設備がよくなるようにしてほしい。 ・歴史ある学校であるので、施設の老朽化は仕方ないと思う。修繕するために、市教委への要望だけでなく、他の方法もあるのならそちらも考えてみてはどうか。 ・

令和4年度 学校評価のまとめ（学校別）					
学校名	領 域	学 校（幼 稚 園） 自 己 評 価			学校（幼稚園）関係者評価（抜粋）
		年 度 目 標	年 度 評 価		
		重点目標	重点目標の達成状況	達成度	
神根小	組織運営	○教職員一人一人の特性を生かし、まとまりと活力のある学校をつくる。	○協議の内容を精選し、効率化が進んだ。（教職員評価 A 56％ B 35％計 91％） 教職員の相連報、何事も後回しにせず、すぐに行動を起こす意識を醸成できた。（教職員評価 A 52％ B 44％計 96％）	A	・学校のみならず、組織の中間層である人々の育成は大変難しいと思われるが、組織で取り組むことが出来ているようで良かった。 ・少し前から若手の教員が増え、頑張っている様子が見られる。どの職場でも若手の教育が課題となっている。
		□目指す学校像の具現化のため、全職員の共通理解・共通行動体制を確立する。	□共通理解が進み、共通行動体制が整った。	B	・良好なコミュニケーションをもって、組織的にも若手の育成、質の向上を図ってほしい。 ・教職員が協力しながら児童の学習、生活に向き合っている。 ・
	教育課程	○ I C T 端末を授業に積極的に活用し、児童の学力を伸ばす。	○積極的で効果的な活用ができ、教職員、児童に浸透した。（保護者評価 A 58％ B 35％計 93％）	A	・デジタル教科書等の活用で、児童の学習に対する向き合い方に変化が生じ、レベルの高い学習への取り組みがしやすくなっている。 ・ I C T 端末の活用で教育現場が変化し、児童の取組姿勢が変わってきたのが好ましい。
		□児童の良さとやる気を伸ばし、学力向上をめざす。	□基礎基本の定着に着目するのではなく視点を変え、学び合いを進めた。（保護者評価 学校が楽しい A 18％ B 67％計 85％）（教職員評価 A 74％ B 26％計 100％）	B	・「書くこと」の大切さもくさないでほしい。 ・授業で児童同士が互いの顔を見ながら発言できる環境になったことで、児童自身の自信へとつながると期待できる。互いをよく知ることでのいじめなどが無くなることを期待する。 ・基礎基本の重要性は変わらないと思うが、更なる上の学びは、意欲向上の効果があると思う。 ・
	開かれた学校づくり	○学校における教育活動の意図について、様々な機会を通じて情報発信し、保護者、地域との信頼関係を高める。	○ H P はほぼ毎日更新した。閲覧数は 1 日約 280 件。学校メール登録率 100％。（保護者評価 A 43％ B 50％計 93％） ○ P T A、おやじの会、地域等によるクリーン活動を実施した。	A	・ P T A、地域の団体などの活動に協力できたこと、H P を毎日のように更新したことはすごいことだと思う。 ・ 150 周年の歴史は大変に素晴らしい。
		□学校運営協議会において、地域と学校が連携・共同して、信頼される学校を目指す。	□学校の状況および新たな取組等を説明し、出された意見について学校運営に取り入れた。	B	・学校応援団は、微力ながら児童一人一人や先生方の力になりたいと、地道に活動を継続しながら繋げており、これからも継続していきたい。メンバーの確保が大きな課題になっている。 ・ 150 年という歴史の中で、学校関係者及び地域に根付いている基盤を大事にしている。 ・運営協議会は、短時間でもあり、すべてを理解することは難しい。 ・
教職員の資質向上	○ライフステージに応じた教職員の指導力を高め、学び続ける教師集団を育成する。	○「学びの共同体」を教職員の共通理解のもと 9 月より本格的に進めた。グループ学習を中心に児童が聴き合う関係をつくる学習方法は、教師の同僚性を高めている。小中連携による「学びの共同体」を推進できた。（教職員評価 A 52％ B 48％計 100％）	A	・「学びの共同体」の取り組みにより、教職員が児童とともに学び合うことで指導の在り方に変化があると感じた。 ・指導の在り方の変化から、児童と教職員との信頼関係がより深くなり、安心して過ごせる環境になっていることは、大変評価できる。 ・中学校と協同しての取り組みは好ましく思う。小中のギャップをなくす意味でもぜひ進めてほしい。	
	□県内、市内の教職員事故発生の現状に鑑み、服務規律を厳正化する。	□校長室だよりを随時発行し、倫理観、言語環境、保護者対応能力、法令の知識を高めることができた。	B	・教師の不祥事防止問題は、今後とも真摯に取り組んでほしい。 ・教職員の働き方も、心と体にゆとりが持てるよう取り組んでほしい。 ・	
施設・設備等の管理	○校内の計画的な修繕と管理を行う。	○定期的な点検は確実にに行い、危険箇所をを発見したときは、迅速に修繕を行った。	A	・樹木が多く、緑豊かでとてもいい。しかし、樹木は年々背丈が伸びるので定期的な剪定、伐採が必要。高木の枯枝は危険なので点検を要する。	
	□通学路上の安全確保に積極的に取り組む。	□危険が懸念されていた北川口幼稚園南側通学路が R 4 年 11 月 9 日にスクールゾーンとなり、安全確保が進んだ。	A	・車道と歩道の区別がガードレールのみで、通学時間帯、自動車交通量の割には歩道が狭い。通学路の安全確保が必要と感じる。	
	△教職員の危機管理意識を高め、学校事故を未然に防ぐ。	△令和 4 年度埼玉県学校安全努力学校、川口市学校安全優良校を受賞した。	A	・交通整理を町会で行っているが、年々成り手が減少している。 ・コロナ禍での教育現場は苦慮することも多かったことと認識する。各行事等を工夫しながら、また情勢に合わせながら行ったことは大変評価できる。	

令和4年度 学校評価のまとめ（学校別）

学校名	領 域	学 校（幼 稚 園） 自 己 評 価			学校（幼稚園）関係者評価（抜粋）
		年 度 目 標	年 度 評 価		
		重点目標	重点目標の達成状況	達成度	
青木北小	組織運営	○働き方改革を推進し、職員の負担感を軽減させる。 □欠席を長期化させない。	○会議を年間6回実施し、実効性のある業務改善を行うことができた。 □登校をしづり始めた際の対応をていねいに行うことで、欠席を長期化させることを避けられた。	A A	・学校行事の精選について、削減や縮小の保護者への説明が不足していたのではないかな。 ・小中連携をもっと推進してほしい。 ・
		教育課程	○全クラスでGIGA端末を積極的に活用する。	○第1学年も含め、全クラスでミライシードを授業中に活用できるようになった。	A
	開かれた学校づくり	○学校応援団に積極的にかかわっていただく。	○高学年の学習支援と書きぞめ支援にとどまってしまった。	B	・書きぞめ読書会での児童の態度がすばらしかった。これからも応援団として支援したい。 ・地域との交流の場（行事）を多くやれるようになると良い。 ・スクールガードの後継者がいない。
	教職員の資質向上	○教科指導、生徒指導で児童に指導を行う際には、必ずUDの視点が生かされた指導を行う。	○個別の児童に対する支援を保護者とていねいに行うことで、児童に落ち着きが見られ、授業に向かう積極的な姿勢が見られるようになった。	B	・一部の保護者の意見に急に引っ張られるのではなく、社会全体の基準を考えて、学校の指導方針を発信することも大切なのではないかな。 ・ ・
	施設・設備等の管理	○常に整理整頓された部屋や情報フォルダを維持するために進行管理を徹底する。	○長期休業中を活用し、不要な物やデータを処分することができた。	B	・整頓された環境で学習できるように継続してほしい。 ・ ・

令和4年度 学校評価のまとめ（学校別）					
学校名	領 域	学 校（幼 稚 園） 自 己 評 価			学校（幼稚園）関係者評価（抜粋）
		年 度 目 標	年 度 評 価		
		重点目標	重点目標の達成状況	達成度	
領家小	組織運営	○「ONE STEP」をキーワード、児童一人一人のよさを伸ばし、育める魅力ある学校づくりを実現する。	○学校の課題解決に向け、各分掌主任等が計画・実践に進んで取り組み、学校経営参画意識を高めることができた。学校評価：職員「①学校教育目標達成に向けて組織的に取り組んでいる」100%達成、保護者96%であった。年2回にした学校評価は、教育活動の見直しや改善は効果的であった。	B	・少人数の学校でのメリット出目ちつとはあると思いますが、少ないスタッフでの組織運営はご苦労の多いことと思います。 ・新しい先生が領家小の生活に溶け込めるよう努力をしているのが感じられた。 ・経験の浅い先生方を支える体制ができているのは素晴らしいことです。先生間のコミュニケーションにより、よい教育環境が作られていることが受け継がれ、領家小学校らしさが出来上がってくるのだと感じます。 ・教員間のつながりはとても強いと感じています ・組織運営には、全ての職員と共通認識が必要であり、PDCAサイクルは有効と思います。その結果としての達成感を得ることが次へのステップへとつながります。教師の達成感が児童にも伝わり、笑顔の学校づくりにつながっていくものと思います。
	教育課程	○児童の実態に応じた指導体制をとり、学力を向上させる。	○学年の実態に応じて、T Tや少人数指導を効果的に実施した。はなまる教室も定着し、学習への意欲は高まってきた。効果的な活用を模索しながらI C Tを積極的に授業に取り入れた授業を展開できた。年度途中より全校で取り組んだ家庭学習とミライシードの取組は、家庭での学習習慣定着の一助になった。 □児童面談や「トークの日」、カウンセラーによる面談を活用し、児童や保護者に寄り添った対応はできた。 △挨拶については、全校で挨拶運動を実施し、意識を高めることはできたが、継続した形には至らなかった。学校ファームは、全学年で活用することができた。特に支援学級では、効果的に活用できた。	B	・子どもが帰って自分から勉強することは考えにくいですが、上手に子供の気持ちを誘導できるように保護者への連絡指導もいただけると助かります。 ・ICTは、GIGAスクールのキーとなる位置づけになっていますが、基本は国語と思います。TTを活用することは有効であり、この時の教師は、ファシリテーターの役割もあると思います。
		□不登校児童をゼロにする		B	・児童数が少ないのに、不登校の児童がいるのが残念です。
		△心豊かで思いやりのある児童を育成する。		B	・きめ細かくかかわっていらっしゃるにもかかわらず不登校児童がなくなるのには残念です。 ・挨拶に関しては、保護者自身もまともにできているかわかりません。子は親の鏡、自覚のない保護者へも呼びかけが必要なのかもしれません。
	開かれた学校づくり	○学校・家庭・地域のつながりを強化し、開かれた学校・信頼される学校をつくっていく。	○年度途中より導入した連絡アプリを活用して、学校だより等の家庭への配布文書はデータを配信し、確実に迅速に保護者に発信することはできた。 ○昨年度以上に、学校応援団や地域の教育力を教育活動に反映させることができた。 ○はなまる教室へのボランティアの募集は見合わせ、教員による指導とした。	B	・毎月の領家小だよりは学校と地域を繋ぐ大きなツールです。 ・教師と子供が大きく前進する化学変化を起こすとき、地域は変化を促進する触媒の役割を果たせるかが課題を考える。 ・見守りの方々の日々の活動には感謝しております。 ・家庭や地域とのつながりを大事にされ、よく努力されていると思います。 ・連絡アプリを導入し、開かれた学校へ近づけるのはよいと思いますが、学校に訪問する回数も減り、少し寂しくもあります。 ・ ・
	教職員の資質向上	○教職員のよさを伸ばし、やりがいをもって力を発揮できる教職員集団をつくる。 □働き方改革を推し進め、働き甲斐のある職場づくりを実現する。 △経験の浅い教員の指導力を向上させる。	○研究授業やI C T実践発表等で、指導法を共有し、授業に生かすことができた。 □衛生推進者の積極的な働きかけで、年度途中でも職場環境の改善を図ることができた。 △学級経営・学習指導等、管理職や先輩教員が随時指導助言し、着実に力をつけてきている。また、ベテラン教員による授業公開や協議を実施することができた。	B A B	・ベテランの先生故にできること、わかること、見えることを若い先生方に伝え育てていくことは経験の浅い先生方の支えになっていることと思います。 ・各年代におけるモラルアップ・スキルアップを期待します。 ・最近では異動する教職員が多いので、コミュニケーションがしっかりとれるのが心配です。 ・若手教員の指導は、やはりOJTを基本としてPDCAサイクルを実施してはと考えます。
	施設・設備等の管理	○子供の目線に立った危機管理、教育環境づくりを実現する。	○教員間の連携を密による中で、感染症へのきめ細かくに対応することができ、感染拡大を防ぐことができた。施設設備については毎月の定期点検や日常点検から危険個所を把握し、早期改善することができている。旧P C室の床を張り替え、多目的に使用できるようにした。	A	・他の小学校の不具合改善事例等が横展開できる等の機会を作られたらどうでしょう。 ・特に危険個所はないようだが、教室内が整理整頓されていないところがある。 ・施設の使用のについて工夫して有効に活用していこうとする取り組みはよいと思います。 ・ ・

令和4年度 学校評価のまとめ（学校別）

学校名	領 域	学 校（幼 稚 園） 自 己 評 価			学校（幼稚園）関係者評価（抜粋）
		年 度 目 標	年 度 評 価		
		重点目標	重点目標の達成状況	達成度	
舟戸小	組織運営	○学校の核となる若手教員を育成する □「チーム舟戸小」の一員との自覚のもと、教職員一丸となり課題意識をもって職務にあたらせる。	○学年主任のうち2名が30代（それぞれ研修主任、体育主任を兼任）、生徒指導主任は30代の者に命課した。 □校長通信を発行し、学校内外の諸問題を提起し積極的な参画意識を涵養した。	A A	・若い先生方の活躍に期待するとともに、ベテラン教員の指導にも期待している。 ・ ・
	教育課程	○質の高い授業を効果的に実践する。	○定期的に学年会議を行い授業進度を確認しつつ授業の充実に取り組んだ。各授業を観察し指導内容を直接確認した。 ・コロナ禍の学校行事を精査し、児童にとって有意義な取組を充実させた。	A	・コロナ禍の運動会など、学校行事にさまざまな工夫がみられた。 ・ ・
	開かれた学校づくり	○ホームページや学校だよりによる情報発信をつづじて、保護者・地域住民と連携する。	○ホームページの更新頻度を増やしきれなかった。 ○コロナ等の感染防止対策に徹底して取り組むとともに、中央地区の幼稚園や小・中学校と情報交換をこまめに行って、学校経営を改善させた。	B	・コロナ禍の中では充分に実施できなかった地域と連携した取組を、次年度以降は充実させてほしい。 ・ ・
	教職員の資質向上	○教育公務員としての自覚のもと、確かな指導力を備えた、子供や保護者から信頼される教職員を育成する。 □働き方改革を強力に推進する。	○校長通信の発行し、教職員への啓発を行った。授業観察を継続して行い、指導方法の改善に向けた指導助言を行った。 □舟戸学園の連携教育の研究成果を内外に公開することができた。	A A	・今後さらに、働き方改革や指導力の向上に努めてほしい。 ・ ・
	施設・設備等の管理	○きれいな学校、安心・安全な学校づくりを実現させる。	○学校予算を計画的に執行し、「きれい・安心・安全」という視点で迅速に整備・修繕を行うことができた。 校内規定に則って個人情報金銭の管理を徹底することができた。	A A	・危機管理意識を常にもち、大災害への備えや防犯対策等の徹底を望む。 ・ ・

令和4年度 学校評価のまとめ（学校別）					
学校名	領 域	学 校（幼 稚 園） 自 己 評 価			学校（幼稚園）関係者評価（抜粋）
		年 度 目 標	年 度 評 価		
		重点目標	重点目標の達成状況	達成度	
十二月田小	組織運営	○学校教育目標や目指す学校像、重点目標の具現化に向け、共通理解・共通指導を基本とした組織対応により、全教職員の学校運営参画意識の向上を実現する。 □教職員の成功体験を増やし、仕事における自己実現を達成する。	○日々の授業や様々な学校行事を通して、学校教育目標や目指す学校像等の具現化に向け、組織的な対応を積み重ね、教職員の学校運営参画意識を向上させることができた □教職員の誠意ある取り組みは、称賛をし、職業人としての自己実現を図ることができた。	B B	・児童の姿にエネルギーを感じる。児童の活躍が、今後も期待できる。 ・教職員が若くなり、活気がある。教職員の誠実な取組を、管理職が認める雰囲気がある。 ・取組や方針が、具体的に実行されている。継続的な対応を期待する。
	教育課程	「主体的・対話的で深い学び」を視点とした授業改善を推進し、学力を向上させる。 □家庭との連携を密にし、自主学習・家庭学習をより充実させ、主体的に学べる児童を育成する。	○1単位時間の教室訪問を2回実施した。訪問後、授業評価に係るフィードバックを実施し、P D C Aサイクルの確立を実現できた。 □全学級で、自主学習・家庭学習に取り組ませることができた。ノート1冊終了ごとに、到達証を配付した。ミライシードにおいても3万点到達ごとに到達証を配付し、意欲の継続に力を尽くした。	B B	・子育てを中心とした家庭教育が重要。 ・児童が、自主学習や家庭学習に主体的に取り組めるような様々な工夫がなされている。全児童に定着するように進めてほしい。 ・全学級における自主学習、家庭学習の取組は、素晴らしい。家庭との連携を密にするために、アナウンスが必要。
	開かれた学校づくり	○文書やHP、保護者緊急情報メール等を活用し、正確迅速な情報提供により、学校教育への理解から学校・家庭・地域の連携体制を確立する。 □学校運営協議会等、家庭や地域の意見反映により、地域に根差した学校づくりを実現する。	○保護者への連絡事項や近隣の不審者情報等を、保護者緊急情報メールを活用して、積極的に周知することができた。 □学校運営協議会委員の皆様や保護者の学校評価を含めた声は、真摯に受け止め、改善につなげることができた。	A B	・ホームページや保護者緊急情報メールを活用した積極的な情報開示は行われている。学校と家庭、地域が連携した対応ができた。 ・地域と保護者が協力して学校応援団を結成し、協力しながら学校を支援している。保護者緊急情報メールに、学校応援団の登録を積極的に進めるべき。 ・
	教職員の資質向上	○教職員の日々の授業と学校課題研究との有機的連携により、個々の教職員の指導力向上を実現する □教職員1人1人が、使命と誇りをもち、教職員事故を根絶するとともに、心身の健康の保持増進を実現する。	○委嘱研究の1年目を終え、研究推進体制を確立できた。年3回の教室訪問後のフィードバック資料に16項目の評価と具体的な姿、記述評価欄を設け、全教職員に還元できた。 □残念ながら病休者を出してしまったが、体調が戻り復帰できた点は、よかった。	B B	・教職員の長所をほめることを軸とし、足りない部分は補っていく必要がある。しかし、ダメなことはダメという毅然とした対応が大切 ・教職員の心身の健康状態を把握し、相談できる職場環境を整えている。 ・先生方の児童に寄り添う姿勢が要所で気受けられたことで、保護者として安心感が得られた。
	施設・設備等の管理	○日々、定期・臨時的施設・設備の安全点検を確実に実施し、安心・安全な環境を維持継続し、学校の瑕疵による事故を根絶する。 □教育環境の整備・充実のため、計画的・効果的に予算を執行する。	○養護教諭の尽力により、クラスターの発生や誤食によるアレルギー事故ゼロを実現できた。いのち1の日等を設け、自分の命は自分で守る意識を高めることができた。 □修繕必要箇所の早期発見・即時対応、必要な予算執行を実施できた。今年度、瑕疵による事故は発生していない	A A	・予算の不足する際は、力になれる。 ・施設は、老朽化する中で、大切に使っている。 ・養護教諭の尽力により、誤食によるアレルギー事故ゼロ、クラスターゼロは素晴らしい。 ・教職員の日々の点検等で安全・安心な環境の維持ができています。継続させること肝要。

令和4年度 学校評価のまとめ（学校別）					
学校名	領 域	学 校（幼 稚 園） 自 己 評 価			学校（幼稚園）関係者評価（抜粋）
		年 度 目 標	年 度 評 価		
		重点目標	重点目標の達成状況	達成度	
飯仲小学校	組織運営	○言葉を大切に、全教職員で学校の諸課題に対応し、児童の自己肯定感を高める。	○課題を共有し、学年を基本とした対応ができた。さらに学年枠を超え、養護教諭や担任外教諭も関わり解決を図った。励ましや称賛、挨拶などの温かい言葉を通した指導を意識し、児童の自己肯定感は上向きの兆し。	B	・働き方改革も大事であるが、子供が大事 である。子供を中心とした行事等の実施について話をしたい。
		□働き方改革を進め、教職員の時間外在校時間を削減する。	□時間外在校時間は月8 0時間超ゼロ、 4 5時間超は8 %減。健康観察アプリの導入等、可能な業務改善を新たに検討・導入した。	B	
	教育課程	○積極的な生徒指導と誰一人取り残さない学びを進め、授業が分かる・学校が楽しいを実現する。	○課題の未然防止と解決について検討し日常的なＩＣＴの活用を図りながら「みんなで生徒指導」を実践した。ＴＴ， 少人数指導を通した複数教員による見守りと学習支援及び、児童主体の創意工夫ある集会を実施。児童アンケートの結果は「授業が分かる」9 1 %、「学校が楽しい」は8 9 %。	B	・「授業が分かる」9 1 %はよくできているが、分からない9 %の子供たちに対しどのようにしていくか。学習のつまずきは今後に影響する。ここをしっかりと行ってほしい。
	開かれた学校づくり	○保護者・地域の理解と協力を得て、共に歩む7 0年目の飯仲小をつくる。	○学校運営協議会・民生委員との懇談会を実施し、学校・地域の情報を共有すると共に、地域と教職員の関係づくりを進める機会とすることができた。ＰＴＡ， 周年記念実行委員会と連携を図り、児童委員会も関わりながら開校7 0周年に係る諸行事を円滑に実施することができた。保護者・地域の協力に係る評価は9 5 %、学校の情報発信に係る評価は9 7 %達成。	A	・飯仲フェスティバルや7 0周年を通して、教職員との距離が近くなった。教職員個々の特技や個性が見えてよかった。
教職員の資質向上	○全教職員で校内研修、委嘱発表に向けて取り組み、授業力・指導力を磨き合う。	○校内研修の推進と授業実践に生かすことの教職員評価は、肯定的回答が1 0 0 %。研究授業の他、学年・ブロック等で授業を見合い、授業づくりと指導力向上に向けて取り組んだ。	B	・教職員はよく頑張っているが、授業参観では一部しか見えず、よく分からないところがある。教職員の研修の様子（授業）が見られるとよい。	
	□服務と健康を守り、危機管理意識を高くもつ教職員集団となる。	□教職員は、倫理確立研修に真摯に臨み、服務規律を守り事故防止に努めるとともに、互いに助け合うことができた。事故の未然防止と長期病休者ゼロを達成。	A	・	
施設・設備等の管理	○施設設備の瑕疵による事故ゼロと学習環境における保護者・地域評価8 5 %を達成する。	○施設設備の瑕疵による事故はゼロ。学習環境における保護者評価は9 8 %で目標を達成した。事故防止に向けた安全点検と迅速な修繕、学びの環境づくりを進める上での計画的修繕と整備、掲示の更新を行うことができた。	A	・体育館の用具庫に雑然さがある。後片付けがしやすいように、収納場所を明確にして整頓できるようにするとよい、	
				・	
				・	

令和4年度 学校評価のまとめ（学校別）

学校名	領 域	学 校（幼 稚 園） 自 己 評 価			学校（幼稚園）関係者評価（抜粋）
		年 度 目 標	年 度 評 価		
		重点目標	重点目標の達成状況	達成度	
並木小	組織運営	○ボトムアップ型運営の確立により学校力・教師力を向上させる。	○教職員一人一人の学校運営参画意識向上が見られる。部会長や分掌主任がリーダーシップを発揮する場面が多くみられた。	A	・校長の学校経営方針が職員に十分浸透している。 ・ ・
	教育課程	○組織的な学力・体力向上策の推進により、学力・体力を底上げる。	○学力向上体力向上の底上げお進んでいる。年代・経験別の授業改善について順調に進めることができた。コロナ禍で見直した活動について、改めてコロナ後の取組を精査していく。	B	・オンライン授業等丁寧に対応することができた。ますます重要になってくるはずである。さらに研究を進めていただきたい。 日本語指導により一層力を注いでいただきたい。 ・ ・
	開かれた学校づくり	○保護者との情報共有最適化により連携体制を強化する。 P T A・地域・家庭等関係機関との信頼関係を醸成する。	○サマースクールで、新たな人材活用を進める事ができた。のべ40名程度の外部人材を活用することができた。児童にとっても地域とのつながりが強化された。 コドモンの運用も深化が見られた。	B	・情報化社会に対応できるよう、学校も新たな取組を積極的に進めていただきたい。通知や文書のデータ送信化は良い取組である。市全体で取り組めないだろうか ・ ・
	教職員の資質向上	○部会・研修体制の充実を進め教職員個々の指導力と同僚性を向上させる。	○3部会研修体制の深化が見られる。各部会長がリーダーシップを発揮している。今年度は、全体授業研究とグループ授業研究をバランスよく実施する事ができ、負担を考慮しながらスキルアップを進める事ができた。	B	・働き方改革について、地域や保護者の理解が進んでいない。さらなる啓発が必要である。より子供たちのために努力できる教員を育成していただきたい。 ・ ・
	施設・設備等の管理	○大規模工事の安全管理徹底と効果的な修繕計画により教育環境を整備する。	○プール改修の安全管理については滞りなく進める事ができた。施設設備の老朽化対策に係る予算や新型コロナ感染症対策予算に関し、有効活用適正執行を進める事ができた。	A	・学校がよりよいものとなるよう市教育委員会へ今後も働きかけを継続していただきたい。来年度のプール完成が楽しみである上手に活用していただきたい。 ・ ・

令和4年度 学校評価のまとめ（学校別）					
学校名	領 域	学 校（幼 稚 園） 自 己 評 価			学校（幼稚園）関係者評価（抜粋）
		年 度 目 標	年 度 評 価		
		重点目標	重点目標の達成状況	達成度	
安行小	組織運営	○子供のよさを認め、互いに高め合える教育活動を実現する。 ○不登校解消及び未然防止を実現する。	○学習・生活において児童のよさを認める声かけを意識し指導に当たってきたことで、保護者アンケートの項目で5ポイント上昇した。 ○不登校傾向にあたる児童の早期対応、計画的支援体制の整備が不十分であった。	B	・不登校問題は全国的な問題なのだと考える。空き教室の活用などいろいろな工夫をしていると思う。 ・不登校の原因は家庭内なのか、学校内なのかしっかり原因をさがしていくことが大切。社会とのかかわりを少しでももてるように取り組ん でほしい。 ・学校・教職員は一同十分努力されているが、なお一層家庭との連携を密にして家庭教育の支援をはかって貰いたい。
	教育課程	○子供たちの声で学習が進む授業、I C Tを活用した効果的な学習づくりを展開し、個々の学力向上を達成する。	○振り返りまでを含めた授業展開を意識することで、学習に見通しをもって取り組めた。 ○ I C Tを存分に活用し、すべての学年の児童が慣れ親しみ取り組めた。ドリル的なソフトにも多くの時間で活用できた。	B	・学習指導において新しい指導方法を積極的に取り入れ ていると感じる。 ・児童アンケートをみると、高学年のタブレット支持率が 低くなっている。この原因を解明し授業改善を進めてほしい。 ・高学年の児童にとって授業の中で教師との対話の中での 知識を得たいという思いもあるだろうし児童同士の直接の対話を重視していくことも考えられる。 ・児童が各自喜び学んだ基礎学力を高めていければよい。 ・ICTの活用はすばらしいと思います。
	開かれた学校づくり	○開校150周年事業に向け、家庭・地域に信頼され、共に育てる学校づくりを実現する。	○150周年記念事業実行委員会を立ち上げ、令和5年12月の式典等に向け準備が進められた。また、マスコット、横断幕等順調に動いている。 ○学校ホームページの更新を毎日行い、日に1000人の閲覧がある。保護者アンケートでも、94%の満足度を得た。	A	・150周年に向け地域、外部にも積極的に交流している と思う。 ・150年のあゆみは大変素晴らしく、体験したくてもで きないもの。その実感を安行小の歴史を授業等の中に組み 込み、学校全体で祝えるようにしてほしい。また、保護 者地域への協力が得られるよう引き続き努力してほし い。 ・150年に向けての校長、教頭の心意気に同感する。 ・150年という慌ただしい時代の変化、地域発展のために中心的存在としての安行小学校に誇りを感じ、児童庭に地域全体に理解してもらえる努力してほしい。 ・
	教職員の資質向上	○「チーム安行小」として、教職員自身が学び、互いに尊敬し合える教職員集団をつくる。	○新型コロナウイルス感染症7波、8波の中での教育活動であったが、各主任をリーダーに学校行事を推進することができた。 ○歯・口の健康教育大会では市内外より100名の参加者が参集し、成果を上げた。 ○事故防止を常に意識できるよう発信し、意識化をすすめた。	B	・6年生の音楽会を参観し、合唱に変わり合奏であったが素晴らしかった。コロナ対策のなか、教職員自ら工夫し考えている。その指導力にも感謝している。 ・働き方改革は大切だが保護者との関係を損ねてしまっ はいけない。日頃からの保護者対応をより大切にして、信頼関係を確立していくことがつなぐと考える。 ・教員の人格的向上が大切。 ・安行は一つ、みんな仲良く三位（学校・家庭・社会） 一体の教育を充実させたいほしい。
	施設・設備等の管理	○適切な施設管理、適正な会計処理を徹底し、安心、安全な教育な場をつくる。	○余裕教室がなく、準備室が階段下のスペース等になっていたり、トイレのおいなど保護者アンケートでも3割が不満を感じている。施設設備の安全点検を毎日、適時実施する中で、施設設備事故「0」を達成している。	B	・プレハブ校舎は、他校のように、教室・体育館 が一体となったものがよいと感じるが予算の中で、施設利用について工夫してほしい ・どのような環境であれ、工夫一つで楽しい環境 に変えられると思う。先生方と知恵を出し合って前向きに考えていきたい。 ・

令和4年度 学校評価のまとめ（学校別）					
学校名	領 域	学 校（幼 稚 園） 自 己 評 価			学校（幼稚園）関係者評価（抜粋）
		年 度 目 標	年 度 評 価		
		重点目標	重点目標の達成状況	達成度	
原町小	組織運営	○「すべての子供の学びを保障する」という目標を共通認識し、すべての教育活動をその目標実現のために機能させる。	○教職員は「目指す学校像」を常に意識しながら教育活動を進めている。 【教員による学校評価「校長を中心として意欲的に目標を達成しようとしている」90.2%】	B	・組織運営については主任の先生の負担にならぬよう組織的な運営を進めてほしい。 ・会議の時間を短くしていくことは大切である。 ・業務改善を兼ね、会議を開催する代わりに、タブレット上の連絡フォームで意見等を交流することもできるのではないかな。 ・ ・
	教育課程	○「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実し、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を行い、一人残さず子供の学ぶ権利を保障する。	○一人一授業公開を実施し、教員同士が互いに学び合い、「主体的・対話的で深い学び」の実現に迫る省察を行うとともに、教職員一人一人に授業改善のアドバイスをを行った。 【教員による学校評価「主体的・対話的で深い学び（学び合い）の学習を重視している 91.3%】	B	・来年度の持久走大会についての方向性を知りたい。 ・授業公開のフィードバックについては、互いによくない点を批評し合うのではなく、よい面を互いに参考にし合うことが大切である。 ・ ・
	開かれた学校づくり	○「目指す学校像」実現に向けて、学校・保護者・地域の絆を深める。	○地域・保護者ボランティアを募集することで、教育活動への参画を推進することができた。 【教員による学校評価「地域・保護者との共通理解・連携が図られている」90.2%】 【教員による学校評価「地域・保護者ボランティアの人材発掘が進められている」93.5%】 【保護者による学校評価「保護者と力を合わせた学校教育」95.3%】	A	・学校公開では多くの保護者が参観に来ている様子がうかがえる。 ・地域の人を積極的に迎え入れ、行事などでも地域の人材を積極的に生かしている。 ・教職員の異動があっても、地域との連携が深い原町小学校の伝統を維持してほしい。 ・ ・
	教職員の資質向上	○時間外在校等時間、月4 5 時間・年3 6 0 時間超ゼロを目指し「すべての子供の学びを保障する」ことのできる教職員を育成する。	○毎月一回、業務改善会議を実施し、業務改善の手立てを尽くしたことで、昨年度よりも時間外在校時間を減少させることができた。 【時間外在校時間、月 8 0 時間超教職員 0 】 【時間外在校時間一人当たりの月平均 14, 4 時間の減少（昨年度比・8月を除く） 】	A	・業務改善により、教職員の生活や意識はどのように変化したか。 ・原町小学校では教職員が子供たちの意見をよく聞いてくれている。 ・保護者からの苦情が、委員の耳に入っていない。 ・ ・
	施設・設備等の管理	○子供たちが安心して学校生活を送ることのできる居場所となる学校環境をつくる。	○・学校図書館リニューアルにより図書館で読書をする児童が増えた。 ・キャラクターによる潤いのある学校環境づくりができた。 ・来年度の教室増を見越した教室環境の計画的な整備を行った。 【保護者による学校評価「学習する環境が整っている」93.4%】 【施設設備による事故0 】	A	・下校時の交差点でスクールガードが足りず、立っていない箇所があり、安全面が心配である。 ・校内だけではなく、通学路の防犯カメラの設置も必要である。 ・教室が足りないので、1 つの部屋をパテーションなどで 2 つに分けて使用することも考えていかなければならない。 ・学校でのプール指導の在り方、夏休みを含めた学校のプール施設の頻度が知りたい。

令和4年度 学校評価のまとめ（学校別）

学校名	領 域	学 校（幼 稚 園） 自 己 評 価			学校（幼稚園）関係者評価（抜粋）
		年 度 目 標	年 度 評 価		
		重点目標	重点目標の達成状況	達成度	
前川小	組織運営	○オンラインを活用したり、短時間で行ったりして会議のスリム化を意識した会議運営の工夫を引き続き行う。	○会議は原則オンライン開催の継続を行い、少人数会議のみ対面型とした。企画委員会では前年度から変更したもののみの提案を行い、会議時間の減少を行った。 職員が同一歩調で進めるように日々のコミュニケーションも大事にしてきた。	A	・オンラインやハイブリッド型、対面など様々な方策での取組はよかった。
	教育課程	○各教科主任を中心に年間指導計画を見直し、デジタル・シティズンシップ教育をはじめ、児童一人一人が I C T のよき使い手となるための効果的な活用方法を適宜組み込んでいくように計画をする。	○年度初めからコロナでの学級閉鎖を想定し、ICTも積極的に活用していたため、1年生もオンライン授業に対応できた。 デジタルシティズンシップ教育については、十分に組み合わせていないため、来年度に向けて職員研修等も行いながら、授業にも取り入れていく。	B	・欠席の児童や学級閉鎖でオンライン授業対応を行ってもらえているので、保護者は安心していると思う。
	開かれた学校づくり	○学校運営協議会・P T A 執行部との定例会議・地域防犯報告会への参加等で学校と保護者・地域の双方向の情報伝達や情報の交流を積極的に行う。	○今年度も毎日のHPの更新を行った。地域の防犯パトロール報告会（年2回）には管理職、主観教諭、安全主任が参加し、児童の安全な登下校について情報交換が行えた。 ○総合的な学習の時間やキャリア教育の中で地域人材の積極的な活用をすすめることができた。	A	・授業で地域のことに取り組んでもらい、子供たちが地域をよくしようという気持ちにつながっている。昨年度の3年生は今でも公園のゴミ拾いに来てくれていてとてもうれしい。 ・今年度、学校独自の民間との連携をやっていたことは面白い取組だった。協力できることはしていきたい。
	教職員の資質向上	○主幹教諭が計画し、若手研修会（校内ステップアップ研修）を定期的に実施し、講義形式や双方が学び合う場を確保していく。	○校内ステップアップ研修を計画的に実施し、授業デザインシートを活用することで授業力向上を行えた。 ○学校課題研究では「生活科・総合的な学習の時間」の研究を行い、若手教員が積極的に授業を行い、教科としての理解を深めていった。	A	・先生たちがいろいろと工夫しながら授業をしていた様子がわかった。
	施設・設備等の管理	○コロナ禍での地域等と連携した防災計画を立て、避難訓練（ショート）等を実施する。	○今年度は地域の町会と連携した避難所開設訓練を行うことができた。職員の一部も参加できたので、管理下での災害の場合、学校でどのように避難所開設を行ったらよいのかも分かった。 ・避難所開設のマニュアルも職員向けに作成する必要がある。	B	・来年度は避難所開設訓練を行う予定がないが、引き続き、いざという時のために連携をしていきたい。

令和4年度 学校評価のまとめ（学校別）

学校名	領 域	学 校（幼 稚 園） 自 己 評 価			学校（幼稚園）関係者評価（抜粋）
		年 度 目 標	年 度 評 価		
		重点目標	重点目標の達成状況	達成度	
戸塚小	組織運営	○目指す教師像の実現 「常に自らの資質・能力を磨き、子供を本気にさせる教師」	○目指す教師像の実現度 ＜自己評価：関係1項目＞ AB（あてはまる）CD(あてはまらない) A評価:9名 B評価:24名 C評価:1名 D評価:0名 それぞれの教員が目指す教師像を意識した教育活動を行っている。	B	・子供たちが笑顔で学校生活を送っている。学びの場として成立している。 ・教職員同士が学びあい、高めあえる組織づくりを望む。 ・目指す教師像の実現に向けて、若手もベテランも互いにアドバイスしあえる職場づくりを望む。 ・ ・
	教育課程	○戸塚小学校令和の学びの定着	○令和の学び定着度 ＜自己評価：関係3項目＞ AB（あてはまる）CD(あてはまらない) A評価:25% B評価:75% CD評価:0% 一部教科専任制の実施により教員の専門性が高まった。 ICTを活用した授業については教員間の差がなくなってきた。	B	・授業に少しずつ変化がみられる。対話を中心とした授業は子供たちの表情がよい。 ・学級経営や教育活動の工夫が学年でとどまっている気がする。良い手立てについては、学校全体に広まるように望む。 ・ ・
	開かれた学校づくり	○「チーム戸塚小」の組織力向上	○チーム戸塚の組織力向上 ＜保護者アンケート：関係4項目＞ AB（あてはまる）CD(あてはまらない) [A+B]評価の平均:約97% [C+D]評価の平均:約 3% 保護者の積極的な学校運営への参画を示している。	B	・教職員と保護者、地域のコミュニケーションを深めていく必要がある。 ・H Pを有効活用していくためにも、見やすい・わかりやすい・役に立つ情報コンテンツとして改善して欲しい。 ・ ・
	教職員の資質向上	○教職員事故0の学校づくり	○教職員事故はゼロであった。 意図的、計画的な研修の成果もあり今年度も教職員事故はゼロである。 目指す教師像の実現や自己評価シートを意識した教育活動を行うことができた。	B	・教職員事故ゼロは評価できる。今後も続くことを望む。事故を無くすには、教職員同士が話し合える場があり、意思の疎通ができる職場環境づくりが大切である。 ・短い期間で、定期的に研修を行っていることは評価できる。 ・ ・
	施設・設備等の管理	○児童が安心安全に学べる教育環境づくり	○施設・設備を起因とする事故はゼロであった。 ・南校舎1階シャワー室設置 ・渡り廊下耐震補強工事施工 ・渡り廊下工事に伴う転落防止表示及び緩衝用材設置	A	・中長期的な目標で、雨漏りや外壁塗装、トイレの改修に取り組んで欲しい。 ・今後も施設内外の安全点検を複数の目で確実に行って欲しい。 ・ ・

令和4年度 学校評価のまとめ（学校別）					
学校名	領 域	学 校（幼 稚 園） 自 己 評 価			学校（幼稚園）関係者評価（抜粋）
		年 度 目 標	年 度 評 価		
		重点目標	重点目標の達成状況	達成度	
青木中央小	組織運営	○「目指す学校像」の実現に向け、教員一人一人の学校運営参画意識を高めるとともに、健康教育を要とした校務分掌を組織し、教育活動の活性化及び研修の充実による優れた指導技術の継承を図る。	○拡大企画委員会では、中堅・若手教職員の発案によるコロナ禍でも可能な新しいスタイルの60周年記念運動会や音楽会など、様々な行事を企画・実施することができた。 ・「児童支援シート」はICTを活用して共有し、いつでも参照可能にして、教職員により指導に差がでないようにした。	A	・校長の学級経営方針のもと、教職員が一丸となって、共通理解、共通指導にあたっていることがわかる。 ・各種行事、日頃の授業から、コロナ禍においても学びを止めない創意・工夫が随所に表れている。 ・中央小formsを利用した出欠連絡など、コロナ禍での安全安心な取り組みが評価できる。 ○評価は(妥当)である。
	教育課程	○感染症のリスクを最小限に抑える工夫を講じた上で従来のあらゆる教育活動を工夫し、計画・実践することを最重点として、児童一人ひとりのよさを伸ばす、知・徳・体の調和のとれた教育活動を推進する。	○「児童伸ばしシート」を活用し、個に応じた指導を充実させた結果、全国及び埼玉県学力学習状況調査(4～6年)では、県平均を上回ることができた。GIGAスクールで導入されたタブレット端末を中心としたICT環境の活用が学力向上の一翼を担った。 ・体力向上に関しては、授業の中での体力の維持向上を図りつつ、「らんらんタイム」や体育的行事(60周年記念運動会・水泳記録会・なわとび記録会 等)をコロナ禍でも実施できるよう工夫した。	B	・GIGAスクール構想で導入されたタブレット端末の利活用は、予想以上に進んでいる。ネットによるいじめ防止や、情報モラルの指導にも今後力を入れていきたい。 ・知徳体のバランスの取れた児童の育成に、健康教育をはじめ、青木中央小学校が取り組んできた良さを継承しながらさらに尽力してほしい。 ・感染症対策に万全を期しながら校外学習、60周年記念行事等を実施し、児童の学びを確保、学力・体力を向上させたことに感謝する。 ○評価は(妥当)である。
	開かれた学校づくり	○感染症のリスクを最小限に抑える中で、地域人材の活用により、学校と保護者、地域との双方向の関わりを強化することで、相互理解を深め、地域に根ざし、地域の信頼に応える学校づくりを一層推進する。	○コロナ禍でも可能な60周年記念事業(運動会・音楽会・中央小まつり等)を保護者、地域、学校がそれぞれの立場でリーダーシップを発揮し、協働で計画・運営・実施することができた。また、児童の見守り、学校の環境整備等で連携を深めることができた。 ・小中連携では、小中の交流授業や川口市立附属中学校の生徒や教員との交流、情報交換会を今年度新たに実施することができた。	A	・60周年記念運動会や音楽会、授業参観を通して、家庭や地域が学校と協働して子供たちの育成に寄与するよう、これからも可能な限り教育活動を通しての交流ができるように励んでほしい。 ・青木中学校と青木北小学校との3校の連携（小中、小小連携）を継続しながら、新たに附属中学校との連携も深め、様々な取り組みを企画・実践してほしい。 ○評価は(妥当)である。
	教職員の資質向上	○GIGAスクールでのタブレット端末等ICTを効果的に活用し、児童一人ひとりを確実に伸ばす指導の充実を図るため、授業研究の取組を通して、学び合う教員集団の育成を図る。	○タブレット端末等ICT機器を活用した実践的研修を通じて、教職員の指導力・授業力を向上することができた。 ・全教員が一人一授業研究を実践し、全教職員で授業改善に取り組むことができた。また、働き方改革と教職員事故防止を両輪とし、教職員の意識改革と教育公務員としての自覚と責任を醸成した。	B	・若手教職員が増える中、教職員の指導力、授業力の向上は喫緊の課題である。今後もタイムリーな効果的な研修に励んでほしい。 ・教職員の働き方と不祥事がよくニュースで見える。働き方改革の視点からも、時に十分休養させ、全ての教育活動の基盤となる教職員の健康づくりを鋭意進めながら、資質向上に努めてほしい。 ○評価は(妥当)である。
	施設・設備等の管理	○健康安全面を保つ施設の環境整備と有効スペースの効果的な活用及びICTの積極的な活用を推進し、彩りと潤いのある教育環境を構築するために、有効的かつ計画的、重点的な予算執行を行っていく。	○感染症拡大防止を最優先として予算を執行するとともに、ICTの効果的な活用のため、ICT環境を整備した。また、児童の安全確保のため、老朽化している箇所(管理棟・プールサイド等)を計画的に修繕した。 ・学校応援団の協力を得て、四季を感じられるような学校ファームの整備をはじめ、彩りと潤いのある校内外の環境を整備した。	A	・ICT環境の整備は時代のニーズに合ったものである。学力向上を目指すICT活用の市内リーディング校として、教育委員会と連携し、さらなる環境整備に努めてほしい。 ・掲示教育の効果は高い。児童棟の階段スペースの有効活用など、児童の学習意欲の喚起にさらに継続して取り組んでいただきたい。 ○評価は(妥当)である。

令和4年度 学校評価のまとめ（学校別）					
学校名	領 域	学 校（幼 稚 園） 自 己 評 価			学校（幼稚園）関係者評価（抜粋）
		年 度 目 標	年 度 評 価		
		重点目標	重点目標の達成状況	達成度	
元郷南小	組織運営	○各種主任のリーダーシップを発揮させ、学校組織を確立する。	○教頭、主幹教諭、各種主任の指導、相談体制は整いつつある。 確実な報告、相談、連絡が機能的確な指導・助言を実施した。 教職員の声には個人差が大きく、さらなる手立てが必要である。	B	・コロナ禍の新体制として、より良い運営を目指して、現状できる事を模索して前進しているように感じた。 ・風通しの良い組織作りのご継続を宜しくお願いいたします。 ・教職員の声、管理職の声を双方聴く場は大切だと思います。
	教育課程	○知・徳・体の調和のとれた教育活動を推進し、学力を向上させる。	○積極的にG I G A 端末を活用した授業が増えてきた。 本校児童の学力の課題も明らかとなり、課題解決の方策を立て取り組んでいる。 学習アプリの活用も計画的に進んでいる。	A	・端末利用増は子ども達の将来にとっても有益であると思いますので、継続いただき、一方で紙に書くことや本を読むといった大切さも伝えていただきたい。 ・タブレットの使用で子供達のレベルに合った指導が出来ること、先生のご負担が軽減することを願います。 ・コロナ禍を経て、今までの教育課程にとらわれず今だからできる子ども達に合った新しい形を作り出してほしい。
	開かれた学校づくり	○保護者、地域から一層信頼される学校を創る。	○教育活動の動画は、視聴率平均 9 割声と好評を得ている。 コロナ禍であるが、ゲストを招いての授業を実施した。 学校だより等で学校の魅力発信に努めた。 ※保護者評価肯定回答96%	A	・コロナ禍でありながら、地域との関わりが少なく中、適度な連携を保っている。 ・ユーチューブの活用等、配信とても良いと思います。どのような形であれ、子供達の様子が知れるのは親としてありがたいことと思います。 ・Youtube開始等ありましたが、まだ認知度が高くないと思いますので、PTA配信との連携も視野にいれていきたい。
	教職員の資質向上	○各種研修会への参加を奨励し、先進的な取組に触れ、資質・能力を向上させる。 □業務改善と意識改革の両輪で働き方改革を強く進める。	○指導者を招聘しての学期 1 回の研究授業を計画的に実施した。 □時期に応じた実効性ある不祥事防止研修を実施した。 ※不祥事発生「 0 」継続中 教職員の声を生かした業務改善は、計画的に実施できた。	B	・若い先生の熱意や希望も子供達にとっても大事なことと思います。若い感性とベテランの先生方の技を組み合わせると調和ある学びの場となつてほしいですね。 ・業務内容、精神的負担が多いので、第 3 者のカウンセリングが日常的に行える環境が大切であると感じる。 ・
	施設・設備等の管理	○教職員の危機管理意識を高め、保護者と連携した安全点検を実施する。 □予算運用を適正に行うとともに、諸表簿、会計事務の適正な管理を行う。	○定期、日常の点検を確実にし、施設設備の瑕疵による事故「 0 」を実現している。 □教頭・事務主幹を中心に適正で確実な予算執行を実現した。 1 階廊下及び中央階段に子供の作品を掲示できるコーナーを設置した。	A	・10年前と比べ経年劣化がいたるところで見受けられます。 ・校内美術館賛成です！美術室の中や前だけでなく、来訪された方の目に触れられることも大切だと思います。子供達の作品は素晴らしいですから。 ・昨年も校内見回り時に壁等汚れが目立った場所もあり一度清掃を入れるのはいかがでしょうか？

令和4年度 学校評価のまとめ（学校別）

学校名	領 域	学 校（幼 稚 園） 自 己 評 価			学校（幼稚園）関係者評価（抜粋）
		年 度 目 標	年 度 評 価		
		重点目標	重点目標の達成状況	達成度	
芝西小	組織運営	○経験 5 年までの若手の育成と 3 年後核となるミドルリーダーの育成	○学年主任、生徒指導主任、保健主事が企画委員会で発言するなど増え参画意識を高めている。 経験 5 年までの若手教員が積極的に学校運営に参加し、指導力をつけている。また、P D C A サイクルでの運営改善ができた。	B ・ ・	・若手の人材育成については、責任のある業務を担当させ、やり遂げさせることでできることを広げたり、自信をつけさせたりできる。そのためにも業務内容を確実に伝承すること、フォローアップ体制をしっかりとつくるのが大切である。 ・ ・
	教育課程	○学習状況調査において、本校の学力の伸びを県平均の伸びを上回る □新体力テストで A ～ C の児童を県平均（ 7 8 . 4 % ）以上にする	○協働的な学び、個別最適な学びを充実させることで県平均の学力の伸び以上、伸ばすことができた。 □研修の取組として運動好きな児童の育成が図れた。しかし、A ～ C の児童は、7 5 . 3 % にとどまった。	B B	・教育課程では、今まで取り組んできた行事をどのように行っていくかが課題である。児童にとって大切な行事は、何か。どのように行えばよいかを考え、一から計画するつもりで取り組んではどうか。 ・来年度も引き続き、学力向上、体力向上に取り組んでほしい。 ・
	開かれた学校づくり	○定期的な情報発信 ○地域との連携活動の推進 ○学校応援団の活動の充実 □地域の中学校との連携活動の充実	○H P の訪問者数が 4 月から 1 2 月までで 2 1 9 5 0 あり、昨年の 1 . 1 4 倍であった。しかし、まだ、制限があり開かれた教育活動の実施には至っていない。 □夏休みに小谷場中との合同研修が行えた	B B	・スマホやオンラインゲームの使い方や家庭学習の取り組み方など小中学校共通の課題である。児童生徒への指導、保護者への啓発活動など情報を共有しながら健全な児童生徒の育成を図らなければいけない。 ・家庭、地域と協力し合った教育活動を再構築していく必要がある。 ・
	教職員の資質向上	○キャリアに応じた教師の資質向上 ○チームワーク力による、継承と実践力の向上 □自己の時間と健康の管理意識を高めさせる	○個別最適な学び、協働的な学びに焦点をあて、授業訪問を行い指導助言を行った。 □個々の教師力は向上している。連携協働体制が不十分であった。	B B	・教職員の勤務時間外在校時間を減らすためには、保護者、地域の方々の理解を得て、働き方改革を実行していくことが大切である。 ・子供たち相手に効率を求めることは難しいが、メリハリをつけた仕事を推進してほしい。 ・
	施設・設備等の管理	○清掃活動の充実 ○破損箇所等の早期発見 ○素早い修繕処理 ○長期的修繕計画の作成 □学校事故ゼロの実現	○場を清め仕事効率をあげた。安全安心な環境の整備ができた。大規模な修繕計画と実施を教育委員会と行うことが課題である。 □大きな事故無く、学校運営ができたことはよかった。しかし、全教職員が常に危機意識をもって教育活動ができたとは、言えない。	B	・老朽化はいたし方ないのですが、きれいな学校、安全な学校の維持、管理をよろしく願います。 ・ ・

令和4年度 学校評価のまとめ（学校別）

学校名	領 域	学 校（幼 稚 園） 自 己 評 価			学校（幼稚園）関係者評価（抜粋）
		年 度 目 標	年 度 評 価		
		重点目標	重点目標の達成状況	達成度	
芝南小	組織運営	○職員一人一人の持ち味を十二分に生かした学校経営、児童一人一人に寄り添った学校経営を行う。 □不登校児童数・欠席日数3割減 △いじめ解消率100% むし歯治療率60%	○昨年度気になった点は改善し、学校運営はかなりスムーズになった。気になる児童の初期対応が遅れ気味なのが課題。 □不登校7名479日→3名186日（6割減）2名の保護者とは連絡を取り合った。1名はケース会議→関係機関と連携しながら対応中。 △いじめ解消率100% むし歯治療率43.8%→46.8% むし歯未治療児の保護者の説得が課題。	B B B	・学校は不登校・いじめ・心配なクラスのことなども包み隠さず話してくれるので、学校へ子供を送り出す側（保護者）として信頼できる。子供たちも安心して登校できる。 ・先生方が安心して互いにＳＯＳを出せる雰囲気も維持してほしい。 ・支援学級ができて２年、良い表情で過ごせていて良かった。
	教育課程	○教職員の授業力・学級経営力の向上を通して、児童一人一人の学力・体力を向上させる。 □県学テ：国算ともに４・５年は県平均、６年は県平均＋２点を目指す。 △体力テ：Ａ＋Ｂ＋Ｃで７５％以上を目指す。	○管理職による授業参観年４回、算数のＴＴ・習熟度別指導、高学年の教科担任制は効果的だった。 □県学テ：４～６年の国算すべて県平均以上（６年は県平均＋３点以上）タブレットの活用については職員間で差があり、課題となっている。 △体力テ：Ａ＋Ｂ＋Ｃで７１．３％→７４．１％ 取組を継続する。	B B B	・県学テは外国籍で日本語の課題を抱えている児童も平均に入っているのか。解答時間を長くするなどの配慮をお願いしたい。 ・「タブレットの利点は生かしつつ、大切に扱わなかったり、授業中にゲームをしたり動画を見たりという点については引き続き指導していく」という学校の方針に賛成。その方向で進めてほしい。 ・
	開かれた学校づくり	○学校と家庭・地域が一体となって子供を育成する環境を実現する。 □保護者・地域の方の学習ボランティア年間のべ１００名（読み聞かせ・図書整理を除く）	○ＨＰのＵＰ状況に学年の偏りがあり、２学期から毎週火・木に輪番でＵＰすることに。 □学習ボランティア約１６０名。外部講師を招く活動・親路の会の活動が増加。町探検の見守り等復活。運動会・持久走記録会の参観人数制限なし。ＰＴＡは部を廃止、来年度ボランティア制に移行。	B B	・登下校の見守りで子供たちに会えるのが楽しみ。目を見て挨拶してくれる子が増えてきた。 ・ＰＴＡ改革で広報紙をなくすとのこと。良かった。広報部は写真を撮りに来たり、編集したり、写真を載せて駄目な子が写っていないかチェックしたりと負担が大きかったので。 ・
	教職員の資質向上	○職員一人一人の危機管理意識を高め、事故ゼロを維持する。また、「芝南小業務改善スタンダード」を推進し、職員にとって働きやすい環境をつくる。 □職員事故ゼロ △時間外勤務８０時間超の職員ゼロ	○タブレット関連やデジカメ等の管理が甘く、充電器が２つ紛失。児童のタブレットの取扱も課題あり。規律と居心地の良さが同居した職員室になってきたと感じる。 □顛末書提出レベルの事故なし。 △８０時間超のべ２名。業務改善が進み、時間外勤務は減少、市の平均を大幅に下回る。プレミアムフライデー制度導入。	B B B	・時間外勤務が市内の平均より少ないとのこと。良かった。 ・ ・
	施設・設備等の管理	○計画的な修繕の実施と安全な教育環境の維持に努める。また、適切な予算運用と会計事務の実現を図る。 □施設事故ゼロ △校内の不要品ゼロ（３年計画） ・会計事故ゼロ ・未納ゼロ	○不具合箇所の早期発見・早期修繕に努めた。配管・トイレの古さに苦慮。苦情多数。図書室移動と支援学級増設準備に着手。 □施設事故ゼロ。 △諸表簿の管理・予算執行は問題なし。	B B B	・トイレの古さは何とかしていただきたい。 ・ ・

令和4年度 学校評価のまとめ（学校別）

学校名	領 域	学 校（幼 稚 園） 自 己 評 価			学校（幼稚園）関係者評価（抜粋）
		年 度 目 標	年 度 評 価		
		重点目標	重点目標の達成状況	達成度	
神根東小	組織運営	○経営方針に基づいた教育活動のため参画意識をもち、校務分掌組織を充実させる。 □温かい心の通う学級経営	○教員に大小は問わずに一人一改革を奨励し意識させ、学校運営に対する参画意識を高めることができた。 □教職員が丁寧に対応し、温かい学級づくりをしている。課題の発見、解決や個に応じた対応が速やかに行われている。登校渋りの児童への丁寧な対応は引き続き必要である。	A B	・「一人一改革」の取組は素晴らしい。どんなことをすれば良いのか考えて計画し、参画意識を高めている。特に考えることが大切である。 ・成果や反省を確認して、ぜひ一人一改革を続けてほしい。・先生方の達成感に繋がるよう、ボトムアップも取り入れていくと良いのではないかな。
	教育課程	○授業時数の確保と学習内容の確実な定着 □家庭学習を有効活用した確かな学力の定着と向上を図る。 △ I C T（GIGAスクール構想）を活用した学力向上を図る。	○授業時数は確保の見込み。質的管理においてもICT活用や情報共有等工夫し概ね良好であった。 □タブレット端末に関する内容を含む「家庭学習の手引き」を配布した。 △タブレット端末活用を含む「神根東小学習指導スタンダード」の策定と周知を行い、概ね定着できた。	B B A	・校長による教室巡回は、担任は励みになる。ぜひ良いところを見つけてあげてほしい。 ・子どもの能力に合わせて授業の工夫が見られる。 ・「家庭学習の手引き」は保護者の声を反映すると良いのではないかな。簡潔なものを。 ・タブレット使用の約束の徹底をする。
	開かれた学校づくり	○情報発信と評価・改善を確実にに行い、「保護者から信頼され、地域とともに歩む学校づくり」を推進する。	○委員の皆様は学校運営協議会に関する情報を配布し、学校経営に理解を得ることができた。 ○学力向上や避難所開設、新型コロナ対応等については親身にご意見をいただいた。 ○毎週1回の学級通信を発行した。HPも改善しているが、更なる内容検討、更新頻度の向上が必要である。	B	・HPは、担当者が少ないと改善が難しいのが現状ではないかな。他の様々な情報発信方法を検討してみても良いのではないかな。（ルールを決めて） ・コロナ禍が落ち着いてきて、状況が変化してきたら、地域の方ももっと学校に入れるようになると良い。不審者の見極めに気を付けること。
	教職員の資質向上	○学校課題研究の取組をととして、教職員の指導力を向上させる。 □サービスの厳正を図り、教職員事故防止の徹底を行う。	○教員がタブレット端末を活用した授業を積極的に展開した。各教科・領域で活用し、研究授業も年3回実施した。成果や課題が明らかになり、指導力も向上した。 □倫理確立委員会主催の研修会は年間14回実施でき、教育公務員としての自覚を促すことができた。	A A	・教室内の掲示教育の工夫があって良かった。更に増やしていても良い掲示もあるのではないかな。 ・教師による指導で叱り方や注意の仕方が難しい。教員の研修をしたら良いのではないかな。 ・指導した意図を保護者に事前に説明すると、誤解を招かない。
	施設・設備等の管理	○新型コロナウイルス感染拡大防止に係る衛生管理と、安全管理を確実に進める。 □教育効果を高める備品の購入、修理修繕を行う。	○安全点検の実施と毎日の管理職の校内巡回により、要修理箇所の速やかな対応が図れた。 ○新型コロナに対応した衛生管理、指導と教科指導の共通理解・共通指導ができた。 □各教室に二酸化炭素測定器を設置、体育館や特別教室の照明をLED化等し、衛生管理、安全管理に予算を執行した。	A A	・今後、マスク着用等について変わってくると予想されるが、学校側のルールを決め、それを周知して毅然と対応した方が良い。 ・照明のLED化が良い。

令和4年度 学校評価のまとめ（学校別）					
学校名	領 域	学 校（幼 稚 園） 自 己 評 価			学校（幼稚園）関係者評価（抜粋）
		年 度 目 標	年 度 評 価		
		重点目標	重点目標の達成状況	達成度	
朝日東小	組織運営	○人材育成を基盤とした分掌等役割分担の徹底と、意欲喚起による教職員の経営参画意識の醸成に加え、経営方針をP D C Aサイクルに反映させて推進する活力ある学校経営の確立	○他校に先駆けて積極的に学校行事を復活させたことで、教職員一人一人に役割が生まれ、意欲と責任感の醸成に繋がった。しかし、P D C Aサイクルを生かした学校経営については、出来なかったケースもあった	B	○学校行事を利用した経営参画の策は良かった。 ○学校行事は引き続き復活させるべき。 ○様々な教育活動を行うことで、子どもが成長するだけでなく、実は、教員も育つ。 コロナを理由に教育を止めてはいけない。先生方の意識改革を！
	教育課程	○主体的・対話的で深い学びを軸とした授業実践と、GIGA端末の稼働率向上による学力の向上 □積極的な生徒指導の充実と教育相談体制の確立	○研究主任を核とした発表会に向けた取組については、予定通り進んでいる。また、教職員の理解と協力が進み、GIGA端末の稼働率が一年を通して大きく向上した。 □生徒指導や教育相談、就学相談についても、それらの機能が向上した。	A	○GIGA端末の授業が沢山見られた。稼働率の向上と共に、学力も上がってくれるとよい。 ○先生方に安全、危機管理意識の高さが伺えた。 ○本校が続けて取り組んできた研究の成果が見られる研究発表会は楽しみである。 ○特別支援教育、インクルーシブ教育が一步前進できたことは大きな成果。更なる発展を求める。 次年度は学力向上と体力向上に注力を！
	開かれた学校づくり	○「地域・保護者に信頼される学校」を目指し、繋ぎの復活で、保護者・地域との連携の一層の強化 □保幼小中の連携教育の推進	○学校だよりはもとより、様々な手段で本校の教育活動を広く広報した。特に、夏に新設した本校ホームページは、半年で1万を超えるアクセスがあり、改めて関心の高さを実感した。一方、学校応援団の再構築について、まだまだ不十分だった。 □多くの関係諸機関にもご協力いただき、年複数回実施できた。	B	○学校だよりや新しいH Pは毎回楽しみ。 ○授業参観や学校公開ができて良かった。 ○保幼小中と民生委員との連携は大きな成果。 ○教育相談は重要。体制が整って安心した。 学校応援団が心許ない。更なる地域資源の有効活用を！ 地域の方々が自由に出入りできるサロンのような場があるとよい。防犯にもなるし、交流により子どもたちの成長の機会にもなる。
	教職員の資質向上	○教育公務員としての幅を広げ、自覚と力量を高めることで教師力を一層養い、組織としての機動力を向上させるチームワークづくり	○コロナで中止していた活動の復活により、教員一人一人が様々な業務を経験し、力量の向上を図ることができた。一方、若手教員の学級において、経営上の課題が浮き彫りになった。組織での取組の必要性を痛感した一年だった。	B	○子どもたちと共に、教員の特別支援教育への理解が深まった。 ○若手＆コロナで未経験の先生方も、彼なりに頑張っていた。更なる人材育成を！ 働き方改革もよいが、先生方の意欲と情熱を表現できる、働きがいのある職場にして！ ベテランが若手教員を育てる気風が欲しい。 先生には明るく元気に子どもに接してほしい。
	施設・設備等の管理	○「安全・安心」に視点をおいた安全管理の徹底と、継続した修繕、効率的な予算執行	○発見次第、可能な限りの修繕を行ってきた。また、毎日最低一回は校内巡視を行い、施設の状態を確認し、早期発見と迅速な改善に努めた。しかし、直しきれない大規模修繕や素人では判別できない危険箇所もあり、どう安全を担保していくかが今後の課題。	A	○毎日の校内巡視は良い。併せて、その姿を教員に見せ、彼らも目視で安全確認するという、多くの目で見える体制が整った。とても良い効果！ ○「まさかではなく、もしかして」の視点で常に観察し、修繕箇所を発見次第直ちに動く姿勢は見事！ ○近隣にある市立高校や公民館と良好な連携を図り、活用したい。 そろそろ修繕ではなく建て替えを検討すべき。

令和4年度 学校評価のまとめ（学校別）

学校名	領 域	学 校（幼 稚 園） 自 己 評 価			学校（幼稚園）関係者評価（抜粋）
		年 度 目 標	年 度 評 価		
		重点目標	重点目標の達成状況	達成度	
芝富士小	組織運営	○目指す学校像に向かって児童のやる気を育て、教職員の意欲を高め、家庭の教育力を向上させる。	○一人一授業を実施し、主体的な校内研修を実現した。	A	・授業参観をしていると、どのクラスの児童も落ち着いて授業を受けている。
		□児童の可能性を最大限伸ばす効果的指導の組織的展開を実現する。	□「学力向上・体力向上プロジェクト」として九九、漢字の習熟の徹底、ボール投げ、なわとび大会等、記録に挑戦する活動をとおして、児童の可能性を最大限伸ばすことができてきた。	A	・先生と子供との距離感が近くてよいと思う。 ・体力づくりを楽しそうにしているよと思う。
	教育課程	○本校の実態に即した学習計画を模索しながら思考力を育てる授業力を育成する。	○授業訪問により児童の実態把握が詳細に行えたと共に、教職員の授業力向上に結び付ける支援ができた。思考力を育てる授業について教職員の理解が深まった。 □ 3 学期に入り、年間指導計画の見直しと共に効果の検証を行った。	A A	・タブレットを活用している授業もあり、授業を面白く、楽しく感じる学習が素晴らしいと思う。ICTの活用を引き続き進めてほしい。 ・子供と先生のコミュニケーションができていてよいと思う。 ・
		開かれた学校づくり	○地域に根差したよりよい学校の在り方について、学校運営協議会等での活発な意見交流を行う。	○ホームページの更新を適宜行うことができず、学校からの情報発信を十分に実施できなかった。 ○地域の教育力を生かして歴史博士として社会人講師をお招きして本物を味わう授業を実現できた。外国籍の保護者との連携についての課題も残る。	B
	教職員の資質向上	○校内研修を充実させ、教職員が主体的に授業改善に臨めるよう環境を整える。	○ 3 つのプロジェクトチームが主体的に活動し、それぞれの役割を自覚しながら学力、体力、徳力向上に向けての前向きな授業改善等について検討できた。 ○「やりぬく力」を合言葉に、全児童に課題をやり抜かせる授業スタイルが定着してきた。	A	・子供たちが自分たちで教え合ってやってみるのいいやり方で感心した。 ・先生の自己評価が少し低いのが気になる。ストレスを抱えながらだと、子供への影響が気になる。 ・
施設・設備等の管理	○果物の木や学校菜園を充実させ、整理整頓された潤いのある教育環境を整える。 ○地域防災と関連させ、施設・設備の安全確認を行う。 □適正な予算執行とともに、会計事故を 0 とする。	○○学校応援団の協力により、緑化の推進、学校菜園の充実等潤いのある学校づくりができた。 ○学校施設点検は地域との連携が不十分であったところもある。 □適正な予算執行、会計事故 0 とすることができた。	B B	・地域の環境美化、児童の安心安全への対策や安全指導をさらに進めてほしい。 ・ ・	

令和4年度 学校評価のまとめ（学校別）					
学校名	領 域	学 校（幼 稚 園） 自 己 評 価			学校（幼稚園）関係者評価（抜粋）
		年 度 目 標	年 度 評 価		
		重点目標	重点目標の達成状況	達成度	
前川東小	組織運営	○前年度踏襲を脱却し、新しい視点に立った学校運営組織を構築する。	○全職員が各分掌の役割を担い、学校運営に参画した。 ○運営委員会の協議を経て職員会議へ提案する意識が組織に定着した。 ○計画に基づいて衛生委員会を開催し、職員からの声を組織運営に活かすことができた。	B	・職員の入れ替わり、減少、時間制限等で運営が難しいと思うが中堅教員を中心とした役割分担で無理のない計画を立て、できるものから改善していくのがいいと思う。 ・校長の運営方針が徹底していることがよくわかる。 ・適材適所で運営していると思う。
	教育課程	○基礎的、基本的な学習内容の確実な定着により学力の向上を図る。	○年間を通じて、国語、算数の朝学習を行うと共に、導入された学習アプリを朝学習や授業内、さらに長期休業中の課題でも活用して、学力低位層への学習でも支援に役立てた。	B	・学校を働きやすい職場に変えることは、授業の充実に直結する。教員の事務作業の負担を減らすなど、引き続き量的管理を行ってほしい。
		□負担軽減と充実した教育活動のバランスの取れた教育課程を実施する。	□教育課程の量的管理を行い、負担軽減に繋げた。	B	・少人数クラスの取り組み素晴らしいと思う。 ・G I G Aタブレットの活用が学力低位層の底上げにつながることを期待する。同時に、不登校児童にとっての空白解消に役立つことを願う。
	開かれた学校づくり	○適時、適切な情報発信を進めると共に、家庭や地域から信頼される学校づくり。	○学校HP担当者を複数にし、こまめに更新できる体制を整えた。	B	・ホームページの充実は先生方でやるには負担が大きいのではないかと一部、外部の人材を考えてはどうか。
		□コロナ禍をきっかけとした、家庭や地域との連携の在り方の再確認を行う。	□学校運営協議会は計画通り開催し、委員の行事等への参加も少しづつ再開した。 □PTA行事を感染対策を講じながら実施し方法の再考に着手した。 □地域行事へは割振りを明確にし職員の参加を促した。	B	・コロナ禍とはいえ、各種行事をうまく開催していると思う。 ・ホームページのブログが頻繁に更新されていて、学校の様子がよくわかりとても良いと思う。
教職員の資質向上	○教職員の指導力を向上させる。 □教職員一人一人の学校運営参画意識を高める。	○師範授業の実施を全職員に知らせ授業を見合う体制をつくった。 ○道徳及び学級活動の授業研究会を4回実施し、外部指導者からの専門的指導を受けて指導力の向上を図った。 □校務分掌だけでなく学校研究においても各教職員が役割を担い、学校運営への参画に寄与した。	B B	・先生方の自己意識だと思う。 ・若い先生方に先輩の先生方が教えることで指導力の向上が見られると思う。 ・資質向上に向けて幅広い視野から取り組んでいることが伺える。 ・若くても素敵な先生方が多いと感じる。	
施設・設備等の管理	○教職員の危機管理、事故防止意識の高揚と確実な安全点検の実施。 □優先順位を見極めた予算運用と予算執行状況の定期的な確認。	○PTAと協力し新たな視点を踏まえた安全点検を実施した。 □口座引き落とし業務をマニュアル化し、引き落とし業務が円滑に行われるようにした。 □予算執行状況の監査を学期に1回複数の目で実施した。	A A	・幅広い視点から施設設備等の管理、学校生活全般での安心安全に向け引き続き努力してほしい。 ・設備の老朽化対策は予算と連動するので何ともならないが、災害時の拠点となるので、常にチェックが必要。 ・「複数の目」は何事にも必要だと感じた。	

令和4年度 学校評価のまとめ（学校別）

学校名	領 域	学 校（幼 稚 園） 自 己 評 価			学校（幼稚園）関係者評価（抜粋）
		年 度 目 標	年 度 評 価		
		重点目標	重点目標の達成状況	達成度	
柳崎小	組織運営	○新型コロナウイルス感染拡大防止を行い、児童の学びを保障する。 ○教職員の学校参画意識を向上させる。	○児童の健康を第一に考えた行事の計画や実行、授業の在り方を考え感染拡大防止に努めることができた。 ○学校の組織を改善し、教職員一人一人が一役を担うことで組織的に学校運営ができた。	B	・コロナ対策を十分に行いながら教育活動に取り組んでいた。 ・働き方改革の方策も取り入れるとよい。 ・
	教育課程	○ICTを活用した学習指導を実施し、教職員の授業力を高め、学力向上を図る。	○デジタル教科書や学習支援ソフトを活用した授業が展開できた。また教職員研修も予定通り行うことができた。	A	・タブレットの使い方や時間を決めるなど、児童の健康に気を付けて十分に指導してほしい。 ・ ・
	開かれた学校づくり	○中学校区の学校の連携を進め、学力向上に全校で取り組む。 ○学校運営協議会や保護者・地域と連携し、地域とともにある学校づくりに努め	○中学校区での教員同士での情報交換や研修を行うことができた。 ○保護者への連絡を迅速に行って保護者との連携を図ることができた。 ○HPの更新やメールを活用して、学校の様子を配信できた。 □	A	・元プロ野球選手を招聘して、児童に将来の夢についての講演会を開いたのはよかった ・HPも随時更新されていてよい。 ・在家中学校区での小中連携はとてもよい。
	教職員の資質向上	○教職員一人一人のライフステージに応じた研修を積極的に行い、授業力の向上を図る。 ○教職員事故0にする。	○校内研修を充実させ、教職員の指導力の向上を図ることができた。 ○定期的な教職員事故防止研修に加え適宜研修を行うことで教職員事故防止に努めた □	A	・今後も教員の資質向上に努めていただきたい。 ・ ・
	施設・設備等の管理	○安心・安全な学校づくりを最優先し、事故の未然防止を徹底し教育環境を整備する。 ○施設設備事故0にする。	○健康観察アプリを導入することにより、感染予防の一助とすることができた。 ○修繕の予算を有効に活用して施設の安全を図ることができた。 □	A	・児童の安全を第一に考え、施設設備の安全点検や適切な予算の執行がなされていてよい。 ・ ・

令和4年度 学校評価のまとめ（学校別）					
学校名	領 域	学 校（幼 稚 園） 自 己 評 価			学校（幼稚園）関係者評価（抜粋）
		年 度 目 標	年 度 評 価		
		重点目標	重点目標の達成状況	達成度	
芝穂ノ爪小	組織運営	○想像力を働かせ主体的に1＋1が3になる協力体制で学校運営を進めることで、教職員の参画意識を高め、目指す学校像の実現と働き方改革を推進する。	○転入教職員を含め全教職員が共通理解、共通行動をとり教育活動や感染症対策にあたった。 ○各主任の負担過多は軽減できた。専科教員の学年サポート等により協力体制がとれている。 ○業務改善スタンダードを実施し時間外在校等時間はほとんどの教職員が月45時間を下回っている。	A	・人事異動による教職員の大幅な入れ替わりがあったが、ベテラン教職員と転入教職員の確実な連携・コミュニケーション等により円滑な学校運営が推進された。昨年からの取組が継続され、児童にも保護者にも混乱させない形になっていた。次年度の確実な引継ぎをお願いしたい。 ・業務改善スタンダードの実施による月45時間超の状態の改善は大変すばらしいと思う。
	教育課程	○感染防止対策を徹底した上で児童同士が直接関わる活動を実施する。 □学習意欲の向上に重点を置いて学力を向上させる。	○3年ぶりに運動会、音楽会を実施し、児童が達成感を味わい、責任感や協力することの大切さなどを感じることができた。全校児童揃っての講話朝会も実施した。 □人事評価制度とリンクしたことで授業の中で学習意欲向上の手立てが多く見られた。 □タブレット端末の活用頻度は市内平均を上回った。授業での活用場面が広がり学習意欲向上につながった。	A A	・運動会、音楽会等小規模ながら復活し、全校児童揃っての朝会を実施し教育的効果が促進された。今後も対面での効果を活かして欲しい。 ・学校行事に関してはコロナ前と比べても遜色なく実施できた。今後は今年の形がスタンダードになると思うのでより充実させてほしい。 ・学習意欲向上につながり良かった。先生方の日々の努力の成果。来年度も継続して欲しい。 ・学習の遅れがちな児童に加え中位層の児童にも気を配り伸ばす考えは賛成である。 ・教職員の自己評価で児童の様子でA評価が少ないのが気になる。生活面の指導もお願いしたい。
	開かれた学校づくり	○感染防止対策を徹底しつつ学校行事等を公開し、信頼される学校にする。	○3年ぶりに運動会、音楽会を実施することができ、児童が達成感を味わい保護者にも好評だった。 ○学校HPは毎日更新し保護者学校評価で高評価だった。 ○学校応援団の野菜栽培や下校の見守り、自動車企業の出前授業など、効果的な教育活動を実施することができた。 ○学校運営協議会を3回開催し、貴重なご意見をいただき学校運営に生かすことができた。	A	・学校行事が3年ぶりに実施でき児童が達成感を味わうことができた。コロナ禍において大きな学校行事を行うことにより保護者の方から学校への評価も高く期待している様子がみえる。 ・学校HPに授業の写真等を掲載し、家庭や地域に教育活動を発信することによりコロナ禍の保護者の不安を一蹴し高い評価を得ている。まさに「開かれた学校づくり」になっている。 ・様々なバランスを取ることは難しいと思うが、地域住民として協力し一緒に開かれた学校を続けていきたい。地域で応援できる行事があると良いと思う。コロナも緩和され本校の特長である地域の方との交流を行って欲しい。
	教職員の資質向上	○日々の授業を充実させる中で授業力を高め児童の学力を向上させる。 □教職員事故0を継続する。	○授業観察を通して指導助言を行い、学習意欲向上の手立てが見られた。 ○ICTの効果的な活用が校内に広まった。スクールカウンセラーを講師とした研修を行い発達障害に対する理解が深まった。 □教職員事故に対する当事者意識をもち児童一人一人を大切にしたい指導を行っている。	A A	・保護者の学校評価からすばらしい成果を上げていると感じる。特にいじめの問題を見逃さず適切な指導がされているようで良い。 ・いじめを発生させないためにどうするのかや道徳の重要性を共通理解して指導願いたい。 ・ベテラン教職員を手本として転入教職員、若手教職員の更なる意識向上、授業力向上を期待する。 ・教職員のタブレット端末活用のスキルを磨く機会を作って欲しい。 ・小中学校で困り感の児童生徒（発達障害等）の研修で連携が図れたらよいと思う。
	施設・設備等の管理	○感染防止対策に万全を期す。 □外壁塗装工事の学習環境への影響を最小限にする。	○給食、家庭科等での余裕教室等の活用、手指消毒器増設、旧PC室パーテーション設置、階段落下防止柵を設置した。 □外壁塗装工事は進捗状況を教職員、保護者等に周知し、学習への影響を最小限に止めることができた。	A A	・校内が常に清潔に保たれてすばらしい。日頃から細心の注意をもって事故防止に努めているが引き続き全教職員の意識向上を期待する。 ・外壁塗装工事は児童の安全と学習への影響を考え無事に完了して良かった。 ・階段落下防止柵は設置されて良かった。 ・設備の維持補修は児童の学ぶ環境に直接影響する。よりよい環境づくりのためにもトイレ改修等は早く実現することを期待する。トイレ改修は校庭のトイレが優先と感じる。 ・災害時の避難所としての在り方について、町会として更に連携をとり協力していきたい。

令和4年度 学校評価のまとめ（学校別）

学校名	領 域	学 校（幼 稚 園） 自 己 評 価			学校（幼稚園）関係者評価（抜粋）
		年 度 目 標	年 度 評 価		
		重点目標	重点目標の達成状況	達成度	
新郷南小	組織運営	○教職員自己評価において、A評価90%以上を実現する。	①組織の改編により、各分掌での協力・協働ができており、主任の仕事の質を高めることができた。 ②企画委員会のメンバーが、よりよい学校をつくるために主体的に意見を交わすなど、学校運営への参画意識が醸成された。 ③今年度の成果と課題を次年度に反映できるよう、各部でのまとめを3学期中に全教職員で共有する。	B	・校長一人の力では改革は難しいので、教職員全員で取り組んでいくことが大切。引き続き教職員の声を大切にしながら、改革を進めてほしい。 ・教職員の雰囲気の子供との接し方にも関わってくるので、明るい雰囲気の職員室づくりに励んでもらいたい。
	教育課程	○学校評価において、A＋B評価90%以上を実現させる。	①学力保障スクラム事業を活用し、授業体制を整備することができた。特に算数については、習熟度別少人数指導を取り入れ、児童の学力向上・非認知能力の育成に注力することができた。 ②タブレットを活用した授業や家庭学習を積極的に行うことができた。 ③校内研修では「学級力」の向上をテーマとし、全教職員が授業を見合い自身の授業改善に生かすことができた。	A	・子供たちの学習への補助などを保護者の協力を得て行うことができるとよい。保護者としても、子供たちの成長の様子を感じることが喜びにもつながっていく。
	開かれた学校づくり	○学校評価において、A＋B評価100%を実現する。	①学校からのたより、HP、電子連絡帳「コドモン」を通し、学校からの情報発信を積極的に行うことができた。 ②電話や連絡帳を通して、家庭へは常に丁寧に連絡を取り、連携を強化することができた。 ③運動会やリレー大会、PTAの祭り、音楽会、持久走大会など、多くの学校行事が3年ぶりに開催されたり形を変えたりして開催することができた。	A	・コロナ前は、様々な形で保護者が学校に関わることができていて、保護者としても子供たちの様子がわかりいい時間になっていた。今後、少しずつ保護者や地域の方が子供たちと関わることのできる機会を増やしていったほしい。 ・地域と学校がさらに連携を深め、一緒になって様々な行事に取り組んでいきたい。 ・地域に設置した掲示板が活用されている。
	教職員の資質向上	○在校等時間において、前年度比10%以上縮減を実現する。	①負担軽減委員会の働き方改革についての意識が徐々に高まり、積極的に意見が交わされるようになり、様々な施策を実行することができた。 ②2学期から日課表を変更し、会議時間の確保や勤務時間以外の在校等時間を縮減することができた。 ③全教職員の勤務場を把握し、それぞれが抱えている課題について丁寧に聞き取りながら、課題解決を一緒に考えた。	A	・年休の消化率を上げていくことが大切。年休を計画的に取得し、互いの穴をカバーしやすい環境を整備してほしい。常によりよい職場環境を整えようと、前に向かって進んでいくことが大切。
	施設・設備等の管理	①施設修繕の実施を100%行う。 ②教職員からの購入希望を80%以上実現する。	①ほぼ毎日校舎内外を見回り、実際に危険箇所を目で見て確認することができた。また、教頭と情報を共有し迅速に修繕へとつなげることができた。 ②教頭と事務、各教科主任が連携し、学習に必要なものを必要な時に準備することができた。 ③教職員の声を大切にし、優先順位を決めて効果的な予算執行を行うことができた。	B	・学校が避難所としていつでも使用できるよう、外階段の照明や校舎内外の設備についてしっかり管理していて、修繕箇所についてもすぐに修繕に取りかかってくれるので大変助かっている。

令和4年度 学校評価のまとめ（学校別）

学校名	領 域	学 校（幼 稚 園） 自 己 評 価			学校（幼稚園）関係者評価（抜粋）
		年 度 目 標	年 度 評 価		
		重点目標	重点目標の達成状況	達成度	
上青木南小	組織運営	○教職員の力を結集し、新型コロナ感染防止を踏まえた教育活動を組織的に展開していく。 □学校・家庭・関係機関が連携し不登校児童数を減少させる。	○各学校行事等でその時の現状に応じた感染防止対策を実施するとともに工夫した内容で実施した。 □家庭や本人へのアプローチ（家庭訪問、放課後登校の対応等）や外部(SSW)との連携など積極的にを推進した。	A B	・各行事等の感染対策を評価する。学びの保障の努力に感謝する。 ・今後も子供ファーストで。 ・学校家庭地域の連携がより重要。人手も必要である。 ・不登校対策は個別のケースごとに異なるが引き続き尽力してほしい。 ・学校以外での子供の環境も重要である。 ・外部機関との連携も早めに対応を。 ・
	教育課程	○各学校課題の解決のため、創意工夫ある教育課程を展開していく。	○体育授業や行事、さわやかタイム等を通し体力向上を継続した。 ○指導主事を招いた4回の授業研究を中心に各自研究主題を意識した授業を実践した。 ○授業研究等の中で、G I G A 端末を活用した研究を深めた。	A	・各取組を継続してしてほしい。学校方針に協力していく。 ・体力向上のよい取組は継続してほしい。 ・教職員の自己評価で学校の取組は高いものの教師自身や児童に対する評価が低い項目があるのが気になる。 ・GIGA端末について利点・欠点を踏まえて更なる活用を。 ・GIGA端末で優れたアプリのフォームを研究し体力向上につなげるなど幅広い活用を。 ・計算力の低下が気になる。 ・ ・
	開かれた学校づくり	○児童及び教職員の姿を、保護者、地域に積極的に発信し、信頼され、誇れる学校づくりを推進する。	○学校運営協議会は計画的に会議や行事参観等で計6回実施した。 ○学校だより等で積極的発信を行った。 ○50周年関連行事をPTA等と連携し滞りなく実施でき、本校としての大きな財産となった。	A	・コロナ禍の中でも対策を工夫し積極的に披露していた。 ・九九などキーポイントになる学習場面の公開を。 ・学校保護者地域の三者の会合の場を持ち開かれることを望む。 ・今後授業参観等子供たちの成長過程を見る機会が増えることを楽しみにしている。 ・「誇れる学校づくり」の推進は素晴らしい目標なので引き続きお願いしたい。 ・学校応援団の活用を進めてほしい。 ・50周年素晴らしいかった。 ・上南まつりの開催を楽しみにしている。 ・ ・
	教職員の資質向上	○それぞれの経験年数に応じて個々の教職員の力を高める。 □働き方改革の推進及び教育公務員としての誇りと使命感をもった教職員を育成する。	○初任研や2年次、5年次研、生徒指導研修等様々な機会に指導力を高めた。 ○プロジェクト部会等を生かし教職員相互で高め合った。 □ワークライフマネジメントの意識化は図れたが、コロナ禍の影響等によりなかなか働き方改革を推進できなかった。	A B	・教職員の役割を自覚し力を発揮してほしい。 ・教職員の資質向上は非常に大切である。今後も研修会等に参加し資質向上を。 ・教職員の笑顔も増やしてほしい。 ・教員が誇りと使命感を持って仕事に従事することは極めて重要。そのための施策は積極的に行ってほしい。 ・
	施設・設備等の管理	○学校施設の安全管理及び徹底、及びコロナ対策のための行内外の環境整備の充実を図る。 □学校安全及び児童・教職員の感染防止対策・健康維持増進、教育効果を高めるための予算運用を行う。	○管理訪問や夏季休業中など機会を捉え安全管理やコロナ対策のための整備を実施した。 □事故防止、コロナ対策等を意識し、計画的な予算執行等予算運用を適切に実施した。	A A	・コロナ対策を徹底している。 ・学校運営には「安心安全」が大前提。引き続き対応をお願いする。 ・校門等の施錠が徹底されていてよい。 ・教員のチームワークのよさを感じる。 ・50年経過する中事故防止等によく努力している。 ・いつ訪問しても整理整頓された校舎内である。 ・県の「安全優良学校」として表彰され意識が素晴らしい。 ・

令和4年度 学校評価のまとめ（学校別）					
学校名	領 域	学 校（幼 稚 園） 自 己 評 価			学校（幼稚園）関係者評価（抜粋）
		年 度 目 標		年 度 評 価	
		重点目標	重点目標の達成状況	達成度	
根岸小	組織運営	○明確な目標設定と共通理解を図り、共通行動、協働体制を強化する。	○部会の開催日を明確に位置づけ、分掌の組織的運営を行った。共通理解・共通行動に課題が残った。	B	・コロナ規制解除後には3年間の経験のないことが始まり、いろいろな課題が出現すると思う。働き方改革が進む中、課題解決のための先生方のコミュニケーションの時間が大切になると思う。 ・人員不足の中、業務・指導等対価と思うが、そんな中でも円滑に進められるとよいと思う。
		□各学年主任、分掌主任との連絡・相談・確認を丁寧に言い学校運営の参画意識を高め、職員会議等の工夫・改善により、効率的な会議の運営を行っていく。	□学年会や各部会の機能を活かした企画・立案・検討が行えた。会議資料の事前提案がされ、職員会議の効率化が図れた。	B	
	教育課程	○学習意欲を高め、知・徳・体をバランスよくはぐむ教育課程を工夫・改善する。	○「学び合い」「聴き合い」を取り入れた授業の実践により、児童の主体的な学習態度が高まった。	B	・コロナ後の学校生活で、子供達もいろいろと経験のないことでストレスを抱えると思う。心のケアの教育をしっかりと行ってほしい。 ・コロナ禍で教員も子供も制限がある中、よく学んでいると思う。
開かれた学校づくり	□ねらいと評価を明確にした授業の工夫・改善を行う。	□授業研究会や一人一授業等を通して授業のねらいや方向性が明確になり、日々の授業につながった。	B		
	△落ち着いた学習環境を整えるため、教員の学級経営力・生徒指導力を向上させる。	△児童理解と温かな人間関係の醸成により、児童が落ちついて学習する環境が整備された。	B		
教職員の資質向上	開かれた学校づくり	○家庭・地域との連携を深め、日常の学習や行事等において家庭・地域の教育力を指導計画に位置付け、学校教育活動に一層生かしていく。	○外部指導者の招聘や想根会と連携した環境学習・整備、読み聞かせ、スクールガードによる安全見守り等、学校応援団を活用した学習を展開できた。	A	・学校の立地・より豊かな自然を生かしての学校の取り組みが進み、嬉しく思う。 ・一方で、不審者出没や交通事故発生リスクも高まっている。地域（町会等）防犯、事故防止に向けて連携強化がしてほしいと思う。 ・私達もコロナで学校へ行くことが少なくなっていて寂しい気がする。学校応援団の参加も増えると思う。
		□学校のよさや取組等を学校ホームページ等を活用し効果的に発信するとともに、家庭・地域の声を教育活動に生かす。	□学校公開等の工夫により、保護者が児童の教育活動を参観する機会を増やし、学校理解を深めた。さらに、PTAふれあいまつりへの協力、町会行事等への協力により、地域の学校としての連携を深められた。	A	
施設・設備等の管理	教職員の資質向上	○人事評価制度を有効活用し、それぞれの能力や適性に応じた指導助言を行いながら、授業力及び人間味あふれる教職員を育成する。	○学びの共同体の実践を通して授業改革が進み、児童の思考力や表現力を高める授業が多く見られるようになった。一人一人の授業力向上につながっている。	B	・若い先生方と地域役員（町会長や民生委員、保護司、人権擁護委員等）との交流の場を設けてコミュニケーションをとり、地域のことを知ってもらおうと今後の経験の役に立つと思う。 ・教員の負担はまだ多いようだが、少しでも改善できるよう、私達関係者からの力を借りてもよいのではないかなと思う。
		□教職員の倫理意識の維持とより一層の高揚を図り、根岸小における「教職員事故ゼロ」を継続する。	□不祥事防止プログラムを活用した倫理確立委員会を定期的に行った。担当を輪番として全員が事故防止について提案する機会を設けることで、教職員事故を一人一人が考える機会を設けた。事故防止に対する意識は高まっている。	B	
施設・設備等の管理	開かれた学校づくり	○複数の目での確認・見届け体制により、事故防止を周知徹底させる。	○毎月の安全点検を確実にし、修繕必要箇所の即時対応に努めた。傘立ての購入により、児童の雨天時の利便性と昇降口の混雑緩和が図られた。	A	・ビオトープ、今後の学校ファーム拡大に向けて、北校舎裏とブランコ跡地に水道施設(蛇口)を設置してほしい。 ・学校全体が古いので、日々教員や子供達が安心・安全に過ごせるように、整備をお願いしたい。 ・3階の体育施設及びホールに防風のための引戸がなく、風の強い日は子供達も寒いと思う。板を立てかけるだけでも急場は大丈夫ではないか。
		□管理職による定期的な点検、優先順位を考慮した修繕対応を適切に実施する。	□計画的に予算運用が行え、施設・設備の改善が図れた。	A	
		△設備・備品の整理・管理の徹底と有効活用へ向けた工夫・改善を行う。	△豊かな自然環境を活かした学習や、花育活動等学校応援団等と連携した環境整備を行った。委員会活動等で児童が環境に関わる活動を行い、児童の環境に対する意識を高めることができた。	B	

令和4年度 学校評価のまとめ（学校別）					
学校名	領 域	学 校（幼 稚 園） 自 己 評 価			学校（幼稚園）関係者評価（抜粋）
		年 度 目 標	年 度 評 価		
		重点目標	重点目標の達成状況	達成度	
芝中央小	組織運営	○学年によって指導に差が生じないように、共通理解・共通行動を取る。	○学校全体に関わることは、学年によって指導に差が生じないように努めた。しかし、徹底できないこともあった。	B	・地域やＳＲＣなどが関わる事案に対し、全ての教職員間での理解、認識の共有に努めてほしいと感じます。
		□一人ひとりの教職員が前向きになるような雰囲気醸成する。	□教職員は前向きに取り組んでいた。児童や保護者との対応では、丁寧に寄り添い、誠実に遂行していた。	A	・児童、保護者に寄り添う姿勢はものすごく大変なことです。先生方の日常的な創意、努力に感謝しています。
	教育課程	○本校の喫緊の課題である「学力向上」の取組を強化する。	○朝の活動を効果的に活用して国語は言語事項、算数は数と計算に重点を置き、チームティーチングや少人数指導を行い、成果が表れてきた。	A	・学力が向上していることが分かります。今後も先生方同士、信頼を築き、自信をもって子供たちの成功体験を積み上げていってほしいです。
		□「わかった」「できた」「使えた」と児童が実感する体験（成功体験）を積み重ねる	□見通しと振り返りを大切にした授業を展開し、児童の成功体験を積み上げてきた。	B	・来年度から始まる学力保障スクラム事業を効果的に活用して、更なる学力向上に努めてほしいです。 ・少しずつ体験活動を充実させていって欲しいです。
	開かれた学校づくり	○学校の教育活動に対する理解を得る取組を強化する。	○学校公開等が中止になることが多かったが、コロナ禍での授業参観、運動会、音楽会、５０周年記念式典を実施し、教育活動の成果を見ていただいた。	B	・コロナ禍の中、出来る限り学校行事等を行おうという姿勢にはとても感謝し、改めて子供たちの成長には行事は大切だと感じました。
	□保護者や地域の方々の考えを学校の教育活動に生かす。	□２学期までに懇談会、学校運営協議会は、予定通り開催することが出来た。	B	・開かれた学校の基準はどんなものか、具体的に示していただけるとわかりやすいと思います。 ・学校応援団の活用を積極的にお願いします。	
	教職員の資質向上	○教職員の使命を自覚し、教師力の向上を図る。	○経験年数に応じて、教職員は自己の使命を自覚し、授業力を磨き合い、教師力の向上に努めた。	B	・ＩＣＴの導入、オンライン授業などありがとうございます。現在変化し続ける状況の中でも、いつでも教育を受けることができる環境を整えていただき感謝しております。これからも新たな取組が続いて大変だと思いますが、どうぞよろしくお願いいたします。
		□コロナ禍における主体的・対話的で深い学びとなる指導法を探究する。	□新しい生活様式に基づいた環境で、ＩＣＴを活用しながら主体的・対話的な学びを実践した。	B	・ ・
	施設・設備等の管理	○修理・修繕箇所や危険箇所の有無に対する危機管理意識を高める。	○転落防止のネットを階段の最上階に設置して、児童の安全確保に努めることができた。	A	・予算等の制限の中で、精一杯努力されていることを感じます。ＳＲＣとしてできることは、お手伝いしたいと考えます。遠慮なく相談していただけたらと思います。
		□新型コロナウイルス感染症などを踏まえた衛生環境を整える。	□パーティションの修繕や清掃、トイレの自動水栓など、可能な範囲で感染症対策に取り組んだ。	A	・トイレ清掃を学校応援団や児童と共に行えと、環境面に配慮できるのではないかと思います。 ・

令和4年度 学校評価のまとめ（学校別）					
学校名	領 域	学 校（幼 稚 園） 自 己 評 価			学校（幼稚園）関係者評価（抜粋）
		年 度 目 標	年 度 評 価		
		重点目標	重点目標の達成状況	達成度	
新郷東小	組織運営	○職員一人一人の持ち味を活かし経営参画意識を高め、機動的かつ組織的な学校経営を推進する。 ＜3大プロジェクト＞ ①記念式典 ②「太白」の植樹 ③夢をはぐくむ本物体験	①②事前に職員の願いや想いを聞き取り具体的戦略を共通理解した上で経営方針を提示し経営参画意識は一層高まった。 ③保護者・地域の惜しみない協力のおかげで周年行事を実施できた。また、カリキュラムマネジメントで児童の育成につながった。 ④学級閉鎖ゼロを継続。1事業3案の事前準備をしてすべての行事を実施。PTAの協力を得た。今後も感染防止の理解を得ていく。	A	・校長の想いが全職員に浸透していることを実感する。 ・開校50周年記念事業は、職員や児童の意識の高さを感じられ、職員一人一人の生き生きと行動する姿が頼もしい。適材適所のポジショニングで活躍していた。 ・職員の経営参画意識、やりがい向上、租yクインの負担軽減に努め、めざす学校像実現に向けて全職員が想いを共有し風通しのよい組織運営がさらに常態化されることを期待する。 ・一つの事業をやらないという選択ではなく、実施を前提に3案の事前準備をして子供たちのために行事をなくさないという気持ちに感謝しかない。
	教育課程	○知・徳・体の調和のとれた教育活動を推進する。	①②PDCAサイクルで学級をよりよくしていこうとする意識は高まった。 ③家庭学習は大半の児童が取り組める。個別に家庭の協力を根気強く要請する。 ④⑤自己を振り返るスマイルノートの蓄積は児童の心の成長とつながっている。 ⑥コロナ禍で体力数値84.6%。外遊びの推奨。肥満児童の各家庭への啓発継続。 ⑦英語での活用は全国レベル。方略シートと連携し個別指導を継続する。	B	・低学年の児童がタブレットを使いこなし学びの環境が広がっている素晴らしい環境だと思う。 ・児童アンケートから「自ら進んで」「主体的な行動」は浸透してきている。 ・児童一人一人にきめ細やかな指導が行き届いていることを児童の姿や廊下掲示から感じる。 ・太白の植樹や吉田沙保里さん招聘など学ぶ姿が見られた。運動会や持久走大会でも最後までやり切る姿勢がよかった。 ・学力等の個人差は致し方ない部分もあるが、格差が広がらないような配慮をお願いしたい。
	開かれた学校づくり	○地域・保護者と共にある学校づくりをめざし、保護者・地域との連携を強化する。	①学校応援団の協力はもとより吉田沙保里さん、工藤慎太郎さん、文化庁はじめ多くの協力を得、学びの場を設定。 ②コドモンの本格導入、HP活用と情報発信（伝えている評価94.0%） ③エンペイはじめ大きな事業導入について協力を得た。 ④年間10回程度だが大切にしていく。 ⑤専門機関との連携は相当数増加（相談しやすい評価96.4%）	A	・保護者アンケートに見る学校運営や相談体制が高評価なのは、日々の取り組みの賜物です。 ・周年事業も含め様々な行事で学校応援団や地域、。保護者の来校機会も増え、連携・信頼感が一層醸成された。そして、より一層開かれた学校づくりを実現している。 ・コドモン導入やエンペイ導入と非常に利便性が高いものをいち早く導入していることを評価する。 ・お囃子クラブの導入は素晴らしい。クラブ活動の日数が少なく感じる ・行事だけではなく地域の人からの協力は強固なものになってきている。

令和4年度 学校評価のまとめ（学校別）

学校名	領 域	学 校（幼 稚 園） 自 己 評 価			学校（幼稚園）関係者評価（抜粋）
		年 度 目 標	年 度 評 価		
		重点目標	重点目標の達成状況	達成度	
	教職員の資 質向上	○学び合う機会を大切にし、キャリア段階に応じた指導力を向上させる。 ○働き方改革の趣旨を活かした業務の在り方を意識し心身の健康を考えながら風通しのよい職場づくりを推進する。	①②岡山大学の中山教授、元文部科学省永田調査官から計5回指導。他校も参加。非認知能力育成に係る取り組みは、日々の実践に活かしており成果がある。 ①②TODOリストの作成時間管理の意識が進んだ。教職員事故防止に係る当事者意識が高まった。緊急時の対応は、率先垂範して行動できる職員が増えた。働き方改革は、他市や他県のようにより抜本的な改革が必要である。	B	・先生方がどれだけ多くのことを学んでいるかと思うと感銘を受ける。学校全体の雰囲気は更に向上している。先生方の授業に対する創意工夫を見て取ることができる。 ・多岐にわたる業務や多様化する時代、家庭への対応等苦労も多いが教職員の心身の充実は重要であるため働き方改革の更なる推進に期待する。 ・教員の仕事は大変ではなく魅力的である者にするために業務負担を少なくして計画的な事務処理を考えていかなければならない。先生方の心のケア、相談室は必要である。 ・働き方改革でもっと教育委員会がビジョンを高く持ち主導して改革を力強く推し進めていくことが必要である。
	施設・設備等 の管理	○「安全・安心」に視点をおいた安全管理の徹底をする。	①④植込みのリニューアル、遊具やトイレの改修工事、インターフンの設置が完了。配膳室インターフォン及び冷房設備について継続的に相談。雨漏りはその都度対応。 ②予告なしの避難訓練実施。スマイルノートにその都度自己評価して、成長を自覚できるようにした。また、安全カードを活用し、放送で周知する取組開始。 ③安全点検の着実な実施を継続する。	A	・防犯・防災意識を育む指導は自己防衛につながるため保護者にも理解を得ていく。最近多発している爆弾予告にも先生方是对応に苦慮されていることと思う。 ・子ども 1 1 0 番の家なども活用して、地域で守る取り組みをさらに進めていく。 ・体育館の冷暖房、電球のLED化等市教委に要望する。 ・新郷東小安全の日の防犯ブザーの確認や不審者対応の話は、自分の身は自分で守る意識を高め、実際に行動できるまでになってきている。家庭での指導も大切。 ・災害時の避難所の役割がある学校だからこそ、バリアフリー化、多目的トイレの設置が早く整備されるよう教育委員会に要望する。

令和4年度 学校評価のまとめ（学校別）					
学校名	領 域	学 校（幼 稚 園） 自 己 評 価			学校（幼稚園）関係者評価（抜粋）
		年 度 目 標	年 度 評 価		
		重点目標	重点目標の達成状況	達成度	
朝日西小	組織運営	○校長・教頭・主幹教諭・主任を中心とした組織的・機動的な教職員体制の構築	○職員集会や校長室だよりを通して指示、伝達を職員に周知するとともに共通理解を図ることができた。分掌主任を中心とした組織的な協働体制は構築しつつある。（教職員評価：組織運営に関する項目A+B98%）	A	・あらゆる場面において指示や伝達が行われている様子が見られた。日頃からそれぞれが意見を述べられる場を設けるとともに、それが機能しているからこそ職員間の信頼関係が構築されており、スムーズな学校運営につながっているように感じる。・PDCAサイクルを徹底することによって不測の事態にも対応できる。・校長が全児童を把握した上で教員にも指導していて、教員も前向きに受け止め、一体感を感じられた。・教職員の縦の連携、取組ができていてよい。様々なことの共有は、子供たちが学校生活を送る上でプラスなので引き続き行ってほしい。
		□全教職員の学校運営参画意識の醸成	□ふりカエル会議で職員の意見を集約し、都度業務改善を図っている。（年3回実施）	B	・
	教育課程	○状況に応じた教育計画の精選・修正	○コロナ禍での実践を活かした教育効果を上げる学校行事と教育計画を実施。	B	・GIGA端末の活用がさらに活発になり、児童職員共に違和感なく取り入れられている。よい活用法を互いに学び合い、さらなるスキルアップに努めていただきたい。
		□児童の発達段階や実態を考慮した適切な教育課程の編成・実施と評価・改善	□GIGA端末の活用について教職員研修を重ね、利用頻度を高めて活用の幅を広げた。	A	・教員も技術を学ばなければならず大変だが、積極的にできていて素晴らしい。欠席児童へのタブレット授業での活用など評価できる。・ネット通信が不安定な時の代替案等が用意されるとよい。
		△児童の学力向上	△学習形態の工夫や補習教室を通して個別指導を充実させた。基礎基本の徹底を図ることで児童の学力向上につながった。（県学力調査の伸び：県平均以上）	B	・学校行事の内容をコロナ禍での経験を踏まえてその時にあった開催方法を模索していただければと思う。 ・基礎基本を徹底することは大事。壁にぶつかったときに基礎ができていと回避することができる。
	開かれた学校づくり	○学校の教育活動の積極的な情報発信	○児童の様子が伝わるように学校行事やHP等で発信した。（保護者評価：情報発信 A+B 95%）	A	・ホームページの更新が頻繁に行われており、保護者や外部の人にもわかりやすくタイムリーに伝えている。
		□学校・家庭・地域の連携した取組	□学校応援ボランティア登録者はわずかながら増加した。教職員のPTA活動・地域活動への積極的な参加については、感染症の状況から難しい面があった。	B	・学校応援ボランティアの人材発掘をもっと行ってはどうか。人材確保は容易ではないが小規模校の特性を活かし、町会や学校運営にかかわる地域住民を遠慮なく活用してほしい。・タブレット授業が確立しているので、時々特別な授業をオンライン配信してみてもどうか。 ・今後地域の活動も増えていくと思うので、連携を深めてもらいたい。
	教職員の資質向上	○校内研修の課題を精選し、実践的な研修を実施	○管理職授業訪問において一人一授業を実施。また学力向上につながる有効な授業実践を共有することで教職員の指導力向上につながった。	B	・管理職による日常的な教室訪問が行われており、学校全体での職員・児童の把握に継続的に努めている。学級経営・生徒指導はもちろんのこと、保護者対応の難しさに疲弊する職員は少ないと思う。共通理解・共通行動が日常的に行われるように願う。
		□学級経営や生徒指導、保護者対応などの職員研修を実施	□日常の管理職による教室訪問等を通して学習指導や生徒指導の様子を把握し、適時助言した。	B	・全職員での共通理解と温かさを感じる。 ・先生方の指導はきめ細かいので、ぜひこのままお願いしたい。
	施設・設備等の管理	○計画的・日常的な安全点検の実施と即時対応、計画的な修繕計画の立案【学校事故0】	○学校事故0を達成。日常の点検に加え、外部による学校設備点検を実施することで安全性を高めることができた。	A	・限られた予算の中で修繕はよくされている。・日常の点検の中で優先順位を付けた修繕を行ってほしい。
		□危機管理マニュアルの修正と教職員への周知徹底	□危機管理マニュアルでは、状況に応じた感染症対応の修正をした。GIGA端末利用における情報セキュリティについての研修を実施した。	A	・施設老朽化は避けられないが、常にトリアージの判定を行い児童が安心安全に生活できる空間であるように願う。・老朽化に対し、PTAでも可能な限り協力していきたい。 ・下校時下校後の安全の意識を定期的に行い自転車等の安全も守れたらと思う。 ・口座振替など先生方の仕事が減ることはどんどん取り入れてほしい。職員の業務削減、安全管理にもつながるので様々な場面で簡素化が進むことが望ましい。

令和4年度 学校評価のまとめ（学校別）

学校名	領 域	学 校（幼 稚 園） 自 己 評 価			学校（幼稚園）関係者評価（抜粋）
		年 度 目 標	年 度 評 価		
		重点目標	重点目標の達成状況	達成度	
慈林小	組織運営	○働き方改革を踏まえ、限られた時間の中で成果に繋げる効率的な学校経営に取り組み、目指す学校像を実現する。	○「慈林小業務改善スタンダード」の8つの柱をもとに、限られた時間の中で成果をあげる働き方が広がってきた。週単位、月単位でのワーク・ライフ・バランスをとるよう意識改革を進めた。 ※12月末現在の時間外勤務平均時間：37.9時間	A	・先生方の休憩時間は確保できているか。 ・全国健康づくり推進学校表彰事業の優秀校受賞は、児童の学力向上や学校生活の充実等全般に関わる。慈林小が市のリーディング校として発展することを期待する。 ・
	教育課程	○令和の日本型学校教育（個別最適な学び・協働的な学び）の実現を目指し、指導計画及び指導体制、評価方法の工夫を図り、学力向上に資する具体的な取組を推進する。	○年度当初の計画通り、高学年の教科担任制や4年生以上の毎時間の算数少人数指導を実施することができ、児童の意欲向上と学習内容の定着に繋がった。ICTを活動した授業づくりも進んでいる。	B	・ポストコロナ時代の学校教育の実際について、委員への情報提供があると有難い。 ・ ・
	開かれた学校づくり	○学校運営協議会の活性化及び学校応援団の充実を図り、保護者・地域との協働による開かれた学校づくりを推し進める。	○学校応援団の活動が軌道に乗り、特に児童の学習支援や安全見守りが教育活動の充実に繋がっている。 ・学校ホームページを活用したP T A広報ブログを立ち上げ、運用を開始した。	A	・令和5年度からのP T A活動の見直しは、時代の変化に合わせたものでよいと思う。 ・コロナ禍が見直しの契機となった。 ・P T A会費を徴収する以上は、予算執行を管理する組織（本部）は必要だろう。 ・今後は、地域とのパイプを持ちながらコミュニティスクールを充実させてほしい。
	教職員の資質向上	○「チーム慈林小」を合言葉に、組織の一員としての意識を向上させるとともに、教育公務員としての資質向上も図り、教職員事故ゼロを実現する。	○何でも相談し合える風通しのよい職場づくりを全教職員の協力で行き、一体感のある「チーム慈林小」を継続できた。 ・「令和4年度全国健康づくり推進学校事業」での優秀校の受賞は、慈林小のよい取組を今後も継続していく意欲付けとなった。	B	・初任者の複数配置は、学校力を見込んでのこと。若手教員を育ててほしい。 ・ ・
	施設・設備等の管理	○施設設備の安全管理に万全を期す。	○施設設備の管理については、日常的・定期的な点検を通して、早期の修繕に対応した。 ・感染が拡大している時期は、学級閉鎖の対応があった。感染防止対策を日常的に行い、安心・安全な学校づくりを行った。	B	・令和5年度の大規模修繕（教室棟の防水施工）の工程等が決まったら、教えてほしい。 （地域での校庭使用の関係） ・ ・

令和4年度 学校評価のまとめ（学校別）					
学校名	領 域	学 校（幼 稚 園） 自 己 評 価			学校（幼稚園）関係者評価（抜粋）
		年 度 目 標	年 度 評 価		
		重点目標	重点目標の達成状況	達成度	
差間小	組織運営	○企画委員会を中心とした学校経営を推進する。 ・学力向上 ・いじめ未然防止 ・不登校児童の減少	○学力向上、いじめ未然防止、不登校児童に組織的に対応した。いじめ未然防止 学級経営のポイント 事故防止 休業前の指導などについて具体的に指導した。	B	・管理職の厳しさと温かさ、教員間のチームワークの良さ、児童の教師への信頼が伝わってくる。 ・いじめや不登校の問題は、学校だけでなく家庭や地域とのつながりと見守りが必要だと思います。 ・不登校児童への対応は、全市的かつ専門的な対応が必要だと思う。
	教育課程	○学校評価において、授業に対する満足度を88％以上にする。	○学力・学習状況調査の結果は横ばいだった。授業に対する満足度は児童89％、保護者76％であった。	B	・音楽会は再開してほしい。
		□全児童がICT活用スキルを向上させる。	□児童の端末の操作はかなり向上した。家庭での学習アプリ活用が極めて少ない。	B	・家庭学習を児童自身から進んで取り組む「ワクワク感」を学校と保護者で立案するなど一体で行えとよい。
		△感染症に配慮し、学校課題研究を推進する。	△11月11日に研究発表会を開催した。	B	・英語学習に感動した。学校教育が進歩していて感動した。
	開かれた学校づくり	○学校運営協議会を年間3回実施し、学力向上に関して熟議をする。	○教育活動の状況を報告し、学校や児童の課題について協議することができた。	B	・PTAの方や学校応援団の方々とのコミュニケーションが大事だと思いますが、守秘義務などなかなか難しい問題でしょうか。 ・「差間小の校則」がわかりやすく、児童の基本的な生活習慣の確立に努めているのがわかった。 ・校長の話が直に聞けて学校内のことがわかりやすい。
教職員の資質向上	○教科の指導力（授業力）を向上させる。 □生徒指導上の様々な課題（特に、いじめ・不登校）に適切に対応できる資質を伸ばす。	○日常の教室訪問と研究授業における指導を行った。 □生徒指導上の問題が発生したとき、当事者への事実確認、保護者への連絡、関係機関との連携など適正におこなった。	B B	・教員には、健康に十分注意して、時間外勤務が少しでも減るといいです。 ・PCを使う授業については、事前に起動しておくとう授業が進みやすいと思う。 ・先輩教員から若手教員への伝承がうまくいっていると思う。	
施設・設備等の管理	○点検や確認を確実にし修繕を進める。 □職員や保護者による送迎、業者等の出入り時の事故をゼロにする。 △美化・緑化活動を充実させる。児童に栽培や収穫の体験をさせる。	○特に水道施設と調理設備の修繕等に多額を要した。 □登下校中の事故は防止できた。 △大きな樹木を伐採したため、使用できる面積が広がった。	B B B	・学校裏の空き地を畑として活用してはどうだろうか。 ・校舎内外、いつもきれいになっている。 ・体育で使うマットが破れている。早めに交換した方がいい。 ・子供たちの安全につながることは優先してほしい。	

令和4年度 学校評価のまとめ（学校別）					
学校名	領 域	学 校（幼 稚 園） 自 己 評 価			学校（幼稚園）関係者評価（抜粋）
		年 度 目 標	年 度 評 価		
		重点目標	重点目標の達成状況	達成度	
東本郷小	組織運営	○目指す学校像の実現に向け、主任を中心とした学年経営、校務分掌による教育活動の活性化を図るとともに、教職員個々のよさを発揮できる組織環境を整え、継続的な運営体制を構築する。	○自己評価から教職員の組織運営への理解と参画意識の高さを感じた。また、管理職と主任等とのコミュニケーションを通して、学校の課題を共有し、改善に向けた教育活動の計画立案実践に結びついている。特に、コロナ禍における教育活動については、共通理解のもと組織的に行うことができた。	B	○コロナ禍で教職員が協力・工夫し合い、取り組めたことは素晴らしい。 ○研究発表では、教職員のみならずPTA保護者の一致協力する姿を垣間見ることができた。 ○信用失墜に繋がる教職員事故（ハラスメントを含む）が起こらぬように努めてほしい。 ○危機管理（安全、保健、防災、防犯）に関して、マニュアルを整備し周知徹底を図り、活用するように期待したい。
	教育課程	○児童や学校の実態に即した教育課程の編成に向け、実施状況を評価・改善することで教育活動の質の向上を図るとともに、社会に開かれた教育課程の編成を実現する。	○コロナ禍において社会と連携した教育活動に制限を設けてきたが地域人材の活用や体験活動を可能な範囲で取り入れながら教育活動の充実を図った。【学校ファームを活用した食育、TBS出前授業、ヤクルトおなか元気教室、家庭科ミシン縫い補助・読み聞かせ等】 ○教育計画に基づき、ライフスキル教育や人権感覚育成プログラムを教育活動において実践した。	B	○タブレットを活用した算数の授業などで、子供の考える力を伸ばしていただきたい。 ○学習の基礎となる『読み・書き・計算』力の維持向上は、今後も継続して取り組んでほしい。 ○6年生による読み聞かせは素晴らしい。成果を期待したい。 ○小学生として身に付ける基礎知識や技能を精選し、その定着を図ってほしい。 ○情報リテラシーの向上を図る授業やイベントを取り入れるなど実践的な人権教育の充実を期待したい。
	開かれた学校づくり	○学校を積極的に公開し、保護者・地域との連携・協働により、学校の教育力を向上させ、信頼される学校をつくる。	○制限はあったが、運動会、音楽会、授業公開を実施して、本校の教育活動を家庭に公開してきた。 ○学校ＨＰや学校だより、学級だより【週案】、懇談会、個人面談を通じて情報発信・共有を行った ○学校運営協議会では、学校経営の承認、教育活動の情報発信に留まった。	B	○学校からの情報提供に関する保護者評価が今年度低下したことが気になる。改善を図ってほしい。 ○コミュニティースクールとしての形は整えられたが、盛んな協議がなされるよう、一層の情報提供をお願いしたい。 ○コロナ禍が早く収束し、再び各種学校行事を参観できるようになればと願っている。
	教職員の資質向上	○教職員のチームワークを生かし、互いに切磋琢磨しながら学び合い、高め合える教職員集団を育成する。 □教職員の服務規律の確立と健康の保持増進を目指し教職員が元気で活力ある学校をつくる。	○教職員がコミュニケーションを大切にし、相談しやすい環境をつくっているため、元気で活気のある職場環境ができています。研修の機会に学び合うこともでき、教員相互に指導や助言ができ、年度当初に比べ、一人一人の指導力、授業力向上が見られた。 □報告・連絡・相談や職員間の情報共有を日常的に行っている。職員の健康状態の把握に努め、病気休職者0を実現した。経験の浅い教員や臨任の教員に対して、学校全体で支えていこうとする雰囲気できています。	B B	○タブレットを活用した算数の授業などで、子供の考える力を伸ばしていただきたい。 ○学習の基礎となる『読み・書き・計算』力の維持向上は、今後も継続して取り組んでほしい。 ○6年生による読み聞かせは素晴らしい。成果を期待したい。 ○小学生として身に付ける基礎知識や技能を精選し、その定着を図ってほしい。 ○情報リテラシーの向上を図る授業やイベントを取り入れるなど実践的な人権教育の充実を期待したい。
	施設・設備等の管理	○校舎内外の美化に努め、安全で潤いのある校内環境づくりを推進するとともに、課題に即した予算運用を行う。【本年度の整備目標：黒板の修繕、トイレの清掃（継続）、学校図書館管理の電子化（新規）】	○教職員が施設・設備の毎月の定期的、日常的な点検を行い、状況把握を行った。改修については、安全と迅速性等を考慮した予算運用を行った。実績として学校図書館の電子化管理などを行った。また、今年度、校庭改修があり、プールの新築や管理棟1階のバリアフリー化改修などが実施された	B	○学校からの情報提供に関する保護者評価が今年度低下したことが気になる。改善を図ってほしい。 ○コミュニティースクールとしての形は整えられたが、盛んな協議がなされるよう、一層の情報提供をお願いしたい。 ○コロナ禍が早く収束し、再び各種学校行事を参観できるようになればと願っている。

令和4年度 学校評価のまとめ（学校別）						
学校名	領 域	学 校（幼 稚 園） 自 己 評 価			学校（幼稚園）関係者評価（抜粋）	
		年 度 目 標	年 度 評 価			
		重点目標	重点目標の達成状況	達成度		
東領家小	組織運営	○勤務時間内で解決できる組織の運用	○教職員の個々の能力を活かし、コンパクトな組織運営ができた。	A	・日頃の教育活動において先生方の激務の現状には頭が下がる思いである。今年度の働き方改革により、改善されてきている様子が聞かれて安心している。来年度以降デジタル化による働き方改革を推進するのも良いが、保護者・地域と学校の関係が遠ざかるようなことがないようにして欲しい。	
		□コロナ禍の中、児童の安全確保を第一に教育活動を進めることができる組織の運用	□昨年度までのコロナ禍での教育活動を活かし、見通しをもった教育活動が推進できた。行事の完全実施。	A		
	教育課程	○質の高い授業の工夫と改善により、一人一人の学力向上をさせる。	○協調学習やタブレットを活用し、児童のOUT PUTを意識した授業を推進できた。	B	・学力向上に向けて、東領家小の現状と課題が明確になっている。先生方の人数が少ない中、課題解決に向けて地域もお手伝いしたい。	
		□感染状況を見通した教育活動の実施と授業時数の確保。	□感染状況により教育課程を変更しながら授業時数を確保した。	A		・学力向上に向けた、読書活動の推進はとても良い、以前に比べて図書室の利用も増えており引き続き取り組んで欲しい。
	開かれた学校づくり	○情報公開と説明責任を積極的におこなう学校の推進	○計画通り、各種お便りの配付およびＨＰの更新を実施	A	・コロナ禍の中、工夫された教育活動をしていた。	・学校だより等の情報は学校と保護者・地域との繋がりに役立っていた。
		□児童のより良い成長のための地域との連携と運営協議会を活用した教育活動の推進	□地域の公共施設並びに民間企業における人材活用を実施（各学年）	B		・地域の人材を活用し多様な教育活動を工夫していることはとても素晴らしいことである。
教職員の資質向上	○教師の指導力の向上とミドルリーダーの育成	○キャリアに応じた校務分掌組織による学校運営ができた。教師の積極的な活動につながった。	A	・学校評価の結果も良好であると思うが、一部数値が低い項目については努力して欲しい。	・コロナ禍の中、オンライン授業など取り入れ学習の保障をしてくれることはよいことである。先生方の苦労も伺えました。	
	□ＩＣＴ機器を活用した授業力の向上	□タブレット端末の使用率が向上。オンライン授業も定着。	B		・不登校児童への対応は、保護者・地域・学校が協力していかなければならないと思っている。先生方には引き続き対応して欲しい。	
施設・設備等の管理	○施設・設備事故ゼロの実現と安心・安全な教育環境の維持	○教育活動に支障がでることなく教育環境が維持できた。	A	B	・子どもたちが安心して教育活動が進められていることはとても良い。コロナ前の教育活動が戻りつつある中、更なる教育環境の維持をお願いします。	
	□老朽化による校舎内の迅速な修繕と計画的修繕	□プール修繕や雨漏り修繕も完了し、教育活動が維持できている。				

令和4年度 学校評価のまとめ（学校別）

学校名	領 域	学 校（幼 稚 園） 自 己 評 価			学校（幼稚園）関係者評価（抜粋）
		年 度 目 標	年 度 評 価		
		重点目標	重点目標の達成状況	達成度	
安行東小	組織運営	○学校経営の重点としている不登校対策について教職員の共通理解と共通指導の徹底	○3 0日以上欠席の不登校児童は1 2名であった。 ・配慮を要する児童に対しては、生徒指導部会・教育相談部会で組織的に児童の状況を全体で確認し、各学級担任が保護者への丁寧な電話連絡、状況に応じて保護者面談や家庭訪問、オンライン授業を行い、児童との関係性を断ち切らず、フォローできている。	B	・不登校の原因は様々であり、それぞれに合った対応が必要である。中には発達障害がある場合もある。保護者も悩み、苦しんでいる場合が多いことが考えられる。 ・親の価値観も変化しており、学校教育に求められているものも変化している。これからも家庭環境が難しい場合もあるので、地域と協力しながら取り組んで欲しい。
	教育課程	○6月より導入される学習ソフト「ミライシード」の積極的活用による学習指導の充実	○学力向上を図るために、低学年でも I C T の活用を教職員が創意工夫し、学習指導を充実させている。 ・6年生児童への学習支援については既習の計算、漢字の反復練習を1 2月より実施し、小学校の学習内容を補完できるよう、継続して習熟の徹底を図っている。 ・図書室蔵書のバーコード化を図った。	B	・学校図書館の蔵書が劣化し、古くなってきているものもあるので、順に新しいものとなっていくよう努力して欲しい。 ・P T A も図書館ボランティアとして協力していきたい。手伝う内容を教えて欲しい。
	開かれた学校づくり	○学校H Pの管理 □学校運営協議会をコロナの状況を見定め学期ごとに開催する。 ・地域中学校との生徒指導連携	○学校運営協議会について、年間3回実施し、教育活動の様子を参観するとともに、学校運営に係る貴重な意見をいただいた。 □安行東中学校との生徒指導連携において、生徒指導担当教諭が毎週来校し、各学級の学習の様子を把握、学習支援とともに、生徒指導部会に参加することで、一定の効果がみられた。	A A	・今年度、民生委員が1 2月に改選され、新しいメンバーとなった。これからも連携しながら、地元の情報が活かされるよう、学校の取組に協力していきたい。 ・学校の人数がどんどん増加傾向にある。学区が広いこともあるので、学区の編成、見直しの検討を要望する時期にきているのではないかな。
	教職員の資質向上	○市教委委嘱研究（算数科）の成果発表 □教職員の業務負担軽減	○研究発表会では2年間の研究成果を公開することができた。研究熱心な教職員の不断の努力の賜物である。 □出退勤システムを効果的に活用し、教職員自身が時間管理、業務改善に取り組む気持ちの醸成に努めた。 ・業務改善委員会を定期的に開催し、様々な面で教育活動の効率化を図ることができた。	B B	・教職員の勤務時間が減っても、仕事の量は変わらない。学校でやらないのでは、持ち帰り仕事が増えているのではないかな。先生方も疲れていると思う。注視して仕事のスリム化を図り、意識改革をさらにすすめて欲しい。
	施設・設備等の管理	○施設設備の整備と点検 □学級会計の集金方法変更の準備	○老朽化に伴う施設の修繕を予算執行を計画通り進めた。 □教材費等の集金については、事務職員が中心となって、金融機関への振込システムを立ち上げた。	A A	・トイレについては開校以来、未改修と聞いている。どの学校も話題になっているが、ぜひ市に働きかけて欲しい。 ・現金の集金から振込となると、未納が増えることが考えられる。手集金をいかに減らせるか、引き続き対応の検討をして欲しい。

令和4年度 学校評価のまとめ（学校別）

学校名	領 域	学 校（幼 稚 園） 自 己 評 価			学校（幼稚園）関係者評価（抜粋）
		年 度 目 標	年 度 評 価		
		重点目標	重点目標の達成状況	達成度	
在家小	組織運営	○組織の一員としての学校運営参画意識を高め、連携を密にし、共通理解・共通行動を徹底する。	○個々の教職員が、学校運営参画意識を持ち、自らの担当分掌の責を果たし、業務遂行を図ることができた。 ○企画時からの内容の精査も的確に実施できた	A	・校長を先頭に組織として共通理解・共通行動が図られている。 ・教職員の、学校運営への意識の高さを感じる。 ・次年度も共通理解・共通行動を継続し、チーム在家で取り組んで欲しい。
	教育課程	○実態に即した授業展開を図るため、教材研究・授業改善を行い、児童の学力向上を目指す。 □保護者へ、家庭学習の取組協力を求める。	○ＩＣＴの積極的な活用や学び合いの授業形態の導入と授業改善が図られ、低位層の児童の学力に伸びが見られた。 □家庭学習についての周知は図れたが、協力状況は十分ではない。	A B	・学び合いやＩＣＴを活用するなど、授業内容について、問題無いと思われる。 ・児童一人一人の伸びを確認して、学力向上を推進して欲しい。 ・学校は努力していると思うが、家庭学習は各家庭の関心度により異なるので、現状より悪くならないよう、保護者へ継続的な働きかけが必要である。
	開かれた学校づくり	○コロナ禍でも可能な方法を検討し、学校応援団活動および地域教育施設との連携の充実を目指す。 □学校運営協議会を適切に機能させる。	○小中連携一貫教育として、在家中と様々な形態での交流をすることができた。保護者の来校機会も増やせた。 □定期的な開催を図ることができ、様々な助言をいただけた。	A A	・コロナ禍でも色々と創意工夫して取り組んでいる。 ・地域として参加できる機会が増えるよう期待している。 ・学校運営協議会を通して、学校の様子や児童の様子が分かり、より良い学校運営のために有意義であった。
	教職員の資質向上	○キャリア段階に応じた研修、および教員相互による指導力向上研修のさらなる充実を図る。 □各自が勤務時間を意識し、効率的な業務遂行を図るようにする。	○研修への積極的な参加が貼られた。指導力伝承研修は年度当初の実施に留まった。 □作成した「業務改善スタンダード」の実行により、確実に時間外在校時間は減少、業務改善が図られている。	B A	・職員育成は図られているが、さらなる資質の向上が必要である、 ・授業の在り方を見直し、未来の教室の在り方について、研修をして欲しい。 ・様々な厳しい状況の中、業務改善に努めていることが分かる。 ・アシスタントティチャーなど、さらなる人の増員が必要である。
	施設・設備等の管理	○安全安心のため、適切な修繕・改修を実施し、施設・設備の維持管理の徹底を図る。	○安全点検の確実な実施を行うことができた。施設・設備を原因とする事故はゼロであった。 ○老朽化は否めないが、計画的に改修を行い、環境を整えることができた。	A	・的確な安全点検で、事故ゼロを更新していることは素晴らしい。 ・児童にとって安心安全な学校とは何かを考え、継続的に施設改修を進めて欲しい。 ・各学校でできる管理の限界は低いため、自治体が専門業者と連携して継続的にメンテナンスする必要がある。

令和4年度 学校評価のまとめ（学校別）						
学校名	領 域	学 校（幼 稚 園） 自 己 評 価			学校（幼稚園）関係者評価（抜粋）	
		年 度 目 標		年 度 評 価		
		重点目標	重点目標の達成状況	達成度		
戸塚東小	組織運営	○校務の効率化を進め、実効性と費用対効果の高い組織運営を行い、 職員アンケート 9割 保護者アンケート9割 を達成する。 □年次休暇取得について、年次付与分の8割以上取得の職員9割以上を達成する。 △全職員月間在校超過 4 5時間以内 を達成する。	○職員アンケート 「仕事楽しい」 92.0% 保護者アンケート 「学校楽しい」 98.0% □コロナ休暇がかさんで、年次休暇8割以上取得者は7割程度であった。 △全職員が月平均4 5時間超過未満を達成できた。	A B A	・過酷と言われる教員の仕事だが、仕事を前向きにとらえていることは学校として素晴らしい。何か特別な取組があったのであれば、教えてほしいところだ。 ・評価妥当である。 ・評価妥当である。	
		教育課程	○学力の向上を図り、各学級で行う算数と国語の習熟度テストについて 9割正答の児童9割 を達成する。 □不登校児童 ゼロを達成する。 △いじめ認知を行い、 解消率9割5分 を達成する。 （経過観察は除く）	○取組により学習状況調査結果は飛躍的に向上したが、9割達成延べ件数は 1年 国73.4% 算79.7% 2年 国73.1% 算60.2% 3年 国47.7% 算62.2% 4年 国71.8% 算63.2% 5年 国51.1% 算46.3% 6年 国62.0% 算53.3% にとどまった。 □すべての児童に行える限りの支援をしたが、ゼロは実現できなかった。 △認知を進め、対応したが、9割程度が解消し、残りは経過観察中である。	C C B	・最近では、宿題を出さない学校も老いと聞か、しっかりとある程度の宿題を出して、子供の学習習慣に繋げることは大切と考える。 ・タブレットを常時持ち帰って家庭で活用することには、やはりメリットとデメリットもある。破損や、紛失、持ち帰りの荷物増加など、研究していく必要がある。 ・評価妥当である。 ・評価妥当である。
			開かれた学校づくり	○主幹教諭と情報主任を中心に、H Pの更新週1回以上を達成する。	○学年で更新を行い、週1回以上の更新が達成できた。	A
	教職員の資質向上	○川口市の委嘱研究と連動して、G I G A端末を活用した授業研究を 3回以上を達成する。 □学習アプリ研修を 年間3回以上 を達成する。 △教職員による 重大事故ゼロ を達成する。	○授業研究を4回実施できた。 □アプリ研修を4回実施できた。 △重大事故ゼロを達成できた。	A A A	・評価妥当である。 ・評価妥当である。 ・評価妥当である。	
		施設・設備等の管理	○タブレットの保管や管理を徹底し、 重大事故ゼロ を達成する。 □施設・設備・事務処理について、 重大事故ゼロ を達成する。	○重大事故ゼロを達成できた。 □重大事故ゼロを達成できた。	A A	・光熱費の値上げ等による教育費への影響はきっと大きいと思われる。今後もよく利用について研究を進めてもらいたい。 ・評価妥当である。 ・

令和4年度 学校評価のまとめ（学校別）					
学校名	領 域	学 校（幼 稚 園） 自 己 評 価			学校（幼稚園）関係者評価（抜粋）
		年 度 目 標	年 度 評 価		
		重点目標	重点目標の達成状況	達成度	
戸塚北小	組織運営	○部会を活性化させることで、学校運営参画意識を高め、学校課題解決のための協働体制を確立する。	○それぞれの部会が機能的に動いており、若手の教員も含め、着実に力をつけている。協働体制の確立は、目標とするところまでは達成できている。	A	・コロナ禍・経験年数の浅い教員が多い等の厳しい現実の中で成果を上げられたことは素晴らしい。 ・トップが替わった時、いかに改善と反省を含めて継承できるか留意願いたい。 ・音楽会も素晴らしかったです。若手の先生のメッセージに感動しました。児童や保護者の心を動かすことが若手の先生にもできていますと思います。 ・職員間の連携が重要かと思う。
	教育課程	○「書くこと」の課題を解決するために、昨年度作成したカリキュラムマネジメントをもとに授業実践を重ね学力を向上させる。	○県学テ 5年国語：「話す・聞く」「読む」正答率が10%以上向上 算数：記述式の正答率が30.1%から48.3%に向上。 6年：国語：「話す・聞く」で26%、「思考・判断・表現」や記述式で10%程度正答率が向上。算数：「思考・判断・表現」2%、記述式23%正答率が向上。	A	・3年間の研究の成果が見える形で示し、他校の発展にもつながる事を期待したい。 ・研究を意識した授業の取組が成果なっている。また個別支援の明確化、パワーアップタイムのスキル向上と大いに期待します。
		□「やりぬく力」を育成する。(戸北っこのあいうえおの実現)	□「戸北っこのあいうえお」が児童会を中心に各委員会の活動の柱となり学級・学年への取組とつながる柱となった。	A	・児童会が核となり、各学年や学級への取組がつながっていくことは、子供達の自主性が高められ、自信につながっていくと感じております。 ・あいさつは基本ですので、家庭でも教育します。 ・タブレット学習は、子供達と常に顔を向かい合わせて目の輝きを見ながら笑顔で進めてほしい。
	開かれた学校づくり	○信頼関係の基盤を構築するため、実のある学校運営協議会を実施する。 □教育活動の積極的な発信 ・ICTに関わる授業内容 ・特別支援教育理解と推進 ・「みんなで話そう」（仮称）の立ち上げ	○□学校運営協議会、PTA・おやじの会との連携は良好である。今年度は生涯学習課と連携し放課後教室が開催できたことや、みんなで話そうの会で地域にもアプローチできたことは意味があった。 □	A A	・学校運営協議会委員の方々の発言が活発になってきていると感じます。学校の提案に対して協議になり、意見を出し合ったり話し合いが深まればよいと思います。 ・信頼関係づくりに大いに貢献しています。今後も学校が目指す教育活動の姿を保護者、地域の皆さん、運営委員さんに確実に届けることが大切です。 ・さらに結果を地域にフィードバックしてほしい。 ・それぞれ立場の違いはありますが、何事にも指導者として、めげず、へこたれない気持ちにて勇気と笑顔で進めてほしいものです。 ・大変良い。
教職員の資質向上	○戸北小職員のプライド宣言を実行する。 □教員の指導力向上と人材育成	○「国語」「道徳」の公開授業及び研修会を実施し、ひとりひとりにフィードバックを実施した。 □自己評価シート面談の際に、研修・チームワーク行動・働き方にもそれぞれの考えを聞き取り適切なアドバイスを行った。	A A	・色々な規制がある中、教職員の努力している姿に感銘しています。一人ひとりが自分の取組にプライドが持てる教員になって欲しいと願っています。 ・PTA土曜日の活動にも積極的にご参加ください。 ・プライド宣言の実施が授業づくりや信頼関係の根幹です。戸北小の教職員の誇りをもつことは教職員事故ゼロにつながります。	
	施設・設備等の管理	○□心のあるあたたかい教育環境を実現する。 ・コロナ感染防止の徹底 ・環境の整備と充実	○□ ①②③は、分掌担当を中心に積極的に動き、効果のある教育活動へつながった。④⑤は、児童の主体的な活動まで結びついておらず、次年度への継続課題である。⑥適正な支援ができる環境整備はできた。	A	・学校としての役割は充分に果たしている。 ・参観などで心あるあたたかい教育環境づくりに努められていると感じます。 ・PTAとして、クリーン作戦にて協力させていただきます。

令和4年度 学校評価のまとめ（学校別）

学校名	領 域	学 校（幼 稚 園） 自 己 評 価			学校（幼稚園）関係者評価（抜粋）
		年 度 目 標	年 度 評 価		
		重点目標	重点目標の達成状況	達成度	
木曽呂小	組織運営	○・教職員の共通理解に基づいた共通行動、共通指導の徹底 ・教職員のライフステージに応じた資質・能力の向上	○「木曽呂小スタンダード」を次年度に向けて見直し、共通指導に取り組みやすい具体的な内容を加える等改善した。 ・人事評価制度による定期面談や日常の会話、面談等を通して、教職員の意識統一と意欲向上に取り組んだ。	B	・・教師が、熱心に指導をしている様子が伝わる。教師の指導が児童に浸透するよう、継続した指導を願う。 ・良い取組を次年度以降につなげていくため、良い指導法等を継承していく仕組みが構築できると良い。 ・
	教育課程	○・P D C Aサイクルに基づいた教育計画の編成 ・基礎・基本の定着と、「主体的・対話的で深い学び」を効果的に取り入れた授業の展開 ・ICTやGIGAスクール端末を効果的に活用した授業の展開	○・感染拡大防止対策を継続し、P D C Aサイクルに基づいて教育活動に取り組んだ。 ・基礎学力の定着を図るため、低・中・高学年に分けた「木曽呂っ子 学習の手引き」を保護者に配布し、協力を依頼した。 ・GIGAスクール端末を効果的に活用する研修を実施し、授業に取り入れた。	B	・「with コロナ」を念頭に、児童のスキルを伸ばす効果的な仕掛けに、今後も取り組んでほしい。 ・「学びの共同体」による学校改革を推進し、成果につなげるため、家庭（保護者）や地域との連携を深めていけると良い。 ・
	開かれた学校づくり	○・教育活動の積極的な情報発信 ・学校運営協議会の円滑な実施 ・現状に即した、学校応援団の活用	○・情報教育部を中心に、ホームページの更新頻度を上げることができた。 ・感染状況等を見極め、昨年度以上に、学校応援団と連携することができた。	B	・学校が今取り組んでいることを知らないと、家庭・地域との協働は図られない。児童が生き生きと学んでいる姿を見られるようにすることが必要である。 ・コロナ禍以前に行われていた交流活動を再開できるよう、関係校と連携を図ってほしい。 ・
	教職員の資質向上	○・日々の指導に生かせる研修（実践研究）の実施による教員の授業力・教師力の向上 ・教育公務員として必要な資質・能力の向上につながる当事者意識の醸成	○・日常的に教室訪問や授業観察を行い、適宜指導・助言を繰り返した。 ・本校の児童が好きなペア・グループ学習を意図的に取り入れた授業の研究に取り組み始めた。 ・倫理確立委員会による研修を計画的に実施し、不祥事根絶に向けた教職員の意識の醸成を図った。	B	・実生活に役立ったり、自発的に考えさせたりする授業が展開されている。継続した取組を願う。 ・授業内容が幅広くなっていると感じる。コロナ禍の制限が収まる中で、より良い授業内容となるよう研究してほしい。 ・不祥事根絶に向けた取組を継続してほしい
	施設・設備等の管理	○・日常的、定期的安全点検による危険個所の早期発見と早期改善 ・個人情報管理や適切な予算執行による事故防止	○・計画的、日常的な安全点検の実施、早期改善に努め、施設・設備に係る事故は0であった。 ・校内規程を随時見直し、教職員の共通理解を図った。 ・適切な予算執行を進めるとともに、会計事故防止に努めた。	A	・転落防止柵の設置や投てき板の改修等、施設・設備等の管理が進められている。今後も施設・設備等の管理を継続し、事故0が継続されることを願う。 ・事故防止のため、視覚に訴える方法は良い。その際の示し方について、より良いものとなるよう検討してほしい。 ・

令和4年度 学校評価のまとめ（学校別）

学校名	領 域	学 校（幼 稚 園） 自 己 評 価			学校（幼稚園）関係者評価（抜粋）
		年 度 目 標	年 度 評 価		
		重点目標	重点目標の達成状況	達成度	
戸塚綾瀬小	組織運営	○「報告・連絡・相談・確認見届け」を合言葉にした組織づくりを実行し、児童の豊かな人間性を育むとともに教職員一丸となり知恵を出し合い教育活動を進める。 □各学年・分掌等主任の学校運営への参画意識を高め、働き方改革を考慮した1人1改革を実践する。	○毎月、生徒指導・特別支援委員会を開き、学校全体で対応できるように共通認識・共通理解ができる体制を維持した。 ○校務スリム化し会議や研修の能率化が図られた。ICTも活用し精選が進んだ。 □各分掌主任を中心に、組織的に課題に取り組み解決することができた。 □働き改革につながる業務改善に対する意識が醸成された。	B B	・一人一人を大切にする指導は非常に難しいと思うが、とても大切なことなので頑張ってもらいたい。 ・事務的なことを補佐する人材がもっと必要なのではないか。教師にゆとりがないといけない。 ・先生たちはとても多忙だと思う。より良い環境を作ってもらいたい。 ・
	教育課程	○今年度の状況に合った教育課程を編成し、時間の使い方や指導内容の順番を工夫して実施を進める。 □全教職員が、1単位時間の指導過程の基本を身に付け、確かな指導力を育成する。	○週報作成で予定を立て、確実に授業を実施（オンライン併用）し、学習保障ができた。 ○感染症対策の緩和に合わせて、行事の内容検討や授業単元の指導順番の変更等をした。 □計画的に全職員が1回以上の公開授業を行い、研修を深めることができた。 □指導者を招聘し、算数の研究を進めた。本発表を通して、様々な意見を指導力向上につなげることができた。	A A	・特になし ・ ・
	開かれた学校づくり	○学校運営協議会制度を活用して、学校・地域課題について目標を共有し実践する。 □保護者の教育参加に向けた取組を進めるため、学校応援団組織を再編成する。	○全学年、月2回以上のホームページの更新を行い、保護者・地域に教育活動を発信できた。 ○3回の学校運営協議会において、学校の課題について共有することができた。 □学校応援団の活動を明確にし、学習補助、大掃除、図書のラベル貼りと活動の幅を広げた。	A A	・学校運営協議会のような連携できる場が必要である。 ・地域や保護者が関わらないと解決できない問題もあるのではないかな。 ・学校の読み聞かせを保護者が行っているが、やはり、まず家庭で親が読み聞かせをすることが良いのではないかな。 ・
	教職員の資質向上	○学習指導・生徒指導の専門家としての教師力を目指し、それぞれのキャリアステージに応じた指導力の向上を図る。児童・保護者から信頼、尊敬される教師を育成する。	○学年ごとの情報交換が活発に行われ、教材・教具を共有して統一した指導が行われた。 ○課題のある児童の情報を共有し、学年の枠を超えて積極的に指導することができた。 ○ミライシードを活用した授業を積極的に行い、児童の主体的な学習につなげることができた。	A	・タブレットの活用は、スピードが上がりがたくさん問題が解けるので良い。 ・タブレットのより良い活用方法を今後問挙げていくことが大切である。 ・ ・
	施設・設備等の管理	○適正かつ計画的な予算執行を図り、有効活用に努める。 □より潤いのある安全な教育環境づくりを推進する。	○安全を優先した計画的な予算執行ができた。 ○予算の有効活用で校庭スプリンクラー修繕、体育館間照明修繕等ができた。 □管理職、事務、養護教諭、校務員等が連携して「安全安心な学校づくり」を行うことができた。 □学校ファームを各学年に割り振り、積極的に活用した。	A B	・特になし ・ ・

令和4年度 学校評価のまとめ（学校別）

学校名	領 域	学 校（幼 稚 園） 自 己 評 価			学校（幼稚園）関係者評価（抜粋）
		年 度 目 標	年 度 評 価		
		重点目標	重点目標の達成状況	達成度	
戸塚南小	組織運営	○それぞれの校務分掌をしっかりと自覚し、組織の活性化を図り、全職員の学校運営参画意識の向上を目指す。	○学校教育目標の具現化に向け、職員会議、各部会においても具体策を示すことで、意識的に取り組むことができた。 ・各組織でPDCAを確実にを行い、課題の明確化、共有化を図ることで、全職員の共通理解が高まった。	A	・全職員が一丸となり、教育活動を推進して欲しい。 ・ ・
	教育課程	○コロナ感染拡大防止、児童の心のケアを第一に、新教育課程に基づく、主体的対話的な深い学びの実現を図り、社会に開かれた教育課程を充実させ、知徳体の調和のとれた児童の育成を目指す。	○コロナウイルス感染拡大下においても学びの保障を充実するために、GIGAスクール端末の活用し、学び合いを取り入れた授業スタイルの構築を進めることができた。	B	・コロナ感染も落ち着いてきているが、今後も、「今できること」を考え、よりよい教育課程を進めて欲しい。 ・ ・
	開かれた学校づくり	○学校を中心として、関係機関、保護者、地域との連携をさらに広げ深めていく。	○昨年度よりもコロナの影響が落ち着いてきたので、連携を深めることができた。学校運営協議会、PTAとの連携、新しい関わり方について議論を深めることができた。	A	・学校に来る機会も増えてくるので、できる限り保護者、地域に児童の活躍する様子を知らせて欲しい。 ・ ・
	教職員の資質向上	○ミドルリーダーの育成・若手教員の育成を視点に置き、教育活動を進めていく。	○管理職、教務主任だけでなく、教職員間からも自然に学びあう環境を作ることができた。自主研修も積極的に行うことができた	B	・タブレット端末の活用等、引き続きわかりやすい授業が進められるよう、教員の資質向上をお願いする。 ・ ・
	施設・設備等の管理	○児童の安全を第一に考え、施設設備の有効な活用の工夫を図る。	○常に児童の目線で、全職員が日頃から安全点検を行うことができた。施設修繕についても、計画的に進めることができた。	B	・児童の安全を第一に、計画的に補修等を行っていただきたい。 ・ ・

令和4年度 学校評価のまとめ（学校別）

学校名	領 域	学 校（幼 稚 園） 自 己 評 価			学校（幼稚園）関係者評価（抜粋）
		年 度 目 標	年 度 評 価		
		重点目標	重点目標の達成状況	達成度	
鳩ヶ谷小	組織運営	○学力の向上を重要課題とし、学校目標「よく考える子」「思いやりのある子」「たくましい子」の具現化を基に、「生きる力」を身につけた児童の育成を目指す。 □児童・保護者との信頼関係を築く	○令和４年度の全国学調については、県平均を上回り目標を達成できた。 ・学校評価アンケート達成度・満足度において９５％を達成した。 □校内研究としている各教科の見方・考え方を共通理解として各自が教科指導にあたることができた。また、コロナ禍の中でも、できる限り体力向上に務めた取り組みを行うことができた。	B B	・校長の学校経営のもと、教員が生き生きと活動していることが十分に感じられる。 ・組織運営の能率だけではなく、人を明るくし、行動できることが子供にとっても重要である。 ・
		教育課程	○新型コロナ感染症対策を継続しながら、児童の安全第一に教育課程の編成を行い、行事の見直しと精選をさらに行っていく。 ○新学習指導要領の教育課程を取りこぼすことなく、実施できているか、確認していく。 ・ICTの効果的な活用について、校内で共有を図る。	B	・教育課程は各先生が努力するだけでなく、特に中堅教員が経験の浅い先生に助言を与える場、環境、雰囲気が重要です。 ・ ・
	開かれた学校づくり	○ウイズコロナ禍の新しい生活習慣を持続しながらも、出来る限り行事を開催し、児童の姿を披露することにより、学校経営への理解と協力を得ていく。 ○創立150周年実行委員会を中心に地域や保護者の協力を得ている。記念式典を計画通りに執行した。 ・学校HPの充実が図られている。今後も引き続き充実を図る。 ・カラー刷りの学校便り第１号を11月号にて発行した。	A	・地域、PTA等に学校側の努力していることがいねいに伝えられ、よくわかる。 ・ ・	
	教職員の資質向上	○個々の教職員の目標や長所、課題を踏まえた前向きな研究の充実を図るとともに、ICTを活用した実効的な授業改善を図る。 □機を逃さず教育公務員としての自覚を促し、誇りをもって仕事に臨むプロ集団を育成し不祥事防止に努める。	○ミドルリーダーの育成を図り、学校全体の資質向上を実現してきた。本校から埼玉県優秀な教職員「はつらつ先生」表彰を受賞した。 □勤務時間の削減は推進されている。今後は管理職も効率化を図っていく。	A A	・教職員が明るいということは、気力が充実しており、児童にも希望や明るさ、やる気を育てます。 鳩小にはそれを感じる。ミドルリーダーは若い教師を育てている。 ・ ・
		施設・設備等の管理	○学校施設の安全管理により、会計事故、教職員事故のない安心・安全な学校体制を構築する。 ○学校施設管理について危険個所の早期発見・早期対応を行った。 ・集金計画を作成し集金回数を削減。集金業務の簡略化を実施した。PTAによる監査も確実にを行い、会計事故なく管理することができた。	A	・古い校舎なので、リフォームが必要な頃合いになってきた。新しい教育機器、更新などをさらに進めてほしい。 ・ ・

令和4年度 学校評価のまとめ（学校別）					
学校名	領 域	学 校（幼 稚 園） 自 己 評 価			学校（幼稚園）関係者評価（抜粋）
		年 度 目 標	年 度 評 価		
		重点目標	重点目標の達成状況	達成度	
中居小	組織運営	○各校務分掌主任として「現状を捉え、何が課題か、課題に対して何ができるか、何をするか」を考えさせることを通して、リーダーシップを発揮させ、組織力をより一層構築する。	○感染状況や感染対策を踏まえ、各主任が課題を解決するために創意工夫ある学校行事を立案し、運営することができた。 ○報告・連絡・相談の徹底ができ、組織として様々な対応を行うことができた。 □見通しをもち、限られた時間内で効率的な会議・部会運営を行うことができた。	B B	・感染対策を講じながら、運動会や校内音楽会、持久走大会等、実施方法を創意工夫しながら実施していることがとてもすばらしい。
		□見通しをもち、効率的な会議・部会運営を行い、次年度を見据えた校務分掌業務を推進し、時間外在校時間 8 0 時間未満(4・3月除く。)を達成する。	□管理職から、1 学期の通知表所見欄を記入しないなど具体的な業務改善策を講じて実施することができた。 □特定の教職員が時間外在校時間 8 0 時間未満を達成することができなかった。		・働き方改革を力強く推進してほしい。8 0 時間未満を達成するためには、仕事の軽重を考慮することが大切である。 ・
	教育課程	○日々「わかる・できる・楽しい」授業を実践し、個に応じた指導を充実させるとともに、一定数いる低位層児童一人一人に対して学力向上を達成する。	○全教職員で各学力調査等の結果・分析を行い、具体的な手立てを講じて、「中居小確認テスト」を確実に実施することができた。 ○算数において一定数の低位層児童一人一人に対して学力向上をさせる。 □解消・改善した児童がいる反面、新たに不登校になる児童等がいる状況であった。 □特別支援学級設置校の利点を生かし、解消・改善を図ることができた。	B B	・より一層、家庭との連携を行い、個に応じた指導の充実をお願いします。そして、学力低位層児童に着実に学力を付けさせてください。 ・児童が興味・関心が高まる授業の実践をお願いします。 ・算数は基礎基本が大切な教科です。各学年でしっかりと身に付けさせてほしい。 ・中居小独自の「中居小確認テスト」の取組はとてもすばらしいと思います。 ・不登校について、家庭の問題が多いかと思いますが、不登校解消により一層、努力をしていただきたい。
		□家庭や関係機関との連携をより一層密にし、登校しぶり児童の解消及び不登校児童 3 割減少を達成する。			・
開かれた学校づくり	○学校応援団の活動を充実させ、充実した教育活動を展開するとともに、学習環境を整備する。	○図書ボランティアや学校図書館司書との連携により、学校図書館の環境が更に整備された。 ○学習支援における学校応援団の充実を図っていく。	B B	・一般的に、コロナ禍で閉ざされた学校になっている傾向がある。これからも開かれた学校づくりに尽力していただきたい。 ・地域と積極的に関わり、工夫した教育活動の推進をお願いします。 ・図書館がとても整備されていてすばらしい。 ・ホームページが充実されてきていると思います。 ・	
	□ 1 年間を通してホームページにて日々の教育活動や子供のよさ、伸び等を積極的に保護者や地域に情報発信する。	□各学年においてブログを更新し、教育活動を積極的に情報発信することができた。			
教職員の資質向上	○教職員一人一人の資質・能力・経験や個々の長所を生かしながら授業力や学級経営力を高め、人材を育成する。	○挨拶が活発になり、時間を守る意識が高まるなど、全体的に落ち着いており、子供たち一人一人が安心して学校生活を送っていた。 ○教職員個々の指導観の意識の差があり、「凡事徹底」の共通理解・共通行動を徹底することに課題がある。 □教頭中心に短時間の倫理確立研修や長期休業中に倫理確立全体研修会等を実施することができた。	B B	・子供たちがとても挨拶ができるようになってきました。 ・先生方が子供たちに寄り添って姿を多く見かけました。それが落ち着きにつながっていると思います。 ・子供たちが生き生きと活動している様子をよく見かけました。先生方の指導の賜物です。 ・子供たちのために、今後も教職員の資質向上のために尽力してください。 ・	
	□当事者意識を高め、教育公務員としての高い倫理観を醸成し、信頼される教職員を育成する。				
施設・設備等の管理	○整理整頓と清掃を徹底するとともに、各学級必要最低限統一された教室掲示、学校全体で統一された教室環境及び教員各々の個性を生かした学びの足跡が見える教室環境の充実させる。	○川口市教育委員会委嘱発表を機会に体育や校内研究に関わる掲示を充実させ、校舎内の環境が整備されてきた。 ○教室内・校舎内において、学力につながる掲示物を充実させる。 ○予算を効果的に執行し、施設設備を整備していく必要がある。	B B	・ごみが落ちていない、整理整頓ができていないなど、環境面が整っておりすばらしい。 ・廊下側が寒いような気がします。扇風機の活用など、部屋全体が温まる工夫が必要ではないか と思います。 ・老朽化は致し方ないが、地域の力も借りて少しでも改善をしたらどうかと思います。 ・限られた予算だと思いますが、効果的な予算の執行をお願いします。	
	□日常的な校舎内・校庭等の見回り・点検を実施し、目に見える変化を生む迅速かつ適切な修繕を行い、安心・安全な生活環境をつくる。	□複数の職員による日常的な校舎内・校庭等の見回り、点検等を徹底することができた。			

令和4年度 学校評価のまとめ（学校別）					
学校名	領 域	学 校（幼 稚 園） 自 己 評 価			学校（幼稚園）関係者評価（抜粋）
		年 度 目 標	年 度 評 価		
		重点目標	重点目標の達成状況	達成度	
辻小	組織運営	○目指す学校像の実現に向け、誰もが安心して自己のよさを発揮できる教育環境を整える。	○部会を再構成するとともに会議の日程を確保したことで組織で検討し、より練られた提案と個々の参画意識が高まってきた。 ○心のアンケート等の活用や教職員間の日常的な情報共有	A	・引き続きいじめの再発防止等への連携を強化していただきたい。 ・引き続き意識をもって取り組んでいただきたい。 ・今まで以上のいじめの早期発見及び対処に尽力していただきたい。
	教育課程	○感染対策を講じながら学校行事等の在り方を工夫する。 □児童の実態を分析し、基礎・基本を定着させるとともに粘り強く考え表現しようとする児童を育成する。	○コロナ禍で実現できる縦割り班活動に取り組んだ。これにより、高学年として下級生を思いやる気持ちの醸成につながった。今年度は多くの行事を感染対策しながら行うことができた。 □算数の授業スタイルは少しずつ定着してきている。	B B	・算数の授業スタイルを確立するのはとてもよいことだと思います。 ・期末テストも中学校へ向けて学習習慣を身に付けることになりよいと思いました。 ・児童同士で教え合う文化を創り出してもよいのではないかと。 ・コロナ禍の中での学習は大変なことが多いと思う。しかしその中で辻小スタイルともいべき学習形態ができつつあるのは素晴らしいことだと思う。児童一人一人の学力向上にさらに期待する。 ・
	開かれた学校づくり	○学校運営協議会のみならず、学校と保護者、地域との情報交換及び連携を強化する。	○本年度は対面で実施できたことにより地域の声を直接伺うことができた。 ○定められた面談のみならず、電話や臨時に面談を行いながら保護者との信頼関係の構築に努めることができた。 ○定期的な更新を行うことができた。	B	・あいさつは以前より数段よくなっています。更なる向上を望みます。 ・前年度に比べるとＨＰのアップ数が少ないように感じました。先生方はお忙しいとは思いますが、子供たちの学校での様子がもう少し見られたらうれしいです。 ・登下校の時に、お会いしたら私のほうからあいさつをいたします。児童から先にあいさつをしてくださることもあります。 ・あいさつは基本中の基本だと思うので、これからも力を入れていただきたい。 ・コロナが収まりつつある中、地域とのコミュニケーションも取りつつ学校との接点が深まることを希望します。
	教職員の資質向上	○教職員間のチームワークを大切にし、不祥事根絶を目指すとともに教育公務員としての使命感と情熱をもって互いに高め合える教職員集団を育成する。	○算数において年３回の研究授業と一人一授業を実施することにより、授業改善に取り組むことができた。 ○主幹教諭を中心とした若手教員との交流は、日頃の悩みだけでなく教師として、社会人としての礼儀等についても話し合うことができた。	B	・職員室に入ると和やかな空気を感じることがあります。先生たちの雰囲気がいよいは、子供たちにも伝わるのでよいと思いました。 ・若手教員との交流、社会人としての礼儀等もお互いにより時間になると思います。益々の活躍を期待しています。 ・更なる向上を期待します。 ・教員数の確保、年齢分布の平準化等、問題は多いが業務の効率化を行い、人手不足にも対処できるよう注力していただきたい。
	施設・設備等の管理	○児童の目線に立った安心・安全な視点で環境整備を行い、事故のない教育環境及び職場環境を整える。 □学校課題に沿った計画的な予算執行及び効率的な予算執行を行う。	○不備な箇所は迅速に修繕を行い、安全な環境を整えることができた。また、自動水栓化やＬＥＤ化にも取り組むことができた。 □会計に関しては複数の目で確認するとともに、本年度は定額集金にして会計処理を行った。	A A	・いつも校務員さんが校内、校外を丁寧に清掃してくださっているのを見かけます。子供たちが安心して学校生活を送れているのもそのおかげですね。ありがとうございます。 今後とも適切な対処を行い、子供たちの安心・安全を守っていただきたい。 ・児童の安全な環境整備を第一とし維持管理費も含めた適正な設備投資を行っていただきたい。

令和4年度 学校評価のまとめ（学校別）						
学校名	領 域	学 校（幼 稚 園） 自 己 評 価			学校（幼稚園）関係者評価（抜粋）	
		年 度 目 標	年 度 評 価			
		重点目標	重点目標の達成状況	達成度		
里小	組織運営	○運営委員会をはじめとする校務分掌組織のスリム化・活性化	○費用対効果考えた学校行事、会議等の取組を主任層に考えさせ、実践させることにより、効果的な教育活動を展開することができた。	B	・コロナ禍ではあったが、感染防止をしながら学校は実施可能なことを工夫しながら実践している。児童も保護者も地域も学校経営方針についてわかっている。今後も組織的に学校運営・学校経営を進めていってほしい。	
		□学校教育目標達成に向けた教職員の共通理解・共通指導 △「業務改善スタンダード」の周知と実践	□学年主任から指示指導を行うとともに、情報教育主任を中心にタブレット端末の活用、ＨＰの更新をすることができた。 △	A B	・ICT機器を活用し、すべての児童の学びを保障するようにすることが大切である。 ・教育活動について、常にＰＤＣＡサイクルを意識し改善を図っていく必要がある。	
	教育課程	○確かな学力の定着	○県学力学習状況調査結果を分析し、学力向上プランを作成・実践した結果、教員の授業力が向上した。また、児童の学力に向上が見られた。	B	・学力向上のためには、より共通理解を図り推進していく必要がある。担任交代や専科教員の授業の時は引継ぎをする必要がある。	
		□道徳教育・人権教育の充実 △コロナ禍により低下した体力の向上 運動好きな児童の育成	□校長が道徳科授業を実践(各学年3～4授業)し、教師の授業力向上とともに児童の豊かな心を育成した。 □特別支援教育コーディネーターを中心に交流授業や交流給食を計画・実践させ、互いに助け合う共生する心を醸成した。 △コロナ禍でも運動量を確保するために、『密』を避けつつ、指導計画を工夫改善したり、外遊びを推奨したりした。	A B	・いじめを発見した際には、丁寧に解決すること。また、教職員が児童の様子を見て、いじめを見逃さない姿勢と解決に向けた取り組みや見届けが必要でる。 ・児童が夢中になって体を動かしたくなるような取り組みを行い、今より少しでも体力が向上できるようにするとよい。	
	開かれた学校づくり	○保護者・地域との連携推進	○コロナ禍により、校庭芝生養生等地域との交流活動ができなかった。 ○週に1～2回程度、HPを更新し、学校の様子を伝えるようにした。	B	・学校と地域が連携をして、子ども同士の関係を構築することが必要である。子どものリーダー研修を企画してもよい。	
		□学校運営協議会2年目としての土台の構築 △学校応援団の充実と活用 ▽小中・小小・保幼小の連携充実	□学校運営協議会について、教職員間で熟議を行い、学校運営協議会委員に熟議の様子をVTR視聴していただいた。 △図書ボランティアの方々には、図書整理や掲示物の作成、また、PTA、地域のボランティア皆様による登下校の見守りをいただいた。 ▽月1回の小中連携教務会議により、行事等の企画運営、確認を行った。小中交流会等を行うことができた。	B B	・子ども同士の関係を深めるためには、親同士の関係を構築する必要がある。学校だけではなく、地域でも家庭同士の絆を深めていく取組をしていきたい。 ・登校指導に父親の協力者が増えつつある。学校・家庭・地域の三者が連携し、さらに挨拶のできる学校を目指していくことで、児童のあいさつに対する意識を変えることができる。	
教職員の資質向上	○〇管理職による授業参観と指導助言 ○中堅・ベテラン教諭の活用と校内研修の充実	○学力向上(研修)推進委員長を中心に、教員が一人一授業を公開することで、教員の授業力を向上させた。また、OJT研修を推奨し、実践を積み重ねながら研修する体制を整えた。 ○コロナ禍でも、オンライン等で他校研究発表会等に参加させることを行い、指導力を向上させた。	A	・魅力のある教員に出会い、充実した学校生活を児童は送っている。		
	□倫理確立委員会等による服務規程の指導と徹底	□倫理確立委員会を中心に、教職員事故防止に関する研修を実施した。教育公務員の自覚と責任を持たせることができた。	B	・教職員一人一人が授業力をさらに向上させるために研修を重ねることで、児童にとって魅力のある教職員、学校となり、児童の学力向上にも成果があらわれる。 ・あいさつ運動を正門のみではなく、他の門でも行うことで、全児童の朝の様子を見るとよい。児童と教職員の関係が深まる。		
施設・設備等の管理	○効果的・計画的な施設設備の修繕	○毎月の安全点検を確実に実施することで、大きな事故になる前に各所修繕することができた。 ○地震による北校舎天井修繕や体育館脇の塀、校内放送、照明設備等児童の安全確保のための修繕を計画的に実施した。	B	・予算には限りがあるが、計画的に早く修繕を行うことで、児童にとっても教職員にとっても安心安全な学校となる。事故があつてからでは遅いので、修繕は迅速におこなってほしい。		
	□落ちついたきれいな学校環境づくり	□全学年で黙働清掃に取り組んでいる。定着しつつあり、児童は集中して清掃している。	A	・年数を重ねている学校であるが、しっかりと清掃を行っているので、校舎内はきれいだである。きれいな学校が、落ち着いた雰囲気を作り出す。 ・		

令和4年度 学校評価のまとめ（学校別）					
学校名	領 域	学 校（幼 稚 園） 自 己 評 価			学校（幼稚園）関係者評価（抜粋）
		年 度 目 標	年 度 評 価		
		重点目標	重点目標の達成状況	達成度	
桜町小	組織運営	○分掌業務を主任一人で遂行することのないよう、業務が特定の教員に偏らないようにする。 □各教員が主となる立場で職務を遂行することにより学校運営参画意識を高める。	○年度当初の分担に沿って、組織的に複数対応を原則として業務を遂行することができた。 □各担当が全体へ提案する前に管理職に相談に来ることが定着してきて、学校運営が円滑に行えるようになってきた。	A B	・チーム桜町小として各位の取組の連携が大きな成果となったと思います。おめでとうございます。各位、皆さんのご努力です。 ・子供達が多様化していく中で、先生も大変だと思います。理想は、一クラスに2人担任の先生がいるとよいと思っています。 ・個人的資質の向上はもとより、組織的な職務の連携による業務充実は望ましい。 ・「教師は授業で勝負」という校長先生の言葉が印象的であり、また期待している。そのための改善策を様々に講じられていてとてもよいと思う。 ・
	教育課程	○仲間と協働して、自ら課題を見つけたり、課題を解決したり、新たな考えを生み出したりする力を育成していく。 □運動好きな児童を育成する。	○ペアや少人数での対話の機会を意図的に設定する授業が増え、自分の考えを深めたり、新たな考えを生み出したりする学びが増えた。 □新体力テストの結果から、昨年度から伸びが見られ、総合的に見て市、県の平均を超えた。	A B	・国算で5・6年生の県市正答率が大きく上回ったとの結果、先生方の努力の成果でもあると確信します。益々のチャレンジに期待します。 ・教える技術が素晴らしい先生がいるので、是非共有していただきたい。川口市の大きな財産である。 ・桜町小は伝統的に体力で悩んできたと思います。総合的に見て、市・県の平均を超えたとのこと。積み重ねてきたものが、実を結んできたということでしょう。 ・学力、体力のレベルの向上が認められ、全体の参加意識の継続充実が望ましい。
	開かれた学校づくり	○学校運営協議会による学校経営・運営の推進と、学校応援団、自治会長、民生委員、PTAとの連携により、地域の教育力を学校に取り入れていく。	○学校運営協議会を当初の計画通り、年3回開催し、学校経営方針に則った本校の教育活動についてご理解いただき、お褒めの言葉とご助言をいただくことができた。 ○学校だより、HPに教育活動を紹介したことで、児童、保護者、地域の方々に話題にいただき、つながることができた。	A	・紙物の「桜町小だより」はよい情報源になっている。 ・地域の力も大いに利用できることはよいことである。 ・学校HPの学校ブログの更新が頻繁にされていて、まさに「開かれた明るい学校」という印象がもてる。子供たちや先生方の活気あふれる様子も伝わってくるので是非続けて欲しい。 ・コロナ禍に伴い、HPなどの活用が多くなったと思います。今後「開かれた学校⇄学校・児童の安全」難しい問題です。 ・校長先生はじめ、諸先生方、皆様によくしていただいています。限られた時間の中での学校公開も、とても意義があると感じています。 ・
	教職員の資質向上	○授業づくりについて、学び合える教職員集団を構築して授業力を向上する。	○感染症対策からオンラインの授業公開の学校が多かったが、可能な範囲で足を運んで学ぶことができた。 ○職員室でも、授業や児童の変容について話す姿が多く見られ、学期を追うごとに互いに学び合う姿も増えた。	A	・先生各位の初志貫徹を。 ・時代の変化、児童の変容に対応した授業構築について関心育成は重要である。 ・毎週発行の学級通信からも、担任の先生方の思いや指導方針などが伝わってきており感謝している。 ・組織運営と資質の向上。教職員の心身の健康が心配です。 ・現状でも満足しているが、さらに「どの子どもも学ぶ楽しさを実感できる」ことに向けて取り組まれるとのこと。感謝と共にとても期待している。 ・保護者としてできることはどんどんやっていきたいと考えている。 ・先生の数を増やし、日々忙しい中にも振り返ったり、技術を確認したりといった時間が先生達に与えられるべきだと思います。
	施設・設備等の管理	○児童の安心・安全な学び舎として、計画的な修繕・整備を行う。	○教頭を中心に、劣化した遊具の撤去、校舎内電気の順次LED化など、関係教員と連携を図り、環境整備を進められた。 ○職員室を中心に、プール、北校舎をインターフォンでつなぐことができた。 ○PTAと連携し、緑化環境整備ができた。 ○教材費の振込徴収化は、会計事故防止、業務負担軽減の点で大きな成果を上げた。	A	・学校施設の老朽化、現状につき、市教育委員会宛にPTA/桜町小地区自治会が共同で働きかけを行う。（安心・安全の確保とその予算、働きかけの継続） ・少ない予算の中で一つ一つ数も吟味され、購入、管理されていると感じます。体育館の補修は、市の予算だと思います。安全面にも関わることなので、ご配慮いただきたいと思います。 ・設備の充実、環境整備充実は業務の励みになるので、継続的に進めることがよい。 ・全体を通して「学校自己評価」に賛同する。来年度は、校内清掃の活動を増やすなど、学校にとってもより有意義なPTA活動になるようにしていきたいと考えている。

令和4年度 学校評価のまとめ（学校別）					
学校名	領 域	学 校（幼 稚 園） 自 己 評 価			学校（幼稚園）関係者評価（抜粋）
		年 度 目 標	年 度 評 価		
		重点目標	重点目標の達成状況	達成度	
南鳩ヶ谷小	組織運営	○校務分掌組織の一層の活性化と教職員が学校経営参画意識を強く持ち、各活動を見直し、効率化を進める。 □学年のつながり、各学年のつながりを強固なものとする。	○校長の示す目指す学校像について、全教職員が意識して学校教育に取り組むことができた。教職員学校自己評価100% □学年主任が中心になって、学校行事や生徒指導等を組織的に取り組むことができた。学年主任にミドルリーダーの自覚と意識を高めることができた。	A A	・限られた少ない職員の中でそれぞれ役割分担され、うまく運営に取り組んでいる。 ・校長はじめ教職員が同じ方向性であることは望ましく素晴らしいことと思う。保護者や地域に事前の連絡・周知・理解が課題だと思う。 ・教職員各自が高い意識をもち実践できたと考える。今後も可能範囲で次年度課題への取り組みを期待している。 ・半数以上、教職員が入れ替わった令和4年度。運動会、周年行事、研究発表会の取組み等、校長・教頭を中心として良く動いてくださった。
		○1日1回以上タブレット端末を児童が使う場面を設定する。 □全教職員が自信をもって、タブレット端末を使えるようにする。	○授業でのタブレット端末の活用が日常化してきた。 □積極的に活用する職員が増えた。ミライシードの有効な使い方を職員同士で教え合っていた。	B B	・教室のテレビモニタが小さくて見えにくいので、スクリーンに映し出すなどの工夫があっても良い。 ・タブレット活用はもはや日常となったが、使用方法は課題である。先生方とスキルアップも市教委から支援していただきたい。 ・タブレットの利点を活かしたりリモート授業を実践できたのは素晴らしく思えた。今後も職員のスキルアップが継続的に必要となることから、教員の過度の負担にならないよう次年度への改善策を期待している。 ・タブレット端末を使う際の家庭環境もさまざまだと思う。もう少し日常化していくのは時間がかかるのではと思う。
	開かれた学校づくり	○学校の取り組みを発信し、学校行事や学校応援団の活動に積極的に参加してもらい、魅力ある学校づくりを目指す。	○学校運営協議会では、学校の現状と課題を説明するとともに成果を丁寧に報告し、理解を得ることができた。 ○ホームページでは目標アクセス数に届かなかったが、学校行事や校外学習の様子や学校からのお知らせなどを適時発信することができた。保護者アンケート93%達成	B	・運動会の行事などでも感染対策を実施しながら、状況に合わせて観覧者を入れており、十分に取り組んでいる。 ・3年もの間来校に制限がありましたが、来年度は通常に戻るのを期待する。 ・コロナ渦になって新たな発見もできた。前例踏襲とならず、新たな過度の負担とならない次のステージを期待している。 ・コロナ渦と言うことはわかるが、もう少し地位教職者の方々に気配りが必要であるのではと思うところがある。 ・ホームページの目標アクセス数が伸びると良い。
	教職員の資質向上	○教育公務員としての意識の高揚を図り、使命感と情熱を持ち、常に学び続ける魅力ある教職員を育成する。	○国語・特別活動を研究主題として、全教職員で授業の工夫改善に取り組んできた。授業力の向上・教職員学校評価100% 保護者アンケート95%	A	・職員数が少なく、授業以外の業務もあり、毎日多忙な日々を送られている。ライフワークバランスをしっかりと考え、無理なく仕事に取り組んで欲しい。 ・若手教職員が多い中、倫理観のズレを感じます。公私の区別、学校を出ても近隣学区内では、子どもや保護者の目があることを自覚すべき。 ・保護者アンケートの結果からも実践できたとと思う。 ・教職員の人数が足りないのではと思います。が、その様な中でも良く取り組んでいると思う。 ・研究授業に取り組み一丸となり授業力が向上したのは、若手教員にもいい刺激だと思います。
施設・設備等の管理		○児童の安全を第一に施設・設備の点検及び修繕を行うとともに、施設環境の整備に努める。 □感染症防止対策に努める。	○毎月の安全点検と全教職員による日常点検と即時修繕及び業者への依頼対応ができた。 □最新の情報を教職員にも知らせ、共有化を図り、臨機応変かつ継続的な感染対策の徹底を行った。	A A	・老朽化仕方ないことなので、安全管理に優先順を考えて、少しずつ改修してほしい。 ・施設設備においては、町会長や学区内市議にも協力を願い、市への継続的な嘆願が必須です。 ・築数年から対応する箇所は必然的に多くなると予想される。今後も施設管理に留意し、安全確保を期待している。 ・校舎は古いですが、校務員さんが清潔に保っていたい。トイレの改修工事が早く進むことを願います。 ・プール、更衣室、トイレ等改修を考えていただきたい。

令和4年度 学校評価のまとめ（学校別）

学校名	領 域	学 校（幼 稚 園） 自 己 評 価			学校（幼稚園）関係者評価（抜粋）
		年 度 目 標	年 度 評 価		
		重点目標	重点目標の達成状況	達成度	
東中	組織運営	○生徒との関わりを深め、不登校解消、学力向上を目指す □埼玉県学力学習状況の伸び率 2 以上を達成する。	○不登校数が昨年度より、若干増加してしまった。 □埼玉県学力学習状況調査の伸び率 2 は達成した。	B A	・書初めを各学年で指導したが、とても落ち着いた雰囲気だった。毎年行っているが、今年が 1 番落ち着いていた。校内はとても平和である。 ・学力向上は課題だが、この地区は複雑な家庭も多い。 ・
	教育課程	○「確かな学力の育成」～学ぶ意欲の向上、一人一人を伸ばす授業の実現～を実現。 □充実した教育相談体制の確立する。	○計画的・組織的に研修を実施することができた。 □様々な視点から、不登校生徒の支援にあたった。	B C	・タブレットを有効に活用してほしい。 ・コロナ禍が落ち着きをみて民生委員連絡協議会をもってもらえれば不登校対策に協力できる。 ・
	開かれた学校づくり	○それぞれの活用方法を研究する。 □定期的・計画的な小中連携の実施	○情報発信は、昨年度と比較し、発信する方法が増えた。 □定期的に生徒指導では連携が図れた。生徒会も一部、交流が実施できた。	B B	・特になし。 ・特になし。 ・
	教職員の資質向上	○校内研修棟で、研究できる時間を確保する。 □生徒・保護者・地域から信頼される教職員集団を形成する。	○生徒が主体的に学びに向かう必要性は理解できた。 □教職員事故を起こさないという自覚は出てきている。	B B	・先生方が、よく取り組んでいる。 ・特になし。 ・
	施設・設備等の管理	○生徒が安全・安心して活動できるよう教育環境を整備。 □平常時における避難場所としての機能が十分発揮できる施設にする。	○安全点検により、危険箇所や破損箇所を早期に修繕できた。 □避難所開設マニュアル等の見直しを行った。	A B	・地域の危険な箇所の安全確保に学校も協力してほしい。 ・特になし。 ・

令和4年度 学校評価のまとめ（学校別）					
学校名	領 域	学 校（幼 稚 園） 自 己 評 価			学校（幼稚園）関係者評価（抜粋）
		年 度 目 標	年 度 評 価		
		重点目標	重点目標の達成状況	達成度	
西中	組織運営	○①本年度作成した「西中学校業務改善スタンダード」の8つの方策を教職員と共通理解を図り、確実に実践する。 <			

令和4年度 学校評価のまとめ（学校別）

学校名	領 域	学 校（幼 稚 園） 自 己 評 価			学校（幼稚園）関係者評価（抜粋）
		年 度 目 標	年 度 評 価		
		重点目標	重点目標の達成状況	達成度	
	施設・設備等の管理	○①学校は安全で安心できるところでなければならないことから、施設に関する学校事故ゼロを維持する。 □②配当された予算により、優先順位を考慮し、計画的に修繕・修理を行い、施設・設備を積極的に整備し、教育環境を整える。	○①－ア 定期・日常・臨時の安全点検を実施し、修繕個所の早期発見・早期修繕を行うことができた。 ①－イ 避難訓練を実施することにより、職員の危機管理意識と生徒や職員の安全確保に関する意識が高まった。 □②－ア 教頭及び事務職員と連携を図り、配当予算を計画的、適切に執行した。 ②－イ 教室棟東側階段のガラスの全面改修が決まった。	A A .	・修繕費の増額が必要なのではないか。 ・修繕費用の確保は大変だと思いますが、限られた予算の中で効率的に活用してほしい ・不審者の事件について、日頃の施錠の見直し等、考える必要があると思います。開かれた学校も大事だが、生徒・職員の安全を第一に考えていただきたい。 .
南中	組織運営	○目指す学校像に据えた、「誰一人取り残さない」という意識を常に持ち、生徒一人一人に最適な支援を行う。	○「誰一人取り残さない」を合い言葉に、共通理解、共通行動のもと学校全体が向上出来る雰囲気をつくることができた。	A . .	・生徒一人一人への手立てが行えることで、より生徒が生き生きと過ごせる学校となる。 . .
	教育課程	○市教委委嘱「学校間連携教育」の本発表に向け、一丸となって取り組む。	○市教委委嘱「学校間連携教育」の本発表を行い、「受容」と「発信」の能力を向上させることができた。	A . .	・「受容」と「発信」は生活の中で必要なコミュニケーション力だと思う。家庭や地域で行えることはないか考えたい。 . .
	開かれた学校づくり	○コミュニティースクールとしての活動を充実させるとともに、学校の教育活動を外部へ積極的に発信する。	○校則検討委員会に P T A や学校運営協議会委員に参加いただき、より良い学校にする為に議論する事ができた。また、毎日の学校の様子をホームページで公開し、閲覧数も飛躍的に向上させる事ができた。	A . .	・校則検討委員会に参加することで、直接生徒と対話する事ができた。今後もこのような活動を増やしてほしい。 . .
	教職員の資質向上	○教員の「働き方改革」を断行し、生徒に常に笑顔で向き合える教員集団を構築する。	○「働き方改革」の意識は全職員に広がり、時間外勤務を大幅に減らす事ができた。	B . .	・世間では先生の働き過ぎの環境について取り上げられているが、南中学校の先生方も働き過ぎのところがあつたと思う。これを機会に改善するようにしてほしい。 . .
	施設・設備等の管理	○教員目線での安全点検の改善に加え、生徒自身による安全点検を定期的に実施し、生徒自身の安全意識の向上を図る。	○教員による点検の他、生徒による点検を行い、生徒が学校安全に関わり、安全意識を高めることができた。	B . .	・生徒の目線と先生の目線では違うことがあるだろう。多様な視点で安全を高める取組が、結果生徒の安全を高めるのだろう。 . .

令和4年度 学校評価のまとめ（学校別）					
学校名	領 域	学 校（幼 稚 園） 自 己 評 価			学校（幼稚園）関係者評価（抜粋）
		年 度 目 標	年 度 評 価		
		重点目標	重点目標の達成状況	達成度	
北中	組織運営	○校務分掌の相互連携を充実させ効果的組織機能の向上。 □学校改革による教職員の学校運営参画意識の向上。 △学校評価の項目の継続的改善。	○校務分掌の相互連携を充実が図られ実行力のある学校組織が構築された。 □「学びの共同体の構想と実践」の推進により教職員の学校経営への参画意識及び同僚性の醸成が図られた。 △評価項目と実施方法の改善を行い、実態に即した学校評価が実施できた。	A B A	・教員が組織として教育課題の解決に取り組んでいる姿勢が良い。 ・規律と潤いのある学校生活が構築されている。 ・教職員の漸進的な負担軽減策を継続して、より生徒と一緒に活動する時間の確保に努めて欲しい。 ・学校評価の項目の精選は良い。
	教育課程	○「学びの共同体」の実践により探求と協同の学びを深め、生徒一人一人の学びの質を向上させる。 □「学びの共同体」の構成と実践を柱とした教育課程を推進し全ての生徒の学びを支援する。 △小中連携した教育課程の構築	○1世紀型授業形態が推進され生徒の学びの質が確実に向上した。 □「学びの共同体」の構成と実践を柱とした学校改革が確実に推進された。 △中・長期なスパンでの継続可能な教育活動の初期段階が実施できた。	A B B	・引き続き学校からの働きかけにより、家庭学習の必要性を家庭に訴えてほしい。 ・継続して小中連携した教育活動を推進し段階的にできることから確実に実施して学力向上等に繋げてほしい。 ・教育指導計画の柔軟な対応により確実に教育活動が実施されている。
	開かれた学校づくり	○「学びの共同体」の構想と実践による学校改革を推進し、保護者や地域が改革に参加する学習参加の実践を推進する。 □「学びの共同体」の構想と実践を柱とした学校・家庭・地域の連携を強化する。	○「学びの共同体」を柱とした学校改革が推進され、保護者や地域が改革に参加するというビジョンを地域・保護者に周知できた。公開授業も予定通り実施することができた。周知から実践に適宜移行していくことが課題である。 □学びの共同体を柱に中学校ブロックを単位とした北中学校区の小学校と公開研究会を計画的に実施できた。さらに推進充実が課題。	B B	・コロナ禍に応じた地域と連携した教育活動が充実され、生徒の顔が見える学校づくりが成果を上げている。 ・ホームページや臨時学校便り等適宜情報発信がされ、学校の教育活動が適時わかりやすく知ることができた。 ・
	教職員の資質向上	○学校研究主題を「学びの共同体の構想と実践」として、生徒がより「学びを深める」ための「創造性」「探求」「協同」を追求 □教育公務員としての使命を自覚し、教育のプロとしての誇りを持って日々の教育活動に取り組ませ、教職員の資質の向上を実現する。（教職員事故ゼロ）	○「学びの共同体の構成と実践」を柱に生徒の学びを深めるための「創造性」「探求」「協同」をキーワードとした教育活動が着実に実践し指導力が向上した。 □教職員事故ゼロを目指した課題別研修を適宜適切に実施でき教育公務員としての意識が醸成された。	B A	・生徒に寄り添う実態に応じた教育活動が随所にみられ、教職員相互の支援体制の充実が伺える。是非継続してほしい。 ・目先の結果を追うだけでなく、生涯学習の礎となるような授業改善を推進して欲しい。 ・
	施設・設備等の管理	○ユニバーサルデザインに配慮 した人にやさしい教育環境の整備を推進して安全管理を徹底する。 □学校施設を有効活用しての幅広い教育活動を実践する。	○中・長期的環境整備計画であった渡り廊下の耐震工事・昇降口の大型修繕が無事終了し安全で優しい教育環境づくりが推進し効果的に施設活用した教育活動が実践された。 □新型コロナウイルス感染拡大防止に向けた施設・設備の安全管理を徹底し生徒の安心安全な学校生活が推進された。 □	A A	・ユニバーサルデザインを意識した学校内外の改修や特別教室の整備など、生徒に優しい教育環境に発展している。特に、校内掲示及び図書館の整備は目を見張る充実ぶりである。 ・学校の新型コロナウイルス感染拡大防止に向けた施設・設備の安全管理の徹底が伺えた。継続充実を図ってほしい。 ・

令和4年度 学校評価のまとめ（学校別）					
学校名	領 域	学 校（幼 稚 園） 自 己 評 価			学校（幼稚園）関係者評価（抜粋）
		年 度 目 標	年 度 評 価		
		重点目標	重点目標の達成状況	達成度	
青木中	組織運営	○不登校生徒解消のため道徳教育、特別活動の推進を全校体制で組織的に取り組む。各分掌組織の連携を密にし、「ハートフル青中」の取組をより一層推進する。	○コロナ禍安心安全に配慮し、保護者参観のもと学校行事等を実施できた。道徳、特活の推進を全校体制で組織的に取り組み、不登校生徒解消に向け支援率100%を達成した。分掌間の連携を密にし、ICTの積極的な活用を進めた。	A	・支援率100%を達成できたことは素晴らしい。担任一人で抱えるのでなく、引き続き教育相談部会や教育相談室等、学校全体で対応して欲しい。 ・コロナ禍対応だけでなく、不登校生徒の学習支援としてタブレットを活用したオンライン授業を続けて欲しい。 ・
	教育課程	○全ての生徒の学力向上を推進するために、対話があり、わかる、できる、伸びる授業を進める。デジタルの青木中として、PCタブレットの活用を更に進める。	○・学力は大きく伸びており、3年生の学力レベルは県・市を上回っている。 ・PCタブレットを積極的に活用し、わかるできる伸びるを実感する授業を実現し、学力向上を進めた。	A	・今後も学力向上に対して、家庭や地域と連携をしながら、全教職員で取り組んで欲しい。 ・ ・
	開かれた学校づくり	○・学校運営協議会による連携・協働の充実を図る。 ・学校HPや保護者メールの活用を進め、地域目線で学校からの発信を更に充実する。	○・学校運営協議会を核として学校と地域の共通理解を図ることで、情報発信を積極的に行うなど保護者との連携を一層強化し、信頼関係を構築した。 ・男女混合名簿や制服見直しを進めることができた。	A	・不登校生徒とその保護者を支援するために、外部機関との連携が図れるよう学校運営協議会としても支援していきたい ・コロナ禍による学習環境を検討し、保護者負担金が増えることがないように、効果的な教育環境の整備を進めて欲しい。 ・
	教職員の資質向上	○管理職のリーダーシップのもと、ベテラン教員の指導力を若手教員へ継承させ、学校全体の指導力を向上させる。	○・学校運営参画意識を高め、教員の意欲や特徴に応じて仕事を割り当て経験を積みせながら、学校全体の指導力を高めている。 ・教職員事故絶無と働き方改革に向けて、丁寧に一人一人とコミュニケーションを図り意識の高揚を図った。	A	・部活動の地域移行について、市教育委員会の指導のもと、近隣小中学校と連携しながら子供たちの混乱なく進めることはもちろん、教職員の働き方改革を含めて対応していただきたい。 ・ ・
	施設・設備等の管理	○・司書教諭、学校図書館司書を中心に生徒が足を運びたい図書運営を目指す。 ・校務PCの活用を推進し、ペーパーレス化の促進、費用対効果のある予算執行を行う。	○・図書館運営を司書教諭等と積極的に進め、来館者を増やした。 ・A棟の3Fエアコンの改修とトイレ改修を終えた。次年度B棟トイレ改修を含めて、市教委と連携を図りながら計画的に進める。	A	・生徒用トイレが大変きれいで、機能的に使えるように改修されている。今後も計画的に修繕等を進めて欲しい。 ・ ・

令和4年度 学校評価のまとめ（学校別）					
学校名	領 域	学 校（幼 稚 園） 自 己 評 価			学校（幼稚園）関係者評価（抜粋）
		年 度 目 標	年 度 評 価		
		重点目標	重点目標の達成状況	達成度	
芝中	組織運営	○当事者意識の醸成 ○ミドルリーダーの育成 ○地域で子どもを育てる意識の醸成 ○ハラスメントゼロ ○働き方改革の推進	○①コロナ禍の中でもニューノーマルな取り組みができるよう、ミドルリーダーを中心に新規提案・実践をさせることができた。 ②コロナ禍の中であることから地域との協働場面の設定は叶わなかった。 ③校長だより等を通じてハラスメントゼロに向けた啓発を行い、ハラスメントゼロを実現した ④校長だよりを通じて、業務改善スタンダードが形骸化しないよう意識化を図った。その結果、時間外在校時間の減少につながってきている。	B	・ハラスメントゼロや教職員の時間外在校時間の減少は良かった点です。継続また更なる取り組みを願う。 ・コロナ禍後には地域との協働を多く望む ・努力されていると思います。 ・次年度の活動も期待しております。引き続きよろしく願ひいたします。
	教育課程	○主体的、対話的で深い学びの視点による授業改善 ○教科横断的な学習の推進	○①各教科において、見通しと振り返りを意識した授業を行うことができた。また、どの教科も対話的な活動を意図的に設定し、深い学びに繋げるよう工夫をした。 ②全教科に渡り単元配列表を作成し、防災の視点から見る教科指導の場面を設定した。全教科とも令和4年度、令和5年度のいずれかで研究授業を行い、川口市教育委員会指導主事にご指導をいただきながら研究を進める。	A	・各教科において対話的な活動を設定したことはよかった点です。 ・防災教育はとても素晴らしい。地域と協働しこれからも継続してやっていてもらいたい。 ・子どもたちが真剣に集中して授業を受けている姿が見られます。 ・次年度の活動も期待いたします。
	開かれた学校づくり	○教育活動の積極的な発信 ○地域の力の活用（学校） ○生徒の力の活用（地域）	○①学校HPを通じて最新の情報や日々の教育活動の様子を発信することができた。HPの平均アクセス数が多いことから、edumap大賞特別賞をいただくことができた。 ②PTAの協力により学校行事の運営をスムーズに行うことができた。3月には地域と連携した防災サミットを開催する予定である。 ③吹奏楽部が町会の文化祭に参加し、町会の皆様に演奏を披露することができた。	B	・HPを通じて学校の情報や教育活動の様子がほぼリアルタイムで分かりとても良かった。 ・生徒の力を地域に還元はいいことなのでHPの運用も含めて更に進めてもらいたい ・HPが見やすいし親しみやすい。 ・次年度の活動も期待いたします。
	教職員の資質向上	○服務規律の確立 ○専門性の向上 ○個に応じたスキルアップ	○①倫理確立委員会を実施するとともに、校長だよりを通じて服務規律遵守の意識向上を図ることができた。 ②授業のない時間等を使い、他教員の授業を参観したり、全校道徳を実施することで師範授業を参観したりするなど、授業力向上に努めることができた。 ③自己評価シートや人材育成シートを活用し、教師の一人ひとりの課題や目標を把握し、授業観察を通して指導、助言を行うことができた。	B	・教職員の日頃の努力に感謝したい。働き方改革の推進もありますので、無理なくやっていてほしい。 ・教職員にもカウンセリングの時間があってもいいのでは。（実施していると回答） ・資質向上の意識が高く、努力されていると思います。 ・次年度の活動も期待いたします。
	施設・設備等の管理	○定期的な点検による事故防止 ○地域の防災拠点としての機能向上（スロープや他目的トイレの設置等）	○①教頭をはじめとする安全担当による安全点検を適宜実施するとともに、養護教諭や相談員、各学年職員により掲示物の充実を図ることができた。 ②3月には地域と連携した防災サミットを開催する予定であり、本校生徒会本部役員と町会の防災担当者との会議を実施する。その際、学校と地域それぞれができること、協働できることなどを協議する。	B	・一日2回以上の校内点検は良いことです。 ・防災サミットの開催を実施することで、より学校の設備や安全に対する意識が高まるのは良いことだと思います。 ・細かい点検、修理をしてきれいに保たれていると思いますが、地域の防災拠点になるには更なる改善が必要かなと思います。 ・

令和4年度 学校評価のまとめ（学校別）					
学校名	領 域	学 校（幼 稚 園） 自 己 評 価			学校（幼稚園）関係者評価（抜粋）
		年 度 目 標	年 度 評 価		
		重点目標	重点目標の達成状況	達成度	
元郷中	組織運営	○全教職員が働きがいを感じ、自己の職務を理解し、職責を全うする一年にする。	○教職員の働きがいにおいては、9 7 %であった。年度当初の面談を丁寧に行い、一年間の職務について確認できたことは成果があった。 △一年間キーワードを活用できたことは、共通理解、共通行動につながり、成果があった。	A A	・生徒と教師の関係がよいのではないかと。 ・教職員と運営責任者の距離が近く、意思決定はしやすいと感じる。 ・伝統的校風を守ること大切だが、新しいことを積極的に取り入れていくことも重要である。 ・引き続き教職員の働きがいを高めていただきたい。
	教育課程	○主体的・対話的で深い学びの授業実践を行いながら、学力の定着を図る。	○アクションリサーチの活用が十分行われたこともあり、授業改善につながった。 △授業の振り返りシートの活用は進まなかった。活用方法を工夫する必要がある。	A C	・学習の定着は生徒自身の問題ではあるが、印象に残る授業を展開すれば、生徒たちの学習意欲も上がると思う。 ・いろいろな評価シートを集めつつも、生徒にとって負担になり過ぎないようにしてほしい。 ・部活動の指導の中でも主体性につながっている指導はある。
	開かれた学校づくり	○保護者間の横の繋がりをづくり、安心して子供の成長を見守ることができるような学校と家庭の関係を構築する。 △地域の活動に少しでも参加できる生徒を増やす。	○感染状況を見ながらの取り組みであったため、十分できたとは言えない。諦めずに次年度にもチャレンジする。 △町会長様からの情報提供がスムーズであったため、十分な情報提供ができた。	B A	・町会の行事は実施していきたい。 ・P T Aの皆さんと生徒の部活動の交流を増やしていく。 ・学校行事等で地域の方々に学校を知っていただく機会を増やしていくことが求められる。 ・コロナ禍という言葉が状況的に都合良く活動抑制に利用しているところもあり、コミュニティ活動の欠落が心配である。
		教職員の資質向上	○教職員が想像力を持ち、何事においても、相手や周囲の方の思いを組めるような人材育成に努める。	○教職員のコミュニケーション力は高まってきている。意識の変化が1 0 0 %見られ、今後の職場環境も大切にしていきたい。	A
	施設・設備等の管理	○安全の保障された教育環境を整備する。 △室内の学習環境を整備し、効果的な機器の活用を行う。	○教育総務課と相談をしながら、適切に進め、安心安全な環境づくりになっている。 △学習環境も整備された。教員の気苦労も減り、効果的に活用できている。 △	A A	・生徒、教職員が安全に学校生活を送ることができるよう、優先順位を決めて、修繕を進めてほしい。 ・防災面でも地震等から身を守るための対策を整備すると尚良い。

令和4年度 学校評価のまとめ（学校別）					
学校名	領 域	学 校（幼 稚 園） 自 己 評 価			学校（幼稚園）関係者評価（抜粋）
		年 度 目 標	年 度 評 価		
		重点目標	重点目標の達成状況	達成度	
上青木中	組織運営	○①「凡事徹底」～当たり前のことが当たり前にできる生徒・学校・教職員～を実践する。	○①学年主任、分掌主任を中心に全教職員が共通理解の下、創意工夫しながら、一致団結して教育活動を展開することができた。	A	○ベテラン教師が若手教師をしっかりと育成していただきたい。 ○来年度部活動に加入しない生徒の生徒指導上の問題が起こらないようにしてほしい。
		□②「すべては子どものために」を重点とした教育を実践し、生徒・保護者・地域から信頼される学校経営を行う。	□②コロナ禍ではあったが、学校行事等には、保護者の協力を得ながら実施できた。学校評価アンケートでは、どの項目も肯定的な回答が80%を超えることができた。	A	・ ・
	教育課程	○①基礎基本の着実な定着と学級経営を中心とした学力の向上を徹底する。	○①基礎学力教室と補習教室は計画的・継続的に実施できた。朝自習も落ち着いた雰囲気の中で各学年の実態に応じた取組ができた。	B	○不登校対策として、上青木中で行っているステップルームの運用を今後も継続し、不登校生徒解消に向けて、がんばってほしい。 ○民生委員で見守り、毎週家庭訪問をしている人もいる。民生委員と不登校生徒の情報共有をしてほしい。
		□②特別支援学級と連携を図った年間指導計画・行事計画の策定と改善を実施する。	□②通常学級と特別支援学級との交流は、体育祭などの行事において進められ、当初の予定通り実施できた。	B	・ ・
	開かれた学校づくり	○①学校の情報の積極的な配信を実現する。	○①HPの更新の頻度を上げることができた。学校運営協議会委員を学校行事等に招き、学校経営の現状を知っていただくことができた。	B	○新型コロナウイルス感染症も落ち着きつつある。来年度は、コロナ前のような地域との連携をお願いしたい。
	□②地域の行事等への学校からの積極的な参加を展開する。	□②職員も生徒もJRC活動への意識が高揚し、募金活動や挨拶運動等生徒会中心に意欲的に活動を展開できた。	B	・ ・	
	教職員の資質向上	○①定期的な職員研修を実施（事故防止、学力向上に重点）する。	○①計画通りに研修を実施することができた。特に、全国や県の学力調査を分析し、課題を共有することで、課題解決に向けて授業を実践した。	A	○ICT活用事例を学校で共有し、ICTを効果的に活用してほしい。
		□②指導主事等の指導者の指導を受けながら、教員の授業力を向上させる。。	□②学校訪問等の授業研究では、学力向上の研究の成果を生かした授業を展開し、教員の授業力を向上させることができた。	B	・ ・
	施設・設備等の管理	○①教育環境の整備充実を図るとともに安心・安全な学校環境作りを実現する。	○①校舎内外の環境美化を徹底できた。また地域住民のボランティアにより、樹木の剪定や除草作業を行うことができた。	A	○修繕箇所を把握し、生徒の安全を考えて、積極的に直してほしい。 ○トイレの改修は早い時期に必要ではないか。
		□②効果的な予算配分と会計監査を徹底する。	□②学期に1回、会計監査を確実に行ったことにより、適切に執行させることができた。	A	・ ・

令和4年度 学校評価のまとめ（学校別）

学校名	領 域	学 校（幼 稚 園） 自 己 評 価			学校（幼稚園）関係者評価（抜粋）
		年 度 目 標	年 度 評 価		
		重点目標	重点目標の達成状況	達成度	
幸並中	組織運営	○各分掌等主任層の教員の資質向上を図る。 □生徒理解に基づく積極的な生徒指導を目指す。	○研修等を通じて、学年主任や各分掌等主任を育成した。 □校長講話、学校だより等で、生活信条の具現化を行った。 不登校・いじめ対策に組織的・計画的に取り組むことができた。	A B	・不登校の対応は本当に難しいと思う。頑張っほしい。 ・引き続き不登校・いじめに対する配慮をお願いしたい。 ・(全体を通して)各教職員が一つ一つの目標に真剣に取り組んでいると感じる。 ・不登校への対応は時間がかかり大変だと思う。粘り強く対応することが重要と感じる。
	教育課程	○タブレット活用の検証を行い、積極的活用を継続する。 □自習教室やサマースクールを充実させる。	○校内研修等を通して授業改善を行った。 □日本語指導担当教師とアシスタントティーチャーが計画的、組織的な指導を実践した。	B A	・言語を使ってコミュニケーションは取れるのか。話せる教員も必要なのでは。 ・タブレット活用は間違いなく効果がある。保護者からの意見でタブレットで授業中遊んでいる旨意見があった。機能的なサイト閲覧制限はもちろん大事だが、本人に閲覧制限させるのは親の責任だと思う。 ・外国籍生徒の割合が他校に比べ多いと考えられるが、十分に指導できていると感じている。
	開かれた学校づくり	○学校ＨＰ等の積極的活用 □地域諸団体のスポーツ活動や文化活動の相互の取り組み	○学校ＨＰの定期的な更新で積極的に情報提供することができた。 □感染症対策下において、地域とのつながりを深めることができなかった。	B C	・SNSの活用もお願いしたい。 ・学校HPの更新については、保護者の知りたい情報(特に緊急情報)を迅速に掲載されるようお願いしたい。また、学校ブログは担当教職員の負担にならないようできるだけシンプルにお願いしたい。 ・学校評価の保護者評価より、HPの更新や内容についての要望が多々有り、期待の大きさを感じた。
	教職員の資質向上	○教員のニーズによる実践的・効果的な研修を実施する。 □様々な研修への積極的参加	○指導課訪問の機会や校内研修を活用し、取り組むことができた。 □指導主事等を要請し、資質向上を行った。	B A	・今後も効果的な研修をお願いしたい。 ・資質向上は非常に重要であるが、日頃頑張られている教員が「なんでも屋」にならないよう、引き続き労働環境への配慮をお願いしたい。 ・保護者評価で「お子さんを幸並中に入学させて良かった」が96%の評価をされていて、先生方の評価につながっていると思う。
	施設・設備等の管理	○日常の校内巡視と、定期の安全点検を実施する □保護者等外部監査機能を導入する	○日々の校内巡視、定期安全点検により、設備の迅速な点検と改善を行うことができた。 □保護者等外部監査も行い複数で確認、見届けた。	A A	・長く保たれる使い方をお願いしたい。 ・引き続きお願いしたい。 ・学校評価の教職員評価より、安全点検が適切に行われていたと考える。

[illegible]

令和4年度 学校評価のまとめ（学校別）

学校名	領 域	学 校（幼 稚 園） 自 己 評 価			学校（幼稚園）関係者評価（抜粋）
		年 度 目 標	年 度 評 価		
		重点目標	重点目標の達成状況	達成度	
	教職員の資 質向上	○施設事故「ゼロ」に向けた安心・安全な学校内の施設設備 管理と計画的な修繕に関わる予算執行	○教頭による校内施設点検と教職員による定期的な安全点 検を進めたことで、日常の教育活動の安全安心が保たれた。 (施設事故0件) ・教頭事務と共に見通しを持ちながら効果的な予算執行がで きた。 ・会計監査により会計事故防止を強化し、実質会計事故件 数はゼロであった。	B	・災害があった場合の学校の役割は大きいので、体育館等の施設強化は必要だと思う。 ・新設された校舎がある一方で、古く老朽化している場所も見受けられるので、十分な点検と危 機管理マニュアルの見直し活用をして欲しい。 ・教職員だけの安全点検だけでなく、生徒達にも危険な箇所を発見した場合には、先生に報告 できるシステムを構築した方がよい素早い対応が可能となると思う。 ・校内の日常清掃・外来用下駄箱内のスリッパなど目に見えないところまで整理整頓されており 素晴らしい。 ・唯一、市役所通り側の歩道の一部がとても暗く危険なので街灯の設備の検討を願う。
	施設・設備等 の管理	○施設事故「ゼロ」に向けた安心・安全な学校内の施設設備 管理と計画的な修繕に関わる予算執行	○教頭による校内施設点検と教職員による定期的な安全点 検を進めたことで、日常の教育活動の安全安心が保たれた。 (施設事故0件) ・教頭事務と共に見通しを持ちながら効果的な予算執行がで きた。 ・会計監査により会計事故防止を強化し、実質会計事故件 数はゼロであった。	B	・災害があった場合の学校の役割は大きいので、体育館等の施設強化は必要だと思う。 ・新設された校舎がある一方で、古く老朽化している場所も見受けられるので、十分な点検と危 機管理マニュアルの見直し活用をして欲しい。 ・教職員だけの安全点検だけでなく、生徒達にも危険な箇所を発見した場合には、先生に報告 できるシステムを構築した方がよい素早い対応が可能となると思う。 ・校内の日常清掃・外来用下駄箱内のスリッパなど目に見えないところまで整理整頓されており 素晴らしい。 ・唯一、市役所通り側の歩道の一部がとても暗く危険なので街灯の設備の検討を願う。

令和4年度 学校評価のまとめ（学校別）

学校名	領 域	学 校（幼 稚 園） 自 己 評 価			学校（幼稚園）関係者評価（抜粋）
		年 度 目 標	年 度 評 価		
		重点目標	重点目標の達成状況	達成度	
仲町中	組織運営	○チーム仲町中のチームワーク向上と風通しのよい職場づくり	○教職員の大幅な入れ替えにより年度当初はやや混乱も見られたが、互いの意見を出し合い新しい組織がまとまり、風通しのよい職場づくりが実現できている	A	・教職員組織の結束、さらに教職員一人一人の資質向上に期待したい。 ・ ・
	教育課程	○効率的かつ効果的な教育課程の編成（コロナ前で行っていた教育活動の見直し）	○コロナ感染の状況を見定めながら大きなクラスターを発生することなく教育課程を実践することができた。また授業改善の研修に着手することができた。	B	・コロナ前の教育課程の編成にただ戻すのではなく、新しい価値観や教育効果など検討を重ね、時代に合った教育活動の推進に期待したい。 ・ ・
	開かれた学校づくり	○新しい地域との連携（絆）の方策の確立	○学校ホームページにおいて課題が残った。学校行事においては保護者参観など実現できた。地域学校保健委員会もオンライン開催など工夫して実施できた。外国籍生徒との交流活動も生徒会活動で始動しはじめている。	B	・学校ホームページについては外部委託できないか今後検討していく必要がある。あわせてPTA公報の掲載や学校での様子をパスワードをつけて積極的に広報していけるように工夫をお願いした。 ・ ・
	教職員の資質向上	○積極的な授業研究（研修）と生徒指導・教育相談力の向上 □教職員事故を起こさないための研修の工夫	○生徒主体の授業づくりを進行することができている。GIGA端末の活用も進展してきている。生徒理解を深める研修も進めることができた。 □不祥事防止の研修を適宜行うことができた。	B	・生徒が主体的に学ぶ授業改善「学びの共同体」への取組について期待したい。教職員事故ゼロに関しては、今後も油断することなく研修等の実施をお願いしたい。
				B	・ ・
施設・設備等の管理	○組織的な校内設備管理体制の構築 □授業実践のニーズにあった I C T 機器の整備	○定期的安全点検が実施できた。また、迅速に修繕することができた。 □予算を計画的に執行しつつICT機器の整備を行うことができた。	B	・安全安心な施設設備の管理については今後も取組をお願いしたい。	
			B	・ ・	

令和4年度 学校評価のまとめ（学校別）

学校名	領 域	学 校（幼 稚 園） 自 己 評 価			学校（幼稚園）関係者評価（抜粋）
		年 度 目 標	年 度 評 価		
		重点目標	重点目標の達成状況	達成度	
安行中	組織運営	○教職員が一枚岩となって課題解決に向けて取り組む。 □磨き合い、高め合い、学び合う組織にする。	○全教職員が組織の一員としての自覚を持ち、様々な教育活動に取り組んでいる。 □管理職や主任への報告・連絡・相談を行い、学年会や教科会などで情報共有を図り、お互いに切磋琢磨して取り組んでいる。	A A	・○特になし ・ ・
	教育課程	○〇主体的・対話的で深い学びを実現する授業を展開する。 ○生徒が「わかった」「楽しかった」と実感する授業を展開する。	○学びの共同体を踏まえた授業を展開するようになり、主体的・対話的で深い学びを意識して授業を行う教員が増えている。 ○学び合い、聴き合うことを通して授業内容を理解する生徒が増えている。	A	○問題を考える時に、友達どうしで相談できるので良いと思っている。友達に説明すると復習になる。成績が上がっていると感じている。 ○自分の考えを伝えることは良いと思う。 ○生徒の学力を上げることは大切である。目をかけて学力を上げて欲しい。 ○学びの共同体の授業を見たいとの要望を受け、来年度は学校運営協議会の日に参観の計画を立てる。 ・
	開かれた学校づくり	○地域を大切にする心を育む。 ○可能な限り、教育活動を公開する。	○地域と連携した活動が「ふるさとの森整備」に限られてしまったが、地域の方々のご支援で地域を大切にする心が育まれている。 ○感染対策を行い、授業参観、体育祭（３学年保護者対象）、合唱コンクールを公開した。	A	○来年度、民生委員と情報共有の場を設けて欲しいという要望に応え、１学期の終業式の日 に連絡協議会を開催する。 ○学校応援団という組織を活用して学校と地域の連携を深めて欲しい。 ・ ・
	教職員の資質向上	○授業力の向上を図る。 ○生徒指導（教育相談を含む）力の向上を図る。 ○保護者への対応力の向上を図る。	○授業改善を図ろうと努力する教員が増えている。 ○生徒に寄り添う教員が増えているが、不適切な言動で生徒の心を傷つけることがある。 ○誠意を持って対応しているが、難しくなって来たと感じている。	B	・○教員の資質向上は大切である。学びの共同体を通して、生徒のために学力を上げて欲しい。 ○教員の言葉遣いが気になる。 ・○生徒と教師の人間関係が大切である。 ○生徒を追い詰める言い方を行わないように気をつけて欲しい。 ○全体に話すことなのか個別に話すことなのかを判断して欲しい。 ・
	施設・設備等の管理	○施設・設備事故は起こさない。 ○生徒や教職員の危機管理意識を高める。	○定期的な点検と日常的な点検を通して、修理・修繕個所を迅速に把握し、安心安全な環境づくりを推進している。 ○退勤後に施錠忘れが見つかるなど、教職員の危機管理意識に差がある。	B	・○昨年度、学校運営協議会で網戸をつけて欲しいという要望が出たので、今年度、各教室に 網戸を１ヶ所取りつけた。 ○梅雨の時期の廊下の結露が危険である。 ・ ・ ・

令和4年度 学校評価のまとめ（学校別）

学校名	領 域	学 校（幼 稚 園） 自 己 評 価			学校（幼稚園）関係者評価（抜粋）
		年 度 目 標	年 度 評 価		
		重点目標	重点目標の達成状況	達成度	
芝東中	組織運営	○学校教育目標の具現化に向け、明確な目的意識を持った教育活動の実践 ○学校運営参画意識の更なる向上による組織の活性化 ○不登校生徒の解消 ○感染防止対策しながらの学校生活の工夫	○目指す学校像を意識しチーム芝東として共通行動をとれた（教職員の100%がプラス評価） ○R6.4制服変更にもけ制服検討委員会実施 ○不登校生徒解消にいたらなかった ○県・市教委の指示を仰ぎながら感染防止対策につとめての教育活動実施	B	・不登校の生徒は昨年より増えているのか、また、理由は何か。 ・ ・
	教育課程	○つのY（よい授業、よいクラス、よい学び）の実践と基礎学力の定着 ○県学力学習状況調査等に基づく課題把握と実効性のある解決策の実践	○わかる授業（生徒の92%がプラス評価） ○県学力学習状況調査、市・県平均より下回る）	B	・できる、伸びる授業とはどのようなものか。 ・コロナの影響でできなかった授業の実習や、行事は、生徒達にとってはとても良いことなので今後も進めてください。 ・ ・
	開かれた学校づくり	○学校だよりの充実、H P の定期更新 ○学校運営協議会や学校応援団等の充実 ○学校、家庭、地域との連携を図った教育活動の推進	○生徒の活動の様子がわかるよう、ホームページでは随時更新し、広報できた ○学校運営協議会・学校応援団等と定例会議を実施できた ○コロナ禍のため、実施が困難であった	B	・トルコ大地震の義援金活動実施は良いことだ。全市学校で取り組んでいることなのか。 ・部活動地域移行に伴う部活動指導員人選は慎重に行い、研修等受けてからやってもらえるようお願いしたい。 ・ ・
	教職員の資質向上	○指導力の育成 ○教職員のキャリアに応じた資質の向上 ○小・中連携の取組の充実 ○校内研修の充実と教職員倫理確立委員会の活性化 ○メリハリのある働き方・ワークライフバランスの促進	○市教委の訪問や管理職による教室訪問や面談等を通して、指導・助言できた。 ○教職員のキャリアに応じた様々な研修に参加させることができた ○3年ぶり8月に校区内小学校とオンラインで研修実施 ○不祥事防止研修プログラムを計画的に実施 ○在校時間外勤務の長時間傾向の割合を大幅に減らすことができなかった	B	・特になし ・ ・
	施設・設備等の管理	○計画的・組織的な安全点検の実施（定期・日常・臨時） ○計画的な施設改善の取組、危険箇所の明示と迅速な対応（修繕等） ○潤いと落ち着きのある教育環境づくり	○複数の目で実施の点検を行い、施設設備の事故はなかった ○R 5年度プール移設工事延期に伴い、修繕必要箇所の実施 ○美術の生徒作品を中心に校内掲示実施	B	・特になし ・ ・

令和4年度 学校評価のまとめ（学校別）

学校名	領 域	学 校（幼 稚 園） 自 己 評 価			学校（幼稚園）関係者評価（抜粋）
		年 度 目 標	年 度 評 価		
		重点目標	重点目標の達成状況	達成度	
芝西中	組織運営	○「すべては子ども(生徒)のために 笑顔と感謝あふれ、きれいな学校」を目指し、組織で取り組み、学校経営に積極的参画する意識の向上。（肯定評価95%以上）	○適性を活かした分掌配置について概ね達成できた。 参画意識は95%以上が肯定的評価であった。	A	・学校経営参画意識、95%以上が肯定的評価は大変よいと思う。 ・中堅、ベテラン教職員のリーダーシップと転入、若手教職員の更なる意識向上を、期待する。 ・ ・
	教育課程	○【芝西】楽しい・わかる・もっと知りたいを実感できる授業の実施。（3項目とも肯定評価80%以上） □【陽春】日本語学習や進学について、全国の夜間中学と情報交換。（全国大会時）	○校内授業研を2回実施。I C Tを使用した授業が展開できた。（楽しい・わかる80%以上、もっと知りたい75%） □夜間中学の授業参観、全国大会での交流は実施できた。	B A	・ I C Tを使用した授業が推進されずばらしい。 ・主体的に学習に取り組みたいと思わせる授業を進めるとともに、低学力生徒への支援に取り組んでほしい。 ・一人一人の学びのニーズや意欲を考えた効果的な指導を、さらに進めていってほしい。 ・
		開かれた学校づくり	○毎日、H Pで教育活動を保護者、地域等に発信。 ・学校公開、体育祭・合唱コンクールでの陽春との交流を実施。 ・小中・地域連携についてはできる方法を検討。	○ホームページの適切な発信、保護者のプラス評価は89%であった。 学校公開、しばくまつり・合唱コン・体育祭の公開、陽春との交流が実施できた。	A
	教職員の資質向上	○働き方改革を進め、自己研鑽の時間を生み出す。 ・教職員に挨拶やコミュニケーションを意識させる。 ・困り感のある生徒への対応できる教職員を育成する。	○時間外在校時間は33→31と月平均2時間減少。 保護者の評価、率先した挨拶は80→74%・コミュニケーションは73→75%であった。 外部講師による困り感のある生徒対応研修を2回実施した。	B	・時間外在校時間の減少は、学校全体の成果だと思う。 ・困り感のある児童生徒対応は、小中の連携が必要だと思う。 ・引き続き、生徒同士、生徒と教職員など、コミュニケーションづくりに尽力いただきたい。 ・ ・
	施設・設備等の管理	○安全、安心に対する意識を向上させるとともに、教育施設の瑕疵による事故をゼロとする。 ・充実した教育活動のために、施設・設備等の計画的な修繕を進める。	○倫理確立委による啓発活動、安全点検は毎月実施できた。 施設の瑕疵による事故、病院対応は0件。教育活動中の怪我等は23→17件。	A	・毎月の安全点検等により、事故なく教育活動を実施できているのは、すばらしい。今後も安全安心、きれいな学校としていただきたい。 ・引き続き事故防止取り組み、全教職員の更なる意識向上をお願いする。 ・ ・

令和4年度 学校評価のまとめ（学校別）

学校名	領 域	学 校（幼 稚 園） 自 己 評 価			学校（幼稚園）関係者評価（抜粋）
		年 度 目 標	年 度 評 価		
		重点目標	重点目標の達成状況	達成度	
岸川中	組織運営	○分掌組織の改編(部制度の導入) □記憶から記録へ各種規約集の活用 △だれ一人取り残さない不登校生徒支援率100%	○組織の効率的で、機動的な改善は継続的に必要な状況である。 □規約の見直しは継続的に図られている。 △GIGA PCの活用による不登校生徒への学習支援体制を整えることができた。	B B B	・生徒アンケートの「人や周囲に役に立つことができる」は課題があるものの、その他の項目では満足度が高いことから、教職員の努力が感じられる。 ・不登校生徒の増加やヤングケアラーなどから、生徒に寄り添える仕組みが求められる。そのような所に主任児童委員及びスクールソーシャルワーカーが連携して、サポートできると良い。 ・スマートフォンの取扱いについて、学校で規約を設けても良いのではないかと。
	教育課程	○朝学習の全面改訂 □総合的な学習の時間におけるSDGsをテーマとした卒業論文作成に取り組む △平均点以下生徒50.0% 新体力テストC+D+E級 41.5%以下	○特色ある取り組みを行うことができた。 □探究学習を総合的な学習の時間を活用して学年ごとの課題に沿って展開することができた。 △目標とした数値には達することができなかった。	C C C	・学力向上は、自分自身の人生の豊かさに通じるものであると、生徒自身で気づいてくれたらよいと思う。 ・岸川中学校はICTの活用が積極的に図られている様子が分かる。GIGA端末を活用して、生徒の学力や能力がどう変化することができたのか、来年度の研究発表会に期待する。 ・ICT活用についてのメリットやデメリットを検証し、今後さらに改善していくことに期待する。
	開かれた学校づくり	○ICT機器を活用した広報として、HP閲覧者数650人/日 □コミュニティスクールの組織の再編成と周年行事委員会のリンク △地域ボランティア活動の再開(年間5回)	○紙媒体の通信の削減を行うことができた。社会活動の再開と共に、HP閲覧数は減少したが高い数値を維持した。 □周年行事組織をスリム化した活動とし、情報を共有しつつも効率的に活動できた。 △ボランティア活動が再開し、地域とのつながりが再構築された。	A A A	・創立50周年事業準備のスリム化は、校長のおかげが大きい。式典と学校行事とのリンクは合理的で良い取り組みだと思う。 ・ホームページのアクセス数が106万回以上と、とても素晴らしい。内容についても教職員が作成していると思うが、コロナ禍の時代や今後はホームページ及びメールでの発信となっていく。 ・学校と地域の連携は不可欠だが、役員止まりと感じる。町会としても学校だよりやホームページの閲覧を呼び掛け学校への理解を求めていく。 ・生徒に地域の感想や今後の町会の在り方、アイデアを聞いてみたい。 ・学校だけでなく、前川地区の中で大人同士で相談できる場があると良い。
	教職員の資質向上	○授業改善研修会の充実(A訪問でGIGAを使った協働的な学びの実施) □校務分掌の計画配置(所属する分掌を連続2年までとする) △若手対象校内研修会の充実(年間5回以上)	○各種研修を複数回実施し、市内でも先進的なICT活用のノウハウを蓄えることができた。 □経験値が浅い教員集団においた、分掌の経験を重ねることができた。 △三学期に実施計画済み。	A A A	・教員不足と聞いているが、働きやすい環境のもと、個々の個性を伸ばし、重圧とを感じる事なく授業が取り組めるよう配慮が必要ではないかと。 ・働き方改革やワークライフバランスと教職員の資質向上のための研修会の両立で、教員の時間が益々密になる事が懸念される。
	施設・設備等の管理	○プレハブの存在を明確化し、対応策を出す。 □図書室の充実(蔵書と学習室機能の一体化) △安全点検100%と軽微な修繕を職員による営繕作業で解決する。	○教育委員会へ所在を伝えることができた。 □調査計画段階である。 △営繕までは至らなかったが、清掃等営繕の全段階まで到達した。	B B B	・プレハブ（卓球場）の危険度は相当なものだと感じる。事故があつてからでは遅い。市への改善を訴え続けるしかないのか。また、区画整理でできた道路を活用し、生徒の安全のため自動車進入門を設けてはどうだろうか。 ・学校内は常に清潔で、玄関周辺にも花がたくさんあり、よく手入れがされ良い印象がもてる。目の見えない所にも用務員さんの手で施設が維持されている。

令和4年度 学校評価のまとめ（学校別）

学校名	領 域	学 校（幼 稚 園） 自 己 評 価		学校（幼稚園）関係者評価（抜粋）	
		年 度 目 標	年 度 評 価		
		重点目標	重点目標の達成状況		達成度
榛松中	組織運営	○帰属意識を高めた相互協働体制を推進する。 ○共通理解、共通行動がとれた積極的な生徒指導・教育相談を実践するため、組織を活性化させる。	○概ね達成できているが、時々連絡や相談等の遅れがあった。 ○各会議において意思の疎通や共通理解を図ることができたが、参加者以外へ情報の共有が徹底されないこともあった。	B ・ ・	・教職員的大幅な異動で人が変わると、組織としては様々な課題が起こると思われる。特に共通理解を図ることはとても重要である。今年度の反省点を生かし次年度に繋げてほしい。 ・ ・
	教育課程	○学力の底上げのための研究を進め、基礎的・基本的な力を身に付けさせる。 ○課題を明確にし、個に応じた学習支援を行う。	○定期テスト前の補充学習については、各教科ごとに取り組んだ。 ○夏季休業中に小学校と学力向上のための研修会を実施した。 ○学習アプリのドリル学習を活用したが、継続されなかった。	B ・ ・	・学力の向上については、いつの時代もこの地区大きな課題である。家庭学習の習慣については、学校だけでなく保護者と連携して進める必要がある。 ・学習アプリの活用をぜひ進めてほしい。 ・
	開かれた学校づくり	○教育活動の実践を具体的にわかりやすく情報発信する。	○コロナの感染対策のため学校公開等できない時もあったが、昨年度と比べ人数を制限して保護者の方に来校していただいた。 ○ホームページについては昨年度以上に更新回数を増やし情報発信することができた。	A ・ ・	・コロナが落ち着いてきたので、少しずつではあるが、学校が以前のように保護者や地域に開かれつつあると感じる。 ・ホームページの更新が増えたことで、見ている人も増加し大変良かった。コロナがが落ち着いても、引き続きホームページの更新を適宜進めていただきたい。 ・
	教職員の資質向上	○計画的、実践的な若手教員の指導及び育成を行う。 ○教職員とのコミュニケーションを充実させ、教員としての使命感と人としての人間性を共に高める集団をつくる。	○若手教員を中心に、初任者指導教員やアシスタントティチャーが授業改善のため指導助言を行ったり、また職場環境をより良くするために、何でも相談しやすい雰囲気作りに努めることができた。 ○職場の雰囲気が良く、教職員のコミュニケーションがしっかりと図られた。	B ・ ・	・若い先生方を育てることはとても大事なことで、学校全体で働きやすい環境を作ることが大切である。 ・教員の働き方改革を進めていただき、先生方の心と身体の健康を維持することが、子どもたちに還元されていくと思う。 ・
	施設・設備等の管理	○安全・安心して教育活動が展開できる、心のある、あたたかい教育環境を実現する。	○毎月実施される安全点検や、校内施設の修繕など計画的に実施することができた。 ○掲示物等校内の環境美化については、まだまだ改善すべき場所もある。	B ・ ・	・開校して45年以上がたち、老朽化も進んでいるが、生徒の安全を第一に、今後もご尽力していただきたい。 ・校舎は古くても、掲示物に潤いを持たせることで、生徒たちは落ちついた学校生活が送れると思う。 ・

令和4年度 学校評価のまとめ（学校別）

学校名	領 域	学 校（幼 稚 園） 自 己 評 価			学校（幼稚園）関係者評価（抜粋）
		年 度 目 標	年 度 評 価		
		重点目標	重点目標の達成状況	達成度	
小谷場中	組織運営	○学校運営参画意識を高く持ち、組織的で臨機応変に対応できる教育活動を推進する。	○企画委員会、生徒指導委員会を中心に組織的な対応を進めてきた。 (教師上位評価100%)	A	・コロナ禍ではあるが、試行錯誤の中よく計画され対応している。
		□各分掌、各主任を核として、関係教職員に目標や目的を示した実践的な取り組みを進める。	□制限下における行事の計画、実践、発信は各主任を中心として組織的な実践を進めることができた。	A	・落ち着いた雰囲気の中で授業が展開されている。教師と生徒の関係もいい雰囲気であった。 ・夢ワークの実施に向けて、企業や地域の協力を仰ぎ、学校としても準備をしっかりと進めてほしい。
	教育課程	○既習事項定着のために、「家庭学習の習慣化」を通し、学力を向上させる。	○生徒は概ね学習に向かう姿勢はできているものの「家庭学習」に向かう力は保護者、生徒の自己評価共に半数程度に止まった。 □計画的な評価に関する研修を通し、教科間の補正に努めてきた。	B	・小中合同の検定実施に向けて具体化させる(実施日・送迎・受験可能級等) ・家庭学習の取組に向け、保護者に○付、コメントなど仕掛けを作っていく。
		□各教科間での評価を理解し、指導と評価の一体化の研修を推進する。		A	・懇談会で学習の話題を共有する。 ・小中連携で振り返りの研修を実施する。 ・学習状況調査に日頃の学習指導の成果が表れているようである。
	開かれた学校づくり	○教師も生徒も地域の中の学校を意識させ、地域との連携を深める。 □学校運営協議会への積極的な情報発信と情報共有により、魅力ある学校生活を送る。	○各公開行事については、適切に発信に努めＨＰの充実を図った。保護者に向けて積極的に活用啓発が不足していた。 □コロナ禍制限の規制緩和により、柔軟に対応をしたが、感染拡大防止を優先させた	B B	・コロナ禍ではあるが、保護者も地域も待ち望む形で運動会や学校行事が実施された。 ・生徒から返ってくるあいさつに元気さの差を感じる。
教職員の資質向上	○生徒一人一人の心に寄り添い支援できる教職員の育成を進める。 □危機管理意識を持ち、自己管理のできる教職員の育成する。	○生徒一人一人の「居場所」を踏まえた、個別対応を進めてきた。また、相談室との連携し、不登校支援率は100%である。 □在校時間の意識化がされてきた。また、校内で学年を問わず、助け合う雰囲気がある	A B	・地域の祭りも実施で考えていく、徐々に対応することになるが、あじさい祭りも拡大を考えていく。 ・教育相談について、個別の対応を丁寧にやっていく。100%支援のために地域人材の活用をするとよい。 ・不登校支援に向けて、応援団の要請を働きかけることもよいのではないかと。 ・	
施設・設備等の管理	○校内外の潤いのある学習環境を整備、充実する。 □教育活動を充実させるためのGIGA端末活用を推進	○校内施設の安全点検を踏まえ、危険箇所への迅速な対応してきた。 □副教材の費用対効果の検証を通し、予算の意識化に努めてきた。 □家庭学習におけるドリルワークの活用を推進してきた。	A B	・タブレットの活用は、表現力の多様性に対応できるのではないかと。 ・学習環境を整えるために、今後も適切な予算運用をお願いしたい。 ・校内の清掃は行き届いていることを確認できたが、テニスコートの雑草が目につく。	

令和4年度 学校評価のまとめ（学校別）

学校名	領 域	学 校（幼 稚 園） 自 己 評 価			学校（幼稚園）関係者評価（抜粋）
		年 度 目 標	年 度 評 価		
		重点目標	重点目標の達成状況	達成度	
神根中	組織運営	○学校課題を明確に示し、教職員を学校運営にできる限り参画させて、教職員一人一人の成長を図るとともに学校全体の組織力を高める。	○コロナ禍の中、コロナの対応と実施できた学校行事など、教職員一丸となって取り組むことができた。 ○校務分掌には、教職員一人一人が責任を持って取り組み、リーダーシップを発揮していた。	A	・3年生のSDG s の発表がとても良かった。先生方の組織的な指導の賜物だと思う。 ・ ・
	教育課程	○行事の持つ教育効果を認識し、コロナ禍における生徒の心の醸成に繋がる行事を生み出す。	○〇体育祭も合唱コンクールもコロナの対応を工夫しながら学校全体で実施でき、生徒の心に残る行事になった。	A	・真面目な生徒が多く、ほとんどの生徒が一生懸命に授業を受けている。また、ほとんどのクラスが生徒同士の対話形式（「学びの共同体」の取組）での授業で、班での話し合いもしっかり行っており、ガチャガチャしていなく、素晴らしい。3年生のSDG s の取組（発表や発言）がとても良かった。 ・ ・
	開かれた学校づくり	○学校の教育活動を知っていただく機会を設定し、連携を図る。	○年間を通して、学校ホームページの配信が積極的にできた。保護者メールも積極的に活用できた、	A	・今年度は合唱コンクールも参観することができたが、いろいろな行事等を保護者になるべく公開して欲しい。（→コロナ感染の収束次第で開かれた学校づくりを推進していく意向を学校側として回答した。） ・ ・
	教職員の資質向上	○研修等の内容を実態に合わせて実施し、教員の授業力を時代に合わせたものに向上させる。	○道徳授業研究は実施できたが、コロナの影響もあり、指導者を招聘できなかった。 ○佐藤学東大名誉教授を年2回招聘し、講演と授業観察をしていただき、授業改革の一步が踏み出せた。	B	・現代の授業をよく研究されていてとても良い。今は自己表現が求められていて、それに対応している授業を展開している。 ・ ・
	施設・設備等の管理	○計画的な予算執行を行い、安全対策を中心に管理を進めて行く。	○〇学校配当予算等を適切に運用できた。全ての普通教室にモニターも設置できた。 ○安全優先の予算執行ができた。	A	・特に意見・要望等無し。 ・ ・

令和4年度 学校評価のまとめ（学校別）					
学校名	領 域	学 校（幼 稚 園） 自 己 評 価		学校（幼稚園）関係者評価（抜粋）	
		年 度 目 標	年 度 評 価		
		重点目標	重点目標の達成状況		
領家中	組織運営	○学校教育目標の達成に向けて、目指す学校像及び生徒像・教師像の具現化に向けて教職員一人一人の指導力を育成するとともに、責任をもって校務分掌を遂行させ、学校運営への参画意識を高める。	○学校運営への参画意識を持たせる、ミドルリーダーを育成するという両観点から全教職員に一人一役主任を割り当てた。教職員一人一人が自身の役割を理解して責任ある校務を行った。 ・管理職が率先して動くことで学校というチームを引っ張り目指す学校像の具現化を目指した。	B	・教職員それぞれが自己の役割をしっかりと認識し、学校運営に取り組んでいる。 ・リーダーとなる教職員が自ら率先して行動する姿を見せることにより、一人一人が積極的に教育活動に向き合っている様子が伺えた。 ・管理職と教職員とのコミュニケーションの充実を図り、重点目標に対してPDCAサイクルを活用し、継続的に取り組み、常に評価・改善することを期待する。
	教育課程	○研究委嘱本発表を成功させるために校内研修の充実を図り、さらに指導方法の工夫改善、授業力の向上を目指す。 □外部指導者を積極的に招聘し、研究授業においての指導助言を今後に活かし、また教員間で授業を見合うことで指導力向上のための授業改善を図る。	○1 1月の研究委嘱発表に向け、全職員で計画的な研修により授業改善に取り組んだ。 □各教科、研究部ごとに課題解決に向けて積極的に研究を進め、一定の成果をあげることができた。また、生徒の学力も向上した。	B A	・研究委嘱への熱心な取組とその成果、並びに生徒の学力向上を高く評価する ・研究委嘱により生徒・教職員に大きな変化が生まれた。他校では、発表する事ばかりに意識が働き、生徒が置き去りになっていた様子も見えたことがあったが、本校は学校全体が一丸となって取り組めたことが良かった。 ・これからも工夫を凝らし、常に生徒が生き生きと前向きに取り組める授業・指導を期待する。
	開かれた学校づくり	○目指す学校像やビジョンを明確にし、学校運営協議会を通して、地域と一体となって子供たちを育む「地域とともにある学校」への転換を図り、地域学校協働活動を進めていく。	○「地域とともにある学校」に向け、生徒がボランティア活動等をとおして、地域に出ていく機会を多く作った。 ・学校便りの紙面の充実により学校の様子を家庭・地域に周知するように心がけた。通知については、ホームページや保護者緊急メールの活用を推進した。	A	・毎月の学校だよりは、学校と地域をつなぐ大きなツールである。紙面充実を高く評価するとともに保護者・地域への情報提供・伝達方法の更なる向上を期待する。 ・コロナ禍で地域との関わりが減少した中、防災訓練やバザーなど、積極的に参加してもらい感謝している。ボランティアという形で学校の枠を守りながら外に出てもらったことに未来への大きな可能性を感じた。地域も中学校の動静を注視している ・
	教職員の資質向上	○生徒が「伝え合い、認め合い、高め合う」喜びを味わえるような指導ができる教師としての資質の向上を図る。また、保護者・地域から信頼される教職員を育成し、教職員事故防止を徹底する	○職員会議、校内研修等で教職員事故防止に向けた研修を定期的に行い、教育公務員としての意識向上を図り、教職員事故を起こさせないことを徹底した。 ・研究発表、学校訪問、管理職による授業観察等をとおして、教員の授業改善、指導力の向上を図った。	B	・時代ごとに教師に求められる事項が変化し、大変だと思う。教師自身が働くことに生きがいや将来性を見つけれ、魅力ある仕事でなければその先の向上には発展しないと思う。 ・生徒と同じようにできたことを伸ばし、コミュニケーション、何気ない会話が寄り添う事につながるの で大切にしてほしい。 ・教職員の資質向上と人格の向上を図り、生徒の手本・目標となる教職員であることを期待する。
	施設・設備等の管理	○年間行事計画、指導計画に基づき、実践的な安全指導の徹底を図り、生徒の危険回避能力の向上とともに、教職員の危機管理意識の向上を図る。	○職員会議、校内研修等で学校安全への教職員の危機管理意識が高まった。また、避難訓練等の工夫により生徒の安全意識も高まった。 ・安全点検や校内巡視により必要な箇所に積極的な修繕を行い、安全管理の徹底と環境整備の充実を図ることができた。	A	・施設の整備、改善など、今年度は大きく動いたと思われる。保護者の要望も多いので、今後はトイレの整備を早急をお願いしたい。 ・校舎内外の清掃・整備・点検よくできている。今後も環境整備の充実と計画的な修繕を要望する。 ・計画的な避難訓練の実施と防災拠点としての充実を要望する。

令和4年度 学校評価のまとめ（学校別）

学校名	領 域	学 校（幼 稚 園） 自 己 評 価			学校（幼稚園）関係者評価（抜粋）	
		年 度 目 標	年 度 評 価			
		重点目標	重点目標の達成状況	達成度		
戸塚中	組織運営	○教職員一人一人の職務能力の育成 □リーダーの育成と組織力の向上 △保護者・地域から学校への信頼の回復	○事前相談はほぼ定着でき、教職員のスキルアップに繋がった。 □担当を中心として、校内全体の組織的な活動に繋がった。84.3% △学校公開や保護者メールを使い、説明できた。84.2%	A A A	・地域での戸塚中学校の評判はたいへんよい。達成状況の数値が84.3%となっているが、90%以上でもよい。戸塚中学校の卒業生が地域で中心となって活躍している。 ・市の組織と関わっていると、立場が下の者が上の者の顔色をみているような傾向があるように感じる。そうではない組織づくりを期待する。 ・	
		教育課程	○指導内容の系統性と内容の定着 □主体的で今日的な学習活動の実践 △学習内容を定着させ、一人一人の学力の向上	○年間計画に基づき、教科指導を行えた。94.5% □研究委嘱とも併せて、学習形態や指導方法の工夫・改善ができた。88.9% △振り返りを計画的に取り組みしたが、取組に甘さが見られた。	A A A	・授業で税金について扱っているのか。租税教育をしっかりと行ってほしい。 ・子どもたちに、「できる」という感覚を持たせるような指導をお願いしたい。そのために、「ほめる」言葉がけをお願いしたい。 ・
			開かれた学校づくり	○学校運営協議会の定期的な開催 □学校運営協議会の活動内容の充実 △学校の情報を保護者・地域への積極的提供	○年間の計画に基づき実施できた。 □特別支援の研修や教育相談部会への参加などの協力を得られた。 △必要な情報について保護者メールの活用ができた。84.2%	A A A
	教職員の資質向上	○校内研修と自主研修の充実 □O J Tの充実 △ベテラン教職員豊かな経験の伝達		○経験年数に応じて、市教委主催の研修会に参加させ、復命を徹底させることで内容の理解を深めた。 □校長への事前相談と併せて、教職員の育成を図れた。 △事前相談と併せて、主任層のバックアップに努めた。97.4%	B B B	・研修には定められた要綱のものはあるのか。詳しく教えていただきたい。 ・ ・
		施設・設備等の管理	○計画的・随時の点検で修繕箇所の把握 □G I G Aスクール構想に基づく授業実施に必要な機材の購入	○定期的な点検と随時の修繕により、大きなトラブルはなかった。事故ゼロ。 □G I G A端末の管理の面での課題が見られた。	B B B	・トイレの清掃指導をお願いしたい。トイレ清掃については、力を貸すこともできる。 ・ ・

令和4年度 学校評価のまとめ（学校別）					
学校名	領 域	学 校（幼 稚 園） 自 己 評 価			学校（幼稚園）関係者評価（抜粋）
		年 度 目 標	年 度 評 価		
		重点目標	重点目標の達成状況	達成度	
在家中	組織運営	○落ち着きと潤いのある学校づくりを進め、知・徳・体の調和のとれた生徒を育成する。 □今ある学校の良さを伸ばし更に新しい輝きを生み出せるよう、「チーム在家」としての教育実践を推進する	○授業をはじめとする日常的教育活動を落ち着いた中で行うことができた。学力向上策と教育相談的課題をもった生徒への対応策に課題が残った。 □Zaikeスクールや地域グリーン活動など地域・保護者とともに活動する取組を実行し、「チーム在家」として協働することができた。	B B	・「チーム在家」という言葉が少しずつ浸透し、学校・保護者・地域が協働し始めていると感じる。（Zaikeスクール等） ・今年度も引き続きのコロナ禍の学校運営で大変だったと思う。全体的に落ち着いていたし、何をどのように工夫すれば子供たちのためになるかという視点で常に考えられている様子がよく伝わってきた。 ・「チーム在家」としてより一層コミュニケーションを取りながら、学校・保護者・地域と一緒に取組む活動が増えることを期待したい。
		○地区内の小学校と連携し、小学校から中学校への円滑な接続と9年間の学びの連続性をもった学習体制を構築する。 □社会に開かれた教育課程の実現を推進する。	○在家小学校・柳崎小学校との連携を深め、9年間の系統的な指導体制を築くことができた。校内においても小学校との結びつきの重要性を再認識し、組織的に取り組むことができた。 □生徒の学力とともに豊かな情操や人間力の育成に注力し、将来的に地域を支える人材づくりのための教育活動を行った。	A A	・相互授業参観など小学校との連携が深まっている。基礎学力の向上が期待できと思う。 ・以前から行われてきた小中連携だが市教委の委嘱研究により、一層細部にわたって具現化できていることが素晴らしい。 ・「中1ギャップ」が少なくなるだろうし、どの学校にもある不登校問題等も小中が情報を共有することで生徒に寄り添った言葉掛けができ、少しでも不安を取り除くことができるのではないかと思った。
	開かれた学校づくり	○保護者・地域の方々に生徒の様子を参観してもらい、意見を取り入れ、教育活動に反映させる。 □学校のホームページを充実させ、各活動の教育的意図や生徒の活躍を発信することで、保護者・地域の教育活動への理解を図る。	○コロナ禍のため開催規模の縮小や来場者の制限等はあったものの、体育祭や合唱コンクールなどの行事を行い、生徒の様子を知ってもらうことができた。 □学校ホームページを利用して本校や教育委員会の取組等を紹介し、保護者や地域に生徒の活躍の様子を広報した。また、学校だよりも学校理解の好機と位置づけ発行した。	A A	・ホームページを使った積極的な情報発信が行われている。 ・昨年同様、コロナ禍でも生徒の活躍している姿を保護者・地域の方に見ていただくという学校の姿勢が感じられ、行事や授業参観をコロナ以前に近い形でおこなっていたところが素晴らしいと感じた ・卒業生の親としては、以前のホームページや学校だよりも見やすく、情報量も多く工夫してあり良いと思う。 ・学校だよりにホームページへの誘導がされており、見るきっかけになり、大変良いと感じた。
		教職員の資質向上	○生徒にとって魅力ある授業を展開するため、教員の指導力を向上させる。 □常に生徒の未来を育てる者としての自覚と責任をもって指導にあたり、保護者・地域から信頼される教職員集団を形成する。	○各種学力調査の結果分析と小中連携・一貫教育の研究により、学力向上に向けた課題を整理することができた。また、若手教員の授業力向上のため、市の指導主事による指導を仰いだ。 □信頼される教職員集団となるため、教職員事故ゼロに向けた研修等を複数回行った。	B B
施設・設備等の管理		○施設管理に起因する事故が起きないよう、安心安全な教育環境の維持管理を徹底する。 □防災教育を含め、生徒、教職員ともに日頃から危機管理意識を高くもち、災害時における適切な行動を身に付ける。	○生徒の安全を第一に考え、日常の安全点検等を確実に行うとともに充実させた。老朽化に伴う修繕必要箇所を把握することもできた。 □防災安全教育の計画の下、避難訓練を実施し、生徒の安全に対する意識の向上と適切な行動をとる力の定着を図ることができた。	B B	・いつも清潔に保たれている。 ・来校するたび、昔よりも良くなった、きれいになったと感じることが多く、普段から点検し、改善している様子がわかる。 ・安全面において、学校の現状や取組の様子をホームページなどで発信してもらえると保護者として安心できる。これから点検活動や防災教育等を重ね、尚一層の安全指導や防災対策をお願いしたい。

令和4年度 学校評価のまとめ（学校別）					
学校名	領 域	学 校（幼 稚 園） 自 己 評 価			学校（幼稚園）関係者評価（抜粋）
		年 度 目 標	年 度 評 価		
		重点目標	重点目標の達成状況	達成度	
安行東中	組織運営	○学校教育目標の達成に向けた方向性について共通理解を図り、教職員一人一人の学校運営への参画及び協働意識を高める。	○研修を通して道德教育と学校教育目標の具現化に向けた関連付けの他、学校評価アンケートの素案をもとに「目指す生徒像」の体言化に向けて共通理解で取り組むことはできた。	B	・生徒への支援が素晴らしいと思いました。先生方に感謝です。結果はともかく、すぐには出ないと思いますが、ぜひ頑張ってもらいたいと思います。
		□支援が必要な生徒の支援率 1 0 0 %、改善率を 7 0 % 以上とする。	□生徒への支援率100%、不登校生徒の改善率40%。積極的な校長面談の実施をはじめ、個別に関係諸機関やＳＣを精力的に活用し、生徒・保護者の支援を進めることはできた。	B	・新しい取り組みにチャレンジしていいほしい。支援策の可視化の推進や不登校生徒の個別の支援・対応を、今後も期待しています。
		△コロナ禍における安全安心な学校教育を継続するとともに、対応の効率化及び学びの保障とその充実を図る。	△随時、状況に応じて新型コロナウイルス感染拡大防止に向けて全職員で共通理解を図り、安全・安心な学校運営を協働的に進めることができた。	A	・学校教育目標の達成に向けた先生方の取り組みに感謝します。コロナ対応など、教職員の皆様はよく対応していたと思います。
	教育課程	○基礎学力の定着と学習意欲の向上をうながす授業改善の研究と実践を進める。	○国・数・英の3教科で先行的に単元テストの実施をはじめ、「生徒が自走して学ぶ・学び直せる支援体制づくり」に向けて各教科研究を進めた。	B	・基礎学力の向上は、短期的課題解決・長期的課題解決の両面があると思います。小中連携の課題解決に向けて具体的に進めようとする姿勢に好感が持てました。
		□生徒一人一人に応じた学びの充実に向けた研究と実践を進める。 △中・長期的なスパンでの小中連携の見通しを図る。	□コロナ関連による出席停止生徒等へのGIGAスクール端末PCを活用した学びの支援や充実を図ることはできた。 △主に授業観察等による学習支援及び生徒指導に関わる部会への参加を通して学校種間の相互理解をはじめ、小中接続に関わる短期的な課題解決に取り組むことはできた。	B B A	・単元テストの取組に期待します。目標が明確になってよいと思います。小学校とも協力して一小一中ならではの取組としてほしいです。 ・一小一中のメリットを生かして欲しいです。 ・時代に合った方法積極的に取り入れてほしいと思います。
	開かれた学校づくり	○より効果的な情報発信ができる体制を確立する。	○各情報発信のねらいと対象の明確化を図った。リアルタイムによるオンライン学校公開の実施によるコロナ禍による情報発信の工夫ができた。	B	・学校ホームページのより一層の充実を楽しみにしています。 ・今後、一層地域連携の充実を進め、地域全体で子供たちを育てていけたらと思います。
		□より効果的な教育活動の検証ができる体制を確立する。	□学校評価アンケートの全面改訂を行い、生徒・教職員・保護者に学校教育目標や目指す学校及び生徒像を具現化した内容で実施することができた。	A	・今後の校外との関わり方やP T Aの在り方など、多方面の意見を聞き、見直す時期にだと思 います。
		△コロナ禍（コロナ後）に応じたPTAや地域と連携した教育活動の実施と充実に向けた準備を進める。	△年間を通したP T Aとの朝のあいさつ運動等の再開や町会や企業など地域の教育資源と連携した生徒との懇話会や講演会を実施することができた。	A	・夢ワークは再開してほしいです。地域との連携の強化を期待します。 ・町会長と生徒との懇話会はいよいアイデアであり、続けてほしいと思います。
	教職員の資質向上	○授業力向上のための学びあい・高めあいの充実を図る。	○共通テーマとして「生徒が自走して学ぶ・学び直せる支援体制づくり」を設定し、各教科、全教職員で意見交換及び指導法の共有等を行い、授業力向上に努めた。	B	・常に多忙な先生方の、学びの探求の時間のねん出が課題だと思います。先生方の心身の健康が第一です。そのうえでの学びの探求を期待しています。
		□心身ともに健康な教育集団を作るために、勤務時間外の在校時間のタイムマネジメント強化を図る。	□本校業務改善スタンダードの8つの改善策のうち、6つ以上は実施・改善し、機能して一定の成果を得ることができた。	B	・先生方の心身の健康へのケアも大切だと思いました。 ・
	施設・設備等の管理	○学校の実態に即した安全管理の体制づくりとその維持・徹底を図る。	○生徒の安全・安心を第一に考え、不断の見直しを図りながら教育環境の維持、組織的な安全管理と計画的な修繕を行うことができた。	A	・施設、設備等の管理に関して、問題はないと思います。 ・行政に対して各改善箇所の申請を積極的に行い、時には地元有力者などの協力を仰ぎ、環境改善をお願いしたい。
		□U Dに配慮した教育環境の整備を推進する。	□外部講師による校内研修を実施し、U Dの視点を取り入れた授業改善を図るほか、教室等の学習環境の整備（教室前面掲示物の整理、連絡黒板へのカーテン取付）を進めることができた。	A	・U Dへの配慮が新しいと思いました。時代に合った変化をさせようという内容が伝わってきました。とても好感が持てました。頑張っていてほしい。 ・

令和4年度 学校評価のまとめ（学校別）

学校名	領 域	学 校（幼 稚 園）		自 己 評 価		学校（幼稚園）関係者評価（抜粋）
		年 度 目 標		年 度 評 価		
		重点目標	重点目標の達成状況	達成度		
戸塚西中	組織運営	○「口から目・耳への転換」の視点で授業改善が実現できた教員の割合100%。	○令和4年度学校評価より ・教職員評価 前期 81% 後期 88%	B	・教員同士で授業を見合う機会をつくといい。 ・生徒自身の伸びを検証するといい。	
	教育課程	○学校研究テーマに係る重点「意図的なグループ編成」に取り組んだ教員の割合100%。	○令和4年度学校評価より ・教職員評価 前期 64% 後期 76%	B	・教員が取組を続け、少しずつ改善されるといい ・対話を重視したグループ編成は難しいと思うが、取り組み続けて欲しい。 ・人数もそうだが、与える課題も研究していく必要がある。	
	開かれた学校づくり	○○学校運営協議会を核とした地域学校協働活動の実現。	○地域学校協働活動の実現を達成	A	・3年生の地域への貢献は、ポイントを絞って取り組むといい。 ・1年生の取組はとてもよかった。今後もさらに広めたい。	
	教職員の資質向上	○○保護者に対して説明責任を果たすためのシラバスの作成。	○シラバスの作成を達成	A	・シラバス作成の効果を検証してほしい。 ・1つの学年を複数の教員で教える本校にとって、教え方、教えるスピード、教える順番等を担当同士がすり合わせることができるのはいい。	
	施設・設備等の管理	○○施設・設備事故及び会計事故0の達成。	○施設・設備事故及び会計事故0を達成	A	・アリーナの雨漏りは修繕されたのか。 ・備蓄庫のものは上の部屋に移せたのか。 ・トイレ掃除は、あまりにも汚れている場合は外部に委嘱して清掃してもらうといい。	

令和4年度 学校評価のまとめ（学校別）

学校名	領 域	学 校（幼 稚 園） 自 己 評 価			学校（幼稚園）関係者評価（抜粋）
		年 度 目 標	年 度 評 価		
		重点目標	重点目標の達成状況	達成度	
鳩ヶ谷中	組織運営	○自分の仕事に責任を持って取り組むとともに、和の精神を重んじて学校運営に貢献する意識を高める。 □若手教職員が意欲と当事者意識を高く持ち、学校運営に対する参画意識を高揚させることに努める。	○・各校務分掌において各々が責任をもって企画から運営までを行い、学校全体を組織として高めることができた。 □校長が中心となり教職経験5年目以下の教員を対象に校内研修を行うことにより、高い意識をもって学校運営に参画できる者が増加した。	A B	・5年間勤務した校長の「経営方針」が、学校運営に反映されていると感じた。 ・教師間のコミュニケーションがしっかりできているのが感じられてよい。 ・若手やミドルリーダーの研修は、負担にならないよう計画した方がよい。 ・先生方の生の声を、是非ともうかがってみたい。
		教育課程	○生徒の実態とその背景を把握し、学習指導要領の趣旨を踏まえた教科・領域指導を推進する。 □生徒が主体的に取り組む教育活動を展開する。	○出張や年休等を把握し授業を振り替えることにより、時数を確保し学習の保障と学力向上に努めることができた。 □「鳩中スタイル」の言語活動及び学び合いが充実するとともに、主体的に学ぶ学習指導が展開され学力を高めることができた。	A B
	開かれた学校づくり	○学校が持つ情報の発信を発展的に継続する。 □保護者や地域の方々と連携した取組を推進する。	○様々な情報を学校だより、HP及び緊急保護者メール等で保護者、地域に積極的に発信することにより、一定の信頼を得ることができた。 □コロナ禍で様々な地域行事が中止または規模の縮小となる中、特別活動の目標達成の観点からは、満足な行事の実施にいたらなかったが、地域合同防災訓練やおかめ市の補導等で連携することができた。	A B	・学校からの情報に満足していない保護者の意見が知りたい。 ・地域合同防災訓練等、コロナ禍でも防災教育では、しっかり地域に開かれているので、評価をAにしてもよいのではないかと。 ・
		教職員の資質向上	○教職員事故ゼロのための校内研修を行い、理論と実践を踏まえた研修に取り組む。 □生徒第一主義の旗印の下、自己を磨き、相互に磨き合い、教師力の向上に努める。	○・日頃より、教職員事故の防止については当事者意識を持つよう折に触れ指導している。本年度も教職員事故をゼロとすることができた。 □校内研修において、様々なテーマによる充実した研修を行うことができた。特に防災教育については講師を招聘したことが功を奏し、深い知識を得ることができた。	A A
	施設・設備等の管理	○ごみゼロ・事故ゼロの学校づくりを推進する。 □優先順位を念頭に配当予算を使い、施設・設備の充実に努める。	○92%の保護者から、「校舎の清掃が行き届いており学校がきれいである。」との回答を得ることができた。 □危険箇所を早期発見し確実に修繕を行うなど、安全に努めることができた。	A B	・学校がきれいであるという評価が高いが、授業参観をしてみて、それが感じられてよかった。 ・修繕箇所は、どこを重点的に直したいのかが知りたい。 ・校内を巡り、先生方の熱意が随所に感じられた。

令和4年度 学校評価のまとめ（学校別）					
学校名	領 域	学 校（幼 稚 園） 自 己 評 価			学校（幼稚園）関係者評価（抜粋）
		年 度 目 標	年 度 評 価		
		重点目標	重点目標の達成状況	達成度	
八幡木中	組織運営	○教職員に共通意識を持たせ、組織の一員として学校運営に対する参画意識を高める。 □不登校の早期発見・未然防止に努め、不登校の割合を2.6%以下にする。	○報告・連絡・相談のシステムを構築し、学校運営に対し参画意識を高めた教職員が増えた。自己評価シートにおける目標や方策は設定できたが、その達成意識にはまだ個人差がある。 □教育相談部会及び校内研修を充実させ、教職員の教育相談に関する知識や生徒一人ひとりに寄り添う意識を高めることはできたが不登校の割合は2.6%を上回ってしまった。	B B	○教職員の報告・連絡・相談がされ、情報共有をそのまま継続させ、更にシステムの徹底化を図る。 ○若手教員が多い本校はこれからの教育現場の先駆。古い習慣にとらわれることなく、 □不凍港生徒のリモート学習や面接を大切にし、生徒の居場所づくりを行う。 □家庭との連携を密にし、丁寧に対応することが必要。 .
	教育課程	○保護者と連携し、家庭学習を生徒が主体的に行えるよう図る。 □GIGA端末等、ICTの効果的な学習を推進し、より深い学びにつながるよう、授業の工夫・改善を行う。	○タブレットの積極的使用を推進し、家庭学習に活かすことはできたが、家庭学習を習慣化することにはまだ至っていない。 □ICTに関する校内研修やGIGA担当からの使用方法を伝えることで、積極的な活用に結び付けることができた。	B B	○一人ひとりに合わせた学習が必要。 ○ICTの活用は必須だが、利用環境等で個人差が出ないように配慮する必要がある。また、対面でしか得られない体験もさせてほしい。 □タブレットに馴染めず、遅れてしまう生徒に向けての学習を地道に行う必要がある。 .
	開かれた学校づくり	○学校の教育活動をHP等で積極的に情報発信していく □可能な形で学校公開の機会をつくり、地域・保護者と連携して特色ある学校、信頼される学校を目指す。	○学校運営協議会を充実させ、様々な意見をいただきながら、制服や高速の見直しができた。 □コロナの影響によりできないものもあり、地域との連携は難しいものがあつたが、行事などはPTAに協力・参加していただくことができた。	A A	○八幡木中は開かれており、情報も入りやすい。 □PTAや地域との連携があつた時には生徒にも伝えてほしい。 □部活動地域以降に関しては、家庭との相互理解のもと、良い方向に向けていってほしい。 □コロナ後の地域やPTAとの連携に期待しています。 .
	教職員の資質向上	○「チーム八幡木」の一員としての自覚と責任、自信を持って仕事を遂行できる。 □ワークライフバランスを考え、在校勤務時間月80時間以下を目指し、時間を有効に使い自らの資質向上を図る。	○若手研修の計画回数をすべては実施できなかったが、内容は充実しており、若手の育成につながった。 □業務改善スタンダードの作成・活用により、昨年度に比べると教職員の在校時間は減っている。しかし僅かながら月によっては80時間を超える教職員が存在する。	B B	○引き続き若手研修を続けてほしい。 ○若手教員の育成は課題。人として、社会人としての資質、倫理観の不足を感じる。学校外でも様々な目があることを認識してほしい。 ○生徒に「そうなんだ」と思わせる授業を心がけていただきたい。 □思い切った働き方改革が必要。 □やり取り帳は必要ないのではないか。 □業務を減らす具体的な策を、市に検討交渉すべき。 .
	施設・設備等の管理	○関係各課、業者と折衝しながら、改善策や対応策を検討するとともに、全教職員が教育環境整備と安全に対する意識を持つ。 □心の教育を充実させ、清掃指導・校内美化の徹底を図る	○毎日の校内巡視により施設の異常を早期発見に発見することができた。また、教頭と協力し計画的に修繕することができた。 □美化委員会の活動は生徒が主体的に行っていたが、掲示物や教室内の棚などの整理整頓ができていないクラスもあり、委員の活動を十分に伝えられていない部分もあった。	A B	○校内巡視により、目が行き届いている。 ○後者は古いが掃除が行き届いている。 ○メンテナンスを含め、地域町会長や市議等の力を借りて取り組んでほしい。 ○トイレの改修を行ってほしい。 □教室内の美化は担任の指導力も必要。 .

令和4年度 学校評価のまとめ（学校別）					
学校名	領 域	学 校（幼 稚 園） 自 己 評 価			学校（幼稚園）関係者評価（抜粋）
		年 度 目 標	年 度 評 価		
		重点目標	重点目標の達成状況	達成度	
里中	組織運営	○不登校生徒を解消する。（令和３年度不登校生徒数の割合3.4％）	○【目標】登校生徒の解消に向けて、地域の方も借りながら組織的に取り組んだが、不登校生徒数の割合は3.4％から4.5％となった。（1/31現在） 【方策】①今年度からはじめた地域と連携したステップルーム経営は概ね機能している。	B	・保護者の学校評価をW E B 回答にしたことで、集計作業の負担軽減にはつながったが、アンケート回答率をあげていく工夫が必要である。 ・不登校生徒の解消に向けて取組は評価できるが、特に不登校生徒が多い２年生に関しては、改善をする必要がある。 ・
	教育課程	○端末の更なる活用を推進する。	○【目標】授業での端末の活用率は市内トップレベルとなった。 【方策】①校長の授業観察時の端末を活用した授業100％実施。授業後のフィードバック100％実施。全教員の授業の様子をH Pに掲載。 ②学習支援ソフトを活用した授業研究会２回実施。	A	・部活動を楽しみにしている生徒も多いので、地域移行に向けて、指導者の確保や縦のつながりを広げることも考えられる。 ・多くの行事を実施していただき感謝している。 ・体育祭等も平日開催にすることは、教員の負担軽減につながる。協力していきたい。（在校時間月４５時間以内を達成させるために） ・端末をさらに効果的に活用するために、教員のG I G Aを無線でテレビに映すことができる等、工夫が見られたことは高く評価できる。 ・今後も端末を活用した授業の質の向上が必要であり、授業に対しての生徒、保護者の評価が上がっていくことを期待する。
	開かれた学校づくり	○学校運営協議会を核とした地域とともにある学校づくりを推進する。	○【目標】地域とともにある学校づくりは計画通り実施し、地域との連携を強化することができた。 【方策】①６つのボランティア活動９回、数学低位層受験対策１２月から６回実施。シェアハウスと連携した不登校生徒対応を開始。 ②小中連携体験活動（挨拶運動・部活動見学会・交流会）、中高連携体験活動（近隣高校４校と交流会）実施。	A	・３月の地域連携美化活動については、民生委員も参加させていただきたい。 ・不登校対策としてシェアハウスについては、保護者へ周知し、広く認知されていく必要がある。時間がかかる取組だと思うが、地域としても応援していく。 ・
	教職員の資質向上	○生徒・保護者が一層相談しやすい学校づくりを推進する。	○【目標】研修したことを踏まえ、組織的に生徒指導、教育相談にあたったが、学校評価アンケートの肯定的な回答は、保護者83.8％から79％、生徒63.2％から64％となった。 【方策】①校内研修会で学んだことを、教育活動に活かしている。		・課題のある生徒に対しては、保護者・地域との連携、情報共有を密にする必要がある。 ・ ・
	施設・設備等の管理	○危機管理意識を高め、安心安全な学校づくりを推進する。	○【目標】安心安全な学校づくりは計画通り実施し、全国健康づくり推進学校優良校、川口市学校安全優良学校を受賞することができた。 【方策】①昨年度からの懸案事項であった修繕は終了。 ②引き渡し訓練を３年ぶりに実施。③特別支援学級環境整備は市教委と連携して進行中。	A	・全国表彰や川口市表彰など、安全指導を含めた取組は、評価できる。 ・自動車に対しての取締り等厳しくなっているので、次年度は、交通安全教室（スタントマン等）を実施し、安全教育の更なる充実に努めていく必要がある。 ・生徒にA E D講習が実施できたら良い。

令和4年度 学校評価のまとめ（学校別）

学校名	領 域	学 校（幼 稚 園） 自 己 評 価			学校（幼稚園）関係者評価（抜粋）
		年 度 目 標	年 度 評 価		
		重点目標	重点目標の達成状況	達成度	
附属中	組織運営	○「学校経営・学校運営基盤の構築」 □①当初計画を検証しながらPhase1(中1～中2)の教育計画の確立とPhase2(中3～高1)の準備を進める。 △②中高一貫教育に対応する校内組織及び高校との連携体制をつくる。	①市教委を交えた中高一貫教育の協議（12月）、中高定事連絡調整会議（月1回）等を通じ、次第に6年間の見通しが持てるようになった。 ②中3からのPhase2に向けて中高の滑らかな人的交流実現に向けて調整している（R5実施予定）	B	・本校は川口市のリーディング校である。まだ開校から5年程度であるため、施設も綺麗で新しい。しかし今後は経年によって、劣化が進んでいく。川口市教育委員会に現状を余すことなく伝えることで十分な予算を確保してもらい、特色を出すための運転資金を減らさないようにしてもらいたい。
	教育課程	○「特色ある教育課程・魅力ある教育活動の実施」 □③公立中高一貫教育の6年間の学びを通じて、生徒主体の質の高い学びを展開する。 △④学校・家庭において学習環境やリソースを生かした、学びの自立を図る教育活動の充実を図る。	③教務主任を中心に複数学年での複雑な教育課程管理が円滑に行われ、各模試等で学力向上が確認されている。 ④制限下にあるものの予定されている交流行事や体験行事を行い、特色ある教育活動を推進することができた。	A	・いよいよ令和6年度に1期生が初めての内進生として、川口市立高等学校に進学する。つまり内進生と外進生が初めて交わることになる。附属中学校とその他の中学校の教育課程を比較したとき、中学校時点での学習進度が大きく異なることから、内進生と外進生の教育課程を同一にすることはできない。受検をして入学した内進生（附属中生）が「附属中を受検して良かった。川口市立高等学校に進学して良かった。」と思えるような特色する教育課程を高校と共に研究し、中高6年間を見据えて編成することが重要である。
	開かれた学校づくり	○「市内全域を対象とした教育コミュニティの中核」 □⑤リーディング校として特色ある教育実践の情報を発信・共有し市内全域の教育力向上に貢献する。 △⑥広域にわたる保護者や関心の高い市民のニーズに答える情報発信を行う。	⑤コロナ制限下において市内教職員交流等の積極的な取組を行うことはできなかった。 ⑥ほぼ毎日HPを更新し、青木中央小や辻小との近隣小学校への訪問を実施した。	A	・HP閲覧数について各ページがどのくらい閲覧されているのかを把握することで、生徒や保護者のニーズを確認する手立ての一つとなる。現状は職員が更新していると思う。人件費はかかるが、HP専属の職員を配置するという方策もあるかもしれない。 ・小学校への訪問や附属中学校の良さを発信する機会は次年度も継続・発展をさせてほしい。
	教職員の資質向上	○「『学習者起点』に立つ生徒主体の授業」 □⑦知識技能ベースの指導から資質能力ベースに指導観を変換する。 △⑧川口市のリーディング教師として選ばれた者としての自覚と責任のもと、高いプロ意識をもつ。	⑦埼玉大学の安原先生を招聘し年間を通じて指導の機会をいただいた。 ⑧風通しの良い職場づくりを目指し、積極的に管理職や教職員同士が話し合える研修の場を設定した。	B	・進学校に勤務していたとき、全教科の副教材を集めて確認してみたところ、ものすごい総量だった。制限なく生徒にやらせれば当然結果は出るが、時間は有限であるため、教科を超えて課題の総量を把握すること、生徒の実態や現状に応じて課題を精査することが重要である。 ・施設やGIGA端末が素晴らしいので、一歩間違うと肝心の「授業力」ではなく、「施設を活用すること」が目標・目的になってしまうことがあるので、本来の目的を見失わないよう注意すること。
	施設・設備等の管理	○「最新設備の効果的活用と安全配慮」 □⑨ネットワーク環境や専門的かつ充実した特別教室や運動施設等の積極的活用を進める。 △⑩本校特有の課題に対して安心・安全の確保に努める。	⑨中高定事連絡調整会議の場を利用して、完成年度に向けた施設設備について情報共有を行った。 ⑩中3エリアの拡張など事務職を中心に関係各所と連絡を取り合い円滑に準備を進めることができた。	A	・現代では、スマートフォンやアプリで勉強ができたり、様々な資格が取れる世の中である。スマートフォンの使用に関する課題はあるだろうが、良し悪しは別にして、スマートフォンによる学習であれば、自習室などの場所も必要がなく、かつ学習をする時間も自由であるため今後の方策の1つだと考える。

令和4年度 学校評価のまとめ（学校別）

学校名	領 域	学 校（幼 稚 園） 自 己 評 価			学校（幼稚園）関係者評価（抜粋）
		年 度 目 標		年 度 評 価	
		重点目標	重点目標の達成状況	達成度	
川口市立高	組織運営	○「進学校・SSH指定校として前進する」①理数科教育のさらなる充実、スポーツ科学コースの学力向上と特進クラスの特色化を図る。②政策アドバイザーと管理職が運動して各主任層との目標の連鎖を進める。	○①理数探究の授業開発等を大学・研究機関と連携し、着実に推進できた。また、日本薬科大学と包括連携協定を締結して特別講演会を実施するなどし、スポーツ科学コースの特色化を図ることができた。②アドバイザーや各主任との連携を進められた。	B	・中学、高校共に優良な運営をしている。 ・目指すべき学校像の実現に向け、生徒、保護者、学校等で意識の共有が図られることを期待する。 ・土曜講習を充実させてほしい。生徒の学力向上に有効でこの後も継続できるものにしてほしい。
	教育課程	○「SSH事業を展開しつつ国公立大学進学に対応する教育課程を実施する」③国公立大現役合格50名以上を目指す。④観点別評価を学力向上に活かす工夫を行う。⑤部活動加入率90%以上を目標とする。	○③修学旅行中、学期末、長期休業中における授業確保、系統的な進路指導を進めた。④9月に観点別学習評価研修会10月に大学教授を招聘しての学習評価研修会を実施して、的確な評価の実施に繋がった。⑤学力向上委員会は自学自習システムを改善し、自習室運営委員会は環境を整備した。	A	・学校行事など教育活動がコロナ前に戻りつつある様子がHPからも窺える。 ・全教科の副教材の把握が必要。課題を精選して自習時間を確保することも大切。 ・附属中からの内進生が高校に上がってくるまであと1年であり、その接続や高校入学後の教育課程を詰めておく必要がある。
	開かれた学校づくり	○「地域とともにある学校づくりを進める一方、中学校や塾に積極的に広報する」⑥高校入試における志願倍率の維持・向上を目指す。⑦近隣の小中学校との情報交換と連携を図る。	○⑥学校説明会では生徒会生徒の協力を得て学校の良さをPRできた。チラシは4月中に、学校案内は6月中に完成し、各中学校に持参・郵送した。ホームページ更新に多くの教員の協力が得られた。⑦校長会と連携し6月末に実施市科学館のイベントに参加	A	・ホームページは閲覧数が多く、鮮度の良い記事をあげることでかなり効果があると思われる。 ・附属中は授業や行事など教育活動について非常によく上がっていて学校の様子が分かる。高校も記事は多いのだが、部活動が多く、進路や行事など学校生活の様子が少ない。保護者に学校生活が見えない。
	教職員の資質向上	○「授業第一主義を学校全体で徹底する」⑧授業における指導方法の工夫・改善を推進する。⑨探究的な学習の指導方法の研究を進める。⑩政策アドバイザー、AL支援員を活用し、AL等各種研修を充実させる。	○⑧⑨6月と11月に授業研究週間を各10日間設定し、互見授業を実施して各教科で授業改善を進めた。SSHを軸に探究的な学習手法に取り組む組織作りを行った。お茶の水女子大等との連携が深まった。⑩初任者研修が授業改善の発信の場となった。	A	・授業が充実しており、先生が大変凝ったPPを作っているが、生徒とのやり取りは少ない。手を抜けるところは抜いて、是非生徒に考えさせる授業を組み立てて欲しい。 ・先生方が横に連携し、課題を共有しているか。ベテランと若い先生方が一緒に考え、授業を共有し、蓄積できるとよい。 ・今日の授業はレベルが高かった。
	施設・設備等の管理	○「最新の施設設備を効果的に活用し、学校生活及び登下校時の安全に配慮する」⑪学校内外での生徒事故防止に取り組む。⑫施設の共用・有効活用⑬BYOD導入とGIGAスクールによる新たなICT環境の整備を進める。	○⑪定期的な登校指導を実施。交通マナーの順守や事故防止の啓発に繋がった。⑫附属中・定時制・事務室の調整会議は月1回実施した。⑬ネットワーク環境はセキュリティ対策を含め整備が完成しつつある。教員用端末の更新についての検討も進んだ。	B	・自転車のヘルメット着用が令和5年4月1日から努力義務になる。学校としてどう対応するのか ・必ずしも本校の生徒というわけではなく、大人のマナーも悪いが、この付近の高校生の自転車マナーの悪さは課題である。 ・新しい施設ではあるが、しっかり市の予算を確保し、適切に教育活動を進めてほしい。

令和4年度 学校評価のまとめ（学校別）					
学校名	領 域	学 校（幼 稚 園） 自 己 評 価			学校（幼稚園）関係者評価（抜粋）
		年 度 目 標	年 度 評 価		
		重点目標	重点目標の達成状況	達成度	
定時制	組織運営	○「キャリア教育・進路指導を核に進路実現を支援する総合学科を構築する」①総合学科の良さを発揮するシステムの構築②新型コロナ感染症に臨機応変に対応した学校運営の計画を立てる	○①プロジェクトチームが作成した総合学科の良さを発揮するシステムを構築し、実行中。進路の手引きは完成間近。②G I G A 端末を活用した授業を行い、リモート授業がいつでも実施できる状態になった。教員研修もqoogleMeetを活用した。	A	・総合学科の良さを発揮するシステムを実行中とのこと、成果が楽しみである。 ・教員が減っている中、引継ぎをスムーズに行ってほしい。 ・
	教育課程	○「新教育課程の実施を準備する」③進路決定者 1 0 0 % を目指す指導体制④日本語を母国語としない生徒をはじめ、一人一人の個性や能力に応じた支援の工夫をする	○③丁寧な進路指導、面接指導を行った。就職内定者 5 名、進学先決定者 1 2 名、現在も 1 2 名活動中。(12月1日現在) 観点別評価の研修会を、複数回実施した。④日本語指導の継続的な実施により支援ができています。	A	・進路指導、キャリア教育を中心として、多くの生徒の進路実現ができたことは、すばらしい。 ・不登校生徒や外国籍の生徒の学び直しの場としての機能を一層充実して欲しい。 ・
	開かれた学校づくり	○「学校を核とした地域づくり」をめざす⑤夜間中学との具体的な連携を工夫する⑥市民のニーズを把握し的確な情報発信をすることで選ばれる学校を目指す・倍率1倍以上を確保する	○⑤夜間中学から進路学習の依頼があり、1 2 月実施で計画中である。⑥10月1日現在の進路希望状況は0.52倍であった。(昨年0.72倍)。学校説明会は約 1 0 0 人が参加した。ホームページは平均すると週に1回以上の更新をおこなった。	B	・外部講師を招いての講演会など多く取り組んでいただきました。どの取り組みも生徒が理解しやすく、心に響くものだったと思います。継続してほしい。 ・芝西中学校陽春分校との連携を継続して欲しい。 ・
	教職員の資質向上	○「授業第一主義」⑦校内研修を活性化させ教職員の授業力向上を図る⑧学校外の研修への参加を積極的に推奨する	○⑦教頭が作成した「授業観察のまとめ」を基に授業担当者がそれぞれ授業改善を行い、I C T を活用した授業が増加した。⑧未来を拓く学びプロジェクトへの参加者はなかった。	B	・未来を拓く『学び』プロジェクトには、参加して欲しい。 ・ ・
	施設・設備等の管理	○「施設設備の効果的活用と安全配慮」⑨本校特有の課題に対して安心・安全の確保に努める⑩G I G A スクール端末やネットワーク環境をはじめ最新鋭の施設・設備を生かした教育活動を展開する	○⑨生徒指導部が中心となり、未然防止に努めた。重篤な生徒事故は発生していない。水害に特化した防災教育を行った。⑩G I G A 端末を活用した授業が複数科目で行った。G I G A 端末のメンテナンスを頻繁に行っている。	A	・災害対策を含め、安心・安全な学校づくりを推進して欲しい。 ・ ・

令和4年度 学校評価のまとめ（学校別）

学校名	領 域	学 校（幼 稚 園） 自 己 評 価			学校（幼稚園）関係者評価（抜粋）
		年 度 目 標	年 度 評 価		
		重点目標	重点目標の達成状況	達成度	
舟戸幼	組織運営	○目指す幼稚園像及び幼児像の共有化 □ P D C A サイクルの推進	○週報（含む園長だより）を通して見通しを持たせ、共通行動の徹底を図った。 ○日々、週日案に個々の幼児の実態や課題を記録し、個に応じた丁寧な保育を行うことができた。 □指導計画の反省を運営の工夫・改善に生かした。さらに見える化を図っていく必要がある	A B	・自由保育が素晴らしい。活動の様子をＨＰやポスター等で、保護者や市内全般に積極的に広報活動をしてほしい。（子育てサポートセンターや公民館、地域の集り等） ・ ・
	教育課程	○舟戸学園の連携教育と豊かな自然環境の特色を生かす保育の推進 □小学校との連携による幼小の滑らかな接続	○舟戸学園としての連携教育では、新しい形で交流活動を実践することができた。 ○自然体験活動を計画的に進めることができた。 □舟戸小と共同して、アプローチカリキュラムとスタートカリキュラムを作成し、幼・小の滑らかな接続を図っている。	B B	・園庭が広く、自然環境の素晴らしさが大きな特色である。園内でサヤエンドウやいもほり等の栽培体験ができることがとてもよい。 ・虫捕りやメダカの観察、ヤゴからトンボへの成長過程等を実際に見ること等、幼児期の体験が大人になっても生活に生きる。さらに自然体験活動を推進してほしい。 ・
	開かれた学校づくり	○幼稚園の保育内容と幼児の姿の積極的な発信 □保護者・地域等からの情報の収集による連携の強化	○園だよりやＨＰ（毎日のブログ）で、保育活動を保護者、市内に積極的に発信した。 □保育参観、保護者会、教育相談、個人面談等で、常に「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を意識付けた。	A B	・幼稚園の生活がよくわかる。今後もＨＰ（ブログ）やポスター等で、保護者、地域等に積極的に発信して行ってほしい。 ・外国人の保護者への対応として、保護者配布文をわかりやすくしてほしい ・今後も保護者、学校評議員、地域などから広く意見を収集する。
	教職員の資質向上	○研修の充実による指導力の向上 □市立幼稚園教育研究協議会の研究の充実	○園内研修では、様々な事例研究や外部講師の講演を通して学び合い、幼児理解を深めるとともに、指導力の向上を図ることができた。 □市立幼稚園教育研究協議会で、２園が実践事例研究等を通して学び合いを推進し、指導力の向上を図ることができた。	A A	・運動会は全体できて、盛り上がりがあった。子供と保護者が一緒にやっていたところがとてもよかった。 ・運動会では年長児の係活動もあり、ねらいの達成に配慮されている。 ・年長、年中、年少の交流があり、上の子を見てかっこいいと思ったり、下の子に教えてあげたりするところがよい。 ・当日だけではなく、導入の活動があって、終わった後も活動が広がっている。先生が丁寧に説明されているからだと思う。 ・サツマイモを植えるところから、お世話をし、収穫まで体験できる。数を数えたり、手洗いなどまで細かい配慮をしている。 ・劇遊びでは、子供たちが自主的に動いていて、先生との信頼関係が図られていた。
	施設・設備等の管理	○安全管理の徹底 □教職員と幼児の危機管理意識の高揚	○日常の安全点検や毎月の定期点検、各行事の事前点検を徹底したことにより、事故ゼロを達成することができた。 □様々な事態を想定した避難訓練を毎月行った。教職員事故防止研修では、具体的な事例で当事者意識を持たせ、事故ゼロを実現することができた。	A A	・最近、園児の事故が報道されている。園内や遠足などの園外活動等の事故に気をつけてほしい。 ・自転車のヘルメット着用等、安全に十分気をつけて登降園してほしい。 ・

令和4年度 学校評価のまとめ（学校別）

学校名	領 域	学 校（幼 稚 園） 自 己 評 価			学校（幼稚園）関係者評価（抜粋）
		年 度 目 標	年 度 評 価		
		重点目標	重点目標の達成状況	達成度	
南平幼	組織運営	○目指す幼稚園像の実現に向け、教職員が適切に役割を分担、連携しつつ、教育活動にあたる。 ○昨年より3歳時保育が始まり、各主任を中心としたカリキュラムマネジメントの充実に努める <			

令和4年度 学校評価のまとめ（学校別）					
学校名	領 域	学 校（幼 稚 園） 自 己 評 価			学校（幼稚園）関係者評価（抜粋）
		年 度 目 標	年 度 評 価		
		重点目標	重点目標の達成状況	達成度	
	教職員の資 質向上	○日々の学級経営、幼児理解の改善を図り、保護者アンケートの指導に関する評価項目を向上させる。 □市教委委嘱では、研究仮説や全体構想を立て、実践事例研修を充実させる。	○毎朝の集会、週1回のミーティング等で、教職員の共通理解を図ることが出来た。 ○日案には写真を活用するなど、保育の振り返りを充実させた。 ○新採用研修では、年長組担任ということもあり、近隣小学校1年生の授業を参観させていただいた。 □市教委委嘱研究では、育てたい幼児像を学年ごとに明確にし、音楽に親しむ幼児、のびのびと表現する楽しさを感じる幼児、友達と一緒に表現を楽しむ幼児を育てていくことで、指導力向上を図る。	B B	○研修やミーティング等で日々職員間のコミュニケーションを図るように努めている。少数ならではのチームワークや風通しの良さがあるのではないかなと思う。 ○園児数は減っているが、3歳児クラスができ、療育に通っている子も受け入れているため、人手は必要である。行事を拝見して、補助の先生を含め、目が行き届いていると思う。 ○保護者対応に関する新しいキャリアとともに、共通理解とチームワークをお願いしたい。 □豊かな表現力では、なかなか家庭ではできない部分もあるので、幼稚園でのびのびと行ってほしい。 .
	施設・設備等 の管理	○優先順位をつけて計画的に幼稚園の施設・設備の改修や改善を行い、施設事故ゼロを継続する。 □危機管理意識をもって、日常的な危険個所の点検、対応の園内体制づくりをし、安全確保をする。	○業務改善スタンダードを作成し、改善を図った。 □交通安全教室や避難訓練の実施を計画的に行うことができ、回数を重ねることで、年少3歳児も落ち着いて避難できるようになった。 □川口市学校安全優良学校・埼玉県学校安全優良学校として表彰された。	A A	○働き方改革により、教職員の負担軽減できるよう、チェック形式にしたり工夫されている。 ○施設は古いが、よく手入れされていて痛んでいる印象はうけない。整理整頓がいつも行き届いている。 ○大きな事故がないことは、とても素晴らしい。 ○木のささくれなど、ないようにしていただきたい。 □防災訓練を毎月行っているとの事で、子供たちにとって生活の一部になっていると感じた。訓練方法について、新しい防災情報を取り入れながら、時代や状況に合わせ最適化している様子がうかがえた。 ○幼稚園でも避難訓練をしているので、地震が起こった時も冷静だと思う。 □今できることを、集団生活での避難訓練をしていることに感謝したい。

議案第35号

川口市学校運営協議会委員を委嘱・任命することについて

川口市学校運営協議会委員に別紙の者を委嘱・任命するため、川口市学校運営協議会規則（平成21年教育委員会規則第1号）第6条の規定により議決を求める。

令和5年4月3日提出

川口市教育委員会教育長 井 上 清 之

1 委嘱・任命するもの

※任期の開始は令和5年4月3日から

(1) 川口市立本町小学校

No.	氏 名	規則第6条関係	任期
1	田原 浩之	P T A会長	令和7年3月31日
2	細貝 勝己	栄町1丁目町会長	令和7年3月31日
3	小林 宏	栄町二丁目町会長	令和7年3月31日
4	山野 栄三郎	主任児童委員	令和7年3月31日
5	子安 章子	主任児童委員	令和7年3月31日
6	関 有孝	本校元P T A会長	令和7年3月31日
7	安井 賢光	本町2丁目町会長	令和7年3月31日
8	内山 秀夫	本町3丁目町会長	令和7年3月31日
9	沼口 弘	本町4丁目町会長	令和7年3月31日
10	平野 裕子	教頭	令和7年3月31日
11	小幡 拓也	教務主任	令和7年3月31日
12	川端 浩司	校長	令和7年3月31日

(2) 川口市立幸町小学校

No.	氏 名	規則第6条関係	任期
1	早川 悦生	リボンシティレジデンス自治会長	令和7年3月31日
2	稲垣 茂	後援会会長	令和7年3月31日
3	納口 真一	幸町1丁目町会長	令和7年3月31日
4	佐藤 充	栄町3丁目会長	令和7年3月31日
5	吉田 隆久	幸町3丁目町会長	令和7年3月31日

6	緑川 定雄	幸町二丁目町会長	令和7年3月31日
7	明上山 美津江	主任児童委員	令和7年3月31日
8	阿部 雄太	教頭	令和7年3月31日
9	田中 俊男	幸栄公民館長	令和7年3月31日
10	織本 寛之	校長	令和7年3月31日
11	西野 翼	主幹教諭	令和7年3月31日

(3) 川口市立上青木小学校

No.	氏 名	規則第6条関係	任期
1	川島 隆太郎	警視庁OB	令和7年3月31日
2	山野 光雄	元PTA会長	令和7年3月31日
3	森岡 毅	元PTA会長	令和7年3月31日
4	江口 満志	元PTA会長	令和7年3月31日
5	佐々木 良彦	元PTA会長	令和7年3月31日
6	金子 博	上青木西北町会長	令和7年3月31日
7	二宮 裕之	大学教員	令和7年3月31日
8	土屋 貴紀	上青木東町会役員	令和7年3月31日
9	坪川 京子	南前川1丁目町会長	令和7年3月31日
10	藤森 信之	教頭	令和7年3月31日
11	高橋 眞一	校長	令和7年3月31日
12	剣持 香代子	事務主査	令和7年3月31日
13	久保 賀子	主幹教諭	令和7年3月31日

(4) 川口市立元郷小学校

No.	氏 名	規則第 6 条関係	任期
1	岡田 大助	校長	令和 6 年 3 月 3 1 日
2	金丸 泰典	主幹教諭	令和 6 年 3 月 3 1 日

(5) 川口市立飯塚小学校

No.	氏 名	規則第 6 条関係	任期
1	和田 俊	主幹教諭	令和 6 年 3 月 3 1 日

(6) 川口市立芝小学校

No.	氏 名	規則第 6 条関係	任期
1	櫻井 秀子	校長	令和 6 年 3 月 3 1 日

(7) 川口市立新郷小学校

No.	氏 名	規則第 6 条関係	任期
1	関根 和雄	赤井町会長	令和 7 年 3 月 3 1 日
2	岡田 和美	前野宿町会 班長	令和 7 年 3 月 3 1 日
3	渡邊 秀人	大東町会相談役	令和 7 年 3 月 3 1 日
4	諏訪 美紀	東本郷台町会青少年部長	令和 7 年 3 月 3 1 日
5	菅野 好夫	峯町会西区区長	令和 7 年 3 月 3 1 日
6	渡辺 泰枝	本蓮町会上宿支部長	令和 7 年 3 月 3 1 日
7	大隅 彰之	主幹教諭	令和 6 年 3 月 3 1 日
8	村川 恵大	事務主事	令和 6 年 3 月 3 1 日

(8) 川口市立神根小学校

No.	氏 名	規則第6条関係	任期
1	矢作 哲久	道合町会長 スクールガードリーダー	令和7年3月31日
2	篠崎 弘敬	校長	令和6年3月31日

(9) 川口市立青木北小学校

No.	氏 名	規則第6条関係	任期
1	高野 光弘	スクールガードリーダー	令和7年3月31日
2	新保 隆志	西青木端戸町会長	令和7年3月31日
3	森角 ユミ子	青少年育成委員	令和7年3月31日
4	本間 正明	青少年育成委員 P T A顧問	令和7年3月31日
5	畑中 智栄美	民生児童委員	令和7年3月31日
6	伊藤 元洋	教頭	令和7年3月31日
7	新井 恵	校長	令和7年3月31日
8	東 よう子	事務主幹	令和7年3月31日
9	大矢 真悟	主幹教諭	令和7年3月31日
10	高野 光弘	スクールガードリーダー	令和7年3月31日

(10) 川口市立領家小学校

No.	氏 名	規則第6条関係	任期
1	伊藤 教一	令和5年度 P T A会長	令和6年3月31日
2	江森 奈々子	令和5年度 P T A幹事長	令和7年3月31日
3	上園 竜之介	校長	令和6年3月31日

(1 1) 川口市立舟戸小学校

No.	氏 名	規則第 6 条関係	任期
1	加田 明	校長	令和 6 年 3 月 3 1 日
2	村上 幸弘	主幹教諭	令和 6 年 3 月 3 1 日

(1 2) 川口市立十二月田小学校

No.	氏 名	規則第 6 条関係	任期
1	菱沼 亮介	P T A 会長	令和 6 年 3 月 3 1 日

(1 3) 川口市立飯仲小学校

No.	氏 名	規則第 6 条関係	任期
1	市村 茂樹	P T A 会長	令和 7 年 3 月 3 1 日
2	冨塚 佳彦	教育後援会会長 仲町 1 丁目町会長	令和 7 年 3 月 3 1 日
3	菊地 正幸	教育後援会 相談役	令和 7 年 3 月 3 1 日
4	篠田 隆	教育後援会 相談役	令和 7 年 3 月 3 1 日
5	高橋 良樹	教育後援会 副会長	令和 7 年 3 月 3 1 日
6	濱田 由美	元主任児童委員 学校応援団コーディネーター	令和 7 年 3 月 3 1 日
7	登玉 郷子	元主任児童委員	令和 7 年 3 月 3 1 日
8	濱田 勝美	仲町町会長	令和 7 年 3 月 3 1 日
9	八木澤 清美	民生児童委員	令和 7 年 3 月 3 1 日
1 0	服部 豊	教頭	令和 7 年 3 月 3 1 日
1 1	小澤 英敏	校長	令和 7 年 3 月 3 1 日
1 2	石橋 拓也	主幹教諭	令和 7 年 3 月 3 1 日

(1 4) 川口市立並木小学校

No.	氏 名	規則第 6 条関係	任期
1	小林 友子	人権擁護委員・民生委員	令和 6 年 3 月 3 1 日
2	古川 九一	川口市議会議員	令和 6 年 3 月 3 1 日
3	岩澤 奈々子	校長	令和 6 年 3 月 3 1 日
4	後藤 光希	主幹教諭	令和 6 年 3 月 3 1 日

(1 5) 川口市立安行小学校

No.	氏 名	規則第 6 条関係	任期
1	小川 昌子	新郷おとぎの森おはなし会代表 学校応援団	令和 7 年 3 月 3 1 日
2	渡邊 恵	教頭	令和 6 年 3 月 3 1 日

(1 6) 川口市立原町小学校

No.	氏 名	規則第 6 条関係	任期
1	西川 充恵	主任児童委員	令和 6 年 3 月 3 1 日
2	乗田 裕史	教務主任	令和 6 年 3 月 3 1 日
3	山形 崇	校長	令和 6 年 3 月 3 1 日

(1 7) 川口市立前川小学校

No.	氏 名	規則第 6 条関係	任期
1	萩原 忠	P T A顧問	令和 7 年 3 月 3 1 日
2	鈴木 健一	スクールガードリーダー	令和 7 年 3 月 3 1 日
3	本橋 昭仁	前川本町町会長 保護司	令和 7 年 3 月 3 1 日
4	新井 絹江	学校応援団 民生委員地区会長	令和 7 年 3 月 3 1 日

5	小林 博武	元前川小学校校長	令和7年3月31日
6	小暮 茂	根岸第一町会長	令和7年3月31日
7	高須 廣文	芝一丁目町会長 元PTA会長	令和7年3月31日
8	吉田 旭	前PTA会長	令和7年3月31日
9	龍光寺 憲一郎	前川公民館地区体育 レクリエーション協会理事長	令和7年3月31日
10	齊藤 志津枝	民生委員	令和7年3月31日
11	星川 重治	教頭	令和7年3月31日
12	近藤 百合	校長	令和7年3月31日
13	本川 尋美	主幹教諭	令和7年3月31日

(18) 川口市立戸塚小学校

No.	氏 名	規則第6条関係	任期
1	林 奈緒美	校長	令和6年3月31日

(19) 川口市立青木中央小学校

No.	氏 名	規則第6条関係	任期
1	佐藤 和磨	PTA会長	令和7年3月31日
2	荒井 武士郎	青木中学校PTA会長	令和7年3月31日
3	小野 智幸	元PTA会長・現学校関係者評価委員	令和7年3月31日
4	池田 浩宣	元PTA会長	令和7年3月31日
5	爪川 久彦	元中青木2丁目町会長	令和7年3月31日
6	栗原 真利子	元民生委員 元町会副会長	令和7年3月31日
7	沼口 功	元PTA会長	令和7年3月31日

8	宿谷 岩男	後援会会長	令和7年3月31日
9	湯本 一資	青木1・2丁目町会長 連合町会長	令和7年3月31日
10	羽鳥 收	青木地区民生委員地区会長	令和7年3月31日
11	永瀬 慎一	中青木1丁目町会長	令和7年3月31日
12	長堀 光洋	中青木2丁目町会長	令和7年3月31日
13	石田 俊介	教頭	令和7年3月31日
14	石川 庸子	校長	令和7年3月31日
15	赤松 祐介	主幹教諭	令和7年3月31日

(20) 川口市立元郷南小学校

No.	氏 名	規則第6条関係	任期
1	河野 広海	P T A会長	令和7年3月31日
2	石井 佳英	元P T A執行部役員	令和7年3月31日
3	宇田川 彰一郎	学校応援団コーディネーター	令和7年3月31日
4	南 勇	元小学校長	令和7年3月31日
5	山下 秀文	前P T A会長	令和7年3月31日
6	中島 晴子	南平保育園長	令和7年3月31日
7	荒井 倫彦	教頭	令和7年3月31日
8	岩本 好則	校長	令和7年3月31日
9	小畔 拓	主幹教諭	令和7年3月31日

(21) 川口市立芝西小学校

No.	氏 名	規則第6条関係	任期
1	曾山 武寿	芝西中学校長	令和6年3月31日
2	山田 晴美	校長	令和6年3月31日
3	鈴木 優	教務主任	令和6年3月31日
4	藤川 悟	小谷場中学校長	令和6年3月31日

(22) 川口市立芝南小学校

No.	氏 名	規則第6条関係	任期
1	加藤 康介	P T A会長	令和7年3月31日
2	飯嶋 壽	P T A副会長	令和7年3月31日
3	石上 晶太	P T A副会長	令和7年3月31日
4	星野 径子	新P T A副会長	令和7年3月31日
5	真子 美津枝	元民生委員	令和7年3月31日
6	中島 直美	民生委員	令和7年3月31日
7	松田 清美	元P T A会長	令和7年3月31日
8	越尾 隆	芝二丁目町会長	令和7年3月31日
9	池田 典代	主任児童委員 学校応援団	令和7年3月31日
10	田村 健一	教頭	令和7年3月31日
11	加藤 智美	校長	令和7年3月31日
12	牛之濱 瑛美	事務職員	令和7年3月31日
13	平 健倫	主幹教諭	令和7年3月31日

(23) 川口市立神根東小学校

No.	氏 名	規則第6条関係	任期
1	山崎 万理	主任児童委員	令和6年3月31日

(24) 川口市立朝日東小学校

No.	氏 名	規則第6条関係	任期
1	山下 拓弥	令和5年度PTA会長	令和6年3月31日
2	上倉 徹	朝日東地区連合町会 会長	令和7年3月31日
3	武内 豊	放課後子供教室代表	令和7年3月31日

(25) 川口市立芝富士小学校

No.	氏 名	規則第6条関係	任期
1	市川 雅保	元校長	令和7年3月31日
2	梶尾 信義	前PTA会長	令和7年3月31日
3	渡部 健	教頭	令和6年3月31日

(26) 川口市立前川東小学校

No.	氏 名	規則第6条関係	任期
1	橋爪 優	校長	令和6年3月31日

(27) 川口市立柳崎小学校

No.	氏 名	規則第6条関係	任期
1	木村 香	PTA顧問	令和7年3月31日
2	三村 節子	学校関係者評価委員	令和7年3月31日
3	若谷 正巳	川口市議会議員 元PTA会長	令和7年3月31日

4	鈴木 ルリ子	民生委員	令和7年3月31日
5	吉田 幸子	元民生委員	令和7年3月31日
6	飯塚 憲勝	柳崎町会長	令和7年3月31日
7	井上 貴子	教頭	令和7年3月31日
8	相樂 雅彦	校長	令和7年3月31日
9	鎌田 純子	事務主幹	令和7年3月31日
10	小林 崇	主幹教諭	令和7年3月31日
11	柳田 朗	川口市立芝東中学校長	令和7年3月31日

(28) 川口市立芝樋ノ爪小学校

No.	氏 名	規則第6条関係	任期
1	加藤 善幸	前PTA会長	令和7年3月31日
2	安藤 孝代	ひのつめ幼稚園 園長	令和7年3月31日
3	森平 研太	現PTA会長	令和7年3月31日
4	内田 肇	芝塚越町会長	令和7年3月31日
5	須賀 幸太郎	芝塚原町会長	令和7年3月31日
6	榎本 幸平	芝樋ノ爪町会長	令和7年3月31日
7	高橋 保子	児童委員	令和7年3月31日
8	白石 秀夫	田中町会長	令和7年3月31日
9	増田 真二	教頭	令和7年3月31日
10	山上 拓	教務主任	令和7年3月31日
11	吉田 栄	校長	令和7年3月31日
12	曾山 武寿	川口市立芝西中学校 校長	令和7年3月31日

(2 9) 川口市立新郷南小学校

No.	氏 名	規則第 6 条関係	任期
1	兼子 美由紀	前 P T A 会長 スクールガードリーダー	令和 7 年 3 月 3 1 日
2	遠藤 元信	新郷南小学校父の会会長	令和 7 年 3 月 3 1 日
3	石島 正文	赤井町会副会長 自主防災部長	令和 7 年 3 月 3 1 日
4	平林 仁	東本郷南町会副会長	令和 7 年 3 月 3 1 日
5	杉山 こずえ	主幹教諭	令和 6 年 3 月 3 1 日

(3 0) 川口市立上青木南小学校

No.	氏 名	規則第 6 条関係	任期
1	川崎 隆史	P T A 会長	令和 7 年 3 月 3 1 日
2	佐瀬 常雄	スクールガードリーダー 学校応援団コーディネーター	令和 7 年 3 月 3 1 日
3	内田 美智子	学校応援コーディネーター	令和 7 年 3 月 3 1 日
4	山野 巖	元 P T A 会長	令和 7 年 3 月 3 1 日
5	矢作 謙一	元 P T A 会長	令和 7 年 3 月 3 1 日
6	山村 裕子	元 P T A 副会長	令和 7 年 3 月 3 1 日
7	湯浅 美智子	上青木西町会長	令和 7 年 3 月 3 1 日
8	大津 哲子	上青木地区主任児童委員	令和 7 年 3 月 3 1 日
9	藤木 久枝	上青木地区民生委員副会長	令和 7 年 3 月 3 1 日
1 0	加藤 一成	川口市法人会副会長	令和 7 年 3 月 3 1 日
1 1	石田 智久	教頭	令和 7 年 3 月 3 1 日
1 2	玉川 直英	教務主任	令和 7 年 3 月 3 1 日

1 3	高宮 明洋	校長	令和7年3月31日
-----	-------	----	-----------

(31) 川口市立根岸小学校

No.	氏 名	規則第6条関係	任期
1	浅野 悟史	P T A会長	令和7年3月31日
2	森山 真昭	学校応援団 想根会	令和7年3月31日
3	村上 久美子	元P T A会長	令和7年3月31日
4	乙吉 俊一郎	元根岸第4町会長	令和7年3月31日
5	西野 平二郎	元根岸第5町会長	令和7年3月31日
6	古谷 俊美	根岸第5町会長	令和7年3月31日
7	清水 秀文	元主任児童委員 元P T A会長	令和7年3月31日
8	佐藤 哲也	教頭	令和7年3月31日
9	菅野 友将	教務主任	令和7年3月31日
1 0	谷 史夫	校長	令和7年3月31日

(32) 川口市立芝中央小学校

No.	氏 名	規則第6条関係	任期
1	井上 祐介	教務主任	令和6年3月31日

(33) 川口市立新郷東小学校

No.	氏 名	規則第6条関係	任期
1	瀧嶋 三枝子	教務主任	令和6年3月31日
2	岡本 賢一	校長	令和6年3月31日

(34) 川口市立朝日西小学校

No.	氏 名	規則第6条関係	任期
1	佐藤 貴広	校長	令和6年3月31日

(35) 川口市立慈林小学校

No.	氏 名	規則第6条関係	任期
1	新海 今朝巳	元教育長	令和7年3月31日
2	石原 昌治	教頭	令和6年3月31日

(36) 川口市立差間小学校

No.	氏 名	規則第6条関係	任期
1	森田 雅久	元PTA会長	令和7年3月31日
2	田丸 利雄	元小学校長	令和7年3月31日
3	内山 美夫	行衛町会副会長	令和7年3月31日
4	新井 正義	差間スローライフ副会長	令和7年3月31日
5	佐藤 健一	主任児童委員	令和7年3月31日
6	葛山 善信	前PTA会長	令和7年3月31日
7	蓮見 育子	民生児童委員	令和7年3月31日
8	大森 清子	民生児童委員	令和7年3月31日
9	後藤 弘之	民生児童委員	令和7年3月31日
10	水越 幸子	民生児童委員	令和7年3月31日
11	常泉 恵美子	民生児童委員	令和7年3月31日
12	添田 朋子	民生児童委員	令和7年3月31日
13	小内 むつ子	民生児童委員	令和7年3月31日

1 4	河野 通昭	教頭	令和7年3月31日
1 5	山本 智久	校長	令和7年3月31日

(37) 川口市立東本郷小学校

No.	氏 名	規則第6条関係	任期
1	鈴木 圭一	P T A会長	令和7年3月31日
2	土屋 賢治	元小学校長	令和7年3月31日
3	中出 房江	元本蓮町会役員	令和7年3月31日
4	那須 孝男	新堀町会役員	令和7年3月31日
5	宮原 美子	榛松町会長	令和7年3月31日
6	鹿野 泰史	教頭	令和7年3月31日
7	朝倉 伸行	校長	令和7年3月31日
8	高本 大輔	事務主幹	令和7年3月31日
9	本山 郁美	主幹教諭	令和7年3月31日

(38) 川口市立東領家小学校

No.	氏 名	規則第6条関係	任期
1	丹野 信幸	現P T A会長	令和7年3月31日
2	細田 兼廣	東領家3丁目町会長	令和7年3月31日
3	嶋原 世紀子	婦人会副会長、前学校評議委員	令和7年3月31日
4	矢作 佐知子	民生委員、前学校評議委員	令和7年3月31日
5	加藤 雅明	教頭	令和7年3月31日
6	高橋 義樹	校長	令和7年3月31日
7	清水 貴芳	主幹教諭	令和7年3月31日

(3 9) 川口市立安行東小学校

No.	氏 名	規則第 6 条関係	任期
1	秋元 康夫	P T A会長	令和 7 年 3 月 3 1 日
2	保永 賢司	安行吉蔵町会長	令和 7 年 3 月 3 1 日
3	石井 昇	安行出羽町会役員	令和 7 年 3 月 3 1 日
4	小林 繁雄	安行西立野町会長	令和 7 年 3 月 3 1 日
5	金子 利夫	安行町会長	令和 7 年 3 月 3 1 日
6	杉本 忠昭	安行藤八町会長	令和 7 年 3 月 3 1 日
7	高山 重之	安行領家町会長	令和 7 年 3 月 3 1 日
8	小林 進一	元 P T A会長 スクール・ガードリーダー	令和 7 年 3 月 3 1 日
9	佐藤 直子	主任児童委員	令和 7 年 3 月 3 1 日
1 0	佐藤 睦典	教頭	令和 7 年 3 月 3 1 日
1 1	高橋 伸治	教頭	令和 7 年 3 月 3 1 日
1 2	福嶋 繁夫	校長	令和 7 年 3 月 3 1 日
1 3	西牧 崇	主幹教諭	令和 7 年 3 月 3 1 日
1 4	大井 裕美子	川口市立安行東中学校教頭	令和 7 年 3 月 3 1 日

(4 0) 川口市立在家小学校

No.	氏 名	規則第 6 条関係	任期
1	宇佐見 昌彦	P T A会長	令和 7 年 3 月 3 1 日
2	伊藤 正樹	P T A顧問	令和 7 年 3 月 3 1 日
3	小林 稔	おやじの会会長	令和 7 年 3 月 3 1 日
4	渡邊 佳代子	神根地区主任児童委員	令和 7 年 3 月 3 1 日

5	本多 和子	スクールガードリーダー	令和7年3月31日
6	山崎 義孝	学校応援団コーディネーター	令和7年3月31日
7	桧野 好晴	根岸北町会長	令和7年3月31日
8	大森 雅之	教頭	令和7年3月31日
9	宇田川 雄	教務主任	令和7年3月31日
10	熊谷 壽	校長	令和7年3月31日

(41) 川口市立戸塚東小学校

No.	氏 名	規則第6条関係	任期
1	佐藤 秀雄	校長	令和6年3月31日
2	酒寄 誠	主幹教諭	令和6年3月31日

(42) 川口市立戸塚北小学校

No.	氏 名	規則第6条関係	任期
1	鹿田 大輔	校長	令和6年3月31日
2	峯岸 慎	主幹教諭	令和6年3月31日

(43) 川口市立木曽呂小学校

No.	氏 名	規則第6条関係	任期
1	天海 英夫	元PTA会長	令和7年3月31日
2	柳澤 直樹	元PTA会長	令和7年3月31日
3	田代 博人	学識有識者、川口市放課後子供教室 「劇団 きぞろ」代表	令和7年3月31日
4	清水 啓太	現PTA会長	令和7年3月31日
5	渡邊 淳一	地域住民	令和7年3月31日

6	石井 賢一	木曽呂第1町会長	令和7年3月31日
7	巻嶋 洋司	教頭	令和7年3月31日
8	石黒 裕也	教頭	令和7年3月31日
9	佐藤 文永	教務主任	令和7年3月31日
10	関口 真仁	校長	令和7年3月31日

(44) 川口市立戸塚綾瀬小学校

No.	氏 名	規則第6条関係	任期
1	佐伯 和樹	新PTA会長	令和7年3月31日
2	岡田 順三	久左衛門新田町会長	令和7年3月31日
3	大野 利光	元戸塚団地自治会子ども会会長	令和7年3月31日
4	川田 悦代	戸塚綾瀬小学校元PTA副会長	令和7年3月31日
5	沖田 潤子	埼玉県立川口東高等学校長	令和7年3月31日
6	水野 俊二	長蔵新田町会長	令和7年3月31日
7	賀嶋 英俊	藤兵衛新田町会長	令和7年3月31日
8	樋地 香奈子	主幹教諭	令和6年3月31日
9	島田 秀明	教頭	令和7年3月31日
10	三浦 大助	校長	令和7年3月31日
11	木舟 忍	事務主事	令和7年3月31日

(45) 川口市立戸塚南小学校

No.	氏 名	規則第6条関係	任期
1	穴見 誠一	PTA会長	令和7年3月31日
2	椎橋 美孝	PTA顧問	令和7年3月31日

3	井原 勲	スクールガードリーダー	令和7年3月31日
4	新井 雅夫	下戸塚町会会長 戸塚地区連合町会長	令和7年3月31日
5	澤田 幸江	戸塚児童センター「あすばる」顧問	令和7年3月31日
6	園部 隆男	行衛町会長	令和7年3月31日
7	早船 悦朗	西立野町会長	令和7年3月31日
8	近藤 玲子	放課後子ども教室「どれみふぁ広場」 コーディネーター	令和7年3月31日
9	豊田 徹	立山町会長	令和7年3月31日
10	小川 巧	教頭	令和7年3月31日
11	佐藤 元康	校長	令和7年3月31日

(46) 川口市立鳩ヶ谷小学校

No.	氏 名	規則第6条関係	任期
1	後藤 恵一	民生児童委員	令和7年3月31日
2	従二 達雄	元民生児童委員	令和7年3月31日
3	四條 延子	元学童保育指導員	令和7年3月31日
4	吉川 舞衣美	現PTA会長	令和7年3月31日
5	矢作 登司雄	坂下町1丁目自治会長	令和7年3月31日
6	鎌田 次雄	坂下町4丁目第1自治会長	令和7年3月31日
7	大嶋 裕香	主任児童委員	令和7年3月31日
8	遠藤 ミツル	主任児童委員	令和7年3月31日
9	森田 晏且	鳩ヶ谷本町1丁目自治会長	令和7年3月31日
10	中里 明啓	教頭	令和7年3月31日
11	河口 典久	校長	令和7年3月31日

1 2	堀 祥子	主幹教諭	令和7年3月31日
-----	------	------	-----------

(47) 川口市立中居小学校

No.	氏 名	規則第6条関係	任期
1	小林 進治	校長	令和6年3月31日

(48) 川口市立辻小学校

No.	氏 名	規則第6条関係	任期
1	池田 仁美	教務主任	令和6年3月31日

(49) 川口市立里小学校

No.	氏 名	規則第6条関係	任期
1	風間 洋衛	スクールガードリーダー	令和7年3月31日
2	尾嶋 敏男	前スクールガードリーダー	令和7年3月31日
3	相澤 藤子	主任児童委員	令和7年3月31日
4	田中 佑子	川口市立里小学校PTA会長	令和7年3月31日
5	青柳 久夫	里みどりヶ丘自治会長 里小みどりふれあい運営委員長	令和7年3月31日
6	岡村 雅人	前里自治会長	令和7年3月31日
7	高野 照明	里自治会長役員	令和7年3月31日
8	亀山 義光	教頭	令和7年3月31日
9	駒崎 弘匡	校長	令和7年3月31日
1 0	飯田 麻利	主幹教諭	令和7年3月31日

(50) 川口市立桜町小学校

No.	氏 名	規則第6条関係	任期
1	神崎 有人	桜町4丁目自治会長	令和7年3月31日
2	高橋 健二	桜町5丁目自治会長 民生委員	令和7年3月31日
3	小柳 美佐子	民生委員	令和7年3月31日
4	竹澤 等	民生委員	令和7年3月31日
5	高野 浩	教頭	令和7年3月31日
6	安田 道桜	教務主任	令和7年3月31日
7	小川 哲	校長	令和7年3月31日
8	伊藤 みさえ	事務主幹	令和7年3月31日

(51) 川口市立南鳩ヶ谷小学校

No.	氏 名	規則第6条関係	任期
1	北原 学	P T A会長	令和7年3月31日
2	間瀬 悟央	おやじの会会長	令和7年3月31日
3	金子 雅英	前P T A会長	令和7年3月31日
4	潮田 香織	元P T A会長 学校評価委員 元学校評議員	令和7年3月31日
5	坂井 紀枝	主任児童委員 学校評価委員 学校評議員	令和7年3月31日
6	村瀬 寿恵	元教員	令和7年3月31日
7	石山 進	南鳩ヶ谷8丁目自治会長	令和7年3月31日
8	竹井 英雄	南鳩ヶ谷六丁目自治会長	令和7年3月31日
9	安部 義明	鳩ヶ谷緑町自治会長	令和7年3月31日

1 0	丸山 明美	保護司 学校評価委員 元鳩ヶ谷市教育委員	令和7年3月31日
1 1	小柳 篤志	主幹教諭	令和7年3月31日
1 2	菊地 陽子	教頭	令和7年3月31日
1 3	河村 昭彦	校長	令和7年3月31日
1 4	笹木 恭美	事務職員	令和7年3月31日

(5 2) 川口市立東中学校

No.	氏 名	規則第6条関係	任期
1	柳田 勇	校長	令和6年3月31日
2	菅谷 和孝	教頭	令和6年3月31日
3	長尾 光一	主幹教諭	令和6年3月31日

(5 3) 川口市立西中学校

No.	氏 名	規則第6条関係	任期
1	前畑 守	現PTA会長	令和7年3月31日
2	梶本 美岐	教頭	令和6年3月31日

(5 4) 川口市立南中学校

No.	氏 名	規則第6条関係	任期
1	坂本 圭一郎	教頭	令和6年3月31日

(5 5) 川口市立北中学校

No.	氏 名	規則第6条関係	任期
1	清水 秀文	民生児童委員協議会地区会長	令和7年3月31日

2	齊藤 京子	学校関係者評価委員	令和7年3月31日
3	古谷 俊美	根岸第5町会長	令和7年3月31日
4	楡井 猛	学校関係者評価委員	令和7年3月31日
5	佐藤 光輝	学校関係者評価委員	令和7年3月31日
6	飯田 成則	同窓会会長	令和7年3月31日
7	村上 久美子	主任児童委員	令和7年3月31日
8	齋藤 四郎	東内野町会長	令和7年3月31日
9	袴田 光春	道合西町会長	令和7年3月31日
10	秋田 幸代	学校関係者評価委員	令和7年3月31日
11	伊藤 洋二	前PTA会長	令和7年3月31日
12	岡安 孝文	校長	令和7年3月31日
13	渡辺 秀和	教頭	令和7年3月31日
14	中村 光江	主幹教諭	令和7年3月31日

(56) 川口市立青木中学校

No.	氏 名	規則第6条関係	任期
1	平野 浩行	元PTA会長	令和7年3月31日
2	布施 征男	前青木中央町会長 PTA顧問	令和7年3月31日
3	岸 清美	主任児童委員	令和7年3月31日
4	千葉 都	青木町五丁目町会副会長	令和7年3月31日
5	高野 善夫	元PTA会長	令和7年3月31日
6	稲垣 英男	青木中央町会長	令和7年3月31日
7	湯本 一資	青木1・2丁目町会長	令和7年3月31日

8	岸田 健吾	校長	令和7年3月31日
9	平沢 佳都子	教頭	令和7年3月31日
10	小森 樹	主幹教諭	令和7年3月31日
11	柳澤 靖明	事務主査	令和7年3月31日

(57) 川口市立芝中学校

No.	氏 名	規則第6条関係	任期
1	荻上 晃司	校長	令和6年3月31日

(58) 川口市立元郷中学校

No.	氏 名	規則第6条関係	任期
1	山名 勝敏	校長	令和6年3月31日
2	松尾 光子	教務主任	令和6年3月31日

(59) 川口市立上青木中学校

No.	氏 名	規則第6条関係	任期
1	高田 晶子	校長	令和6年3月31日

(60) 川口市立幸並中学校

No.	氏 名	規則第6条関係	任期
1	納口 真一	幸町1丁目町会長	令和7年3月31日
2	小川 明彦	元PTA会長	令和7年3月31日
3	富澤 直敏	並木小学校学校応援団	令和7年3月31日
4	古川 九一	川口市議会議員	令和7年3月31日
5	武田 邦洋	PTA会長	令和7年3月31日

6	光宗 礼子	前PTA役員 振興会役員	令和7年3月31日
7	片倉 有紀	校長	令和7年3月31日
8	宮川 靖明	教頭	令和7年3月31日
9	小松 稔	教務主任	令和7年3月31日

(61) 川口市立十二月田中学校

No.	氏 名	規則第6条関係	任期
1	越川 博	川口市アンサンブルリベルテ 吹奏楽団長	令和7年3月31日
2	長澤 信	現PTA会長 後援会会長	令和7年3月31日
3	蛭田 昭一	元PTA会長 元後援会会長	令和7年3月31日
4	永井 健之	朝日1丁目町会長 朝日地区レクレーション協会会長	令和7年3月31日
5	池田 正義	元PTA会長	令和7年3月31日
6	百瀬 朋佳	川口シルフィア自治会体育部 元小学校PTA幹事長	令和7年3月31日
7	能登 浩美	朝日地区民生委員	令和7年3月31日
8	湯浅 政則	元PTA副会長 後援会副会長	令和7年3月31日
9	松原 紀子	元PTA幹事長 元後援会幹事	令和7年3月31日
10	小川 敏明	校長	令和7年3月31日
11	本保 光男	教頭	令和7年3月31日
12	太田 宏和	主幹教諭	令和7年3月31日
13	森田 透	朝日公民館館長	令和7年3月31日

(6 2) 川口市立仲町中学校

No.	氏 名	規則第 6 条関係	任期
1	高柳 和男	民生委員	令和 7 年 3 月 3 1 日
2	草野 孝則	元 P T A 会長	令和 7 年 3 月 3 1 日
3	白井 伸明	P T A 会長	令和 7 年 3 月 3 1 日
4	久米本 雅章	元 P T A 副会長	令和 7 年 3 月 3 1 日
5	藤田 由美恵	校長	令和 7 年 3 月 3 1 日
6	山田 章人	教頭	令和 7 年 3 月 3 1 日
7	福地 智子	教務主任	令和 7 年 3 月 3 1 日
8	田中 志帆	事務主事	令和 7 年 3 月 3 1 日

(6 3) 川口市立安行中学校

No.	氏 名	規則第 6 条関係	任期
1	山喜 光明	保護司	令和 7 年 3 月 3 1 日
2	浅田 民子	主任児童委員	令和 7 年 3 月 3 1 日
3	小泉 美加	元 P T A 会長	令和 7 年 3 月 3 1 日
4	狩野 由美子	後援会会長	令和 7 年 3 月 3 1 日
5	金杉 順一	学校応援団コーディネーター	令和 7 年 3 月 3 1 日
6	田中 一宏	元教育委員長	令和 7 年 3 月 3 1 日
7	黒澤 富雄	安行みどりのまちづくり協会副会長	令和 7 年 3 月 3 1 日
8	中田 知加	元 P T A 会長	令和 7 年 3 月 3 1 日
9	遠藤 照美	元 P T A 会長	令和 7 年 3 月 3 1 日
1 0	西川 純子	元 P T A 会長	令和 7 年 3 月 3 1 日
1 1	小出 喜代子	校長	令和 7 年 3 月 3 1 日

1 2	須藤 了一	教頭	令和7年3月31日
1 3	永井 貴司	主幹教諭	令和7年3月31日

(64) 川口市立芝東中学校

No.	氏 名	規則第6条関係	任期
1	森下 哲與	P T A会長	令和7年3月31日
2	中野 直之	教頭	令和6年3月31日

(65) 川口市立芝西中学校

No.	氏 名	規則第6条関係	任期
1	須賀 幸太郎	芝塚原町会長	令和7年3月31日
2	白井 伴法	おやじの会会長	令和7年3月31日
3	田中 啓	現P T A会長	令和7年3月31日
4	坂崎 茂	元P T A会長 後援会会長	令和7年3月31日
5	曾山 武寿	校長	令和7年3月31日
6	平野 利英	教頭	令和7年3月31日
7	佐藤 幸夫	陽春分校教頭	令和7年3月31日
8	水嶋 隆太	教務主任	令和7年3月31日
9	吉見 範子	芝富士小学校校長	令和7年3月31日
1 0	山田 晴美	芝西小学校校長	令和7年3月31日
1 1	吉田 栄	芝樋ノ爪小学校校長	令和7年3月31日

(6 6) 川口市立榛松中学校

No.	氏 名	規則第 6 条関係	任期
1	佐藤 昌幸	教頭	令和 6 年 3 月 3 1 日

(6 7) 川口市立小谷場中学校

No.	氏 名	規則第 6 条関係	任期
1	佐久間 雄治	教育後援会副会長	令和 7 年 3 月 3 1 日
2	鯉渕 三郎	上谷町会副会長	令和 7 年 3 月 3 1 日
3	渡辺 洋一	元 P T A 会長 前学校応援団長	令和 7 年 3 月 3 1 日
4	梶 有一	元 P T A 会長 教育後援会副会長	令和 7 年 3 月 3 1 日
5	小澤 靖之	元 P T A 会長	令和 7 年 3 月 3 1 日
6	吉田 美希	学校薬剤師	令和 7 年 3 月 3 1 日
7	浦邊 敏夫	教育後援会 元 P T A 会長 小谷場町会長	令和 7 年 3 月 3 1 日
8	石井 久夫	元 P T A 会長	令和 7 年 3 月 3 1 日
9	福田 直美	主任児童委員	令和 7 年 3 月 3 1 日
1 0	前田 智紀	現 P T A 会長	令和 7 年 3 月 3 1 日
1 1	藤川 悟	校長	令和 7 年 3 月 3 1 日
1 2	大倉 芳樹	教頭	令和 7 年 3 月 3 1 日
1 3	大塚 幸波	事務主事	令和 7 年 3 月 3 1 日
1 4	山田 晴美	芝西小学校長	令和 7 年 3 月 3 1 日
1 5	舟橋 岳見	教務主任	令和 7 年 3 月 3 1 日

(6 8) 川口市立神根中学校

No.	氏 名	規則第 6 条関係	任期
1	高橋 一男	源左衛門新田町会長 本校教育後援会顧問	令和 7 年 3 月 3 1 日
2	高山 治男	石神第 1 町会長 本校避難所開設管理運営本部長	令和 7 年 3 月 3 1 日
3	谷田部 宜宏	令和 2 年度 P T A 会長 本校教育後援会顧問	令和 7 年 3 月 3 1 日
4	岡村 涼子	前 P T A 会長	令和 7 年 3 月 3 1 日
5	田中 一光	本校元評議員 元神根東地区レクリエーション協会会長 川口市スポーツ少年団本部長	令和 7 年 3 月 3 1 日
6	松村 一人	校長	令和 7 年 3 月 3 1 日
7	高原 徹	教頭	令和 7 年 3 月 3 1 日
8	柏原 健吾	教務主任	令和 7 年 3 月 3 1 日

(6 9) 川口市立領家中学校

No.	氏 名	規則第 6 条関係	任期
1	泉 淳子	元 P T A 会長	令和 7 年 3 月 3 1 日
2	松本 正俊	現 P T A 会長	令和 7 年 3 月 3 1 日
3	池田 美代子	教育後援会会長	令和 7 年 3 月 3 1 日
4	池田 幸一	元南平地区連合町会長・保護司	令和 7 年 3 月 3 1 日
5	平田 敦子	川口市社会教育委員学校応援 コーディネーター	令和 7 年 3 月 3 1 日
6	大谷 富夫	元南平地区民生委員 児童委員協議会会長	令和 7 年 3 月 3 1 日

7	小山 輝男	元領家二丁目町会会長	令和7年3月31日
8	熊井 洋一郎	現PTA副会長	令和7年3月31日
9	中根 隆弘	校長	令和7年3月31日
10	森 龍太郎	教頭	令和7年3月31日
11	小林 環	教務主任	令和6年3月31日

(70) 川口市立在家中学校

No.	氏 名	規則第6条関係	任期
1	矢作 直久	元PTA会長	令和7年3月31日
2	仁藤 香	元PTA副会長	令和7年3月31日
3	小林 勇次	元PTA会長	令和7年3月31日
4	袴田 光春	道合西町会長、神根地区連合町会長、 元PTA会長	令和7年3月31日
5	渡邊 佳代子	主任児童委員	令和7年3月31日
6	鈴木 玲	校長	令和7年3月31日
7	山崎 広智	教頭	令和7年3月31日
8	吉田 豊	教務主任	令和7年3月31日

(71) 川口市立安行東中学校

No.	氏 名	規則第6条関係	任期
1	保永 賢司	安行吉蔵町会長	令和6年3月31日

(72) 川口市立戸塚西中学校

No.	氏 名	規則第6条関係	任期
1	田實 俊昭	前後援会副会長	令和7年3月31日

2	木村 卓史	後援会 会長	令和7年3月31日
3	渡辺 沙織	前後援会副会長	令和7年3月31日
4	高杉 友紀子	前後援会会長	令和7年3月31日
5	小林 晃成	戸塚公民館長	令和7年3月31日
6	簗口 忠洋	後援会副会長	令和7年3月31日
7	功刀 幸代	校長	令和7年3月31日
8	山崎 幹	教頭	令和7年3月31日
9	山田 博之	教頭	令和7年3月31日
10	小林 和陽	主幹教諭	令和7年3月31日

(73) 川口市立鳩ヶ谷中学校

No.	氏 名	規則第6条関係	任期
1	川上 靖恵	元PTA会長	令和7年3月31日
2	田部井 惣次	元同窓会長	令和7年3月31日
3	堀切 秀志	同窓会長	令和7年3月31日
4	小田切 敏昭	坂下町3丁目自治会長	令和7年3月31日
5	江口 勝康	桜町2丁目自治会長	令和7年3月31日
6	綿引 とき江	元民生委員	令和7年3月31日
7	渡辺 恵子	元PTA会長	令和7年3月31日
8	遠藤 ミツル	主任児童委員	令和7年3月31日
9	倉橋 純一	鳩ヶ谷本町4丁目自治会長	令和7年3月31日
10	佐久間 章匡	校長	令和7年3月31日
11	柏木 浩文	教頭	令和7年3月31日

(7 4) 川口市立八幡木中学校

No.	氏 名	規則第 6 条関係	任期
1	斎藤 美幸	主任児童委員	令和 7 年 3 月 3 1 日
2	勅使河原 利明	三ツ和自治会長	令和 7 年 3 月 3 1 日
3	坪谷 あさみ	元 P T A 会長	令和 7 年 3 月 3 1 日
4	高橋 智志	おやじの会会長	令和 7 年 3 月 3 1 日
5	丸山 明美	保護司	令和 7 年 3 月 3 1 日
6	坂井 紀枝	主任児童委員	令和 7 年 3 月 3 1 日
7	杉本 欣右	前 P T A 会長	令和 7 年 3 月 3 1 日
8	潮田 香織	前 P T A 会長	令和 7 年 3 月 3 1 日
9	高橋 宣光	三ツ和幼稚園園長	令和 7 年 3 月 3 1 日
1 0	小木 香	現 P T A 会長	令和 7 年 3 月 3 1 日
1 1	三浦 伸之	校長	令和 7 年 3 月 3 1 日
1 2	清水 勇統	教頭	令和 7 年 3 月 3 1 日
1 3	北澤 正崇	教務主任	令和 7 年 3 月 3 1 日

(7 5) 川口市立里中学校

No.	氏 名	規則第 6 条関係	任期
1	宮崎 清人	保護司	令和 7 年 3 月 3 1 日
2	石井 洋子	令和 5 年度 P T A 会長	令和 7 年 3 月 3 1 日
3	多賀 大佑	学校応援団	令和 7 年 3 月 3 1 日
4	実川 功	学校応援団	令和 7 年 3 月 3 1 日
5	舘野 洋子	令和 4 ・ 5 年度 地域学校協働活動推進員	令和 7 年 3 月 3 1 日

6	クレッグ 礼子	元PTA副会長	令和7年3月31日
7	西沢 孝子	民生委員	令和7年3月31日
8	浅見 晃弘	埼玉県立川口高等学校長	令和7年3月31日
9	小野 毅	校長	令和7年3月31日
10	伊藤 啓	教頭	令和7年3月31日
11	杉本 健太	教務主任	令和7年3月31日

議案第40号

専決処分の承認について

川口市教育局等の職員の職名に関する規則の一部を改正する規則について、川口市教育委員会の事務の委任等に関する規則（昭和32年教育委員会規則第1号）第2条第1項の規定により別紙のとおり専決処分したので、同条第2項の規定により報告し、承認を求める。

令和5年4月3日提出

川口市教育委員会教育長 井 上 清 之

専 決 処 分 書

川口市教育局等の職員の職名に関する規則の一部を改正する規則について、川口市教育委員会の事務の委任等に関する規則（昭和３２年教育委員会規則第１号）第２条第１項の規定により別紙のとおり専決処分する。

令和５年３月３１日

川口市教育委員会教育長 井 上 清 之

川口市教育局等の職員の職名に関する規則の一部を改正する規則

川口市教育局等の職員の職名に関する規則（昭和44年教育委員会規則第9号）の一部を次のように改正する。

第1条を次のように改める。

（趣旨）

第1条 この規則は、川口市職員定数条例（昭和45年条例第6号）第2条第1項第3号に規定する職員（市立高等学校及び市立幼稚園の校長、園長、副校長、教頭、主幹教諭、教諭、養護教諭、助教諭、養護助教諭、講師及び実習助手（以下「学校教職員」という。）を除く。）、地方公務員法（昭和25年法律第261号）第22条の2第1項に規定する会計年度任用職員（以下「会計年度任用職員」という。）、川口市職員の定年等に関する条例（昭和59年条例第7号）第12条又は第13条第1項の規定により採用された職員（学校教職員を除く。）及び川口市一般職の任期付職員の採用等に関する条例（平成27年条例第10号）第4条の規定により任期を定めて採用された同条に規定する短時間勤務職員（以下「任期付短時間勤務職員」という。）の職名に関し必要な事項を定めるものとする。

第2条第1号中「、技師補及び嘱託」を「及び技師補」に改め、同条第2号を次のように改める。

（2）医療職 次のア及びイに掲げる区分に応じ、当該ア及びイに定める職名とする。

ア 栄養士の職 総技師長、技師長、副技師長、参与、主任、栄養士及び技師補

イ 保健師、助産師及び看護師の職 総保健師長、総看護師長、保健師長、看護師長、副保健師長、副看護師長、参与、主任、保健師、助産師及び看護師

第2条第3号中「、用務員及び嘱託」を「及び用務員」に改め、同条に次の1項を加える。

2 会計年度任用職員の職名には、前項に定める職名に会計年度任用職員であることを示す文字を加えることができる。

第3条中「前条」を「前条第1項第1号」に、「、その他」を「その他」に改め、

同条に次の１項を加える。

- ２ 前項の規定にかかわらず、特別の事務又は業務に従事する会計年度任用職員又は任期付短時間勤務職員であつて、特にその職務内容を明らかにする必要があるものについては、同項に規定する補職名のほか、別に定める補職名を用いることができる。

第４条中「前条」を「前条第１項」に改める。

附 則

この規則は、令和５年４月１日から施行する。

議案第 4 1 号

専決処分の承認について

川口市学校職員の給与等に関する条例施行規則の一部を改正する規則について、川口市教育委員会の事務の委任等に関する規則（昭和 3 2 年教育委員会規則第 1 号）第 2 条第 1 項の規定により別紙のとおり専決処分したので、同条第 2 項の規定により報告し、承認を求める。

令和 5 年 4 月 3 日提出

川口市教育委員会教育長 井 上 清 之

専 決 処 分 書

川口市学校職員の給与等に関する条例施行規則の一部を改正する規則について、川口市教育委員会の事務の委任等に関する規則（昭和32年教育委員会規則第1号）第2条第1項の規定により別紙のとおり専決処分する。

令和5年3月31日

川口市教育委員会教育長 井 上 清 之

川口市学校職員の給与等に関する条例施行規則の一部を改正する規則

川口市学校職員の給与等に関する条例施行規則（平成20年教育委員会規則第5号）の一部を次のように改正する。

第3条中「第28条の5第1項」を「第22条の4第1項」に改める。

附 則

この規則は、令和5年4月1日から施行する。

議案第 4 2 号

専決処分の承認について

川口市立学校教育職員の業務量の適切な管理等に関する規則の一部を改正する規則について、川口市教育委員会の事務の委任等に関する規則（昭和 3 2 年教育委員会規則第 1 号）第 2 条第 1 項の規定により別紙のとおり専決処分したので、同条第 2 項の規定により報告し、承認を求める。

令和 5 年 4 月 3 日提出

川口市教育委員会教育長 井 上 清 之

専 決 処 分 書

川口市立学校教育職員の業務量の適切な管理等に関する規則の一部を改正する規則について、川口市教育委員会の事務の委任等に関する規則（昭和３２年教育委員会規則第１号）第２条第１項の規定により別紙のとおり専決処分する。

令和５年３月３１日

川口市教育委員会教育長 井 上 清 之

川口市立学校教育職員の業務量の適切な管理等に関する規則の一部を改正する規則

川口市立学校教育職員の業務量の適切な管理等に関する規則（令和２年教育委員会規則第１８号）の一部を次のように改正する。

第２条中「第２８条の５第１項」を「第２２条の４第１項」に改める。

附 則

この規則は、令和５年４月１日から施行する。

議案第 4 3 号

専決処分の承認について

川口市立小・中学校職員服務規程の一部を改正する規則について、川口市教育委員会の事務の委任等に関する規則（昭和 3 2 年教育委員会規則第 1 号）第 2 条第 1 項の規定により別紙のとおり専決処分したので、同条第 2 項の規定により報告し、承認を求める。

令和 5 年 4 月 3 日提出

川口市教育委員会教育長 井 上 清 之

専 決 処 分 書

川口市立小・中学校職員服務規程の一部を改正する規則について、川口市教育委員会の事務の委任等に関する規則（昭和３２年教育委員会規則第１号）第２条第１項の規定により別紙のとおり専決処分する。

令和５年３月３１日

川口市教育委員会教育長 井 上 清 之

川口市立小・中学校職員服務規程の一部を改正する規則

川口市立小・中学校職員服務規程（昭和３２年教育委員会規則第３号）の一部を次のように改正する。

第１７条の１３中「様式第１８号の９」を「様式第１８号の１１」に改め、同条を第１７条の１５とする。

第１７条の１２中「様式第１８号の８」を「様式第１８号の１０」に改め、同条を第１７条の１４とする。

第１７条の１１第１項中「様式第１８号の７」を「様式第１８号の９」に改め、同条を第１７条の１３とする。

第１７条の１０第１項中「様式第１８号の６」を「様式第１８号の８」に改め、同条を第１７条の１２とし、第１７条の９の次に次の２条を加える。

（高齢者部分休業の承認申請）

第１７条の１０ 職員は、地方公務員法第２６条の３第１項の規定により高齢者部分休業の承認の申請をしようとするときは、教育長が別に定める日までに、様式第１８号の６の高齢者部分休業承認申請書を教育委員会に提出しなければならない。

２ 教育委員会は、高齢者部分休業の承認の申請をした職員に対し、当該申請の内容を確認するため必要があると認める書類の提出を求めることができる。

（高齢者部分休業の変更承認等申請）

第１７条の１１ 高齢者部分休業をしている職員は、現に承認を受けている高齢者部分休業の一部を変更し、又は取消しをしようとするときは、様式第１８号の７の変更承認等申請書を教育委員会に提出しなければならない。

２ 前条第２項の規定は、前項に規定する申請について準用する。

第１８条第１項中「（昭和２４年法律第１号）」を削る。

様式第１８号の９を様式第１８号の１１とし、様式第１８号の６から様式第１８号の８までを２号ずつ繰り下げ、様式第１８号の５の次に次の２様式を加える。

様式第１８号の６ 別紙のとおり

様式第１８号の７ 別紙のとおり

附 則

この規則は、令和 5 年 4 月 1 日から施行する。

表

高 齢 者 部 分 休 業 承 認 申 請 書	
年 月 日	
埼玉県教育委員会 様	
	学校名 職名 氏名
次のとおり高齢者部分休業の承認を申請します。	
1 申請期間	年 月 日から 年 月 日まで (定年退職日)
2 休業時間 (1週間当たり)	時間 (内訳)
3 申請理由	

(注) 1 「2 休業時間（1週間あたり）」欄は、申請しようとする休業時間の内訳を併記すること。

2 高齢者部分休業の承認の取消しを申請する場合は、裏面に記入し、申請すること。

裏

職 名				氏 名			時間数	備 考
承認				高齢者部分休業の承認の 取消しを申請する時間			時間数	備 考
決裁 権者				月 日	午 前	午 後		
				・	時 分から 時 分まで	時 分から 時 分まで	時間 分	
				・	時 分から 時 分まで	時 分から 時 分まで	時間 分	
				・	時 分から 時 分まで	時 分から 時 分まで	時間 分	
				・	時 分から 時 分まで	時 分から 時 分まで	時間 分	
				・	時 分から 時 分まで	時 分から 時 分まで	時間 分	
				・	時 分から 時 分まで	時 分から 時 分まで	時間 分	
				・	時 分から 時 分まで	時 分から 時 分まで	時間 分	
				・	時 分から 時 分まで	時 分から 時 分まで	時間 分	
				・	時 分から 時 分まで	時 分から 時 分まで	時間 分	
				・	時 分から 時 分まで	時 分から 時 分まで	時間 分	
				・	時 分から 時 分まで	時 分から 時 分まで	時間 分	
				・	時 分から 時 分まで	時 分から 時 分まで	時間 分	
				・	時 分から 時 分まで	時 分から 時 分まで	時間 分	
				・	時 分から 時 分まで	時 分から 時 分まで	時間 分	

(注) 承認欄の職名等は適宜変更又は増減できること。

高 齢 者 部 分 休 業 変 更 承 認 等 申 請 書	
年 月 日	
埼玉県教育委員会 様	
学校名 職名 氏名	
次のとおり高齢者部分休業の変更の承認又は取消しを申請します。	
1 変更・取消し の理由	
2 変更後の期間	年 月 日から 年 月 日まで
3 変更後の 休業時間 (1週間当たり)	時間 (内訳)

(注) 「3 変更後の休業時間（１週間当たり）」欄は、変更の承認を申請しようとする休業時間の内訳を併記すること。

議案第 4 4 号

専決処分の承認について

川口市立高等学校職員服務規程の一部を改正する規程について、川口市教育委員会の事務の委任等に関する規則（昭和 3 2 年教育委員会規則第 1 号）第 2 条第 1 項の規定により別紙のとおり専決処分したので、同条第 2 項の規定により報告し、承認を求める。

令和 5 年 4 月 3 日提出

川口市教育委員会教育長 井 上 清 之

専 決 処 分 書

川口市立高等学校職員服務規程の一部を改正する規程について、川口市教育委員会の事務の委任等に関する規則（昭和３２年教育委員会規則第１号）第２条第１項の規定により別紙のとおり専決処分する。

令和５年３月３１日

川口市教育委員会教育長 井 上 清 之

川口市立高等学校職員服務規程の一部を改正する規程

川口市立高等学校職員服務規程（昭和41年教育委員会規程第2号）の一部を次のように改正する。

第17条の13中「様式第18号の9」を「様式第18号の11」に改め、同条を第17条の15とする。

第17条の12中「様式第18号の8」を「様式第18号の10」に改め、同条を第17条の14とする。

第17条の11第1項中「様式第18号の7」を「様式第18号の9」に改め、同条を第17条の13とする。

第17条の10第1項中「様式第18号の6」を「様式第18号の8」に改め、同条を第17条の12とし、第17条の9の次に次の2条を加える。

（高齢者部分休業の承認申請）

第17条の10 職員は、地方公務員法第26条の3第1項の規定により高齢者部分休業の承認の申請をしようとするときは、教育長が別に定める日までに、様式第18号の6の高齢者部分休業承認申請書を教育委員会に提出しなければならない。

2 教育委員会は、高齢者部分休業の承認の申請をした職員に対し、当該申請の内容を確認するため必要があると認める書類の提出を求めることができる。

（高齢者部分休業の変更承認等申請）

第17条の11 高齢者部分休業をしている職員は、現に承認を受けている高齢者部分休業の一部を変更し、又は取消しをしようとするときは、様式第18号の7の変更承認等申請書を教育委員会に提出しなければならない。

2 前条第2項の規定は、前項に規定する申請について準用する。

第18条第1項中「（昭和24年法律第1号）」を削る。

第26条中「第28条の5第1項」を「第22条の4第1項」に改める。

様式第18号の9を様式第18号の11とし、様式第18号の6から様式第18号の8までを2号ずつ繰り下げ、様式第18号の5の次に次の2様式を加える。

様式第18号の6 別紙のとおり

様式第18号の7 別紙のとおり

附 則

この規程は、令和 5 年 4 月 1 日から施行する。

表

高 齢 者 部 分 休 業 承 認 申 請 書	
	年 月 日
川口市教育委員会 様	
	学校名 職名 氏名
次のとおり高齢者部分休業の承認を申請します。	
1 申請期間	年 月 日から 年 月 日まで (定年退職日)
2 休業時間 (１週間当たり)	時間 (内訳)
3 申請理由	

(注) 1 「2 休業時間（1週間あたり）」欄は、申請しようとする休業時間の内訳を併記すること。

2 高齢者部分休業の承認の取消しを申請する場合は、裏面に記入し、申請すること。

裏

職 名				氏 名			時間数	備 考
承 認				高 齢 者 部 分 休 業 の 承 認 の 取 消 し を 申 請 す る 時 間			時間数	備 考
決裁 権者				月 日	午 前	午 後		
				・	時 分から 時 分まで	時 分から 時 分まで	時間 分	
				・	時 分から 時 分まで	時 分から 時 分まで	時間 分	
				・	時 分から 時 分まで	時 分から 時 分まで	時間 分	
				・	時 分から 時 分まで	時 分から 時 分まで	時間 分	
				・	時 分から 時 分まで	時 分から 時 分まで	時間 分	
				・	時 分から 時 分まで	時 分から 時 分まで	時間 分	
				・	時 分から 時 分まで	時 分から 時 分まで	時間 分	
				・	時 分から 時 分まで	時 分から 時 分まで	時間 分	
				・	時 分から 時 分まで	時 分から 時 分まで	時間 分	
				・	時 分から 時 分まで	時 分から 時 分まで	時間 分	
				・	時 分から 時 分まで	時 分から 時 分まで	時間 分	
				・	時 分から 時 分まで	時 分から 時 分まで	時間 分	
				・	時 分から 時 分まで	時 分から 時 分まで	時間 分	
				・	時 分から 時 分まで	時 分から 時 分まで	時間 分	

(注) 承認欄の職名等は適宜変更又は増減できること。

高 齢 者 部 分 休 業 変 更 承 認 等 申 請 書		年	月	日
川口市教育委員会 様				
		学校名	職名	
			氏名	
次のとおり高齢者部分休業の変更の承認又は取消しを申請します。				
1	変更・取消し の理由			
2	変更後の期間	年	月	日から 年 月 日まで
3	変更後の 休業時間 (1週間当たり)	時間 (内訳)		

(注) 「3 変更後の休業時間（１週間当たり）」欄は、変更の承認を申請しようとする休業時間の内訳を併記すること。

川口市教育局等の職員の職名に関する規則の一部を改正する規則案要綱

1 改正の趣旨

医療的ケア児及びその家族に対する支援に関する法律（令和３年法律第８１号）が制定されたことに伴い、学校に医療職の職員が配置される場合における当該職員の職名を定めるほか、その他必要な改正を行うもの。

2 改正の内容

- (1) 保健師、助産師及び看護師の職の職名を総保健師長、総看護師長、保健師長、看護師長、副保健師長、副看護師長、参与、主任、保健師、助産師及び看護師とするもの。
- (2) 係長職以上の栄養士の職の職名を市長事務部局に倣い、総技師長、技師長及び副技師長とするもの。
- (3) 地方公務員法が一部改正され、現行の再任用制度が廃止され、定年前再任用短時間勤務制度が創設されることに伴い、この規則における職員に、同制度による職員を加えるもの。
- (4) 会計年度任用職員の制度に伴う必要な規定の整備等を行うもの。

3 施行期日

令和５年４月１日から施行するもの。

4 予算措置

不要

5 その他

(1) 根拠法令又は関係法令

医療的ケア児及びその家族に対する支援に関する法律（令和３年法律第８１号）

地方公務員法の一部を改正する法律（令和３年法律第６３号）

川口市職員の定年等に関する条例等の一部を改正する等の条例（令和４年条例第２９号）

(2) パブリック・コメント

不要

川口市教育局等の職員の職名に関する規則の一部を改正する規則案新旧対照表
○ 川口市教育局等の職員の職名に関する規則（昭和４４年教育委員会規則第９号）

（下線の部分は改正部分）

改 正 案	現 行
<u>（趣旨）</u> 第１条 この規則は、川口市職員定数条例（昭和４５年条例第６号）第２条第１項第３号に規定する職員（市立高等学校及び市立幼稚園の校長、園長、副校長、教頭、主幹教諭、教諭、養護教諭、助教諭、養護助教諭、講師及び実習助手（以下「学校教職員」という。）を除く。）、地方公務員法（昭和２５年法律第２６１号）第２２条の２第１項に規定する会計年度任用職員（以下「会計年度任用職員」という。）、川口市職員の定年等に関する条例（昭和５９年条例第７号）第１２条又は第１３条第１項の規定により採用された職員（学校教職員を除く。）及び川口市一般職の任期付職員の採用等に関する条例（平成２７年条例第１０号）第４条の規定により任期を定めて採用された同条に規定する短時間勤務職員（以下「任期付短時間勤務職員」という。）の職名に関し必要な事項を定めるものとする。 <u>（職名）</u> 第２条 職員の職名は、次の各号に掲げる区分に応じ、当該各号に定めるとおりとする。 （１）行政職 部長、次長、課長、課長補佐、係長、参与、主任、主事、技師、主事補及び技師補 （２）医療職 次のア及びイに掲げる区分に応じ、当該ア及びイに定める職名とする。 ア 栄養士の職 総技師長、技師長、副技師長、参与、主任、栄養士及び技師補 イ 保健師、助産師及び看護師の職 総保健師長、総看護師長、保健師長、看護師長、副保健師長、副看護師長、参与、主任、保健師、助産師及び看護師 （３）現業職 主任、参与、班長、技能師、技能員、業務員及び用務員	<u>（目的）</u> 第１条 この規則は、川口市職員定数条例（昭和４５年条例第６号）第２条第１項第３号に規定する職員（市立高等学校及び市立幼稚園の校長、園長、副校長、教頭、主幹教諭、教諭、養護教諭、助教諭、養護助教諭、講師及び実習助手（以下「学校教職員」という。）を除く。）及び地方公務員法（昭和２５年法律第２６１号）第２８条の５第１項に規定する短時間勤務の職を占める職員（学校教職員を除く。以下「職員」という。）の職名について必要な事項を定めることを目的とする。 <u>（職名）</u> 第２条 職員の職名は、次の各号に掲げる区分に応じ、当該各号に定めるとおりとする。 （１）行政職 部長、次長、課長、課長補佐、係長、参与、主任、主事、技師、主事補、<u>技師補及び嘱託</u> （２）医療職 係長、参与、主任、栄養士、技師補及び嘱託 （３）現業職 主任、参与、班長、技能師、技能員、業務員、<u>用務員及び嘱託</u>

2 会計年度任用職員の職名には、前項に定める職名に会計年度任用職員であることを示す文字を加えることができる。

(補職名)

第3条 前条第1項第1号に規定する職員のうち、川口市教育局組織規則（平成10年教育委員会規則第2号）に規定する組織その他行政組織上の職に補された者の補職名は、それぞれ組織上の名称をもって補職名とする。

2 前項の規定にかかわらず、特別の事務又は業務に従事する会計年度任用職員又は任期付短時間勤務職員であって、特にその職務内容を明らかにする必要があるものについては、同項に規定する補職名のほか、別に定める補職名を用いることができる。

(特別の職名)

第4条 職の設置について法令等に特別の定めがあるものについては、前条第1項に規定する職に併せて法令等に定める職名を用いるものとする。

(補職名)

第3条 前条_____に規定する職員のうち、川口市教育局組織規則（平成10年教育委員会規則第2号）に規定する組織、その他行政組織上の職に補された者の補職名は、それぞれ組織上の名称をもって補職名とする。

(特別の職名)

第4条 職の設置について法令等に特別の定めがあるものについては、前条_____に規定する職に併せて法令等に定める職名を用いるものとする。

川口市学校職員の給与等に関する条例施行規則の一部を改正する規則案要綱

1 改正の趣旨及び内容

地方公務員法が一部改正され、現行の再任用制度が廃止され、定年前再任用短時間勤務制度が創設されることに伴い、必要な改正を行うもの。

2 施行期日

令和5年4月1日から施行するもの。

3 予算措置

不要

4 その他

(1) 根拠法令又は関係法令

地方公務員法の一部を改正する法律（令和3年法律第63号）

(2) パブリック・コメント

不要

川口市学校職員の給与等に関する条例施行規則の一部を改正する規則案新旧対照表

○ 川口市学校職員の給与等に関する条例施行規則（平成 2 0 年教育委員会規則第 5 号）

（下線の部分は改正部分）

改 正 案	現 行
（義務教育等教員特別手当の月額） 第 3 条 条例第 4 条第 3 項の義務教育等教員特別手当の月額は、幼稚園に勤務する園長及び教諭の属する職務の級及びその者の受ける号給に対応する義務教育等教員特別手当に関する規則（昭和 5 0 年埼玉県教育委員会規則第 2 7 号）別表第 1 に掲げる額（地方公務員法（昭和 2 5 年法律第 2 6 1 号）<u>第 2 2 条の 4 第 1 項</u>に規定する短時間勤務の職を占める学校職員にあっては、同規則第 3 条に規定する短時間勤務の職を占める教育職員の場合に準じて得た額）に 2 分の 1 を乗じて得た額とする。	（義務教育等教員特別手当の月額） 第 3 条 条例第 4 条第 3 項の義務教育等教員特別手当の月額は、幼稚園に勤務する園長及び教諭の属する職務の級及びその者の受ける号給に対応する義務教育等教員特別手当に関する規則（昭和 5 0 年埼玉県教育委員会規則第 2 7 号）別表第 1 に掲げる額（地方公務員法（昭和 2 5 年法律第 2 6 1 号）<u>第 2 8 条の 5 第 1 項</u>に規定する短時間勤務の職を占める学校職員にあっては、同規則第 3 条に規定する短時間勤務の職を占める教育職員の場合に準じて得た額）に 2 分の 1 を乗じて得た額とする。

川口市立学校教育職員の業務量の適切な管理等に関する規則の一部を改正する規則案要綱

1 改正の趣旨及び内容

地方公務員法が一部改正され、現行の再任用制度が廃止され、定年前再任用短時間勤務制度が創設されることに伴い、必要な改正を行うもの。

2 施行期日

令和5年4月1日から施行するもの。

3 予算措置

不要

4 その他

(1) 根拠法令又は関係法令

地方公務員法の一部を改正する法律（令和3年法律第63号）

(2) パブリック・コメント

不要

川口市立学校教育職員の業務量の適切な管理等に関する規則の一部を改正する規則案新旧対照表

○ 川口市立学校教育職員の業務量の適切な管理等に関する規則（令和２年教育委員会規則第１８号）

（下線の部分は改正部分）

改 正 案	現 行
（定義） 第２条 この規則において「教育職員」とは、川口市立の小学校、中学校、高等学校又は幼稚園の校長（園長を含む。）、副校長、教頭、主幹教諭、教諭、養護教諭、栄養教諭、助教諭、養護助教諭、講師及び実習助手（常時勤務の者及び地方公務員法（昭和２５年法律第２６１号）<u>第２２条の４第１項</u>に規定する短時間勤務の職を占める者に限る。）をいう。	（定義） 第２条 この規則において「教育職員」とは、川口市立の小学校、中学校、高等学校又は幼稚園の校長（園長を含む。）、副校長、教頭、主幹教諭、教諭、養護教諭、栄養教諭、助教諭、養護助教諭、講師及び実習助手（常時勤務の者及び地方公務員法（昭和２５年法律第２６１号）<u>第２８条の５第１項</u>に規定する短時間勤務の職を占める者に限る。）をいう。

川口市立小・中学校職員服務規程の一部を改正する規則案要綱

1 改正の趣旨

地方公務員法の一部改正により定年が延長されたことに併せ、埼玉県が高齢者部分休業の制度を実施することとしたことに伴い、市内小中学校の学校職員が同休業を取得しようとする際の手続き等を定めるもの。

2 改正の内容

- (1) 学校職員が高齢者部分休業を取得しようとするときは、教育長が別に定める日までに所定の申請書を提出しなければならないこととするもの。
- (2) 高齢者部分休業をしている学校職員が、その内容を一部変更し、又は取消しをしようとするときは、所定の申請書を提出しなければならないこととするもの。
- (3) 高齢者部分休業承認申請書及び高齢者部分休業変更承認等申請書の様式を定めるもの。
- (4) その他必要な規定の整備を行うもの。

3 施行期日

令和5年4月1日から施行するもの。

4 予算措置

不要

5 その他

- (1) 根拠法令又は関係法令

地方公務員法の一部を改正する法律（令和3年法律第63号）

職員の高齢者部分休業に関する条例（令和4年埼玉県条例第30号）

- (2) パブリック・コメント

不要

改 正 案	現 行
（高齡者部分休業の承認申請） <u>第17条の10 職員は、地方公務員法第26条の3第1項の規定により高齡者部分休業の承認の申請をしようとするときは、教育長が別に定める日までに、様式第18号の6の高齡者部分休業承認申請書を教育委員会に提出しなければならない。</u> <u>2 教育委員会は、高齡者部分休業の承認の申請をした職員に対し、当該申請の内容を確認するため必要があると認める書類の提出を求めることができる。</u> （高齡者部分休業の変更承認等申請） <u>第17条の11 高齡者部分休業をしている職員は、現に承認を受けている高齡者部分休業の一部を変更し、又は取消しをしようとするときは、様式第18号の7の変更承認等申請書を教育委員会に提出しなければならない。</u> <u>2 前条第2項の規定は、前項に規定する申請について準用する。</u> （自己啓発等休業の承認申請） <u>第17条の12 職員は、職員の自己啓発等休業に関する条例（平成23年埼玉県条例第10号。以下この条及び次条において「自己啓発等休業条例」という。）第2条の規定により自己啓発等休業の承認の申請をしようとするときは原則として当該自己啓発等休業をしようとする期間の始まる日の1月前までに、自己啓発等休業条例第7条第1項の規定により自己啓発等休業の期間の延長の申請をしようとするときは原則として現に承認を受けている自己啓発等休業の期間の満了する日の1月前までに、<u>様式第18号の8</u>の自己啓発等休業承認申請書を教育委員会に提出しなければならない。</u> 2 （略） （自己啓発等休業状況報告書） <u>第17条の13 職員は、自己啓発等休業条例第9条第1項の規定により大学等課</u>	（自己啓発等休業の承認申請） <u>第17条の10 職員は、職員の自己啓発等休業に関する条例（平成23年埼玉県条例第10号。以下この条及び次条において「自己啓発等休業条例」という。）第2条の規定により自己啓発等休業の承認の申請をしようとするときは原則として当該自己啓発等休業をしようとする期間の始まる日の1月前までに、自己啓発等休業条例第7条第1項の規定により自己啓発等休業の期間の延長の申請をしようとするときは原則として現に承認を受けている自己啓発等休業の期間の満了する日の1月前までに、<u>様式第18号の6</u>の自己啓発等休業承認申請書を教育委員会に提出しなければならない。</u> 2 （略） （自己啓発等休業状況報告書） <u>第17条の11 職員は、自己啓発等休業条例第9条第1項の規定により大学等課</u>

程の履修又は国際貢献活動の状況について報告しようとするときは、様式第18号の9の自己啓発等休業状況報告書を教育委員会に提出しなければならない。

2 (略)

(配偶者同行休業の承認申請)

第17条の14 職員は、職員の配偶者同行休業に関する条例（平成26年埼玉県条例第37号。以下この条及び次条において「配偶者同行休業条例」という。）

第2条の規定により配偶者同行休業の承認の申請をしようとするときは原則として当該配偶者同行休業をしようとする期間の始まる日の1月前までに、配偶者同行休業条例第6条第1項の規定により配偶者同行休業の期間の延長の申請をしようとするときは原則として現に承認を受けている配偶者同行休業の期間の満了する日の1月前までに、様式第18号の10の配偶者同行休業承認申請書を教育委員会に提出しなければならない。

(配偶者同行休業状況報告書)

第17条の15 職員は、配偶者同行休業条例第8条第1項の規定により配偶者同行休業に係る状況について報告しようとするときは、様式第18号の11の配偶者同行休業状況報告書を教育委員会に提出しなければならない。

(研修)

第18条 職員は、教育公務員特例法_____第22条第2項の規定により勤務場所を離れて研修を行おうとするときは、様式第19号の研修承認願を校長に提出し、その承認を受けなければならない。

2・3 (略)

程の履修又は国際貢献活動の状況について報告しようとするときは、様式第18号の7の自己啓発等休業状況報告書を教育委員会に提出しなければならない。

2 (略)

(配偶者同行休業の承認申請)

第17条の12 職員は、職員の配偶者同行休業に関する条例（平成26年埼玉県条例第37号。以下この条及び次条において「配偶者同行休業条例」という。）

第2条の規定により配偶者同行休業の承認の申請をしようとするときは原則として当該配偶者同行休業をしようとする期間の始まる日の1月前までに、配偶者同行休業条例第6条第1項の規定により配偶者同行休業の期間の延長の申請をしようとするときは原則として現に承認を受けている配偶者同行休業の期間の満了する日の1月前までに、様式第18号の8の配偶者同行休業承認申請書を教育委員会に提出しなければならない。

(配偶者同行休業状況報告書)

第17条の13 職員は、配偶者同行休業条例第8条第1項の規定により配偶者同行休業に係る状況について報告しようとするときは、様式第18号の9の配偶者同行休業状況報告書を教育委員会に提出しなければならない。

(研修)

第18条 職員は、教育公務員特例法(昭和24年法律第1号)第22条第2項の規定により勤務場所を離れて研修を行おうとするときは、様式第19号の研修承認願を校長に提出し、その承認を受けなければならない。

2・3 (略)

川口市立高等学校職員服務規程の一部を改正する規程案要綱

1 改正の趣旨

地方公務員法の一部改正により定年が延長されたことに併せ、埼玉県が高齢者部分休業の制度を実施することとしたことに伴い、勤務条件等が埼玉県の制度の例によることとされた川口市立高等学校の学校職員が同休業を取得しようとする際の手続き等を定めるほか、必要な改正を行うもの。

2 改正の内容

- (1) 学校職員が高齢者部分休業を取得しようとするときは、教育長が別に定める日までに所定の申請書を提出しなければならないこととするもの。
- (2) 高齢者部分休業をしている学校職員が、その内容を一部変更し、又は取消しをしようとするときは、所定の申請書を提出しなければならないこととするもの。
- (3) 高齢者部分休業承認申請書及び高齢者部分休業変更承認等申請書の様式を定めるもの。
- (4) その他必要な規定の整備を行うもの。

3 施行期日

令和5年4月1日から施行するもの。

4 予算措置

不要

5 その他

(1) 根拠法令又は関係法令

地方公務員法の一部を改正する法律（令和3年法律第63号）

職員の高齢者部分休業に関する条例（令和4年埼玉県条例第30号）

(2) パブリック・コメント

不要

改 正 案	現 行
（高齡者部分休業の承認申請） <u>第17条の10</u> 職員は、地方公務員法第26条の3第1項の規定により高齡者部分休業の承認の申請をしようとするときは、教育長が別に定める日までに、様式第18号の6の高齡者部分休業承認申請書を教育委員会に提出しなければならない。 2 教育委員会は、高齡者部分休業の承認の申請をした職員に対し、当該申請の内容を確認するため必要があると認める書類の提出を求めることができる。 （高齡者部分休業の変更承認等申請） <u>第17条の11</u> 高齡者部分休業をしている職員は、現に承認を受けている高齡者部分休業の一部を変更し、又は取消しをしようとするときは、様式第18号の7の変更承認等申請書を教育委員会に提出しなければならない。 2 <u>前条第2項の規定は、前項に規定する申請について準用する。</u> （自己啓発等休業の承認申請） <u>第17条の12</u> 職員は、職員の自己啓発等休業に関する条例（平成23年埼玉県条例第10号。以下この条及び次条において「自己啓発等休業条例」という。）第2条の規定により自己啓発等休業の承認の申請をしようとするときは原則として当該自己啓発等休業をしようとする期間の始まる日の1月前までに、自己啓発等休業条例第7条第1項の規定により自己啓発等休業の期間の延長の申請をしようとするときは原則として現に承認を受けている自己啓発等休業の期間の満了する日の1月前までに、<u>様式第18号の8</u>の自己啓発等休業承認申請書を教育委員会に提出しなければならない。 2 （略） （自己啓発等休業状況報告書） <u>第17条の13</u> 職員は、自己啓発等休業条例第9条第1項の規定により大学等課	（自己啓発等休業の承認申請） <u>第17条の10</u> 職員は、職員の自己啓発等休業に関する条例（平成23年埼玉県条例第10号。以下この条及び次条において「自己啓発等休業条例」という。）第2条の規定により自己啓発等休業の承認の申請をしようとするときは原則として当該自己啓発等休業をしようとする期間の始まる日の1月前までに、自己啓発等休業条例第7条第1項の規定により自己啓発等休業の期間の延長の申請をしようとするときは原則として現に承認を受けている自己啓発等休業の期間の満了する日の1月前までに、<u>様式第18号の6</u>の自己啓発等休業承認申請書を教育委員会に提出しなければならない。 2 （略） （自己啓発等休業状況報告書） <u>第17条の11</u> 職員は、自己啓発等休業条例第9条第1項の規定により大学等課

程の履修又は国際貢献活動の状況について報告しようとするときは、様式第18号の9の自己啓発等休業状況報告書を教育委員会に提出しなければならない。

2 (略)

(配偶者同行休業の承認申請)

第17条の14 職員は、職員の配偶者同行休業に関する条例（平成26年埼玉県条例第37号。以下この条及び次条において「配偶者同行休業条例」という。）

第2条の規定により配偶者同行休業の承認の申請をしようとするときは原則として当該配偶者同行休業をしようとする期間の始まる日の1月前までに、配偶者同行休業条例第6条第1項の規定により配偶者同行休業の期間の延長の申請をしようとするときは原則として現に承認を受けている配偶者同行休業の期間の満了する日の1月前までに、様式第18号の10の配偶者同行休業承認申請書を教育委員会に提出しなければならない

(配偶者同行休業状況報告書)

第17条の15 職員は、配偶者同行休業条例第8条第1項の規定により配偶者同行休業に係る状況について報告しようとするときは、様式第18号の10の配偶者同行休業状況報告書を教育委員会に提出しなければならない。

(研修)

第18条 職員は、教育公務員特例法_____第22条第2項の規定により勤務場所を離れて研修を行おうとするときは、様式第19号の研修承認願を校長に提出し、その承認を受けなければならない。

2・3 (略)

(適用の除外)

第26条 第5条、第7条の2、第10条、第15条、第16条、第17条、第21条及び第22条の規定は、非常勤の職員（地方公務員法第22条の4第1項に規定する短時間勤務の職を占める学校職員を除く。）に、これを適用しない。

程の履修又は国際貢献活動の状況について報告しようとするときは、様式第18号の7の自己啓発等休業状況報告書を教育委員会に提出しなければならない。

2 (略)

(配偶者同行休業の承認申請)

第17条の12 職員は、職員の配偶者同行休業に関する条例（平成26年埼玉県条例第37号。以下この条及び次条において「配偶者同行休業条例」という。）

第2条の規定により配偶者同行休業の承認の申請をしようとするときは原則として当該配偶者同行休業をしようとする期間の始まる日の1月前までに、配偶者同行休業条例第6条第1項の規定により配偶者同行休業の期間の延長の申請をしようとするときは原則として現に承認を受けている配偶者同行休業の期間の満了する日の1月前までに、様式第18号の8の配偶者同行休業承認申請書を教育委員会に提出しなければならない

(配偶者同行休業状況報告書)

第17条の13 職員は、配偶者同行休業条例第8条第1項の規定により配偶者同行休業に係る状況について報告しようとするときは、様式第18号の9の配偶者同行休業状況報告書を教育委員会に提出しなければならない。

(研修)

第18条 職員は、教育公務員特例法(昭和24年法律第1号)第22条第2項の規定により勤務場所を離れて研修を行おうとするときは、様式第19号の研修承認願を校長に提出し、その承認を受けなければならない。

2・3 (略)

(適用の除外)

第26条 第5条、第7条の2、第10条、第15条、第16条、第17条、第21条及び第22条の規定は、非常勤の職員（地方公務員法第28条の5第1項に規定する短時間勤務の職を占める学校職員を除く。）に、これを適用しない。